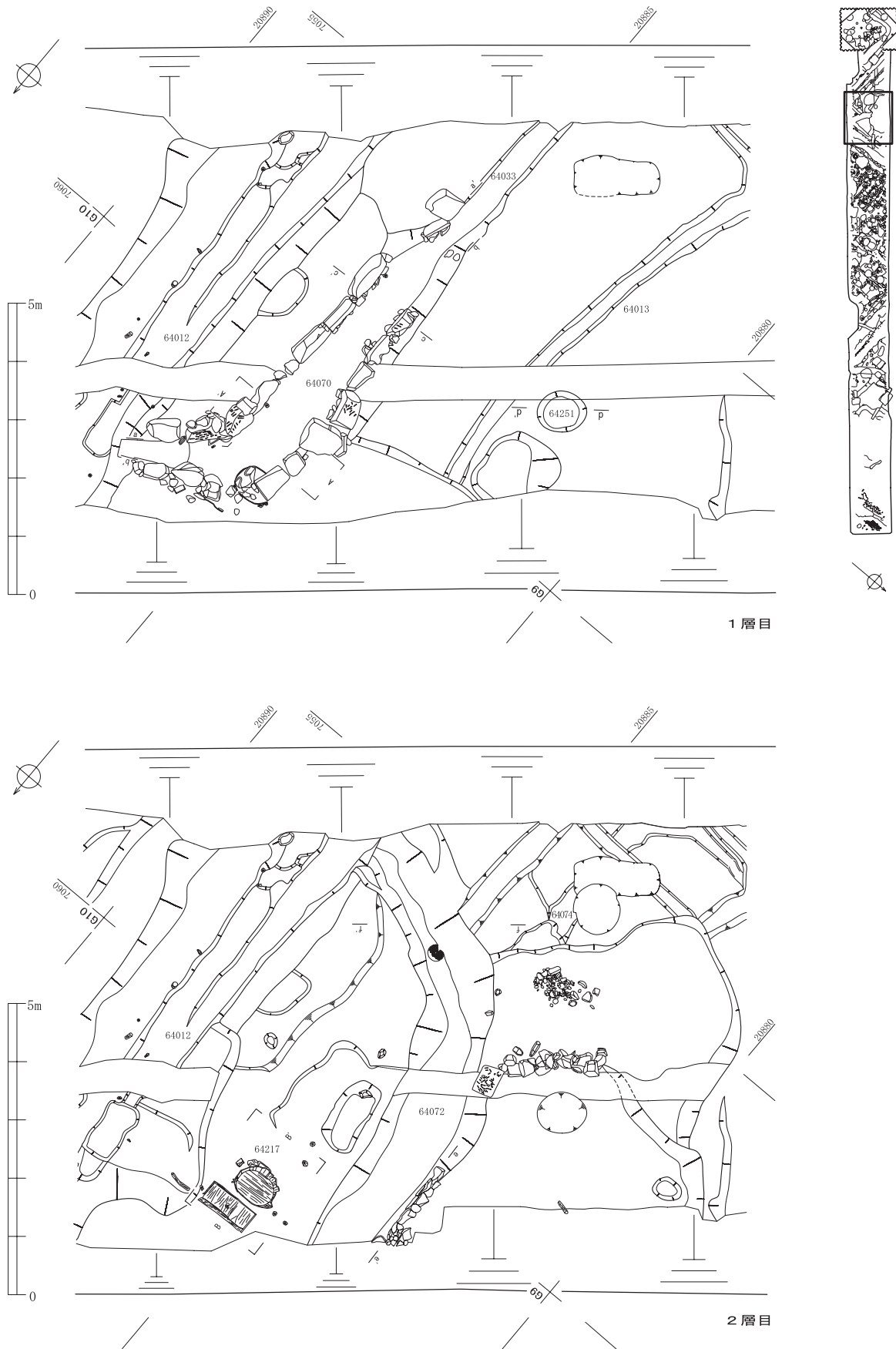
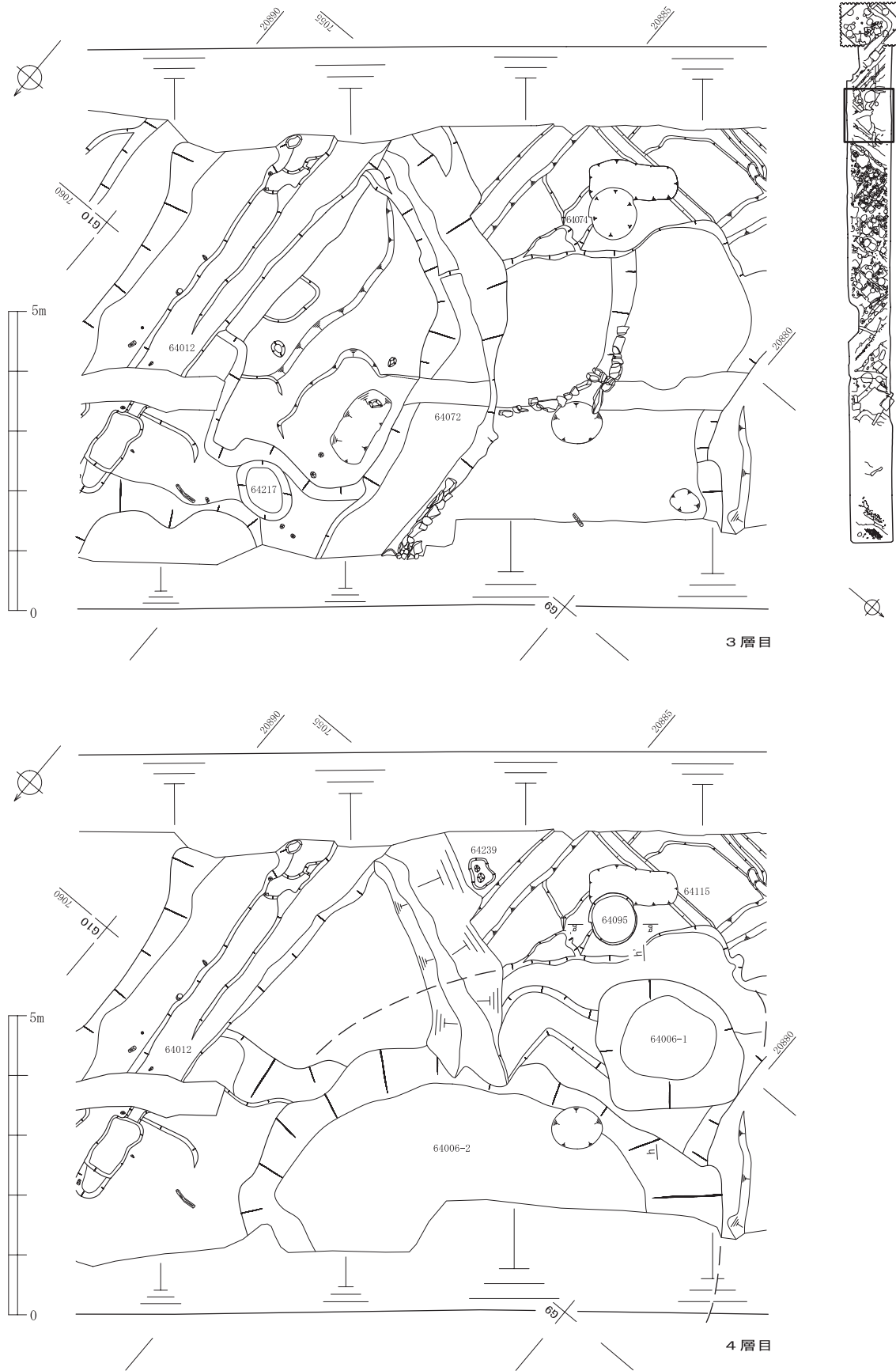




第6節 FKJ06-4地区の調査

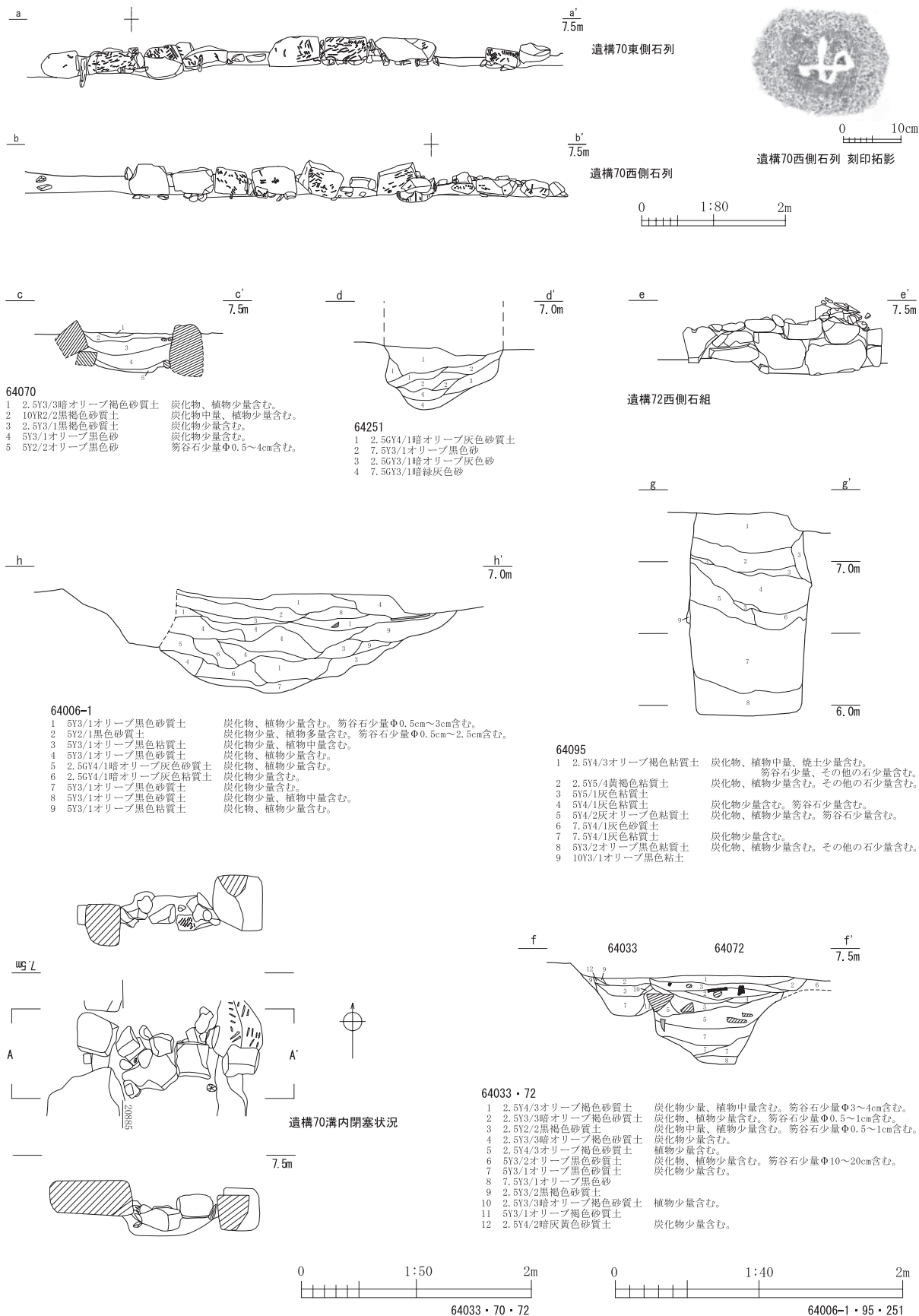


第84図 FKJ06-4 屋敷地④ 変遷1 (S=1/100)

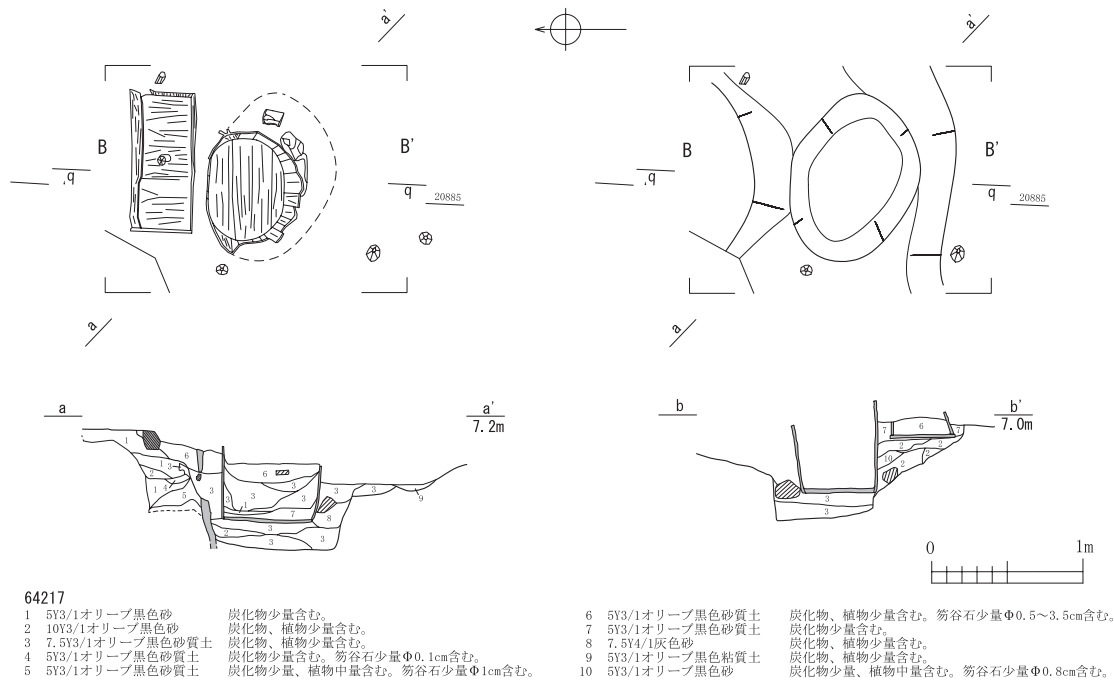


第85図 FKJ06-4 屋敷地④ 変遷2 (S=1/100)

第6節 FKJ06-4地区の調査



第86図 FKJ06-4 屋敷地④ 遺構1 (S=1/80・1/10・1/50・1/40)



第87図 FKJ06-4 屋敷地④ 遺構2 (S=1/50)

### 3 屋敷地③ (第90~94図)

主要な遺構は、砂利敷道路2、区画溝64008、井戸64067・82・91・98・128と多数の柱穴がある。

砂利敷道路2は、水路64012の東側に沿って南北に延びる(第88・89図)。複数回の嵩上げが為されたようであるが、不明瞭である。この直下に溝64229と水路64012の前身である溝64069がある。溝64229は、埋土中に17世紀初頭~前葉の遺物を含んでおり、築城当初に溝64069と並存していたようである。

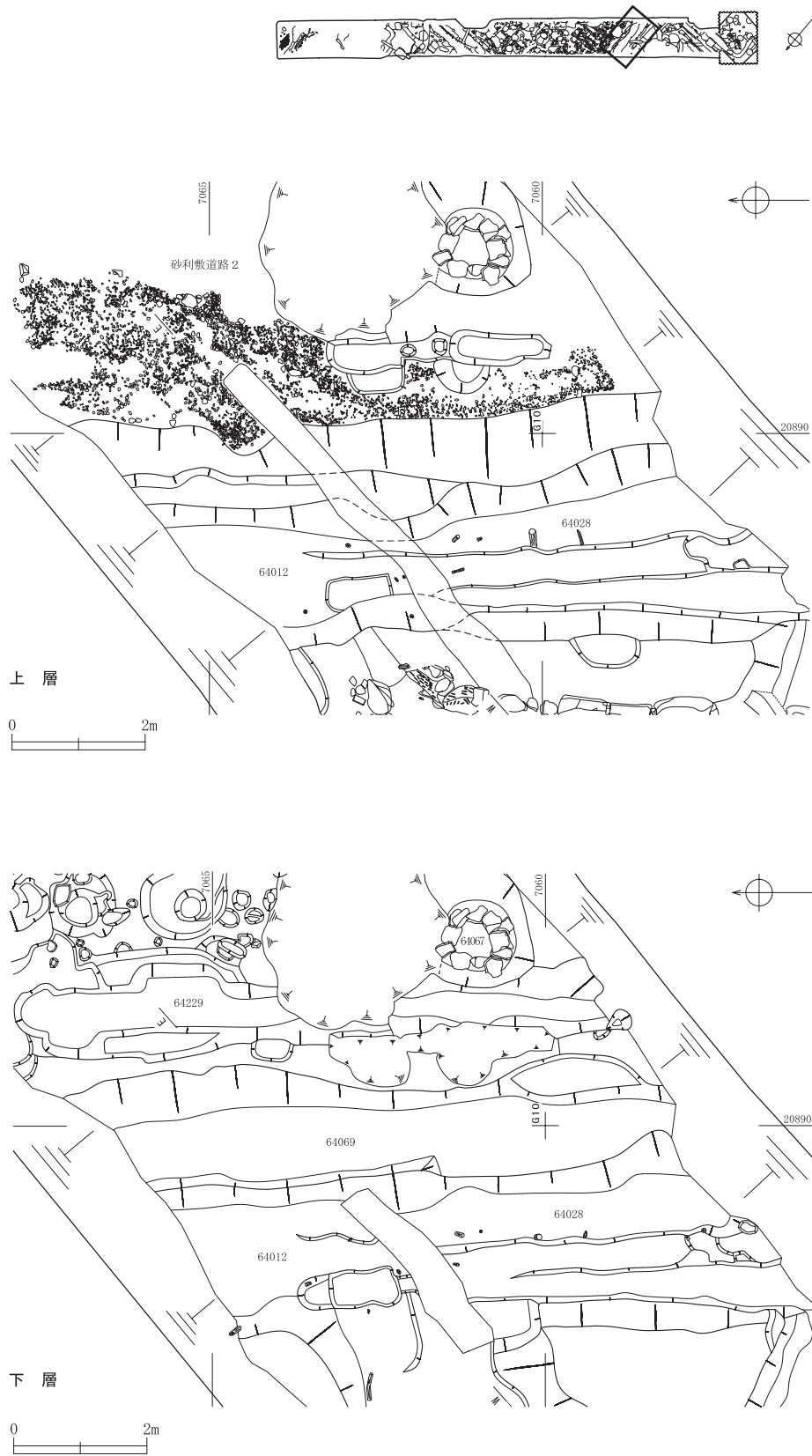
区画溝64008は、南北に直線的に延び、部分的に板材や杭による護岸の痕跡が確認される(第81・93・94図)。この溝には溜め桝状に構築された箇所があり、そこが深く掘り込まれるものの概ね南側へ緩やかに下降する。溜め桝部分を含む区画溝64008の出土遺物は、18世紀中葉~19世紀中葉のものである。

井戸は、64067が石組を備える以外はすべて素掘りの井戸である。井戸64067の石組(第90・91図)は、笏谷石製の細身の棟瓦4点を四角く並べて基礎とし、拳大~0.5m大の笏谷石砕礫を不規則に組み上げている。井戸64098は、廃絶後に大きく広げられ廃棄土坑とされるが、材の撤去のために広げたものとする、もとは桶を伴う井戸であった可能性がある(第94図)。埋土中の遺物から、井戸64082・91・128は慶長期に存続するが、17世紀中葉には廃絶するものと見られる。井戸64067は、17世紀後葉を中心に機能したものと見られる。井戸64098は18世紀半ばに廃絶し、以降廃棄土坑として利用される。

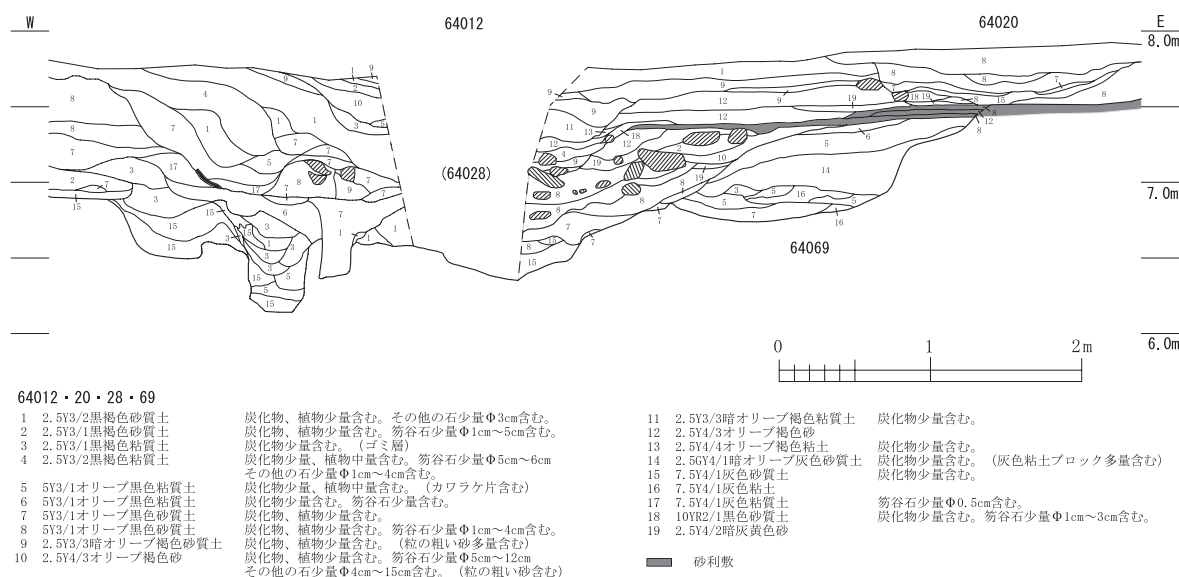
柱穴は、礎石を伴うもの、埋土中に柱状痕跡の窺えるものなどが多数ある。重複するものも多いが、これらの配置は概ね方位に即して並ぶ傾向が窺える(第90図)。建物の詳細については不明であるが、同時に複数の建物が存在したこと、何度か建て替えられたことが推測される。また、出土遺物がいずれも17世紀代のものであることから、少なくとも17世紀代には掘立柱の仮設的な建物が継続的に建てられ、18世紀以降は礎石建物に変化したことが推測される。なお、確実な礎石の配置は確認されなかったが、最上層の遺構として、柱穴列と同様に方位に即して延びる石列などを検出した(第106図)。

その他、遺構64087・116・196などの大型土坑がある(第92・94図)。埋土中の遺物によると、これら

第6節 FKJ06-4地区の調査



第88図 FKJ06-4 砂利敷道路 2・水路64012・溝64069 (S=1/100)



第89図 FKJ06-4 水路64012・溝64069 堆積状況 (S=1/50)

は17世紀後葉から19世紀までのものが混在する。これらは、柱穴群が屋敷地の西側に偏在するのと対照的な配置であり、建物の背後に継続的に穿たれた廃棄土坑などと捉えられる。また、その位置関係が変化しないことは、建物が礎石化した後も同様な位置に建てられ続けたことを示す。

絵図によると屋敷地③は、屋敷地②とともに周囲を道路で囲まれ、一つの区画(街区)を成す。慶長期にその区画は南北に分割されていたが、17世紀半ばには東西に二分され南北に長い敷地となる。当初、屋敷地③は南端が東に延びるL形であるが、後には直線的に二分される。慶長期には同心屋敷との記載が見え、17世紀半ばには川越宇佐衛門 与(与力)、17世紀後葉には15軒と記されており、下級武士である与力や同心などの屋敷地として継続的に使用されたようである。その後、18世紀前葉や19世紀初頭頃には忍与(与力?)・忍組との表記があり、城代管轄の忍の者が集住したものかと思われる。

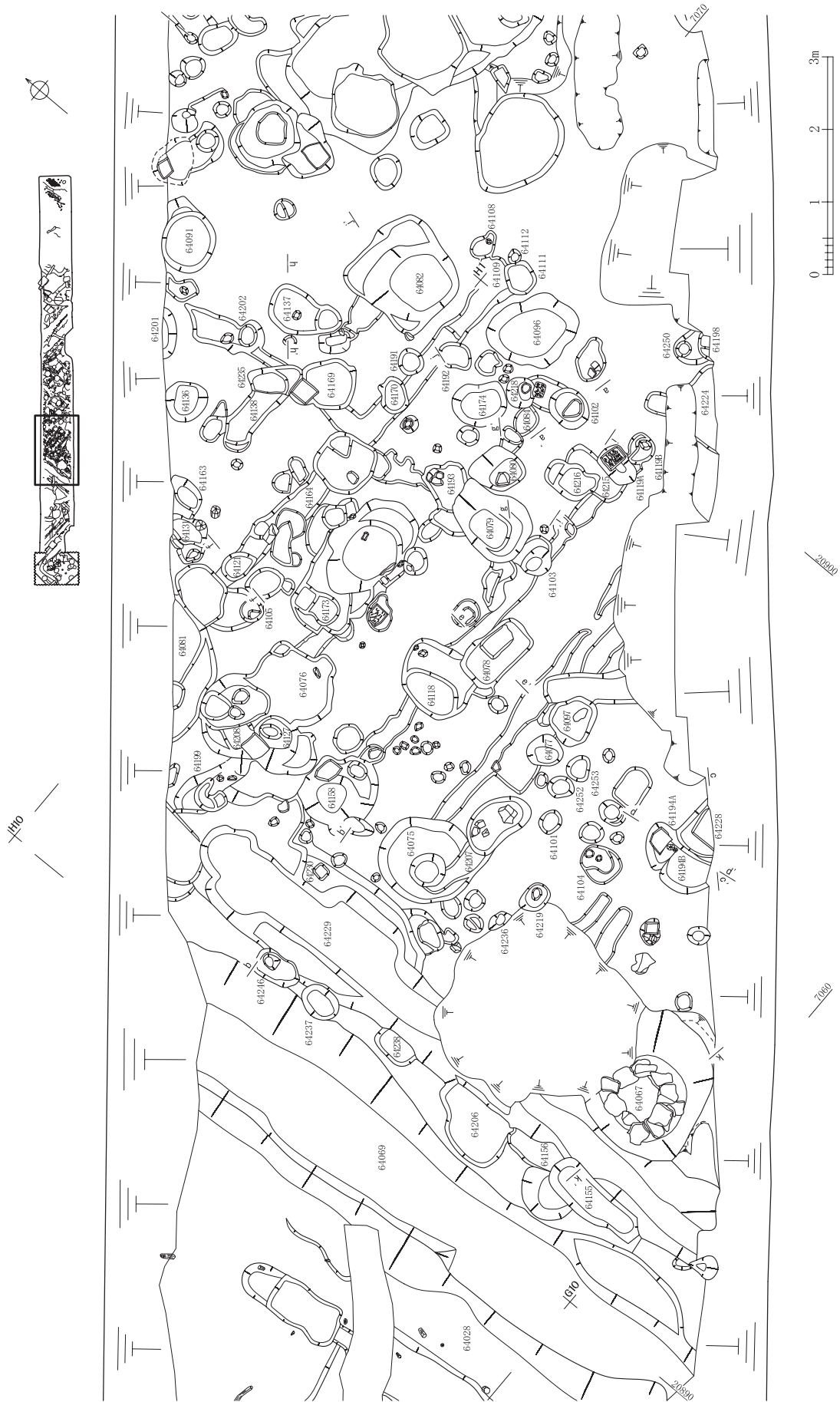
#### 4 屋敷地② (第95~100図)

主要な遺構は、砂利敷道路1、区画溝64065、井戸64040・47・86・182と、建物や区画施設を構成したと見られる柱穴がある。

砂利敷道路1は、屋敷地北辺を東西に延びる。砂利敷は疎らに確認されるに過ぎないが、道路と屋敷地の境に区画溝64065があり、道路北側に沿い水路64027があるため、路盤幅が明瞭である(第100図)。なお、区画溝64065は、17世紀初頭から後葉まで存続し、18世紀には埋められたようである。

井戸はいずれも素掘りである。井戸64040は、方形に石を組んだ基壇状の施設を伴う(第95・107図)。使用される石材は、いずれも笏谷石であり、転用材が多く含まれる。この基壇状施設のほぼ中央に井戸が穿たれており、本来は上屋を伴ったことが推測される。なお、基壇状施設の下層に前身の井戸がある。出土遺物によると、井戸64047・86は18世紀代に機能したようである。井戸64182は、築城当初に埋められたようであり、築城以前に機能した井戸である可能性がある。井戸64040は、19世紀半ばに改変され、基壇状施設(上屋構造)を伴う状態は幕末期以降に降るものと見られる。

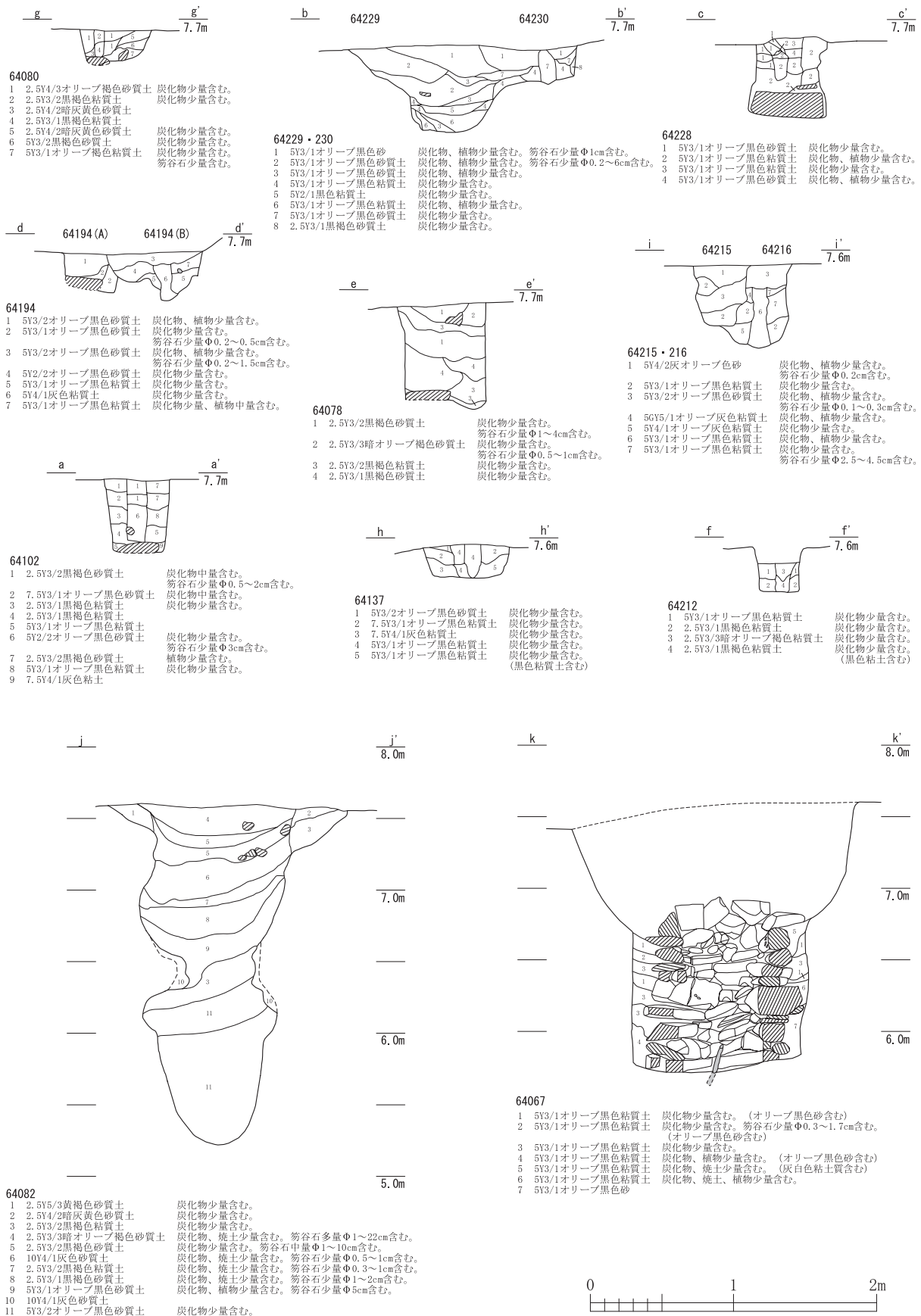
柱穴は、礎石を持つもの・埋土中に柱状の痕跡の窺えるものなどがあり、それらの配置は概ね方位に



第90図 FKJ06-4 屋敷地③西側 遺構配置図 (S=1/80)

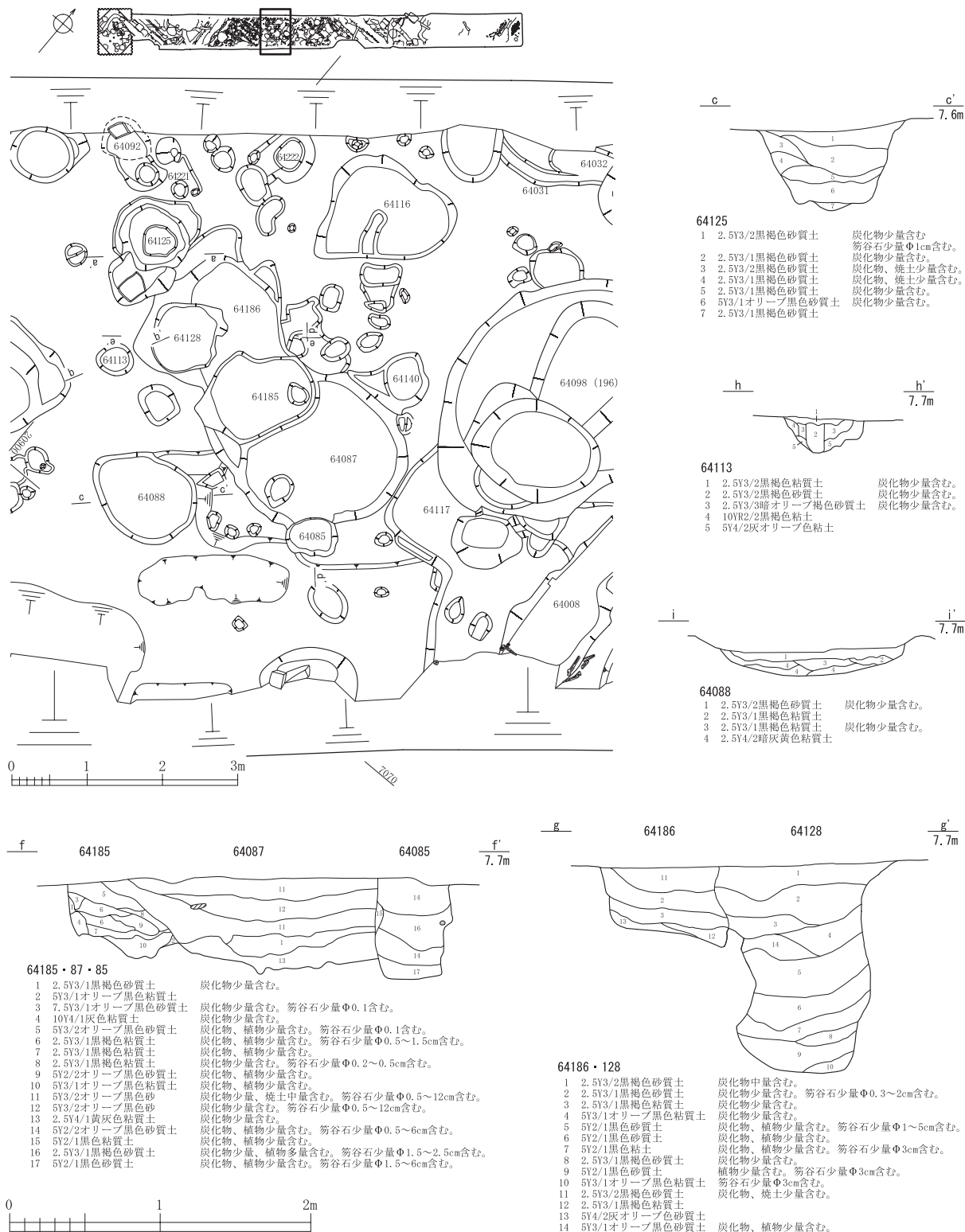


第3章 中・近世の遺構

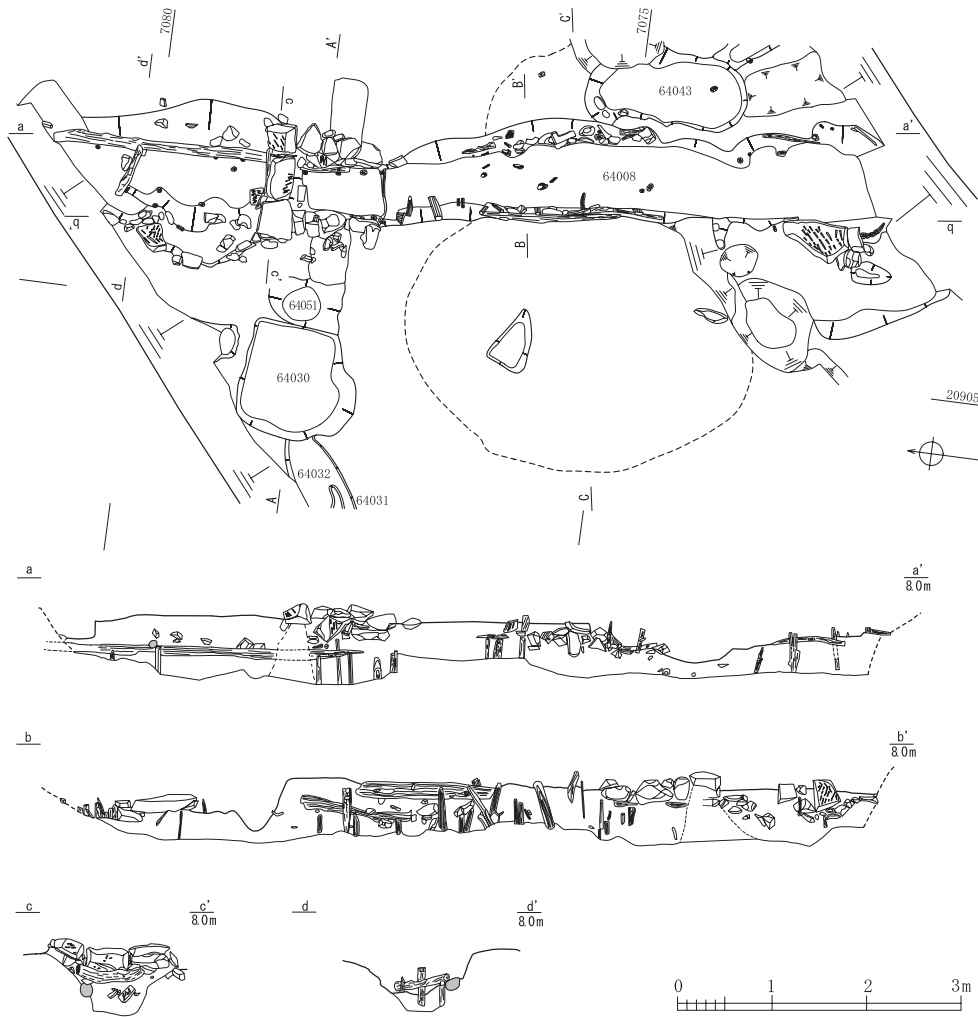


第91図 FKJ06-4 屋敷地③西側 遺構 (S=1/40)

第6節 FKJ06-4地区の調査



第92図 FKJ06-4 屋敷地③東側 (S=1/80・1/40)

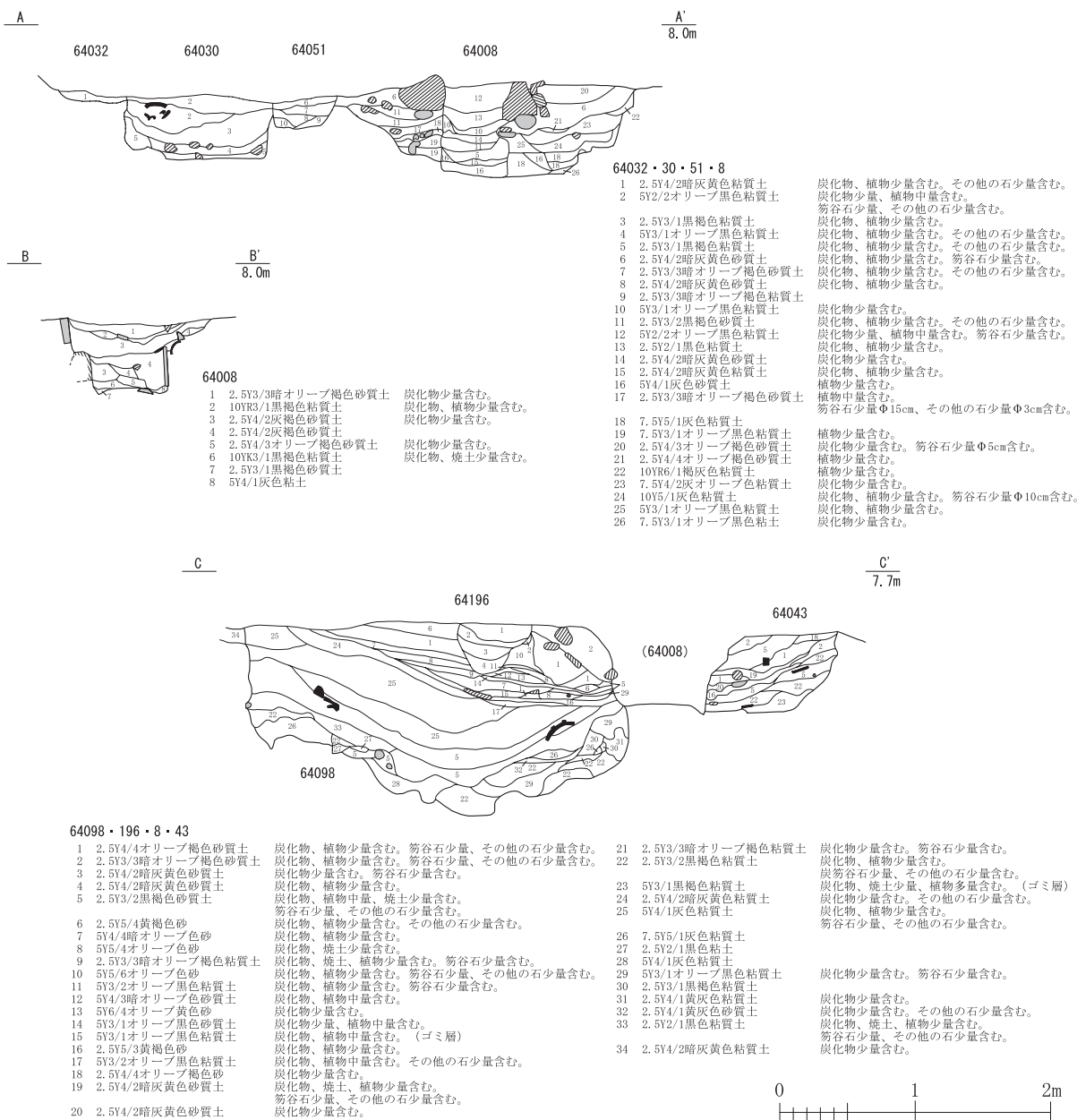


第93図 FKJ06-4 屋敷地③～② 区画溝64008 (S=1/80)

即して整然と並ぶ。その中から、1棟の建物と2列の柱穴列が認識される。建物は、柱穴64057・59・73・148・152・183・189などにより構成される(第95・96図)。建物の東端が調査区外に出ることが考えられるため、東西3間以上・南北3間となり、その規模は5m以上×約3.8mである。確認された遺物から、建物の造営は17世紀半ばと見られる。柱穴列は、柱穴64061・110・150などから成る南側の列と、柱穴64058・130などから成る北側の列がある(第95・97図)。両者とも砂利敷道路1・区画溝64065と平行に直線的に並んでおり、柵や塀などを構成したことが考えられる。遺構の重複状況や出土遺物から、いずれも区画溝64065を埋め立てた後に構築されたものであり、南側柱穴列は区画溝の埋め立てとほぼ同時期の17世紀後葉から18世紀に、北側柱穴列は19世紀に構築されたものと捉えられる。

その他の遺構に、暗渠(木樋)64121がある(第99図)。これは、水路64027から屋敷地②へ水を引き込むものであり、砂利敷道路1を横断する。幅0.4m前後の掘り方内に木樋を埋設する。木樋は、取水口から二つの継ぎ手を経由し、さらに南東方向へ続く。樋本体は一辺9cm程度の角材であり、長さ約1.7mと1.8mのものを確認した。ともに内側をU字溝のように刳り貫き、一側面(上面)を蓋として釘で固定している。取水口は、丸太材を半裁し、導水部分を抉ったものであり、蓋として薄い板材を釘で固定する。この取水口の周囲は、板石が組まれて補強される(第98図)。その石組の下層には、笏谷石碎

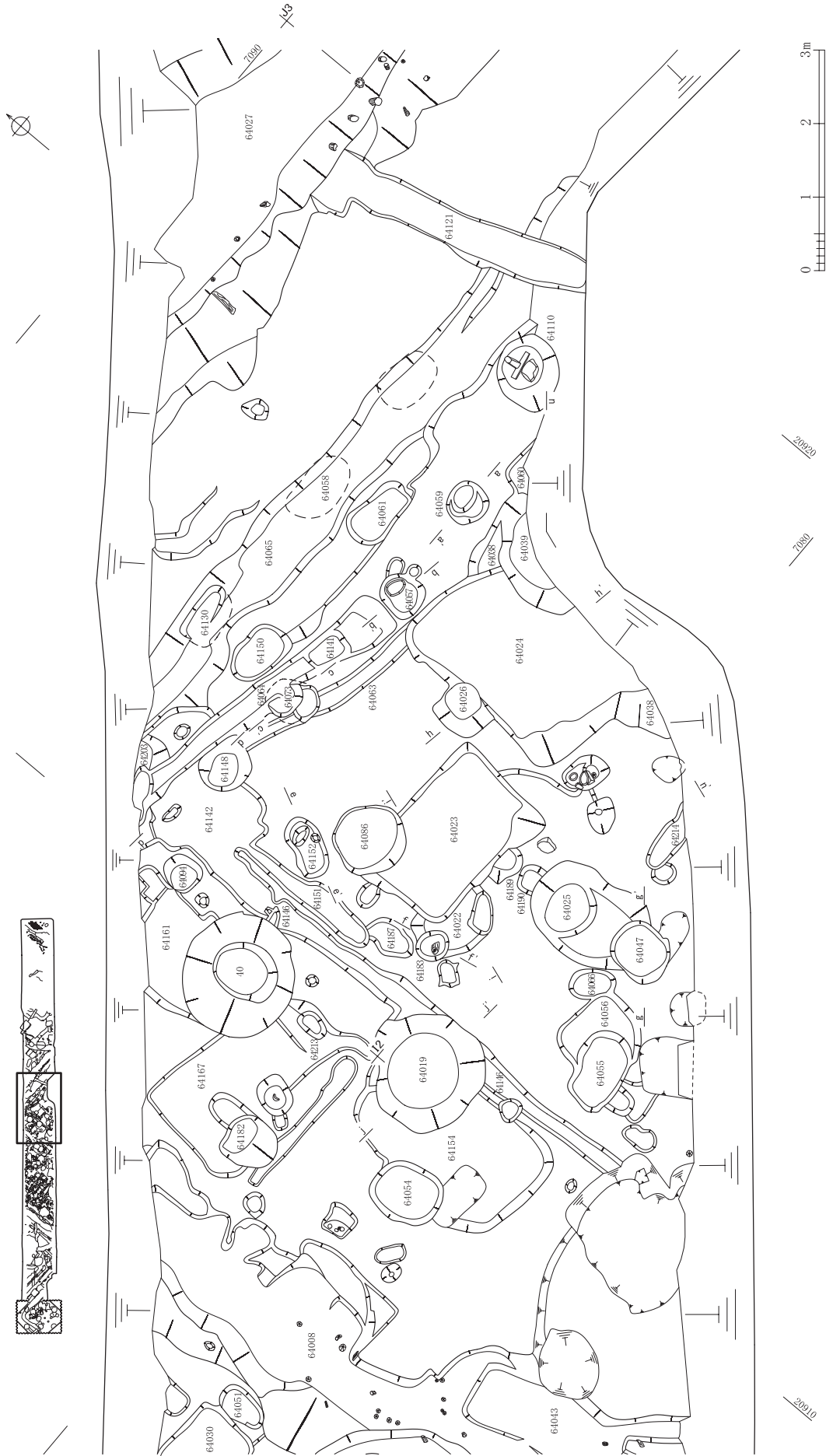
第6節 FKJ06-4地区の調査



第94図 FKJ06-4 屋敷地③～② 区画溝およびその周辺の遺構 (S=1/50)

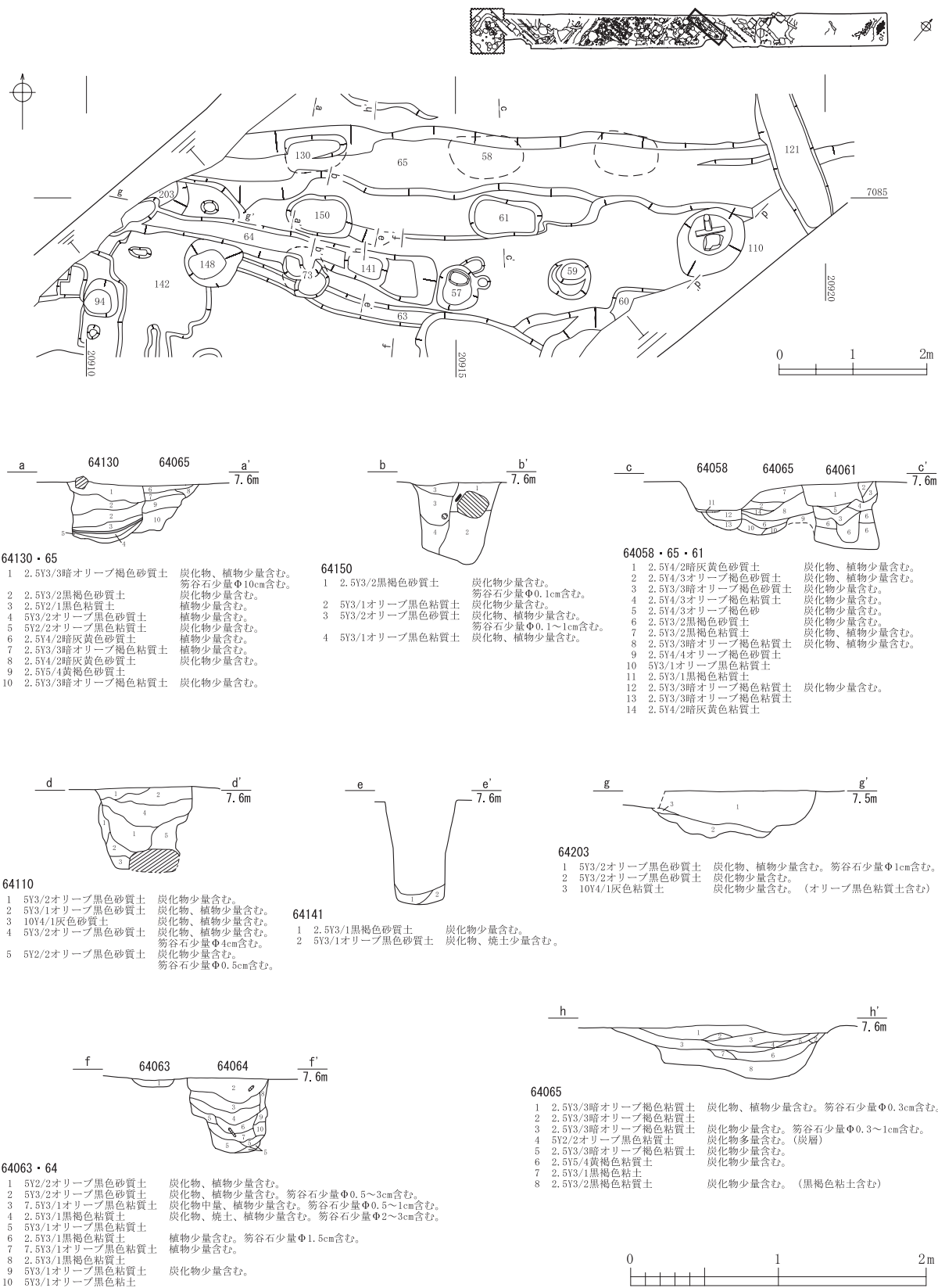
礫と歪な丸太材による基礎がある。遺物から18世紀後葉以降に設置されたものと見られる。

水路64027は、砂利敷道路1の北側に沿って東西に延びており、東側へ上水を通す役を担う(第98・100図)。複数回の改修による掘削が窺えるが、土居と道路に位置が規定され、築城当初から廃城後近代まで位置が変わらないため、重複の判別は困難である。水路北岸には胴木の上に石列が並んでおり、本来は数石積み上げられたものと見られる。石材は、0.3×0.5×0.2m程度の直方体に近いもので、表面には鑿による調整痕が残る。南岸には、多くの杭が並べて打ち込まれており、その西端付近には板材による護岸の痕跡も残る。しかし、石材は木樋64121の取水口付近以外に残存しないものの、部分的に胴木材が残存することから、以前には北岸同様の石組があったと見られる。北岸の石組背後から18世紀後葉から19世紀に下る遺物が確認されているため、石組水路の状態は遅くとも19世紀代の姿であり、それ以前の護岸施設は不明である。石組の下層に当たる部分などからは、17世紀後葉から18世紀後葉の遺物



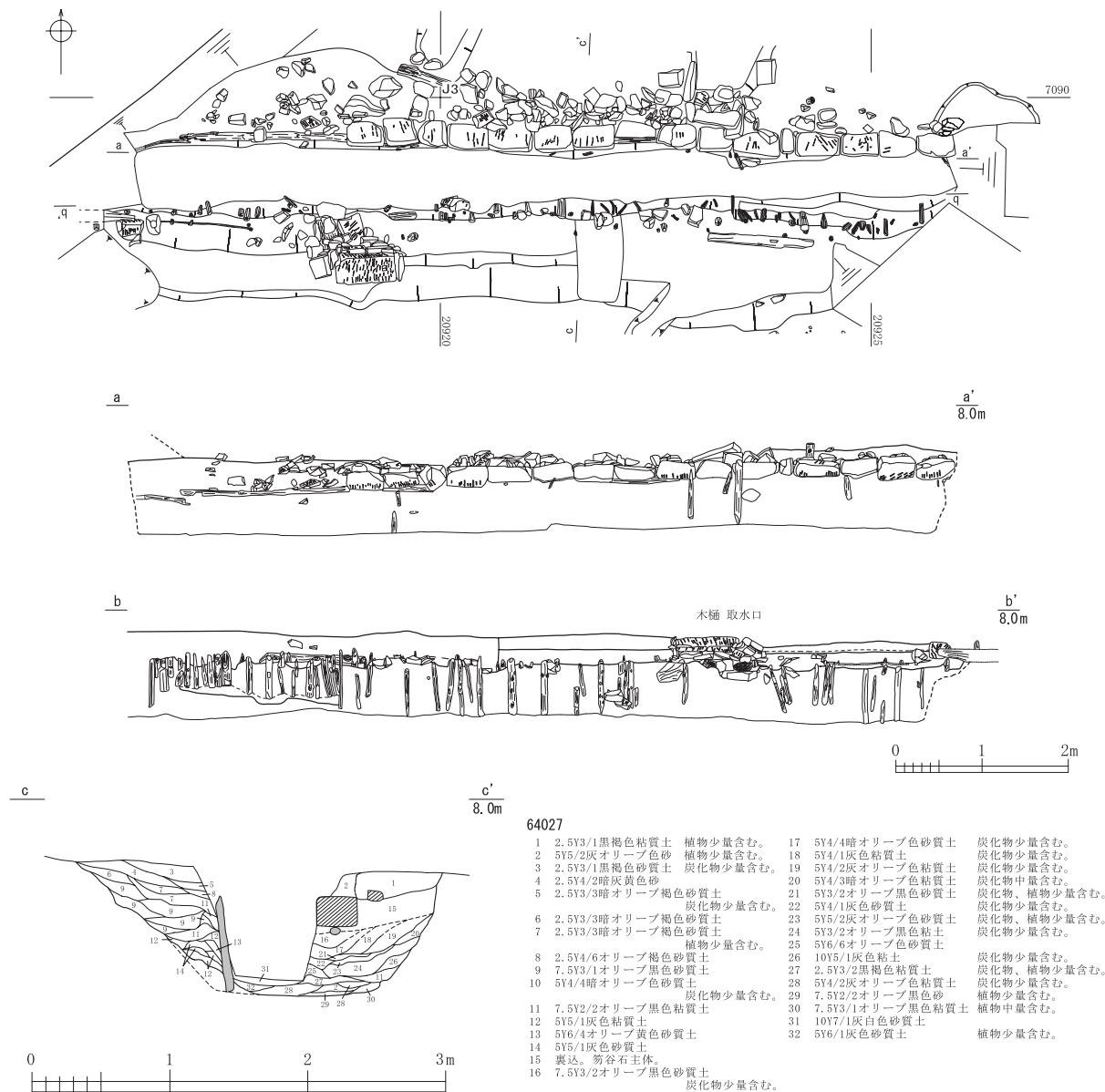
第95図 FKJ06-4 屋敷地② 遺構配置図 (S=1/80)



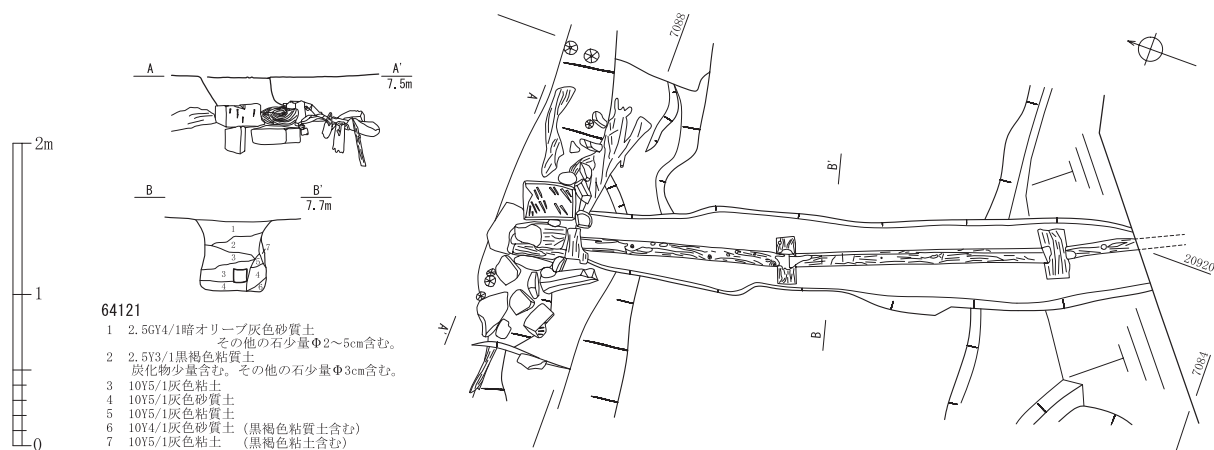


第97図 FKJ06-4 屋敷地② 北側区画溝およびその周辺の遺構 (S=1/40)

第6節 FKJ06-4地区の調査

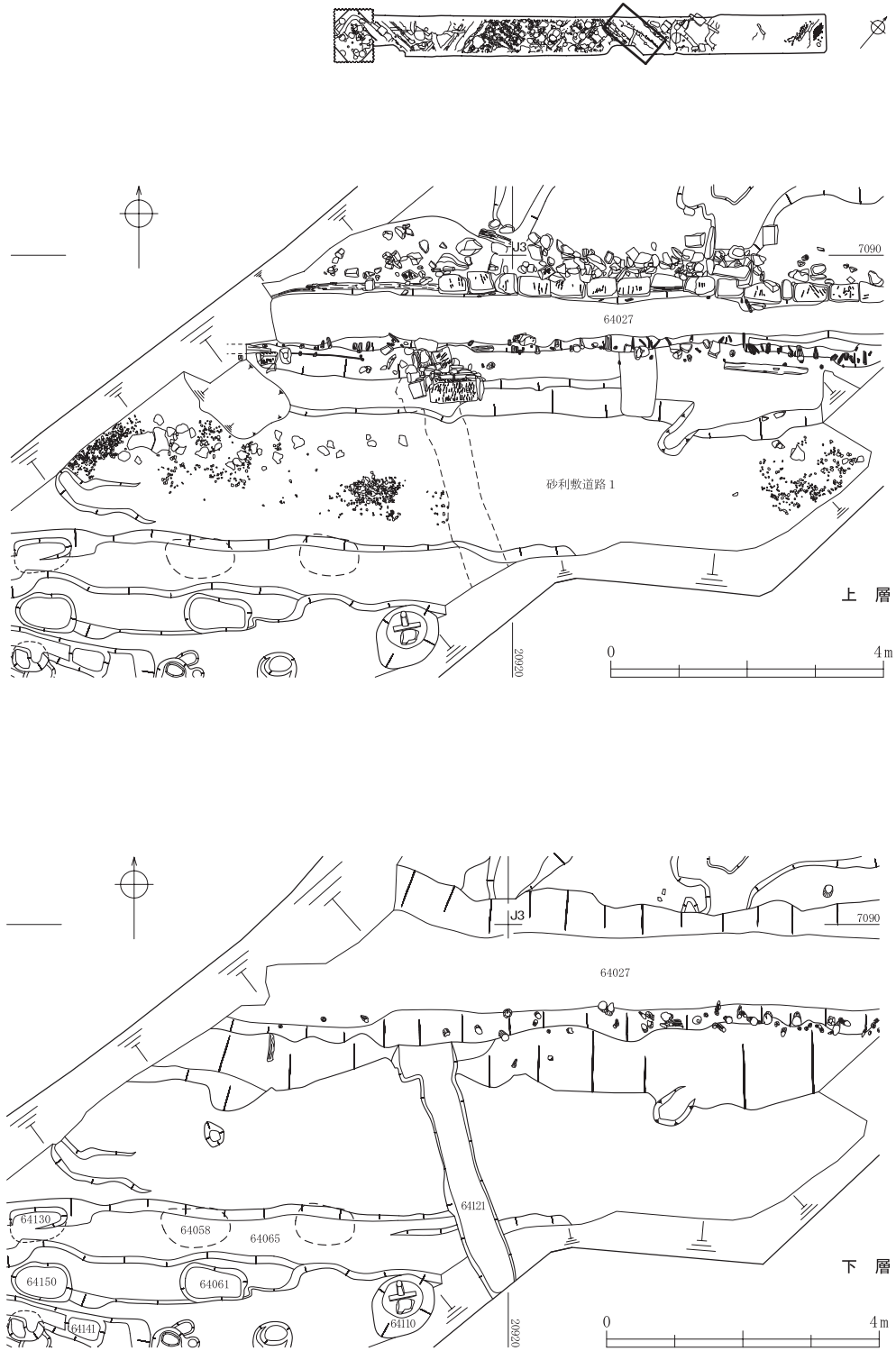


第98図 FKJ06-4 水路64027 (S=1/80・1/40)



第99図 FKJ06-4 暗渠(木樋)64121 (S=1/50)





第100図 FKJ06-4 砂利敷道路1・水路64027・暗渠64121・区画溝64065(S=1/100)

が確認されている。

絵図によると屋敷地②は、17世紀半ばに屋敷地③とともに分割して形成される、南北に細長い屋敷地である。17世紀半ばから寛文年間の状況を示す絵図に下山五郎左衛門 与（与力）との記載が見え、17世紀後葉には11軒、18世紀前葉には地方と表記される。19世紀前葉の絵図では、屋敷地が南北に大きく三つに分けられており、その中央の区画が東西に二分され、中央西側の南北に長い敷地は矢場とされている。慶応期には、北端の区画を除き町屋として表現される。18世紀に表記される地方とは、町奉行の管理のもとに城郭近隣の町人を住ませたものとされる。そして、屋敷地②・③は築城当初より下級武士の屋敷地区画として継続して利用されていたが、すべての福井藩士の知行を半減し大勢の浪人を生んだ貞享の大法（1686年）以降にできた、多くの空き屋をいわゆる町屋に当てたようである。

### 5 屋敷地①（第101～103図）

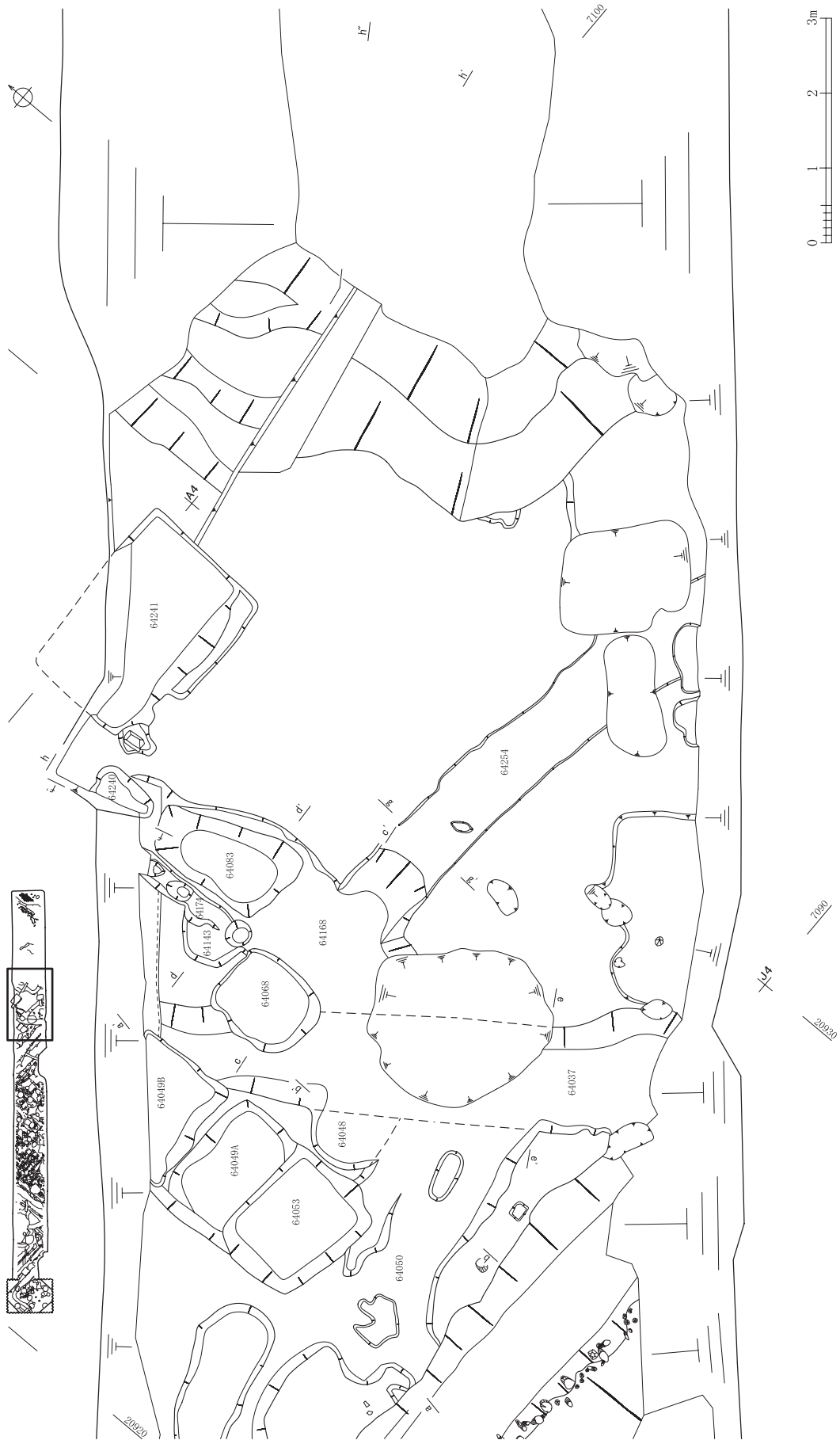
屋敷地①の主要な遺構は、廃棄土坑64053・64049A・Bである（第101・102図）。これらは、埋土の断面観察によると64049B→64049A→64053と順次掘られたものであり、並存しない。平面形はいずれも東西に長い長方形であり、検出面での規模は1.8m×1.4m、深さは64049A・Bが0.4m前後、64053が約1.6mである。これらの配置は、並存しないにも関わらず南北に直線的に並ぶことから、土居斜面に規定されたものであり、さらには土居下端の位置の近辺を示すことが考えられる。これらの埋土中の出土遺物は、いずれも17世紀後葉から18世紀後葉までのものである。

屋敷地①は、市センター報告の「横山」屋敷地に該当する。17世紀前半は空白地であるが、17世紀後半から横山氏の屋敷地となり、以降江戸時代を通して存続する。屋敷地の正面（表門）は西側であり、調査地は裏手の南東隅に当たる。そのため建物を構成すると見られる遺構は確認されなかった。

### 6 土居（第101～104図）

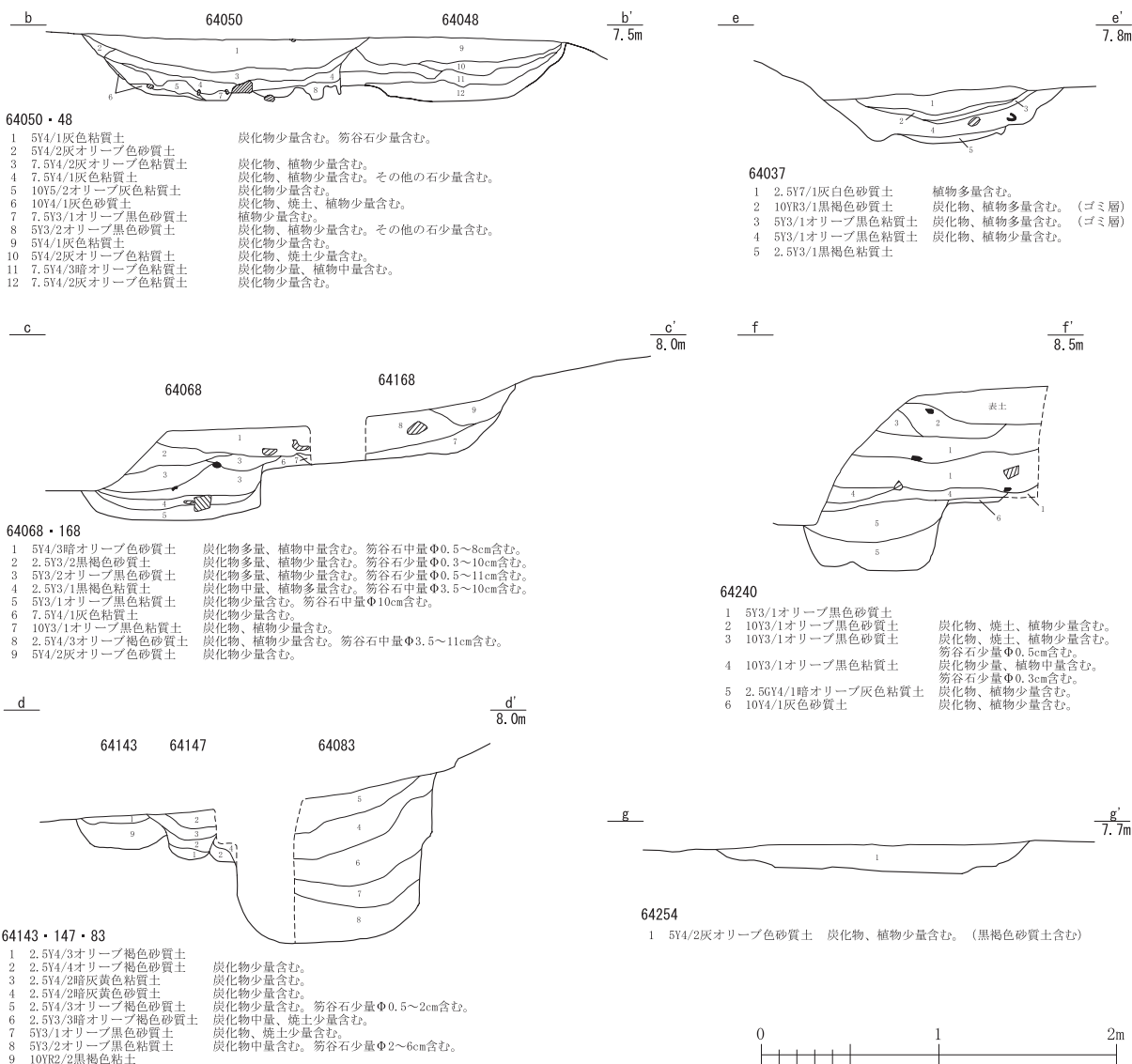
土居は、ほぼ南北方向に延びるが、調査区南端付近で東へほぼ直角に屈曲することを確認した。堀側の下端は南北約3m分・東西約1m分を検出した。土居背後は、南北方向に延びる部分については後世の改変により明瞭でない。東西に延びる部分は調査区外であるが水路64027に接するようである。土居の盛土は最大で厚さ0.6m残存する。土居の高さは複数の城下の絵図に9尺（約2.7m）と記載されている。土居背後の砂利敷道路1の路面が標高約7.6mであり、土居盛土直下の地山面の高さもほぼ同じ値であることから、9尺とされる高さのすべてが盛土による造成であることになる。土居上面（馬踏）の幅は、青木元邦氏（2004『福井城跡Ⅳ』福井市文化財保護センター）・国京克己氏（2005『福井城舎人門遺構復原整備事業報告書』福井市）により1間（約1.8m）と復元されている。土居盛土部分の幅は、北側の東西幅については廃棄土坑64053・64049A・Bの存在から約8mであり、東側の南北幅については水路64027の北側石組までで概ね8mとなる。土居全幅は、北側の東西幅については約9.5m・東側の南北幅については約9mとなる。

土居の盛土中にて確認される遺物は、17世紀初頭～前葉のものと17世紀後葉～18世紀のものに分かれる。前者は、築城に関連する段階の遺物であり、後者は、土居の改修などにより混入した遺物であることが推測される。土居の西側斜面には64068・83などの土坑があり、埋土中に17世紀後葉～18世紀前葉の遺物が含まれる。これらを覆うように、17世紀後葉～18世紀中葉の遺物を含む土壌による盛土が広範囲に為されており、これが土居改修に伴うとすると、土居改修は18世紀中葉頃かそれ以降となる。土居



第101図 FKJ06-4 屋敷地①・土居周辺 遺構配置図 (S=1/80)





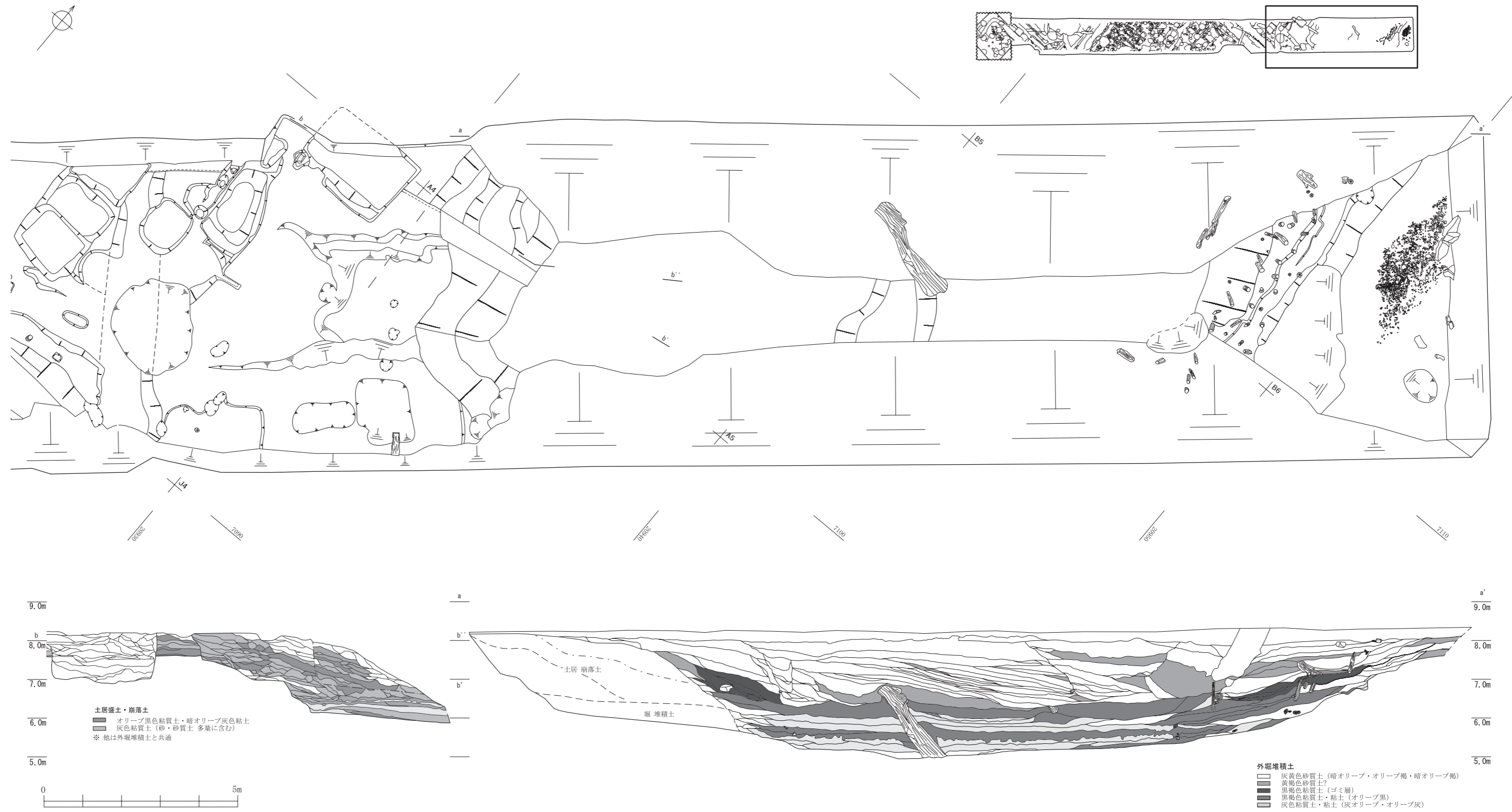
第103図 FKJ06-4 屋敷地①・土居周辺 遺構2 (S=1/40)

西斜面の遺構に、溝状遺構の中に浅い落ち込みや土坑の並ぶ遺構64147がある(第101図)。これは、土居の補強や盛土の高さの目安などとして、土居に平行する溝の中に直径0.2~0.3mの丸太材を立て並べた土居改修作業の痕跡である可能性が考えられる。

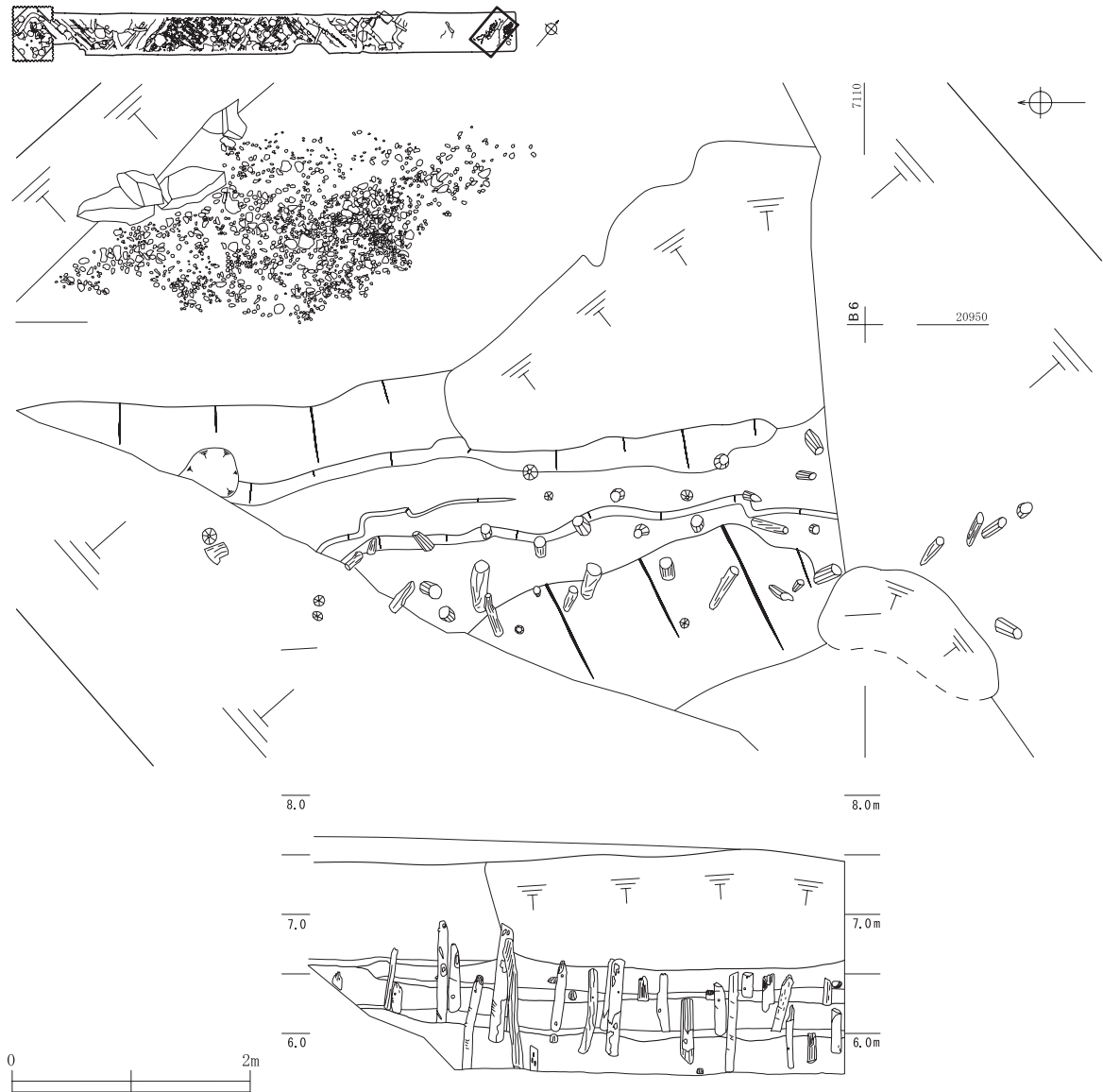
土居の盛土直下にある溝64254は、築城に関わる可能性があるものの、遺物を伴わず詳細は不明である。なお、土居上面には鉄道に関わる攪乱が多数あり、いずれも調査区の延長方向に平行するか直交する。土坑64241は、土居の延長方向に直交するが、土居上面(馬路)を大きくはみ出し、土居直上から掘削したとしたら深さ3mを超える規模である。このような土坑を土居に穿つことは城郭の防衛上考えられない。そのため、土坑64241は、土居削平後から鉄道開通までの攪乱と捉える。

### 7 外堀(第104・105図)

外堀は、現地表面から底面までの深さが3mを超える。最低限の調査区法面を確保すると、平面的な底面の検出幅は1.5m程度となった。規模は、狭長な範囲の検出であるため、直接的には計測し得ない



第104図 FKJ06-4 外堀 (S=1/100)



第105図 FKJ06-4 外堀東岸杭列 (S=1/60)

が、検出面での幅約21.5m・底面幅15m前後と把握し得る。土居背後の砂利敷道路1の路面(標高約7.6m)からの深さは、約2.4mである。なお、調査時において、福井地震の影響で噴き上がった砂・砂質土や大規模な攪乱のため、土居東斜面を誤認していた。調査終盤において、除去可能な埋土が残存することを認識し、これを除去して、調査地が土居・外堀のほぼ直角に屈曲する部分であることを確認した(第104図)。

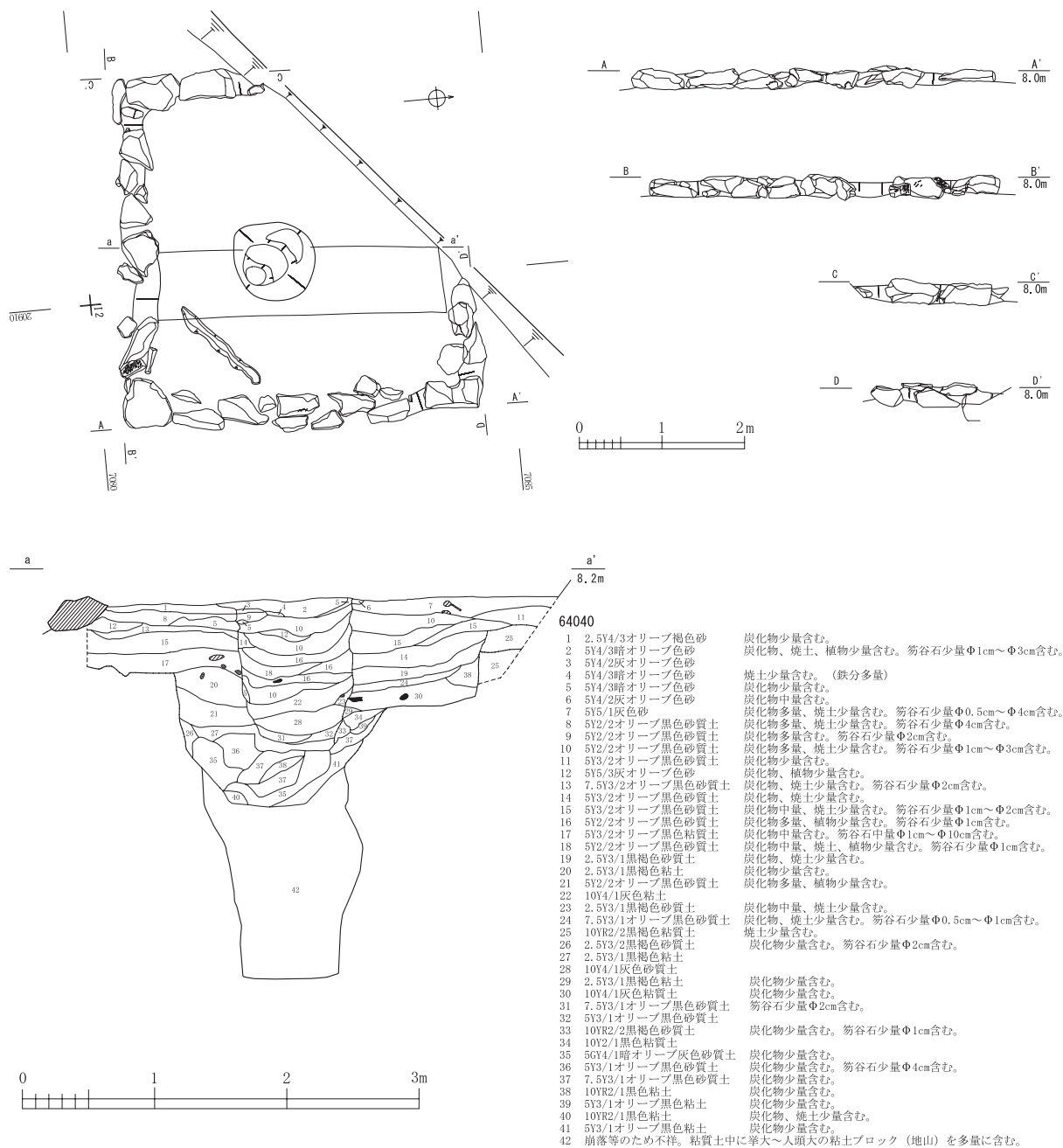
外堀の堆積土は、堀内堆積土・土居などを直接削り落とした土・廃棄物堆積層・近代埋立土に大まかに区別され、このうち堀内堆積土は、黒褐色粘質土や灰色粘質土などの状況から、さらに2つの段階に分かれる。外堀のほぼ中央にて直立した状況で検出した大きな丸太は、堀内堆積土の下層段階の土層のみに乱れを引き起こしている。外堀の機能する段階に落下し、直立した状態で徐々に埋没したとは考えられないため、堀内堆積土の大半が近代以降の人為的な堆積と捉えられる。堆積状況から、土居の削平時に、丸太がほぼ隠れるくらいまで埋め立てているようである。その後、開放したまま一定の期間を経て(その間に両岸から廃棄物が投棄される。)、最終的にすべて埋め込まれて消滅する。なお、外堀東



第106図 FKJ06-4 最上層の遺構 1 (S=1/80)



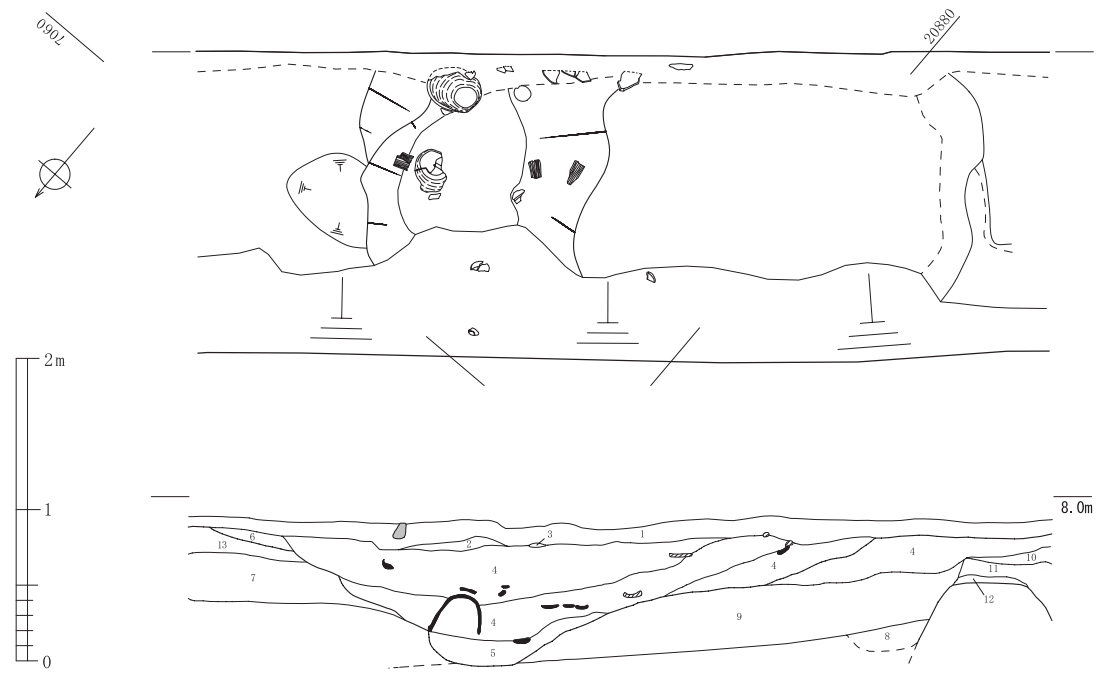
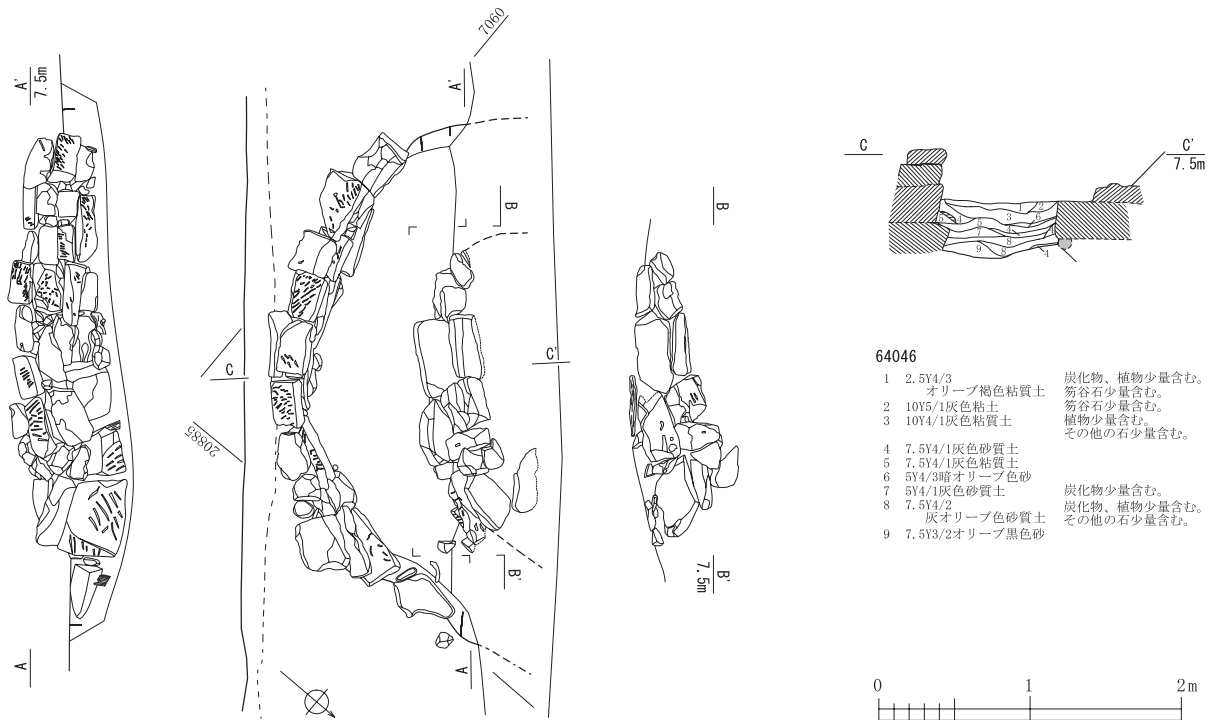
第6節 FKJ06-4地区の調査



第107図 FKJ06-4 最上層の遺構 2 井戸64040 (S=1/80・1/50)

岸に確認された杭列は、市センターの調査により護岸のための土留めの痕跡であることが確認されており、堆積状況から丸太を埋め込んだ段階とその後開放していた段階の、少なくとも2時期に亘って整備されたものようである(第105図)。

出土遺物は、下層堆積土から18世紀代のものが確認されている。土居を削平して埋め込んだ土壌中には17世紀に上る遺物が確認されるが、残存する土居の盛土中に17世紀初頭～前葉・17世紀後葉～18世紀の遺物が含まれることから、17世紀代の遺物は混入であるものと判断される。そして、少なくとも18世紀までは、外堀といえども堆積物除去などの整備が為されていたものと思われる。



第108図 Fkj06-4 最上層の遺構3 石組溝64046・土坑64007 (S=1/50)

## 第4章 中・近世の遺物

### 第1節 土器・陶磁器

中世から近世（福井城期）の出土遺物について紹介する。中世の遺物は、主に15世紀後半～16世紀の朝倉氏北庄期から織豊北庄城期にかかる遺物が、FKJ06-2・3地区中心に多く出土している。FKJ05-4地区では福井城創建以前の整地層（54279）から纏まって出土している。今回の調査で特筆すべき遺物群に遺構53032に代表される北庄城（織豊期）から福井城（近世松平）創建期に当たる16世紀末から17世紀初頭頃の良好な資料を得たことである。大橋Ⅰ期の唐津、志野、瀬戸美濃大窯製品を含み、土師質皿も朝倉氏遺跡分類C・D類の系譜と考えられるもので占められる。FKJ05-4地区は寛文の大火（1669年）以降武家屋敷は総て取り払われるため1669年までの廃棄土坑遺物群および大火直後の火事場整理に伴う廃棄遺物群（遺構54001・54007等）が定点資料となる。FKJ06-3・4地区では幕末から廃藩置県直後の整理に伴うと考えられる遺物群（遺構63020・63024・64098・外堀等）がみられる。

本項では産地毎に概要を述べるが、挿図版では一括性を重視し遺構毎に編集した。

#### 1) 伊万里焼（肥前磁器）； 碗・皿等食器類が中心である。

**碗類** 大橋編年Ⅲ期以降増大する。一重網目紋の54022-3や61106-1、四方に窓を開ける540212-1等量産品が多くみられる。61105-1は口径16cmの碗形の鉢である。口縁部は釉剥ぎで本来蓋付きと考えられる。53069-1は白磁呉器手碗だが磁器では珍しい。口径14cm足らずと大振りで、高台の形状や体部の立ち上がりなど李朝の呉器手碗をよく写す。63064-1は平碗形のいわゆるうがい茶碗である。器壁は薄く、鉄釉と琉璃釉を掛け分ける。

**皿** 54022-8・9・10は口径8.4cm前後の小振りな皿で組物と考えられる。54007-3は一辺13cmの四方皿である。形打ちとし、見込みに山水紋を描く。高台内にはハリ支え痕が一点残る。口径6寸以上の大皿も全時期を通じ出土する。その割合は中・下級武士宅（FKJ94-1国際会館地点等）の調査地点に比べ高い。7寸径の54001-6、54007-1・2は本来一具と考えられる。何れも口縁下で内側に折り曲げ、見込みに山水紋を描く。被災し釉膚が荒れる。54021-13は高台内まで琉璃釉を掛ける。54022-11は口縁を輪花とし、64050-3は大振りな9寸皿である。64046-7は青磁大皿である。見込みには型打ちで青海波紋を表し、高台脇に脚を付ける。53036-11は灰色のざっくりとした陶器風の胎土だが、体部・高台等をシャープに成形する。口径36cm、見込みいっぱい螺旋を陰刻し、高台を除き青磁釉（灰釉）を掛ける。

**鉢** 69090-5はやや深めの筒形の鉢である。上部に同図柄の蓋63090-4が付く。

**瓶類** 細片が多く、図示出来るものは少ない。61105-6は全面に染付で横縞を巡らせる。53042-6は白磁短頸壺である。底部は高台を削り出す。

**香炉** 61ホ-12は中国青磁筒香炉の写しである。胴部に紐3条回す。煙返しは奥行きが浅い。61ホ-13も青磁ながら口縁は外側へ厚みを帯びる。底面に花押を2つ墨書する。61ホ-16は菱型と考えられる小香炉で、上絵付けは赤色を中心に緑色も用いる。底部に窯割れを起こす。61ホ-17は16の蓋である。63119-1も一辺4.8cmの方形小香炉の蓋である。上面には赤絵で緻密に模様を描き、つまみは緑釉を掛ける。共伴遺物から大橋Ⅲ期と考えられる。

**その他** 文房具のうち水滴は19世紀前後から大量に出土する。64161-1は長方形で上面に菊花を陽刻する。人形61ホ-15は前後合わせ型作りである。旅装した僧形像で笠を被る。衣および笠部には錆釉で

着色するが、透明釉は掛けない。像容から西行法師像と思われる。

2) 唐津焼(肥前陶器) ; 碗・皿等食器類の他、鉢・瓶等多岐にわたる。

**絵唐津** 碗では53032-1・2、54012-1のような簡略な図柄を描くものが散見される。53032-7、63523-2は轆轤成形後口縁部を折り曲げ、平面方形とし、見込みに鉄絵を描く皿(向付)は多く見られる。63523-3の六角形は珍しい。63123-3は胎土目の段皿で、口縁部に簡略に描く。53101-11は筒向付であろう。

**無地唐津** 53079-2はオリーブ色を呈する灰釉を掛けた青唐津碗である。青唐津・絵唐津共に16世紀末～17世紀初期の遺構で多く確認される。54ホ-1は天目形碗である。瀬戸同様鉄釉を掛ける。灰釉等のみ掛ける胎土目(53036-3・54021-7・8)砂目(53142-2、54007-7)の碗・皿類は17世紀代の遺構を中心に多数みられる。64027-7は高台3ヶ所を切り込む香炉(火入れ)である。見込みおよび高台脇に文字・模様を墨書する。54021-9は片口鉢である。口縁が碗類より厚く、やや端反る。54007-8は鶴首形の徳利である。粘土紐を巻き上げ器壁は比較的薄く作る。透明性の高い鉛釉を掛ける。54003-6は3足を付けた鉢である。胎土・装飾からみると次の叩き作り製品の範疇に入る。

**叩き作り製品** 体部は粘土紐を巻き上げ、内面に同心円紋当て具を用いて器壁を薄く仕上げる。底には貝目を残すものが多く、胎土は赤くきめ細かい。これらの特色を持つ一群は、これまでの調査でも多く出土しているが細片が多い。しかし、今回調査では図化復元し得るものが多く確認された。鉢(甕)63233-1は口縁を玉縁状にする。53032-31は寸胴で口縁帯は外側へ伸びる。54003-2は片口鉢である。63523-1は瓶である。この器種は福井城跡各調査地点でも多く見かける。54025-6は水指である。内面に同心円叩き紋を残し、器壁は薄い。口部は矢筈口とし、胴部に耳の付け根が残る。本来取手形の耳が付くと思われる。桃山期の備前焼水指等に共通するデザインである。

**呉器手・京焼風陶器** 白色に近い胎土を用い、磁器のように薄く端正な作りの製品をその範疇とする。いわゆる京風碗のうち、64053-4は外面に鉄絵山水紋を描き、高台内に「清水」印を捺す。64030-7は高台内には印を捺すが、外面の絵付けは見られない。61106-4は見込みに大きく草花紋を線刻し、砂目跡を5つ残す。呉器手碗では63064-11は通常見られる量産形である。63069-5は一回り大きい。

3) 瀬戸美濃焼 ; 17世紀初期までは主に食器・茶器を中心に一定量含まれる。17世紀半ばから18世紀代には激減するが、19世紀瀬戸磁器が量産化されると染付磁器が増加し、これに呼応し陶器類も増加する。器種では食器類の他、片口等台所用具、水鉢・火鉢等生活具等多岐にわたる。

**中世(大窯期)** 天目茶碗53032-3、54021-4は口径に対し高さが低いことや釉調等より大窯後期と考えられる。53032-26、53036-2は16世紀後期に多く見られる天目形の小坏である。碗53032-27は灰釉を掛け、体部外面には線刻蓮華紋を施す。高台作りなど中国青磁碗を克明に写す。鉄釉丸碗54021-5は高台内の削りが浅い。54026-1は口縁を外反させる。皿は直径10cm前後の小皿中心である。灰釉丸皿では53032-48、62110-1、63206-4、折縁皿では53041-1、53142-1等がある。62521-1は鉄釉丸皿で見込みに圏線の陰刻を施す。53056-4は、口径10cm強、無釉で赤紫色の精緻な粘土を使い金属器風である。

**織豊期(桃山陶器)** 向付・鉢類等茶の湯道具を中心に出土している。黄瀬戸では、見込に大根葉?を陰刻する兜鉢53041-3や、銅鑼鉢63ホ-6がみられる。志野は多様な器種がみられる。最も目につくのは向付類である。53032-8・30、53032-6は筒形で四面に草木を描く。61204-1も筒形だが小降りな為猪口とすべきか。54012-2は碗形の坏である。54032-4は口径9cmで、坏としては大振りである。54025-3は脚付き銅鑼鉢である。釉色は若干青色を帯び、灰志野と考えられる。53063-1は茶入蓋である。上面に志野釉を掛ける。鼠志野も少数みられる。53064-1は口縁を輪花とした向付である。53191-1は脚を

付けた額皿である。織部は志野に比べ少ない。黒織部沓茶碗54021-6や、青織部向付では多く見受けられる梅鉢紋を散らした64004-1の他、図示できない程度の小片も出土している。61ホ-19は燈明皿蓋である。上面に鉄絵で籠目を描く。64065-3は赤土の胎土に白土で模様を描く、いわゆる赤織部である。53141-1は志野織部碗である。器形は通有乍ら内外に圏線を回した大胆なデザインである。

**近世（連房登窯期）** 碗類では17世紀後半まで天目茶碗がみられる。63056-1、63064-10、63118-4・6、64012-23・24、64087-1等は連房登窯期と考えられる。灰釉碗は54026-2、63168-5、64ホ-16がある。64ホリ-7は腰鍔碗である。灰釉皿54054-2は高台部を除き施釉する。高台は鋭角な断面逆三角形で地下駐車場地点（FKJ02-2～10）でも出土している。片口鉢64098-7は灰釉を掛ける。64046-6は鬢水入である。燈火具では土師質燈明皿に比べ小數ながら鉄釉を掛けたんころ（63002-2）もみられる。茶入は細片ながら少量出土している。54001-4は大海形である。器壁は極めて薄く肩の丸みは優美である。64065-2は肩衝で、器壁は薄く丁寧な作行きである。

瀬戸系磁器は特に19世紀代半ば以降大量に出土する。筒茶碗64002-3は、灰色の胎土で、外面の菊紋は伊万里焼と共通したデザインだが、見込みは瀬戸独自の七曜紋である。

**4）越前焼；** 近世の搦鉢、甕、壺、鉢等の他、中世前期の甕・壺・鉢等がわずかにみられる。

**中世 甕** 62ホ-8はなだらかな肩から外反し、口縁帯を摘み上げる。622009-4は壺の肩部である。

**鉢** 62601-1、622009-5は付高台を有する鉢である。62601-1の高台は退化し小さくなる。

**近世 甕** 53144-2は口縁が直立するものの肥厚し、内面の沈線はみられない。

**搦鉢** 16世紀末から19世紀に至る各時期のものがみられる。53032-9は口縁角部がやや丸く、口縁直下に沈線が巡る。61ホ-26は断面三角形だが口縁先端がやや上方へ突き出る。搦目は横方向のみである。

**轆轤目鉢** 18世紀後半から19世紀にかけ大量に出土する。外面に轆轤目を意識的に付け、鍔釉を塗る一連の鉢類も多く出土する。形態的に①逆台形（63020-11、64098-14～16）と、肩が張り甕の器高を圧縮したような②甕形（63020-10、64098-8～13）に大別される。球形の53019-1は火鉢の類であろう。

**5）備前焼系；** 遺物総量に占める割合は小さいが搦鉢、瓶類、鉢等一定量出土する。

**搦鉢** 細片が多く全体を復元し得るものは少ない。53032-45は幅広の口縁帯を回す。53021-1は全体に赤褐色を呈し、底部は高台とする。形態・胎土等から堺・明石焼と考えられる。

**鉢** 53016-1は復元直径約40cmを測る。底面に粘土板を切り抜いた脚を貼り付ける。体部外面には重ね焼きによる色差を上下につけ、見込みには火襷がみられる。54025-4、54091-1は大平鉢である。54091-1は見込の平らな部分が広い。これに対し54025-4は見込みが小さい。

**瓶類** 細片は多く出土している。徳利と考えられるが、胴張り・底径から大小あることがわかる。63118-1は底部に窯印が見られる。63123-2は徳利の頸部である。63090-11は鍔釉を刷毛で塗る。

**6）信楽焼；** 伊万里等の碗・皿類に対し、湯飲み（小碗）類に一定のシェアを持つ。18世紀代には色絵や鉄絵の華やかなものが多い。19世紀代に入ると伊万里・瀬戸磁器に混じり大量に出土する。

**小碗** 64050-1は煎じ形で鉄絵草紋を描く。塩筒形小碗64ホリ-8は体部に細かい貫入がみられる。この他小杉碗64ホ-28や端反碗64161-2、64ホ-27・29・33等がみられるが、端反小碗は19世紀半ば頃の遺構では必ず出土する。色絵の小碗は量的に少なかった。54042-7は半球型で赤・緑を使い菊紋、筒形碗54042-8は青で花紋を上絵付けする。53042-9は木瓜形火入れ（香炉）である。青・緑を用い菖蒲紋を描く。

**燈明皿** 少量ながら19世紀代の調査区では必ず確認される。磁器質に近い明灰色の胎土で轆轤成形し、透明に近い灰釉を掛ける。63020-5は見込み片側に猫掻き状の細かい櫛目を入れ、対面には丸い粘土板

を張り付ける。菊形が多いが本品は無地である。3箇所ハリ跡を残す。なお今回の調査では出土していないが、轆轤を使い信楽焼灯明皿そっくりに成形した無釉土師質の製品が城下で出土している。

**焼締** 61ホ-21は水指蓋である。胎土に長石粒を含み、白色系であることから伊賀焼と考えられる。

**7) 軟質施釉陶器；** 17世紀初期の織部・楽系デザインの茶陶類と18世紀以降の土師質土器に施釉したものがある。53032-21は多く見受ける半筒形碗である。外面を白釉とし、緑釉を垂らす。内面は透明釉である。53032-25はいわゆる黒楽碗の写しである。63084-1と共に青織部を指向したデザインである。63084-1は皿形で口縁部に緑釉を掛ける。63090-9は細く絞られた高い高台（脚）を持つ。口縁の一部に緑釉を掛け、見込みには鉄絵で同心円を描く。61106-2は体部を捻り抜きとし、全面に透明釉を掛け、部分的に緑・褐釉を垂らす。灰器に比べ器高が高い。箱庭用品にも施釉土器は多い。54012-3鳥形水滴は体部は白土、羽根は赤土と使い分け、さらに3種の釉を用い丁寧な作りである。首は亡失する。

**8) 土師質土器；** 大半が油煙の付いた灯明皿である。今回の調査では遺構53032出土の皿が量的にも多く纏まっている。口径では8.5cm(53032-50) 9cm(-51)から1cm毎に最大14cmまでみられるが、10・11・12cmが中心である。いずれも手捏ねで口縁端を摘み上げ、大径のものは見込みに圏線がみられる(-16・17・18・44・52)。また、体部外面、口縁下1cm付近を強くナデ、段をつける(-16・38・43・52・53)のものは、16世紀末から17世紀初頭にのみ見られる。

**焼塩壺** 53032-11は外面全体が剥離する。53079-3は無印である。53032-35は蓋である。器壁は薄い。

**焙烙** 福井城下の調査では、細片も含め出土量が極めて少ない器種である。64002-7は口径24.4cm。外面に縦刷毛目、内面に横刷毛目を残す。底面には煤が大量に付着する。

**9) 貿易陶磁；** 中国・朝鮮半島等の製品が見られる。器種は碗・皿・向付・小坏等である。

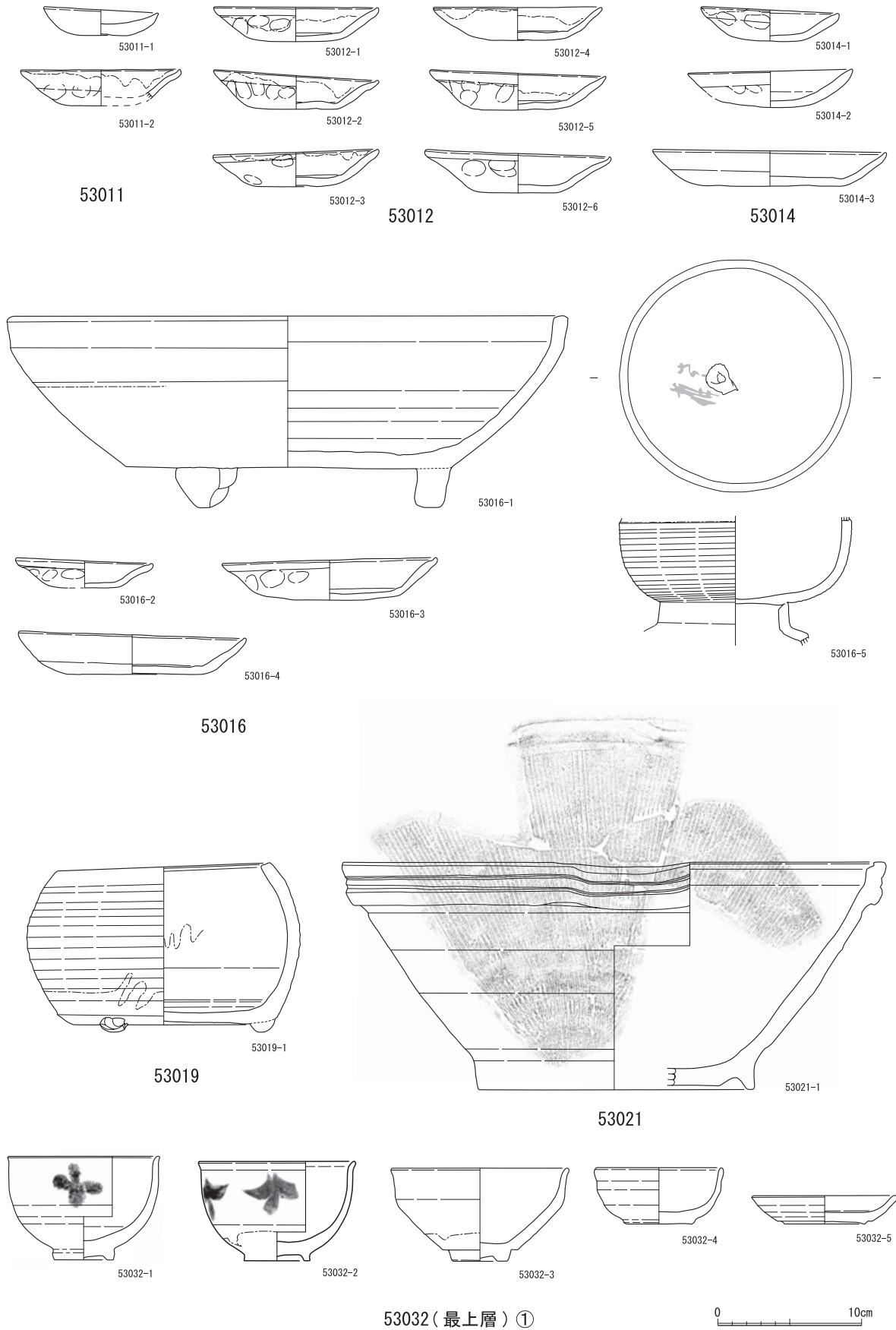
**中国 景德鎮系** 大半が染付（青華）である。器種毎にみてゆくと、碗（鉢）では型作りで内面に模様を浮かせる53032-19や口縁を輪花に切る53139-1。53056-1は口径12cmに復元される。53079-1は口径9.6cmとやや小振りである。小坏では63002-1が典型である。口縁は端反り、高台は蛇の目である。この形態の小坏は他地点でも多くみられる。

**漳州窯系** 54279-1の染付皿はである。紋様は見込みにのみ見られ、高台内外は無釉である。大皿類は復元口径が15～20cmとおぼしき細片が数多く確認され、大量に輸入・使用されていたようである。64002-5は周縁部に青海波紋を巡らせ、部分的に窓を開け花紋を配する典型的デザインである。

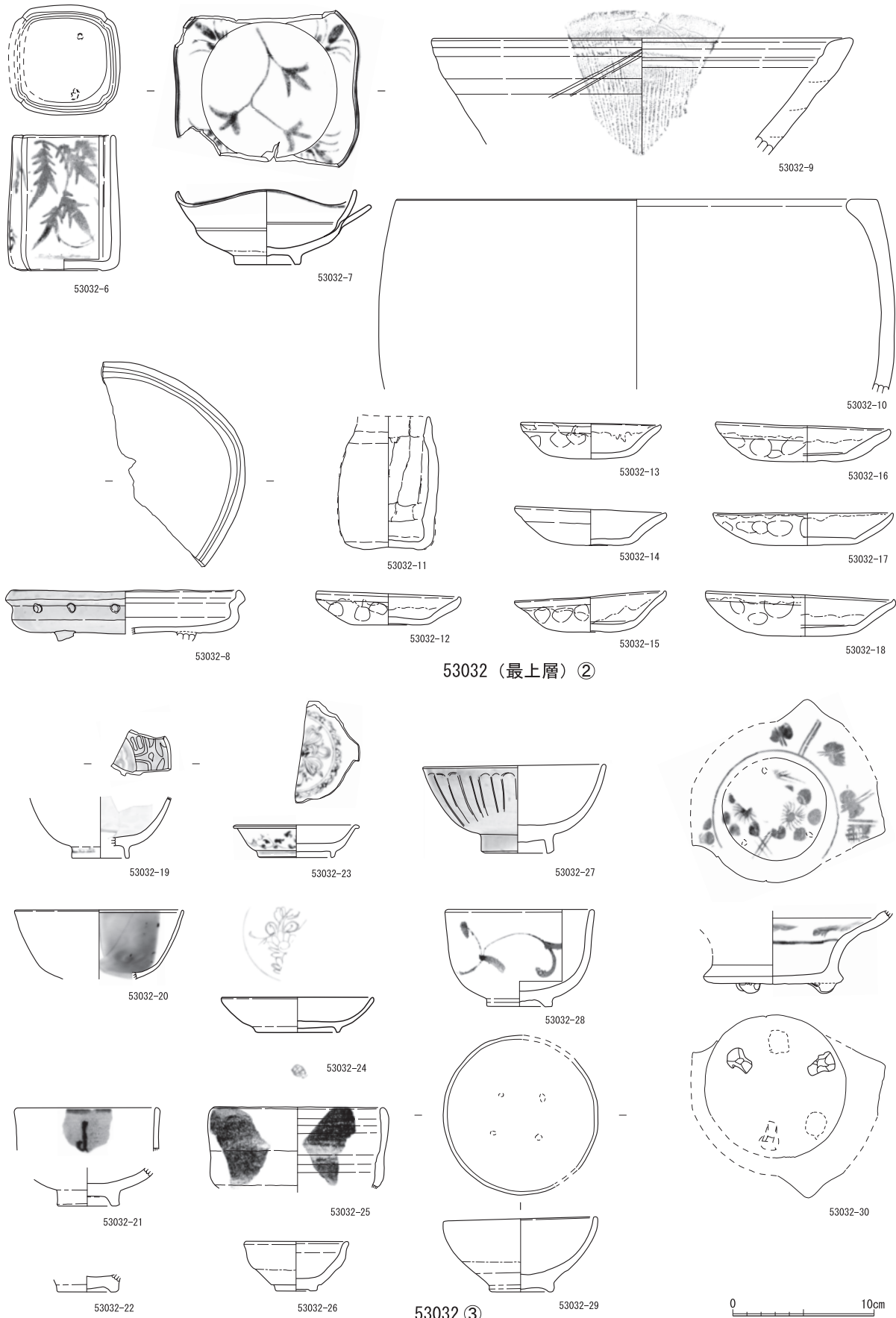
**朝鮮半島** 53103-1は蕎麦手碗高台である。見込みに11か所の目跡を残す。高台径は5.6cmを測る。

**10) 瓦；** 福井城跡出土瓦は、材質等により笏谷石・燻し瓦・施釉瓦（赤瓦）に大別される。さらに施釉瓦も越前焼と胎土・施釉法が類似した江戸前期の一群と、江戸後期以降の全面施釉され達磨窯で焼かれたいわゆる越前赤瓦に大別される。纏まって出土する箇所は、寛文の大火（1669）直後の整理に関わる廃棄土坑（遺構61105）や整地土層内が多い。軒丸瓦では、燻し（61105-10）・施釉（61ホ-37・38）とも三つ巴紋だが、燻しでは3つの巴が一つの正円を形成するのに対し、施釉は巴が各個に散漫である。軒平瓦は紋様2種類に大別できる。①立体感のある五子葉紋と唐草紋（61105-8、61ホ-32・33・35）と、②線刻蓮弁（もみじ紋）と唐草紋である。②は模様の差異によりさらに細分できる。また、②は燻し（61105-9・12、61ホ-31）・施釉瓦（61105-11・61ホ-34）とも見られるが、①は燻しのみである。①より古様な紋様がないことからこれが福井城創建期のものと考えられる。61ホ-36は燻しで、桐紋を刻出する。施釉桐紋瓦は他調査地点も含め確認されず、施釉瓦の上限を考える上で重要である。（河村）

第1節 土器・陶磁器



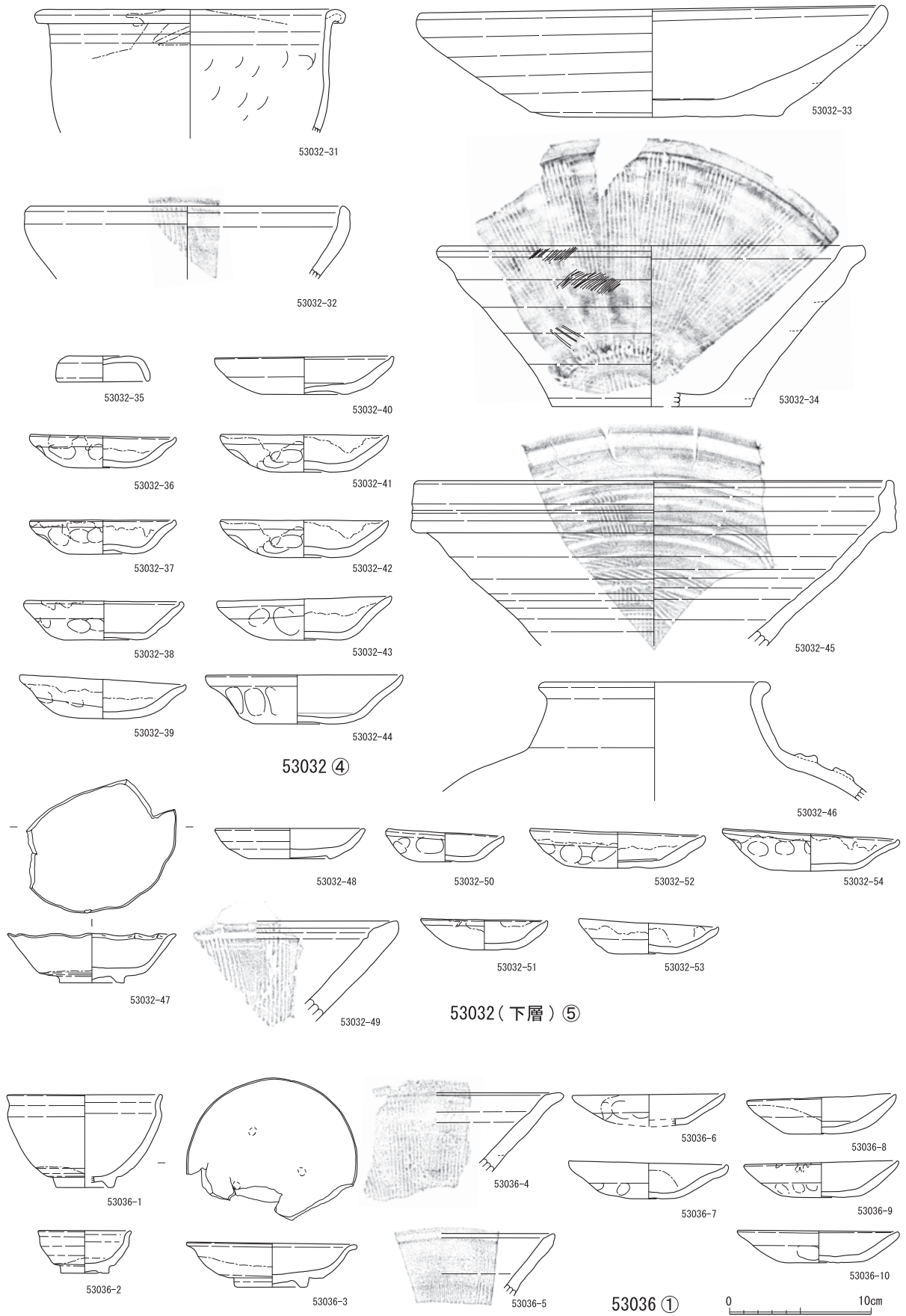
第109図 陶磁器 遺構 53011・53012・53014・53016・53019・53021・53032最上層 (S=1/4)



第110図 陶磁器 遺構 53032最上層・53032 (S=1/4)



第1節 土器・陶磁器

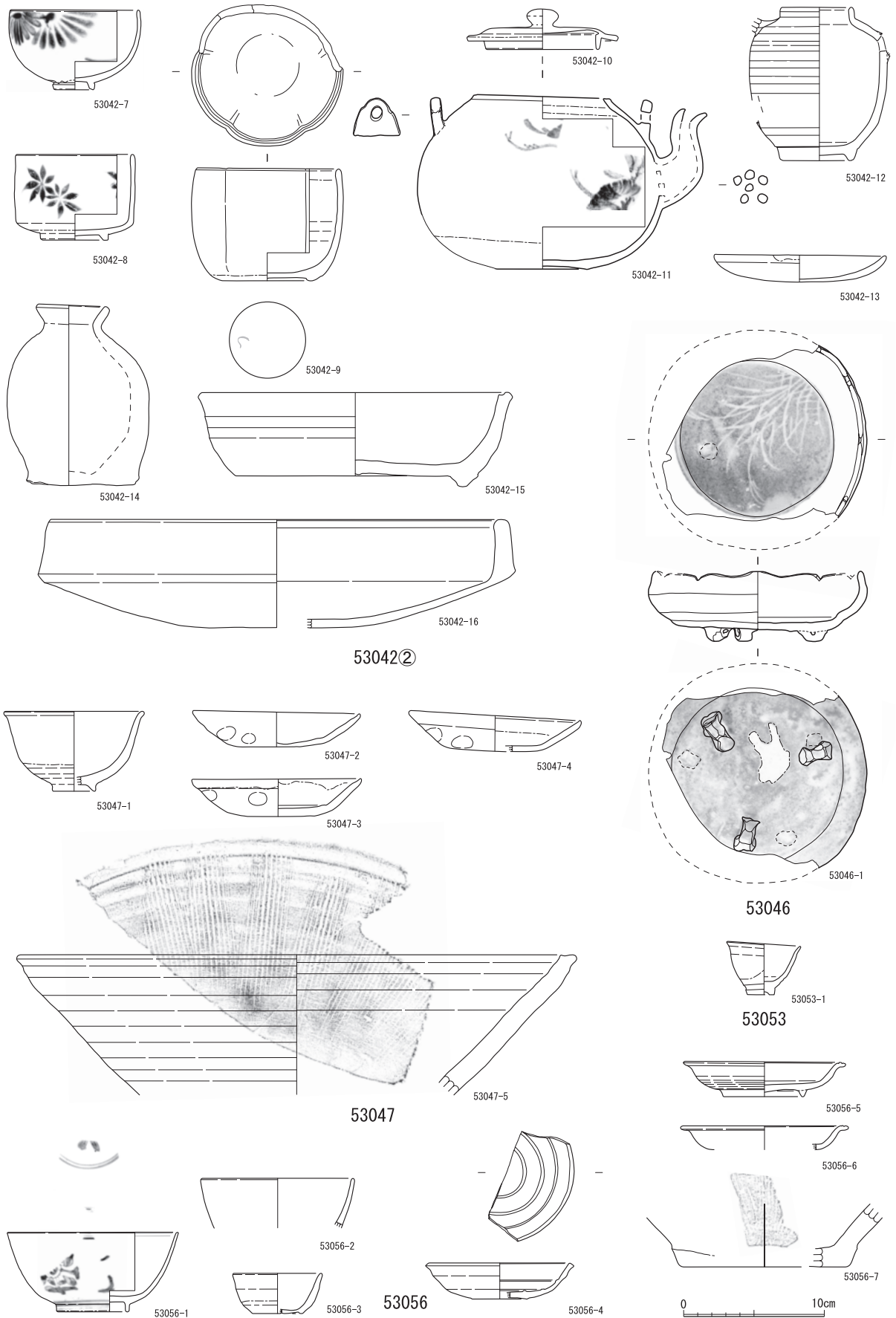


第111圖 陶磁器 遺構 53032・53032下層・53036 (S=1/4)

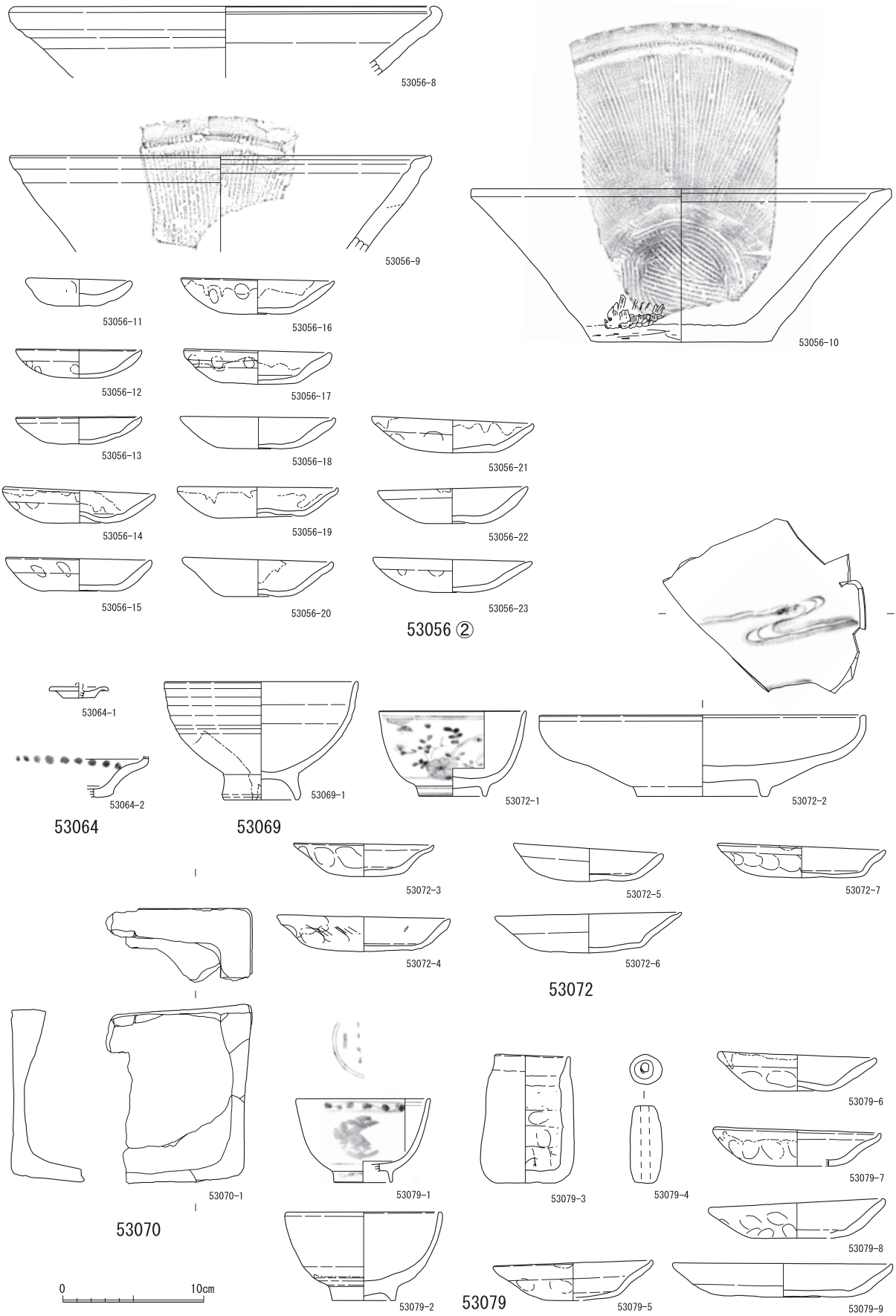


第112図 陶磁器 遺構 53036・53037・53041・53042 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

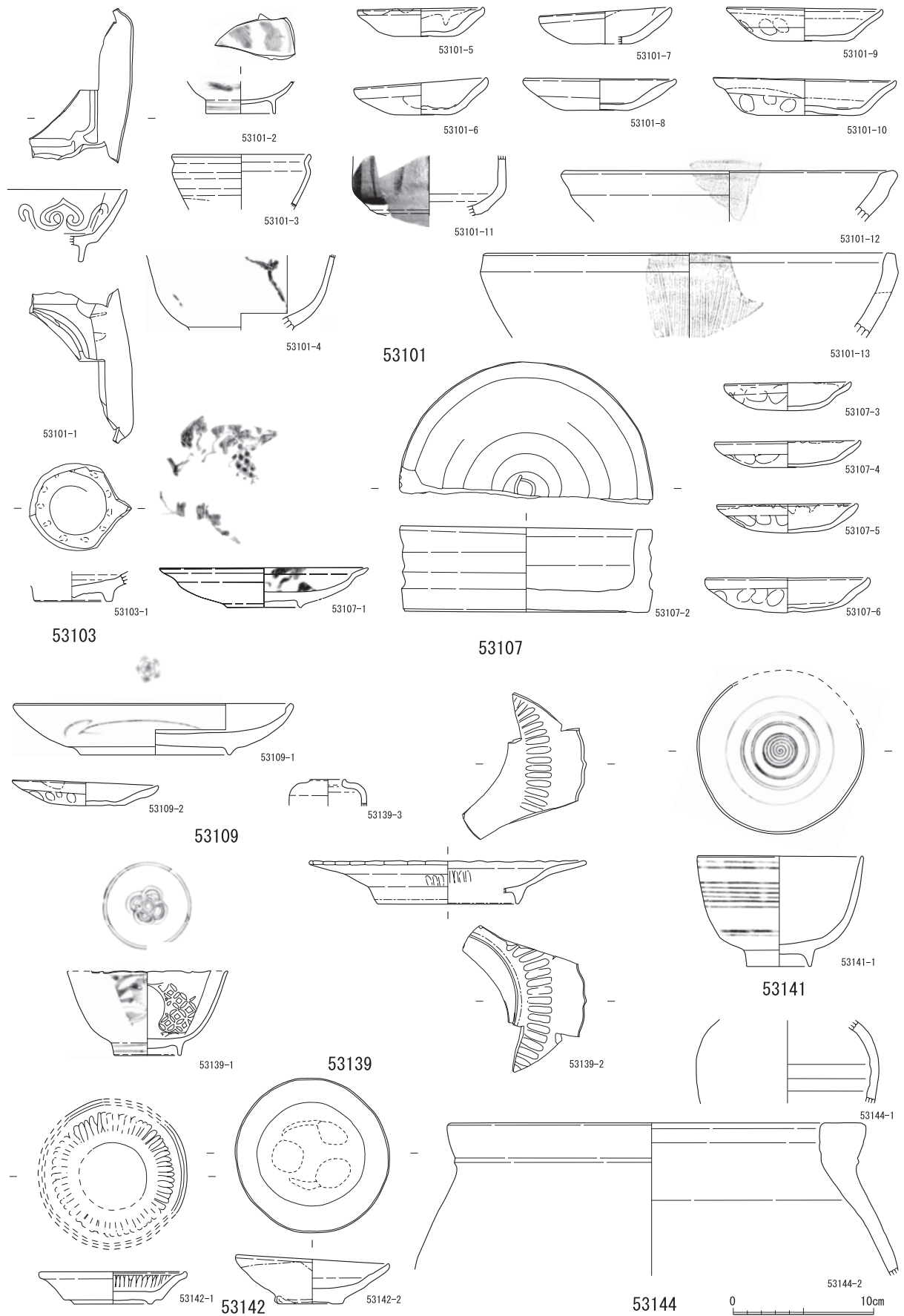


第113図 陶磁器 遺構 53042・53046・53047・53053・53056 (S=1/4)

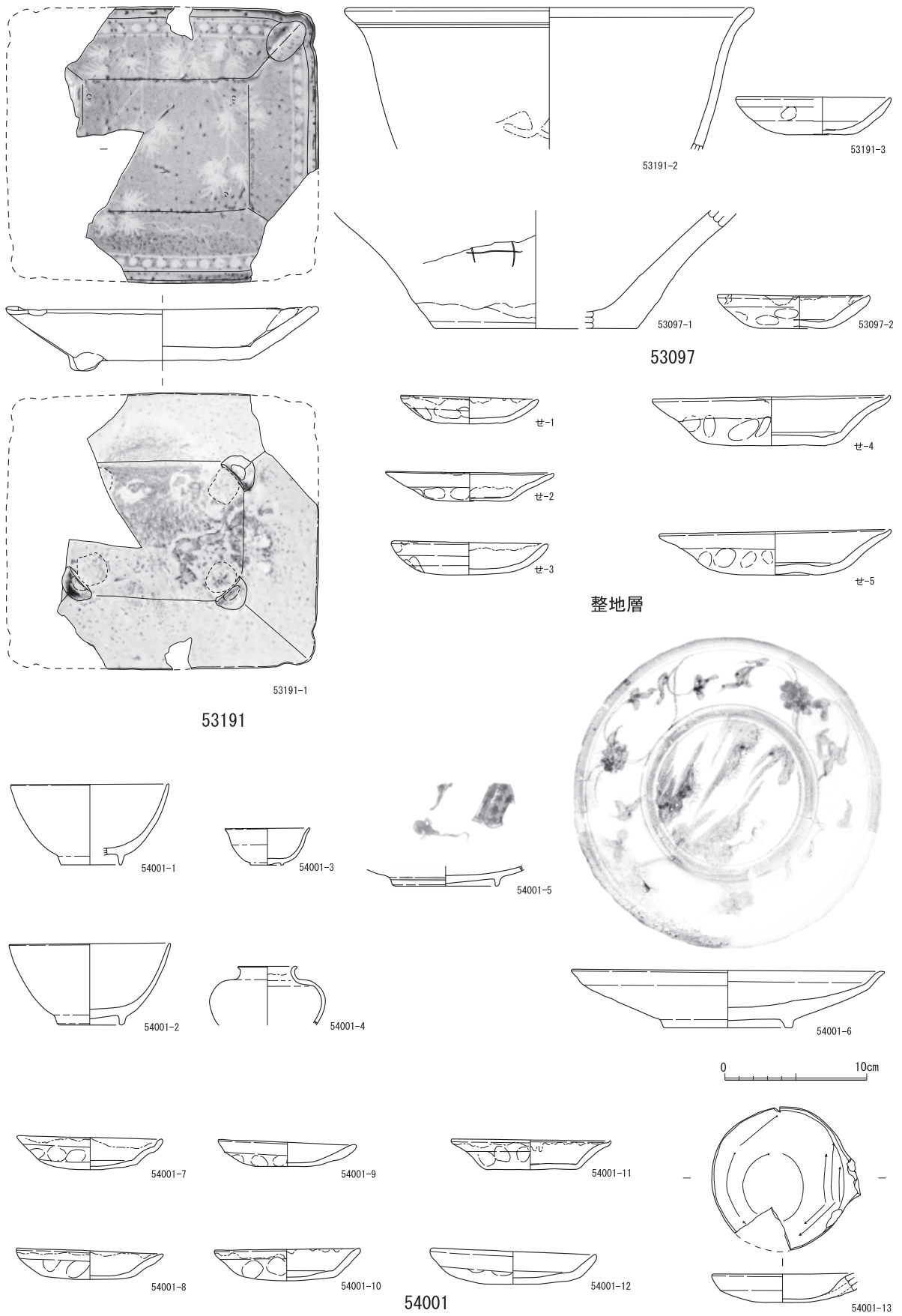


第114図 陶磁器 遺構 53056・53064・53069・53070・53072・53079 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

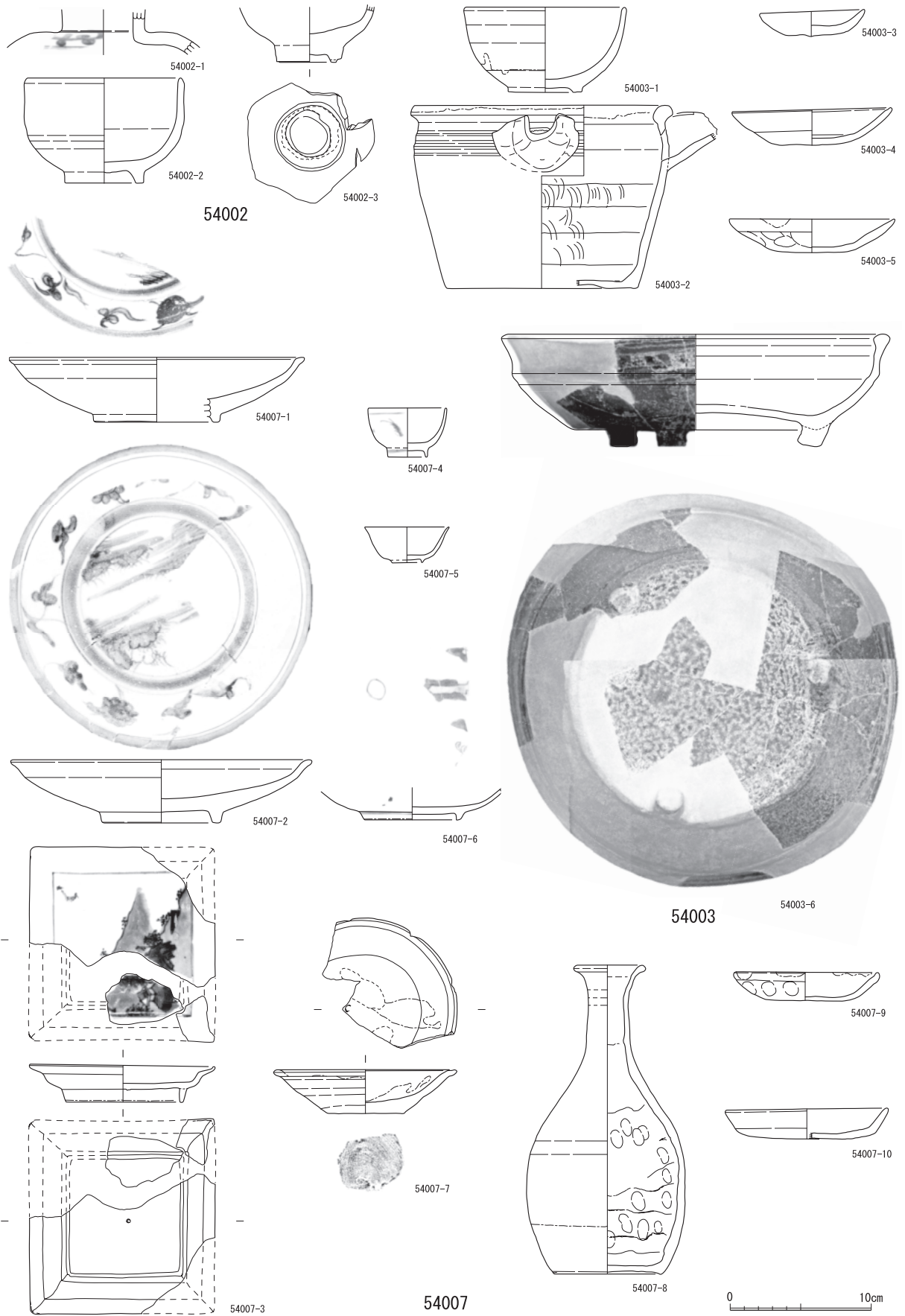


第115圖 陶磁器 遺構 53101・53103・53107・53109・53139・53141・53142 (S=1/4)



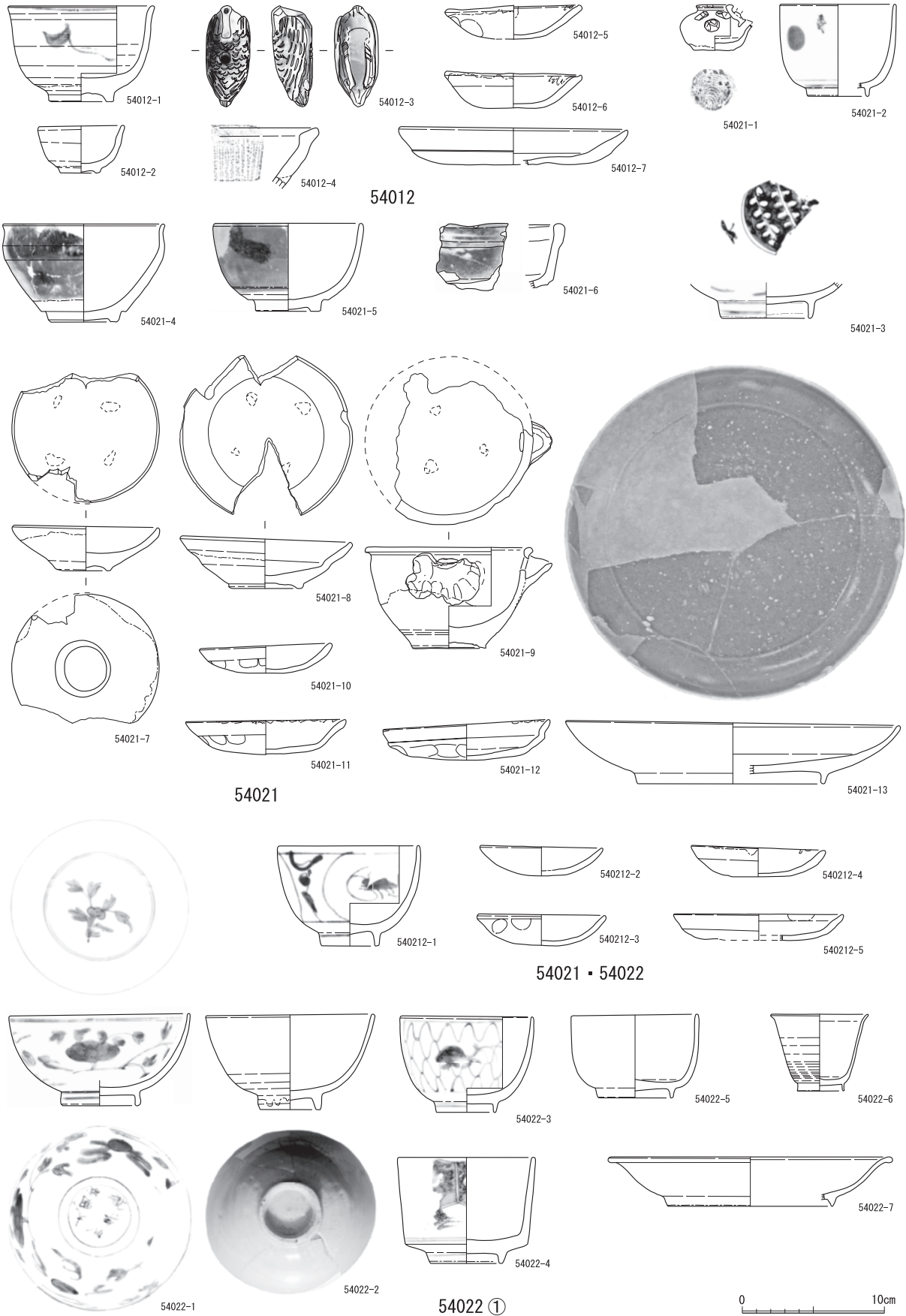
第116図 陶磁器 遺構 53191・53144・53191・整地層・54001 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器



第117図 陶磁器 遺構 54002・54003・54004 (S=1/4)

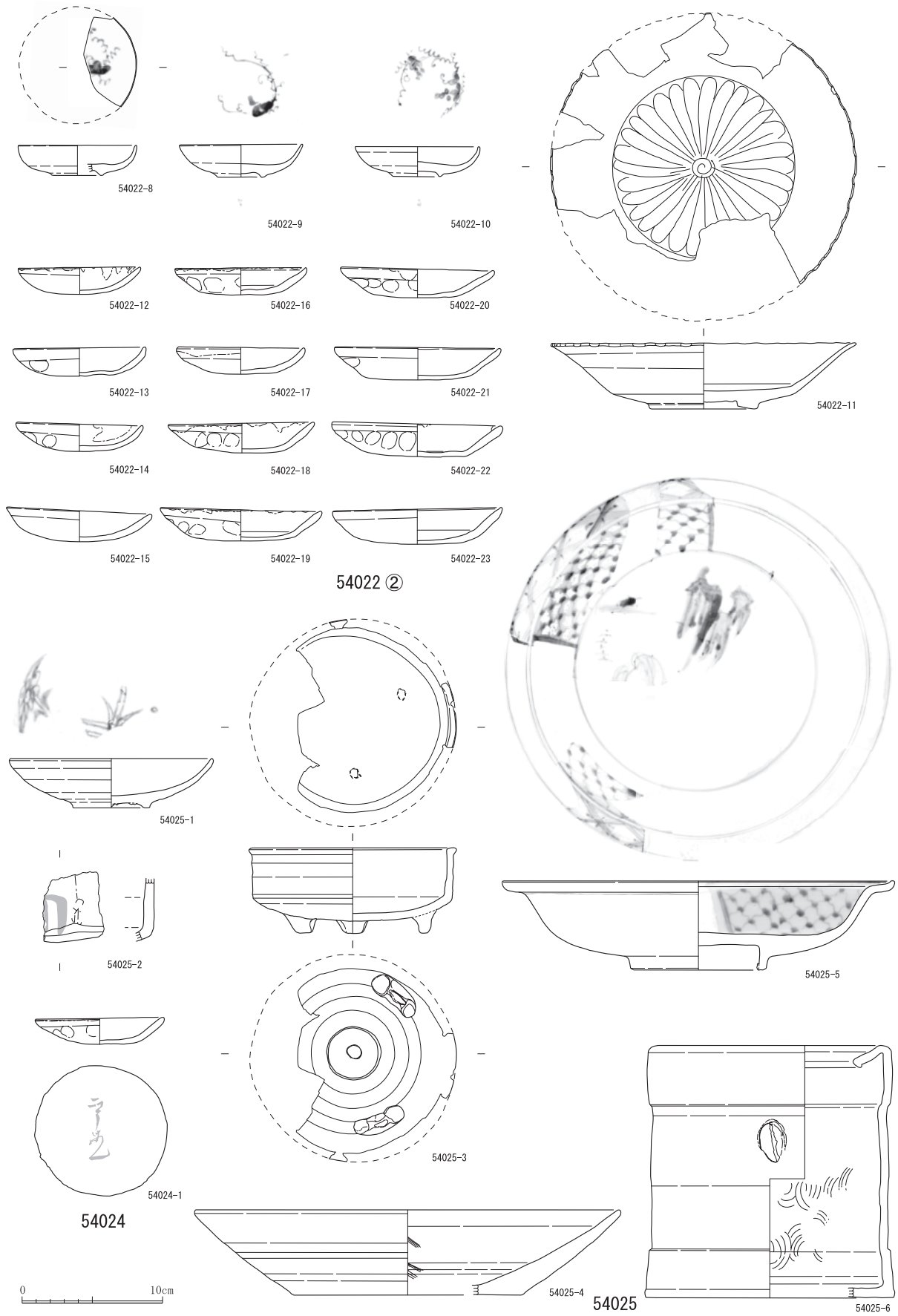
第4章 中・近世の遺物



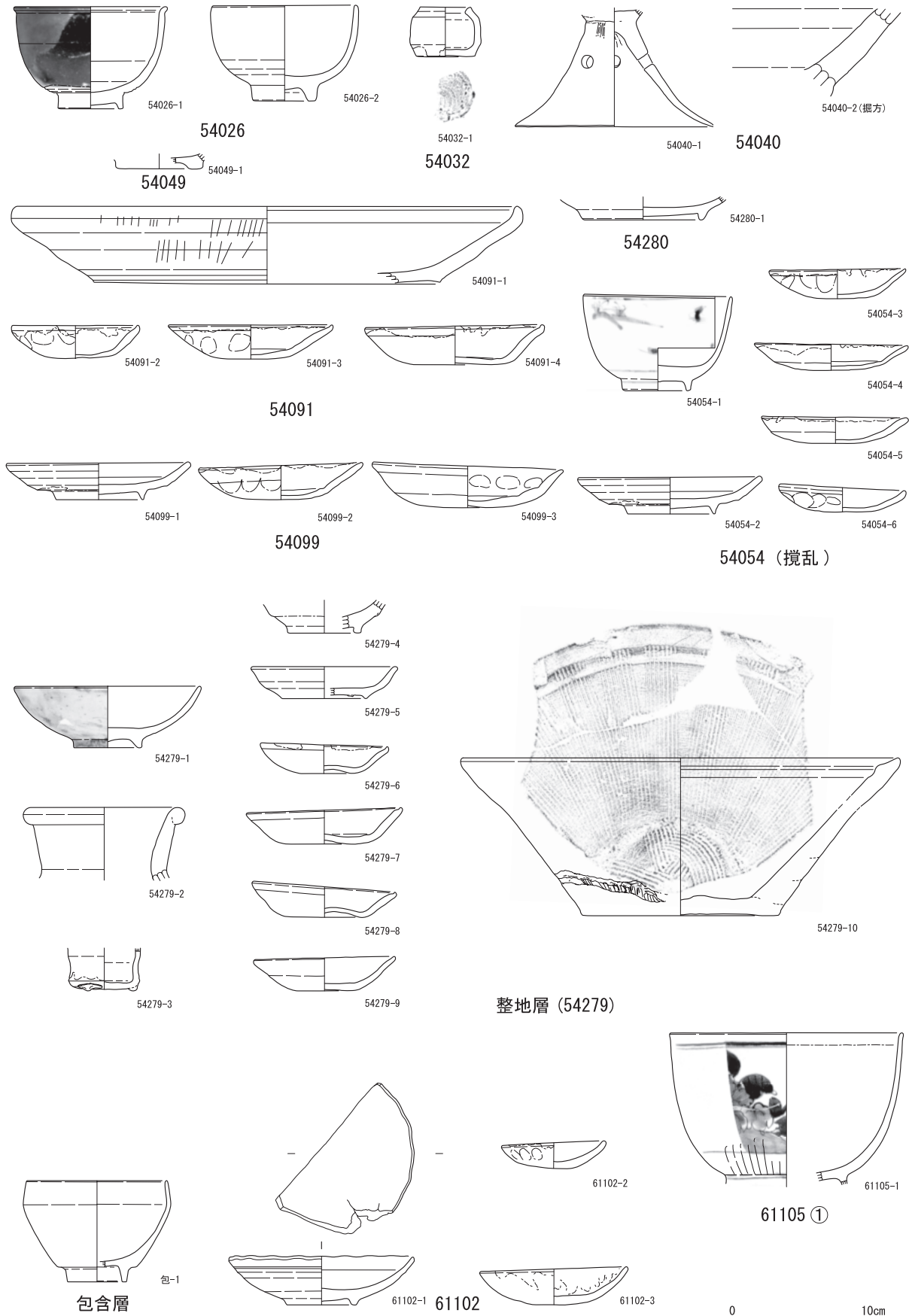
第118図 陶磁器 遺構 54012・54021・54022 (S=1/4)



第1節 土器・陶磁器

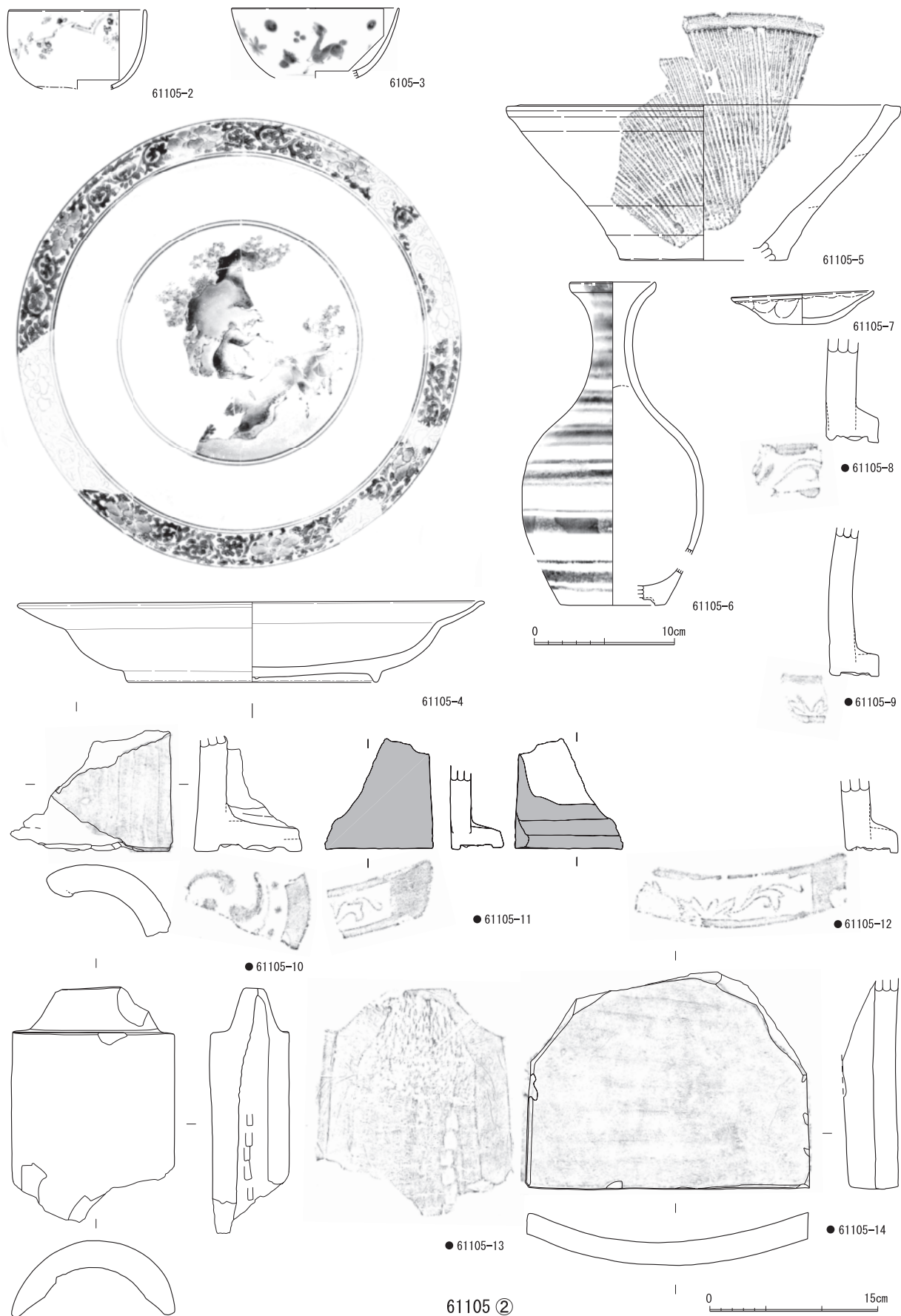


第119図 陶磁器 遺構 54022・54024・54025 (S=1/4)

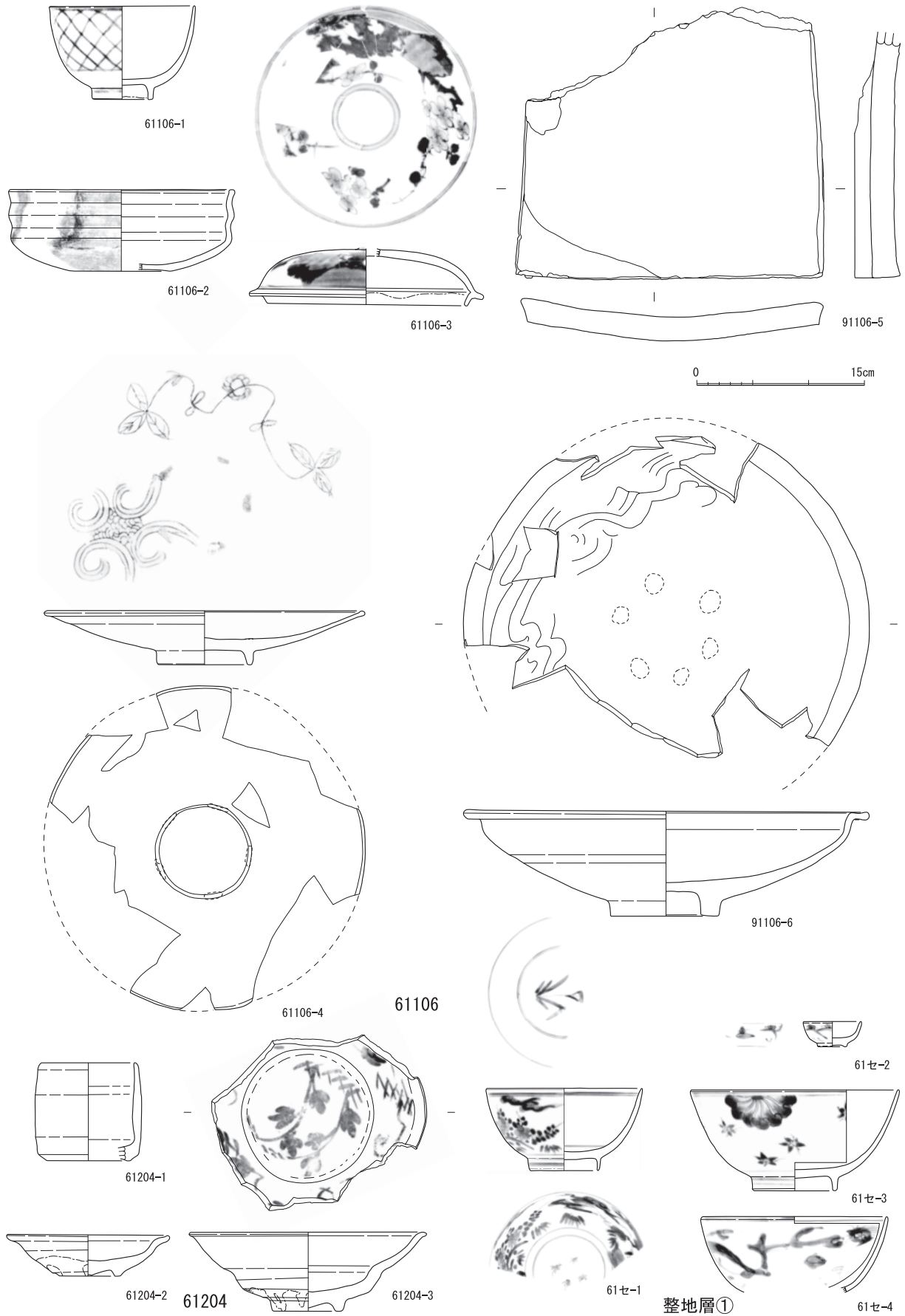


第120図 陶磁器 遺構 54026・54032・54040・54040(掘方)・54049・54054・54091・51099・54279・54280  
包含層・61102・61105 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

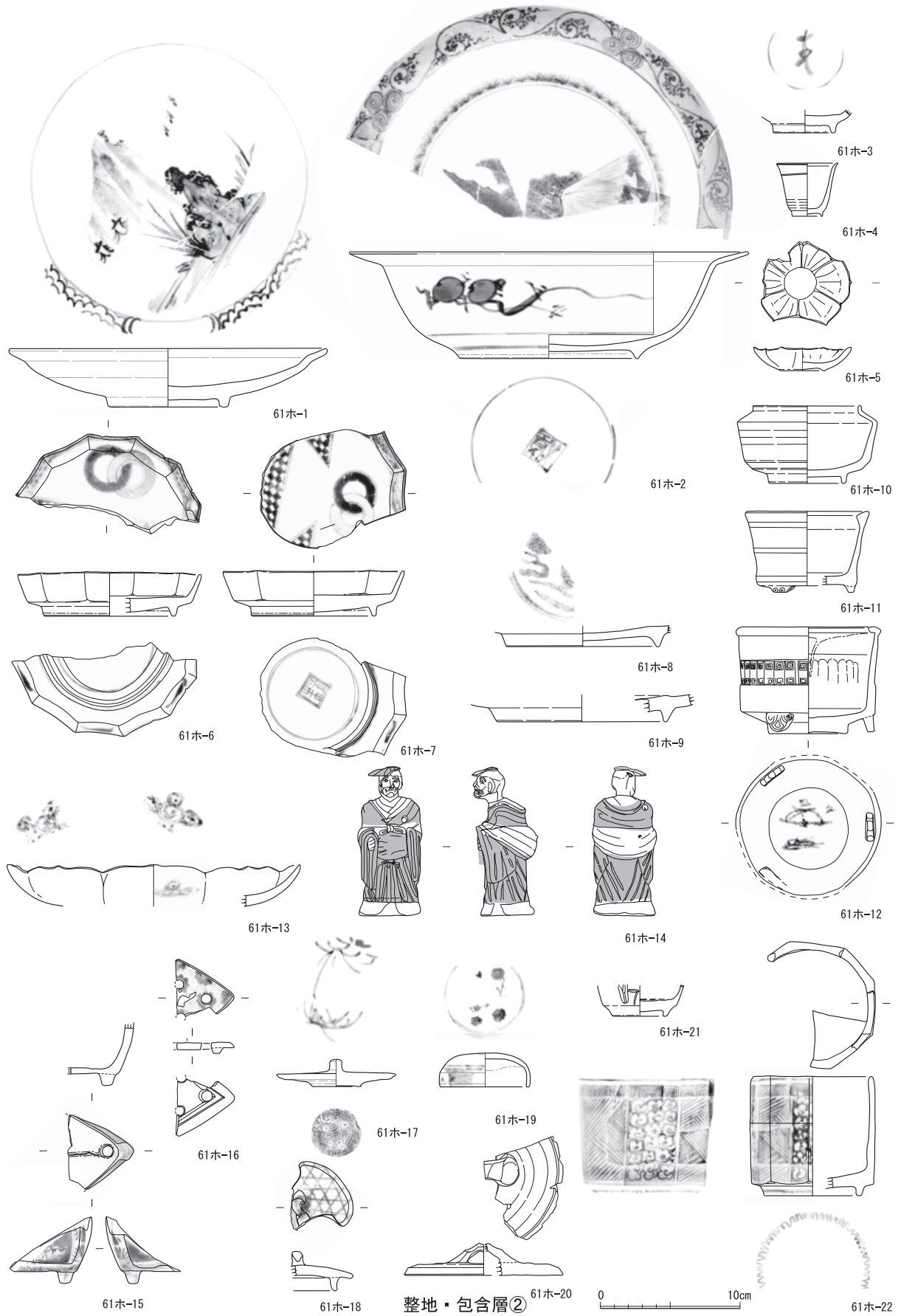


第121圖 陶磁器・瓦 遺構 61105 (S=1/4・●瓦S=1/5)

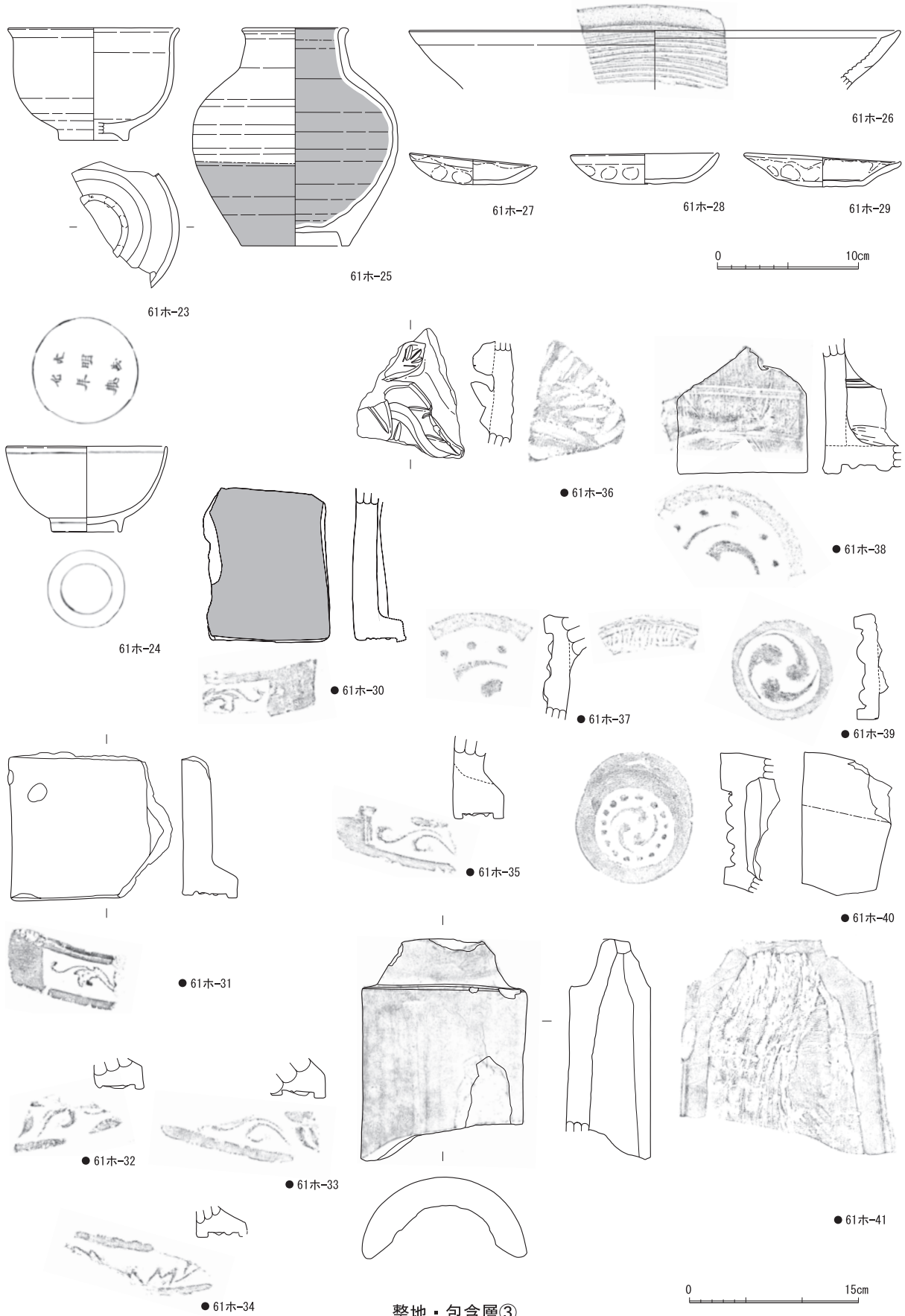


第122図 陶磁器・瓦 遺構 61106・61204 包含層 (S=1/4・瓦のみS=1/5)

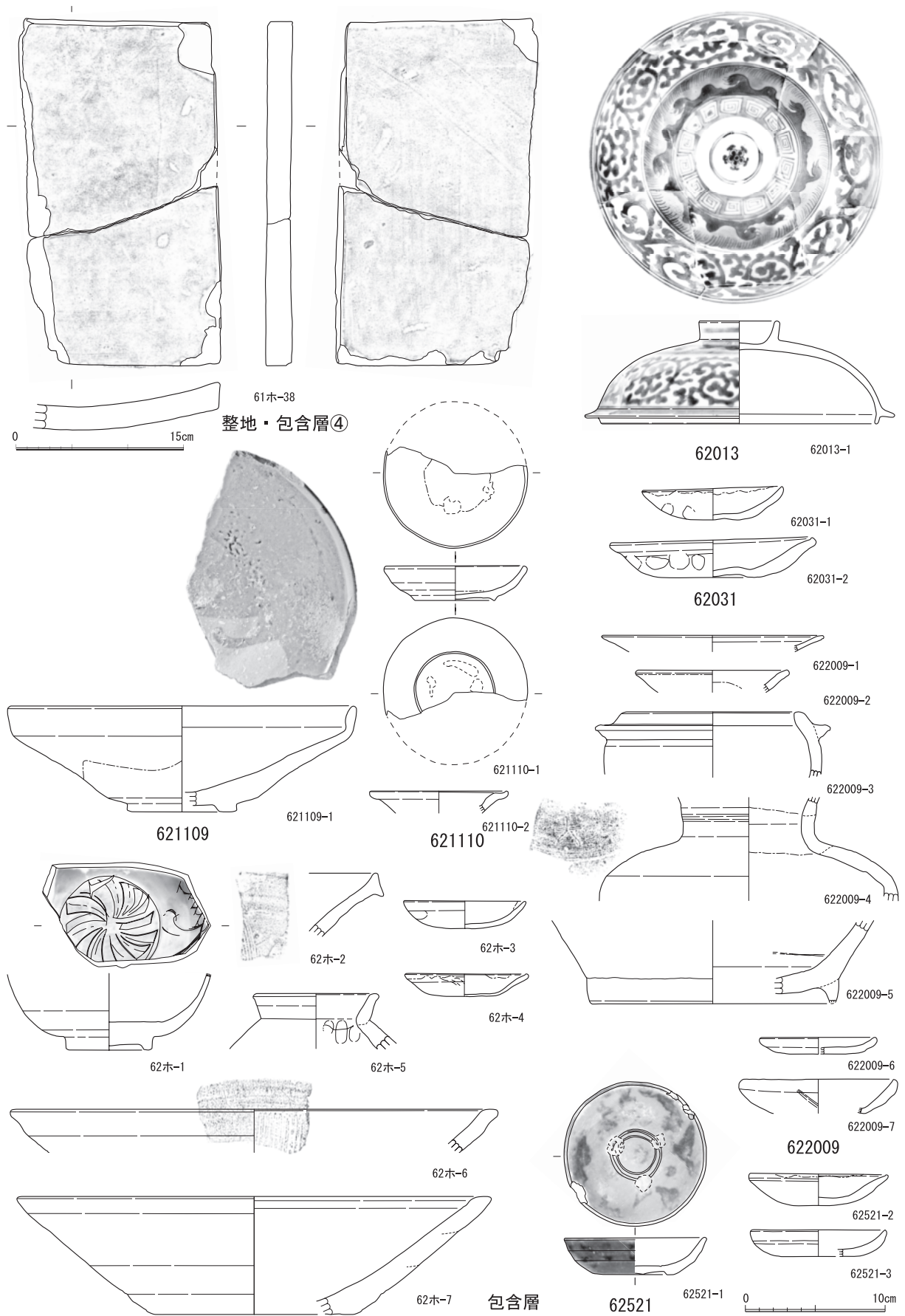
第1節 土器・陶磁器



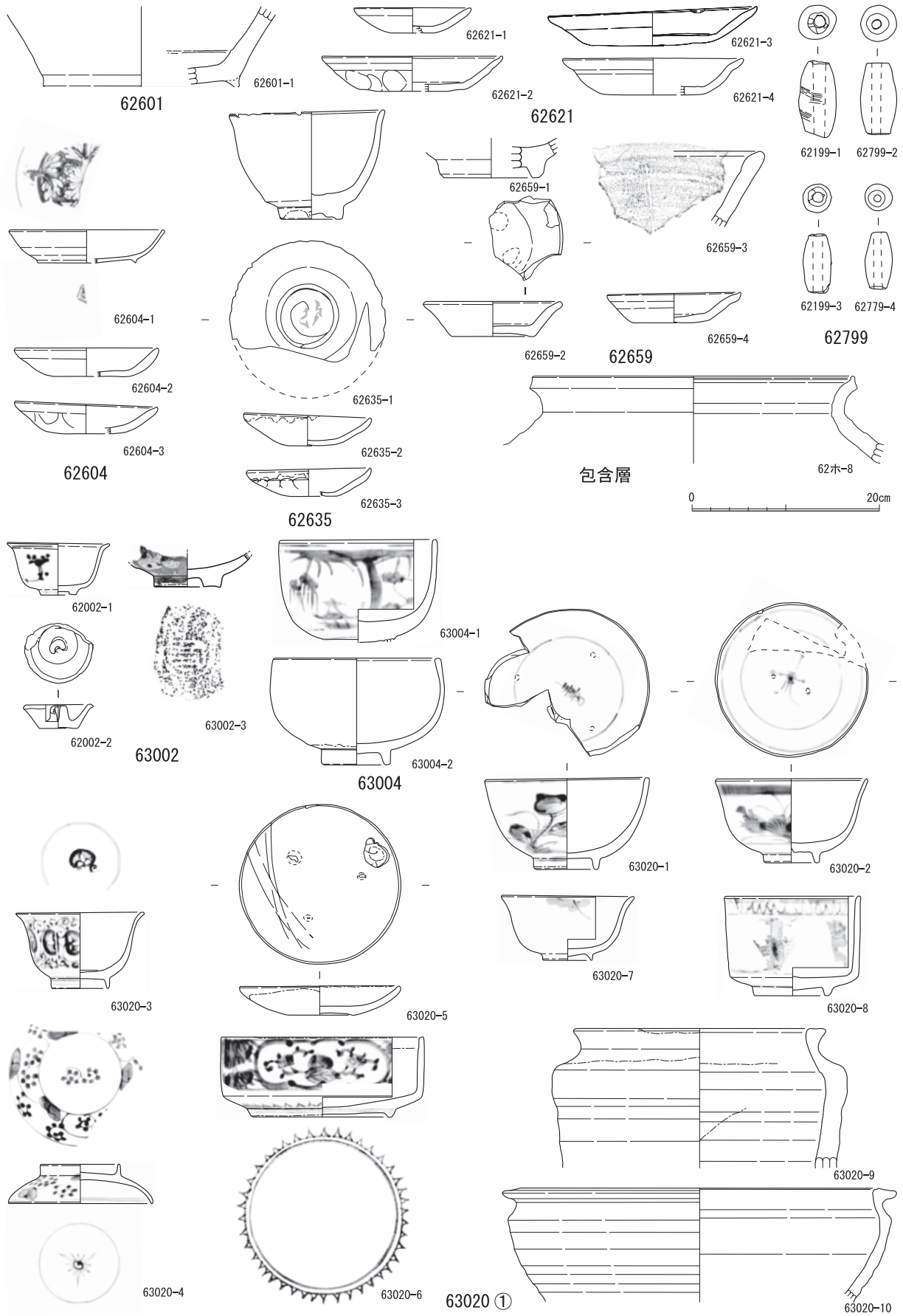
第123図 陶磁器 06-1 整地・包含層 (S=1/4)



第124図 陶磁器・瓦 包含層 (S=1/4・●瓦S=1/5)



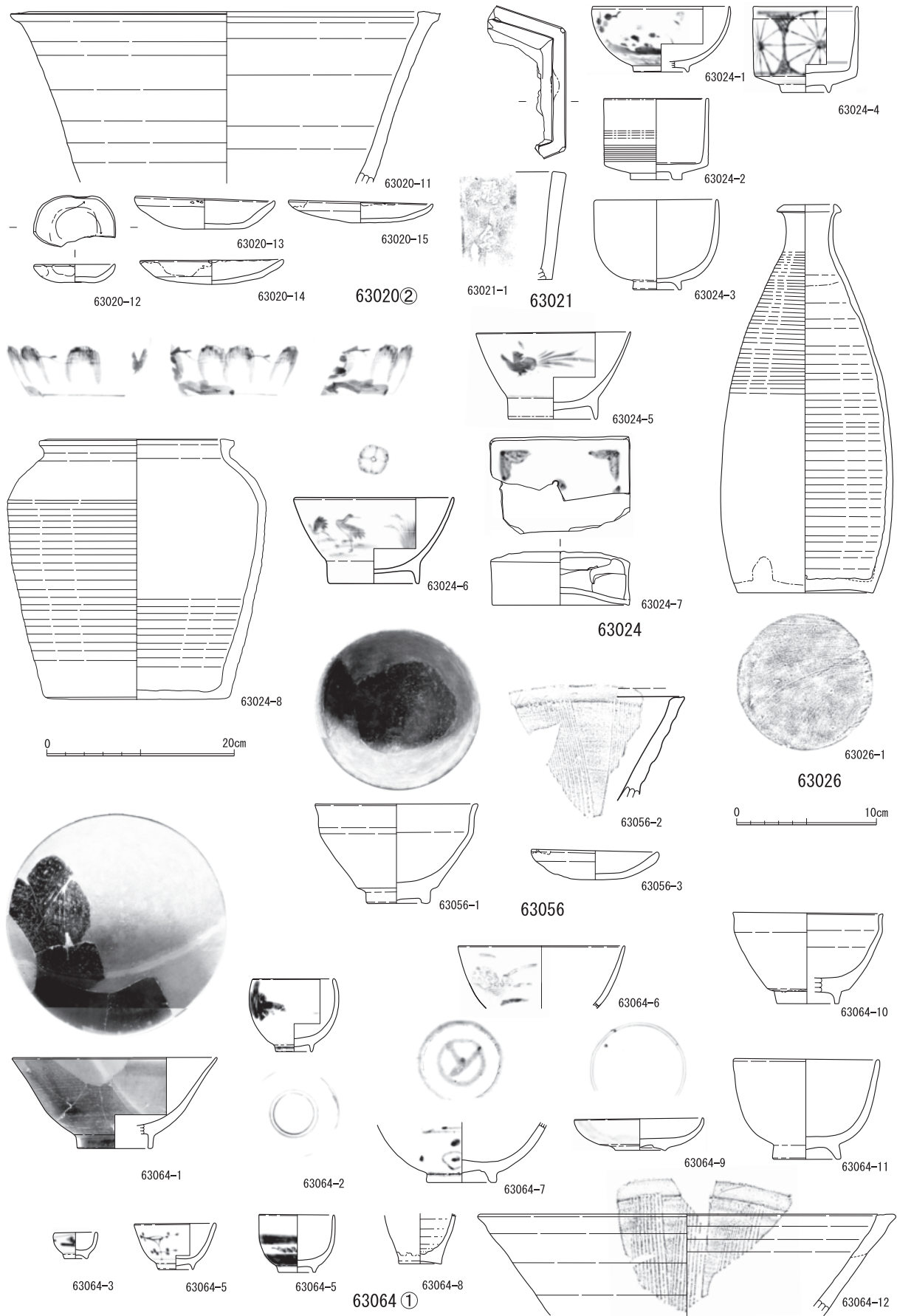
第125図 陶磁器・瓦 06-1 整地・包含層 遺構62013・62031・62521・621109・621110・622009・06-2 包含層 (S=1/4)



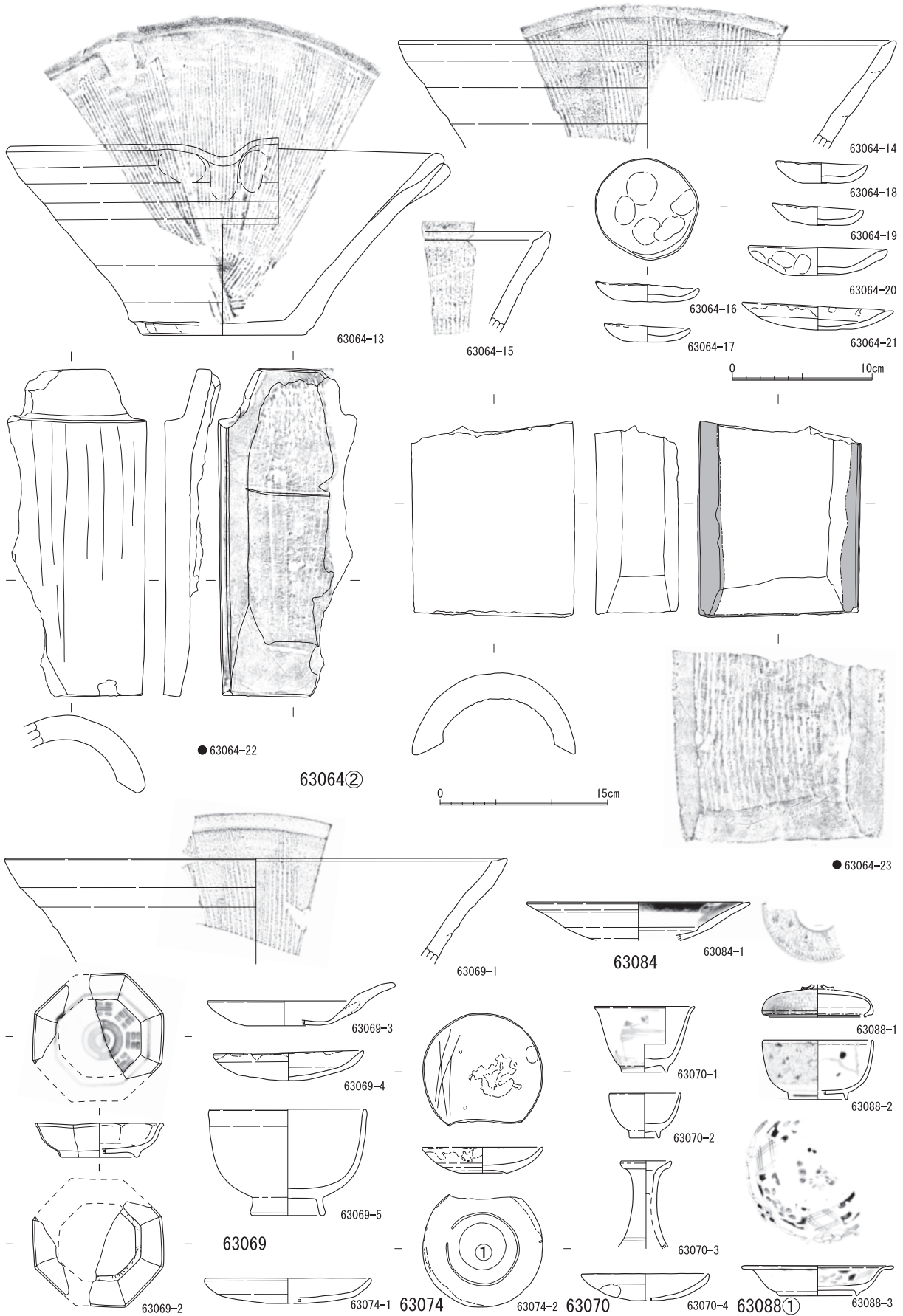
第126図 陶磁器 遺構 62601・62604・62621・62635・62659・62799・63002・63004・63020・  
06-2 包含層 (S=1/4)



第1節 土器・陶磁器

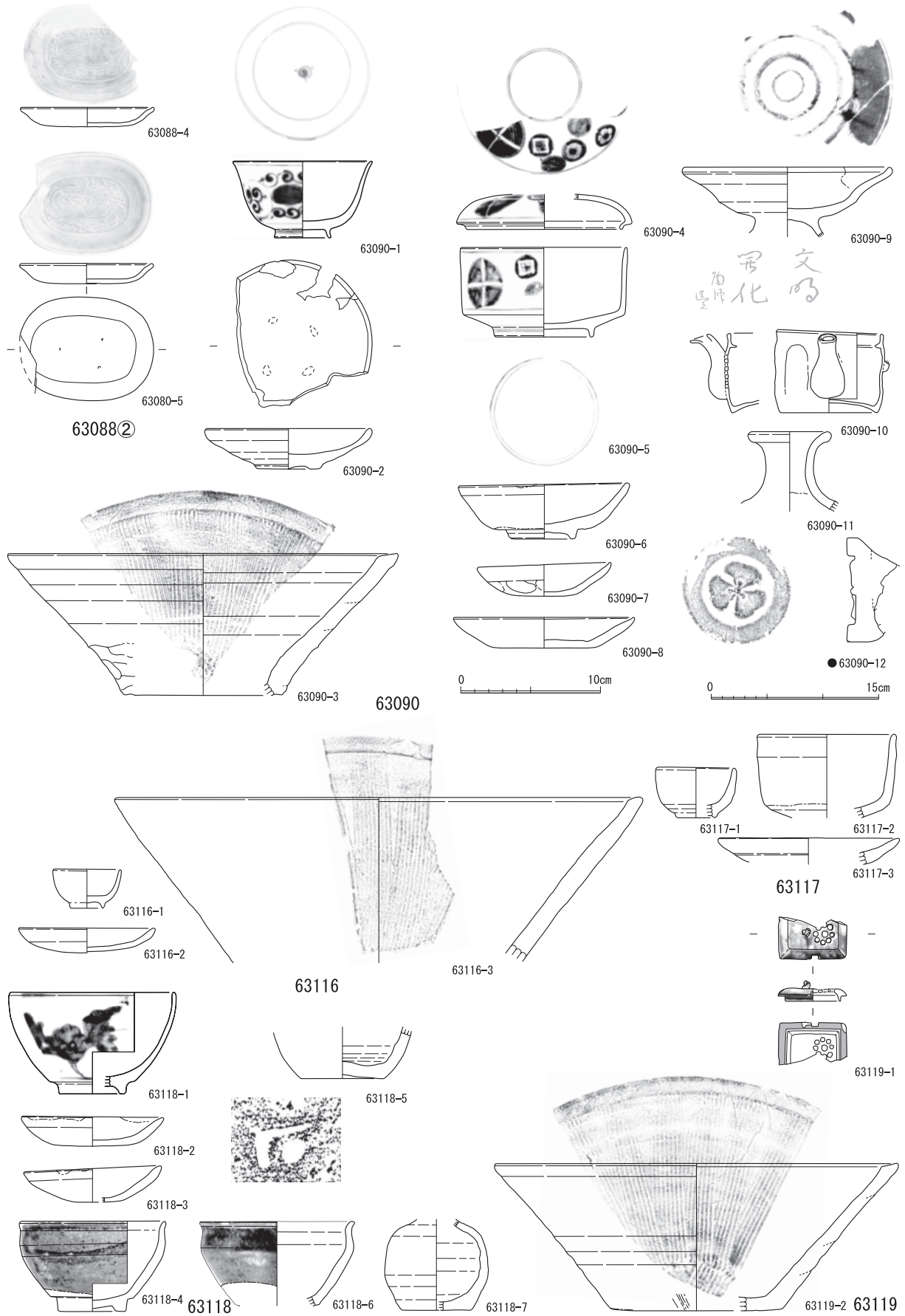


第127図 陶磁器 遺構 63020・63021・63024・63026・63056・63064 (S=1/4)

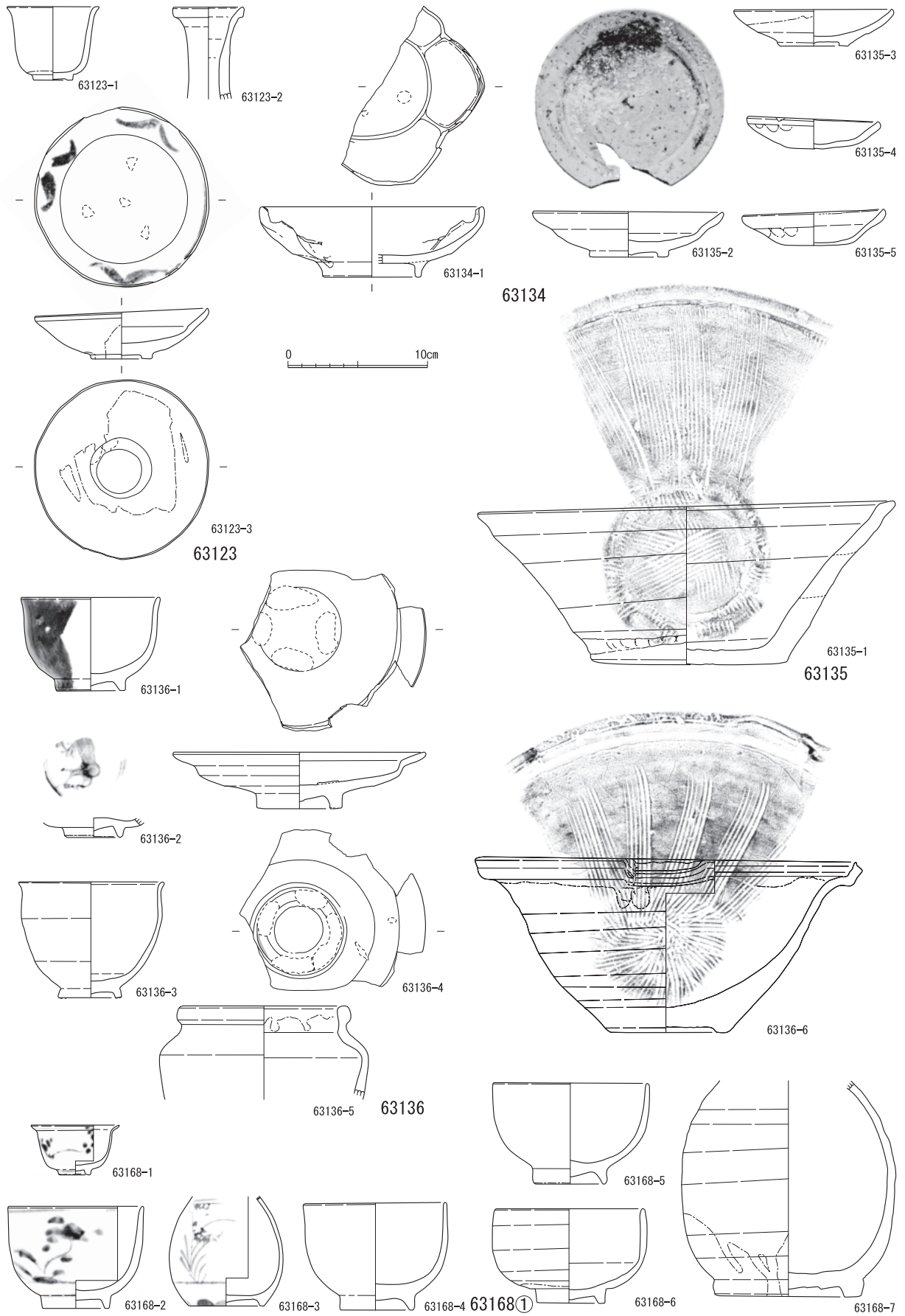


第128図 陶磁器・瓦 遺構 63064・63069・63070・63074・63084・63088 (S=1/4・●瓦S=1/5)

第1節 土器・陶磁器

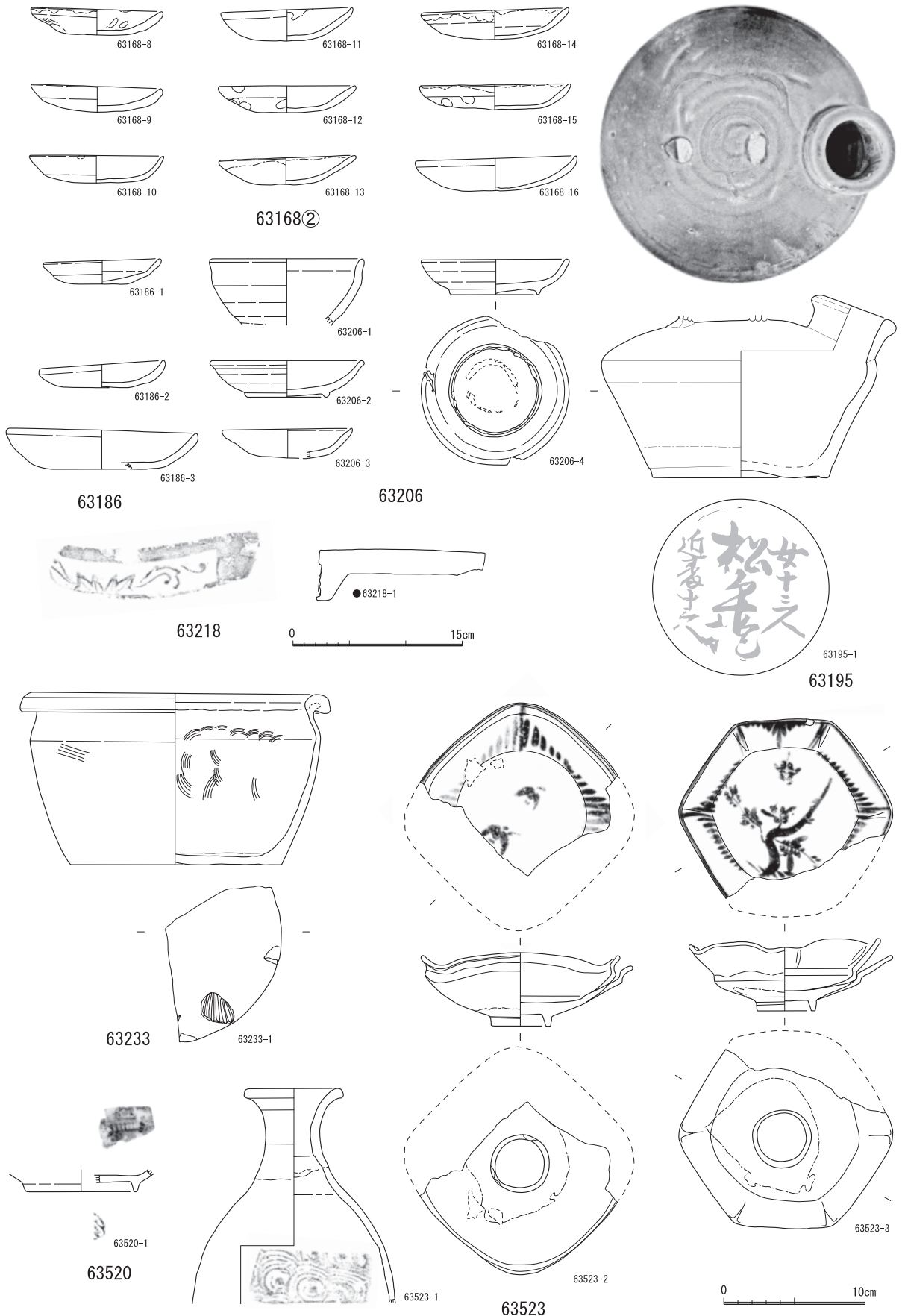


第129図 陶磁器 遺構 63088・63090・63116・63117・63118・63119 (S=1/4・●瓦S=1/5)

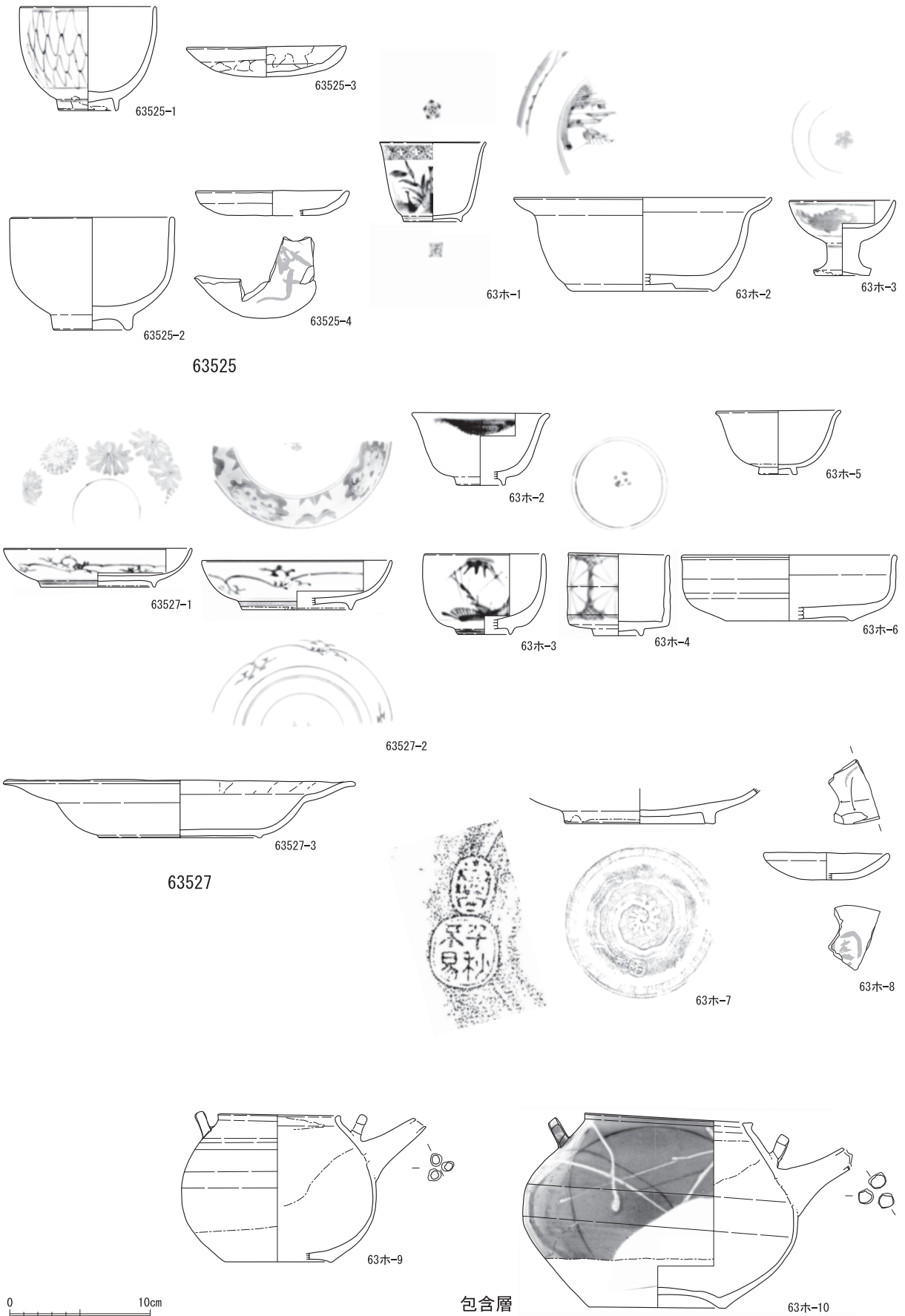


第130図 陶磁器 遺構 63123・63134・63135・63136・63168 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

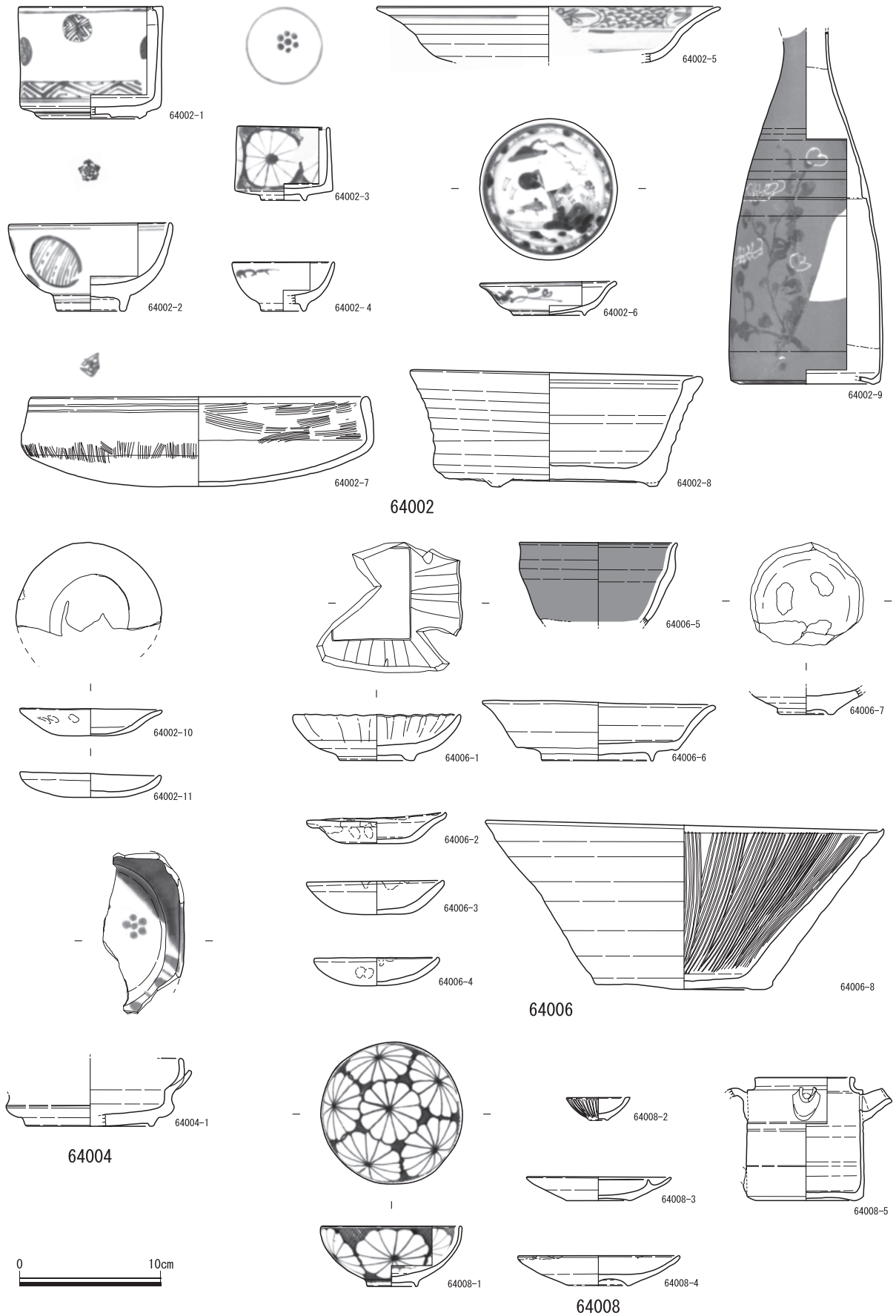


第131圖 陶磁器 遺構 63168・63186・63195・63206・63218・63233・63520・63523  
(S=1/4・●瓦S=1/5)

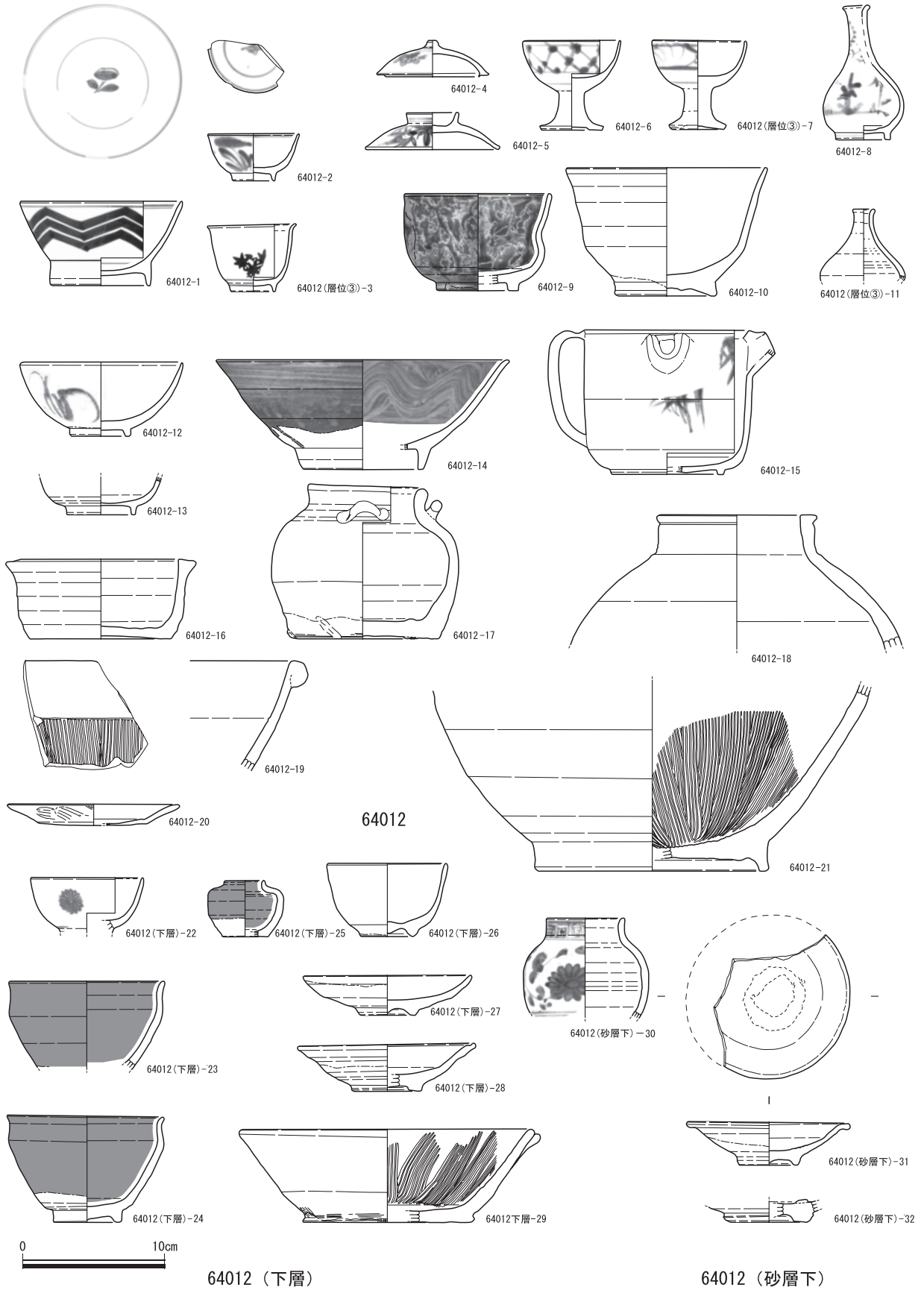


第132図 陶磁器 遺構 63525・63527 包含層 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器



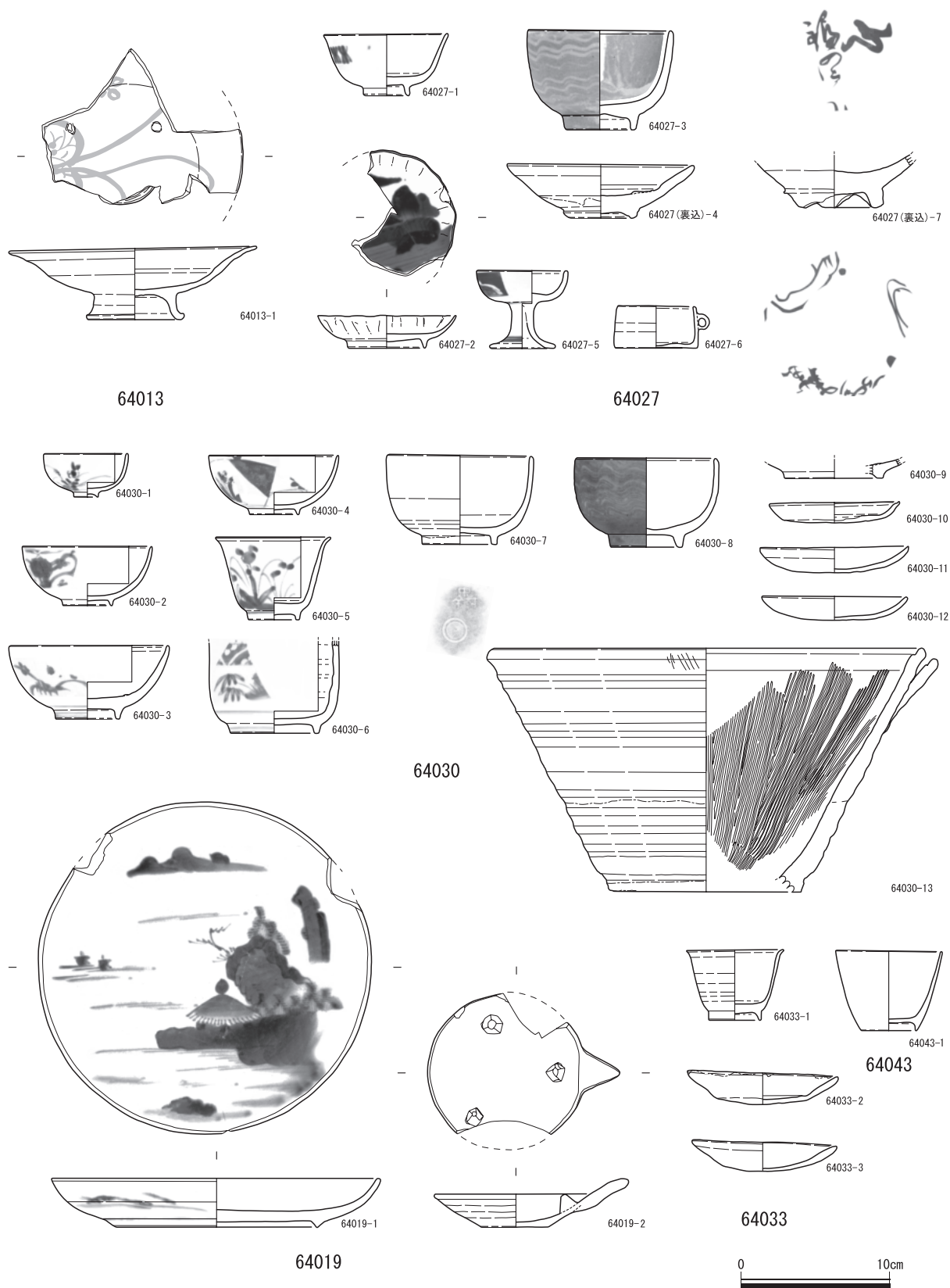
第133図 陶磁器 遺構 64002・64004・64006・64008 (S=1/4)



第134図 陶磁器 遺構 64012 (S=1/4)



第1節 土器・陶磁器

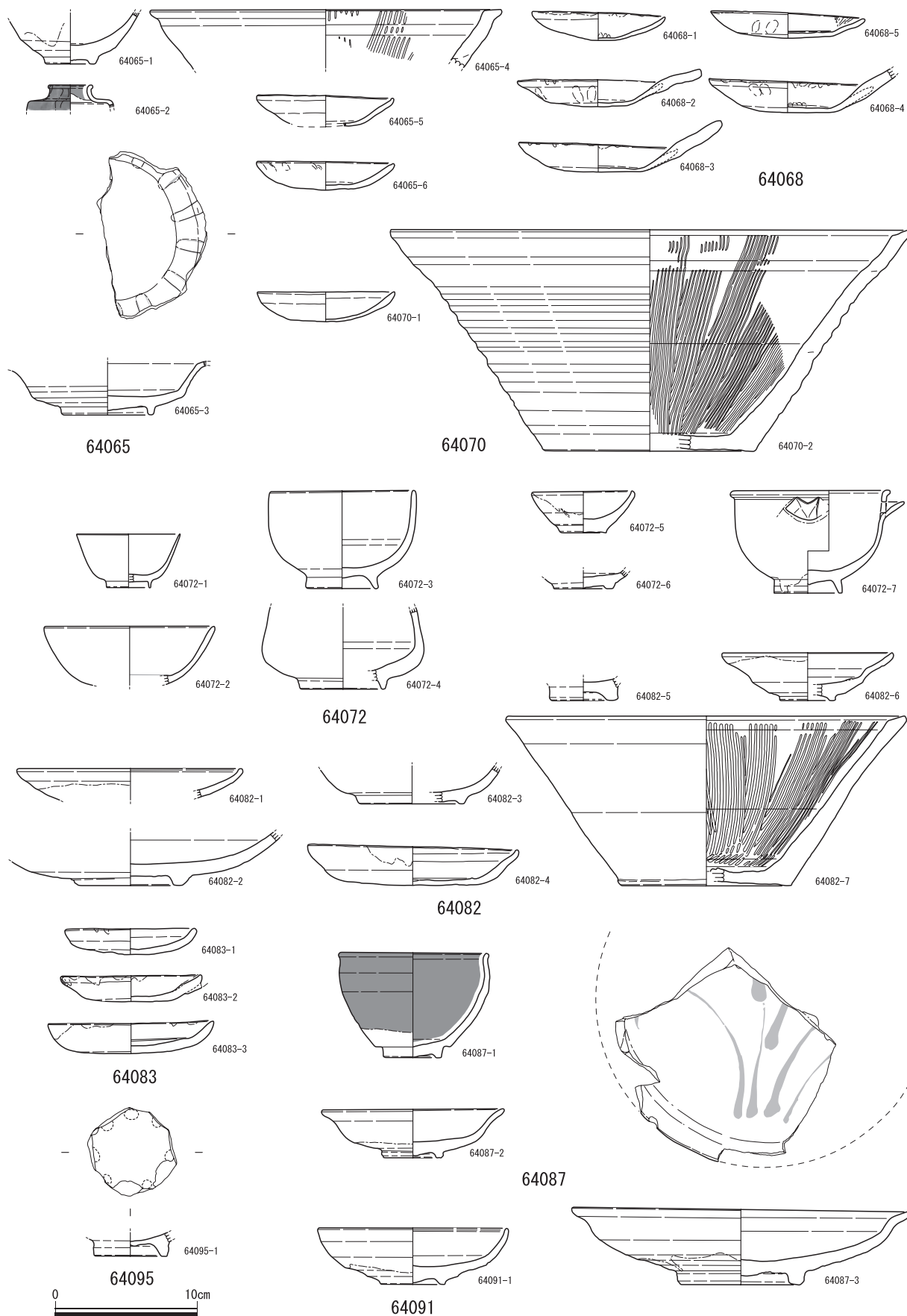


第135圖 陶磁器 遺構 64013・64019・64027・64030・64033・64043 (S=1/4)

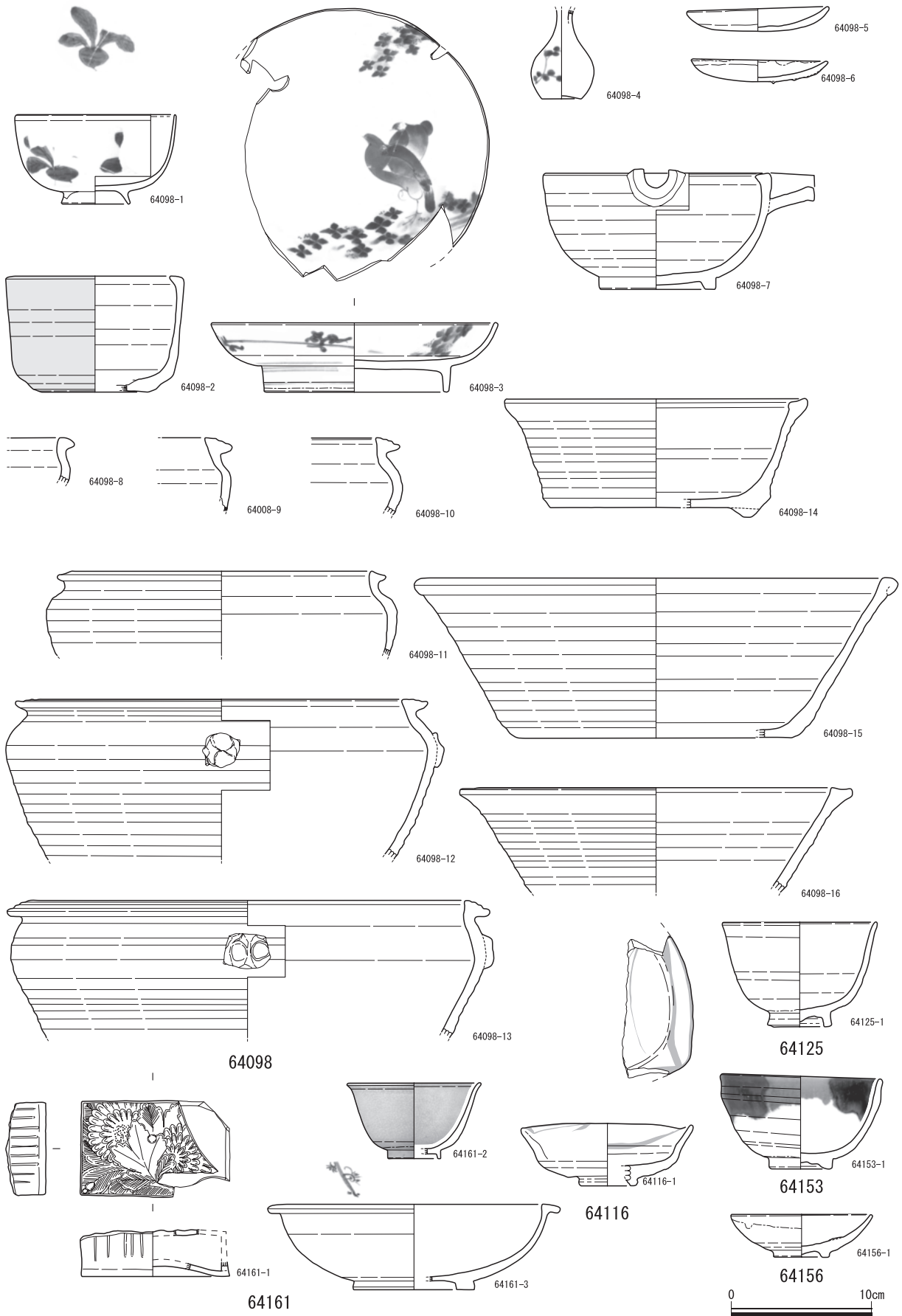


第136図 陶磁器 遺構 64046・64048・64050・64053 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

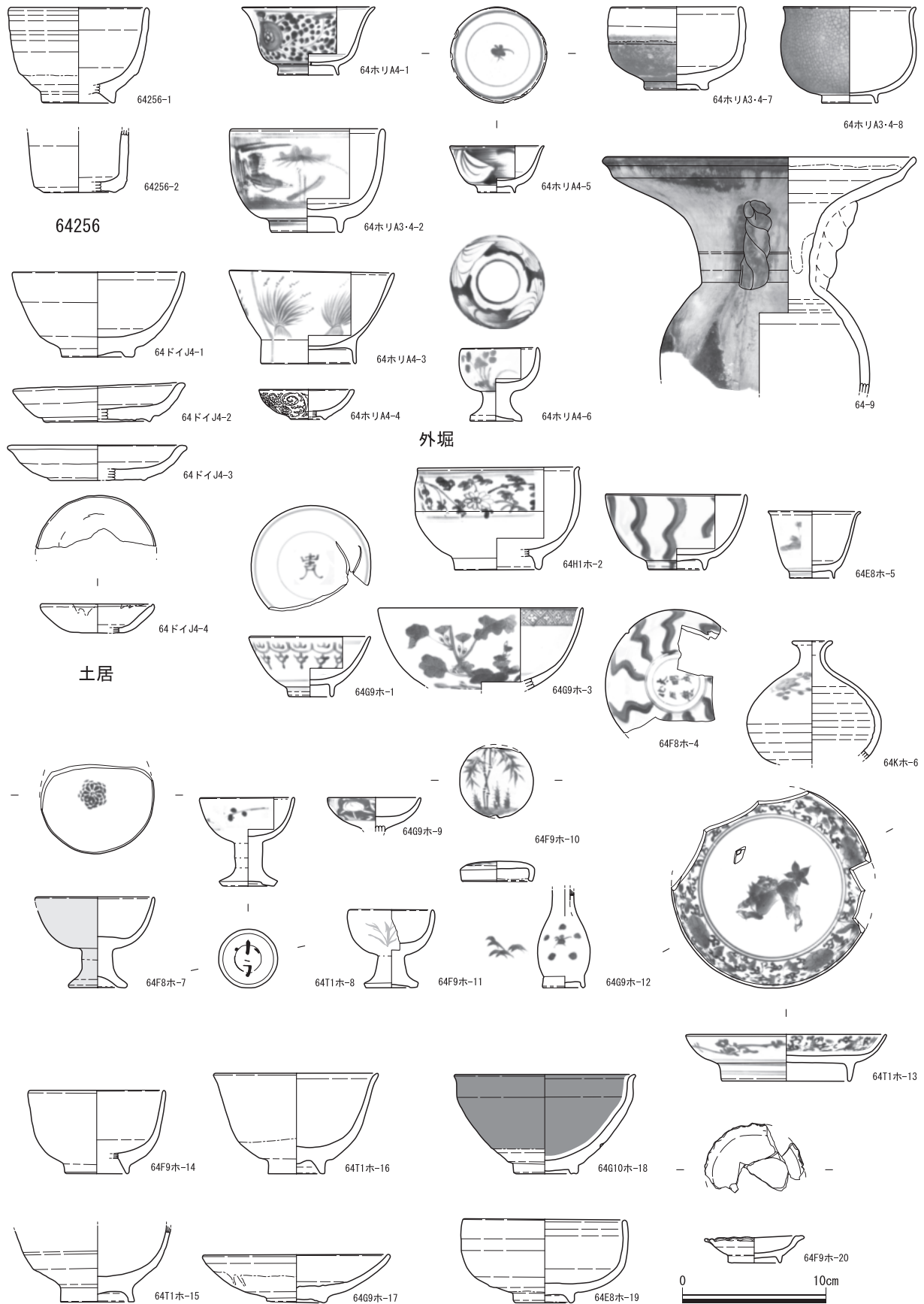


第137圖 陶磁器 遺構 64065・64068・64070・64072・64082・64083・64087・64091・64095 (S=1/4)



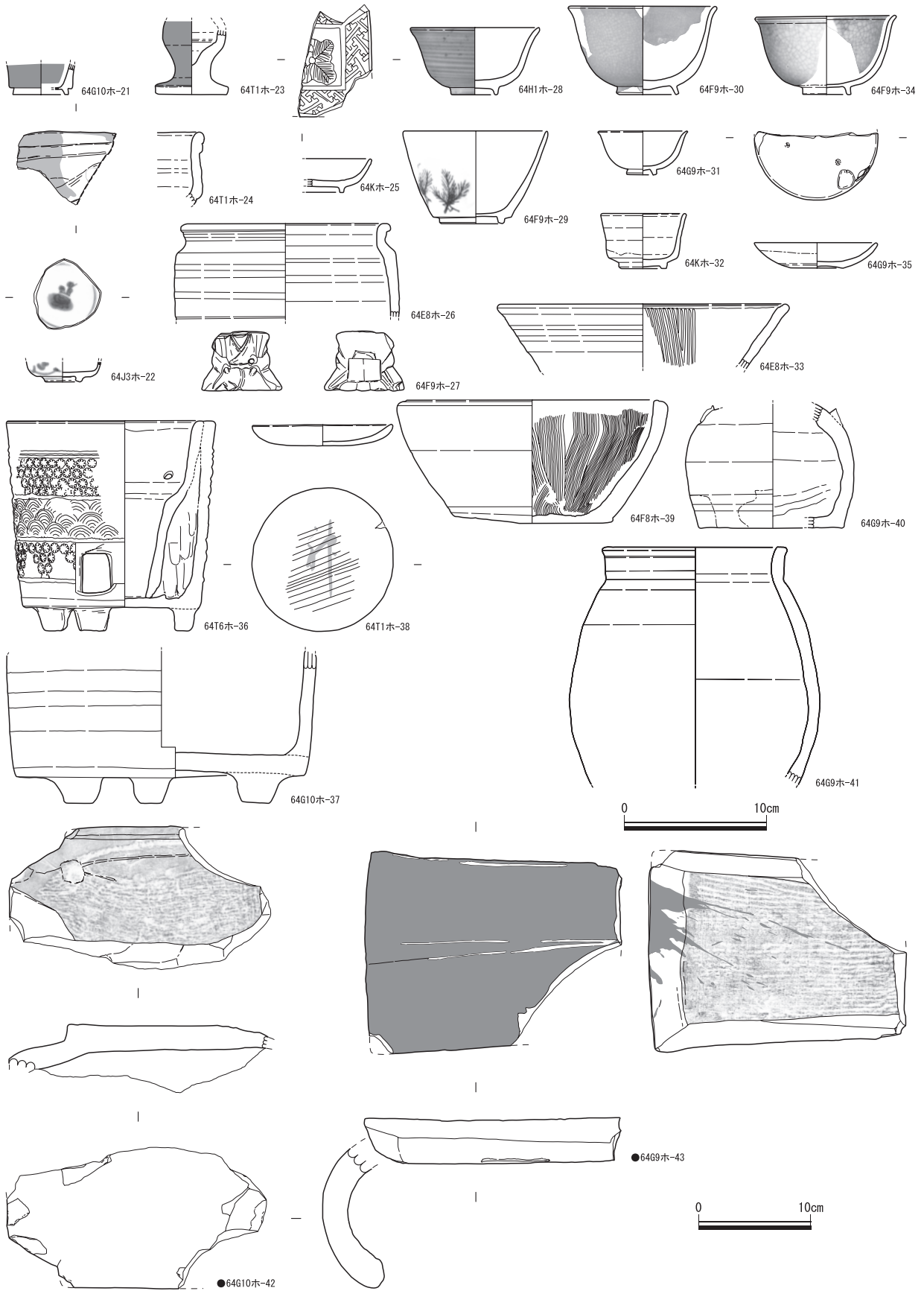
第138図 陶磁器 遺構 64098・64116・64125・64153・64156・64161 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器



第139図 陶磁器 遺構 64256 外堀 土居 包含層 (S=1/4)

第4章 中・近世の遺物



第140図 陶磁器・瓦 包含層 遺構 (S=1/4・●瓦1/5)

第1節 土器・陶磁器

第5表 陶磁器観察表

遺構53011(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53011-1	土師質皿	×	11.5	-	2.0	浅黄橙	手捏ね	B系	53-106
53011-2	土師質皿	○	11.2	5.8	2.55	灰白	内)回しナデ、圏線。口)つまむ。外)回しナデ。	C系	53-104

遺構53012(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53012-1	土師質皿	○	11.5	-	2.4	灰白	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-66
53012-2	土師質皿	○	11.55	6.2	2.75	にぶい黄橙	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-63
53012-3	土師質皿	○	11.6	-	2.6	灰白	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-65
53012-4	土師質皿	○	11.8	-	2.3	灰白	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。外)段回しナデ。		53-64
53012-5	土師質皿	○	12.3	6.8	2.8	灰白	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)段回しナデ。	C古系	53-68
53012-6	土師質皿	×	13.0	6.4	3.0	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-67

遺構53014(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53014-1	土師質皿	○	9.65	-	2.45	浅黄橙	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-107
53014-2	土師質皿	×	11.5	-	2.65	浅黄橙	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		53-108
53014-3	土師質皿	×	16.3	-	2.55	淡黄橙	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。	C古系	53-109

遺構53016(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53016-1	脚付鉢		39.2	22.7	13.3(割合)		見)火ダスキ。脚貼付。		53-199
53016-2	土師質皿	×	(9.6)	-	2.1(残)	淡橙	内)回しナデ。口)つまむ。		53-62
53016-3	土師質皿	×	15.0	-	3.0	灰白	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)板状痕		53-60
53016-4	土師質皿	×	15.9	-	3.0	浅黄橙	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)板状痕		53-61
53016-5	鉢?	瀬戸?	(16.2)	-	8.9(残)	鉄釉	ロクロ成形。別の器が穿る?底部穿。体部上半も削り欠いたか?内底面)墨書	確認(緑?)	53-111

遺構53019(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53019-1	鉢(火鉢?)	越前	(14.9)	(15.3)	11.8	筋釉	外)ロクロ目。底)脚部貼付。施釉)外面のみ		53-192

遺構53021(FKJ05-3)図109

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53021-1	掃鉢	堺・明石	38.0	19.3	15.8	-	高台削出し。片口		53-191

遺構53032(FKJ05-3)図109・110・111

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53032-1	碗	唐津	10.6	4.1	7.2	総唐津	外)十字(花)紋		53-16
53032-2	碗	唐津	11.0	4.6	6.9	総唐津	外)3ツ葉紋	大橋 I	53-17
53032-3	天目茶碗	瀬戸美濃	12.4	3.8	6.45	鉄釉(柿釉)		大窯	53-19
53032-4	盃	美濃	8.9	4.5	3.95	無地志野	碗形		53-11
53032-5	丸皿	瀬戸美濃	10.2	5.6	1.95	灰釉	削出高台。見)全輪		53-20
53032-6	筒向付	美濃	7.3	5.4	9.58	総志野	角入方形。外)縁紋。幅紋交互		53-21
53032-7	方形段皿(向付)	唐津	12.85	4.6	5.3	総唐津	ロクロ成形。口縁部曲げ方形とする。		53-13
53032-8	鉢(向付)	美濃	(17.0)	-	3.6(残)	総志野	脚部貼付		53-18
53032-9	掃鉢	越前	30.0	-	8.3(残)	-	口縁下沈線。	V	53-15
53032-10	火鉢(風炉?)	瓦質	34.0	-	13.5(残)	-			53-14
53032-11	焼塩壺	土師質	4.8	-	9.45	白橙色		顔料の付着	53-22
53032-12	土師質皿	○	10.3	-	2.4	灰白	内)回しナデ。指抜き。口)つまむ。	C系	53-28
53032-13	土師質皿	○	10.0	-	2.6	浅黄橙	内)回しナデ。指抜き。口)つまむ。	C系	53-26
53032-14	土師質皿	×	10.8	-	2.8	にぶい黄橙	内)回しナデ。外)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。	C古系	53-24
53032-15	土師質皿	○	10.8	-	2.9	灰白	内)回しナデ。外)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。		53-29
53032-16	土師質皿	○	12.5	-	2.8	淡橙	内)回しナデ。外)上半回しナデ。口)つまむ。見)圏線。		53-33
53032-17	土師質皿	○	12.8	-	2.3	灰白	内)回しナデ。見)圏線		53-27
53032-18	土師質皿	○	13.5	-	3.2	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。	朝 D系	53-30
53032-19	碗	中国(景德鎮系)		40.5	4.2(残)	染付	内型陽刻。		53-44
53032-20	碗	中国(景德鎮系)	(12)	-	4.9(残)	透明釉	内型陽刻。漆接ぎ		53-93
53032-21	碗(軟質施釉陶器)	京都		4.1	2.7(残)	緑釉、透明釉	ロクロ成形。外)透明釉。緑釉垂らし。内)緑釉。		53-91
53032-22	碗(軟質施釉陶器)	京都	-	4.35	1.2(残)	白化粧、緑釉、透明釉	ロクロ成形。外)透明釉。内)白土地緑釉。		53-7
53032-23	彌次小皿	中国(景德鎮系)	(9)	5.2	2.3	染付	漆継ぎ		53-90
53032-24	皿	中国(景德鎮系)	10.8	6.0	2.5	染付	見)菊紋。高台内款銘。断面)漆接痕		53-2
53032-25	黒茶碗	京都	12.0(復元)	-	5.5(残)	黒釉	手捏ね。胴部絞る。	染写し	53-8
53032-26	天目形盃	瀬戸美濃	7.4	3.0	3.55	鉄釉			53-1
53032-27	碗	瀬戸	13.0	5.1	6.3	灰釉	外)縁刻連弁紋。高台畳付まで施釉	電氣書写(磁器)	53-5
53032-28	碗	唐津	10.6	4.6	6.9	総唐津	外)唐草繋ぎ紋		53-4
53032-29	碗	唐津	11.0	4.4	5.3	灰釉(青唐津)	見)胎土目々		53-6
53032-30	向付	美濃	17.0(残)	8.8	5.85(残)	総志野	ロクロ成形。見)底)ビン痕。半環足3本貼付け	連房	53-92
53032-31	囊	唐津	(22)	-	8.7(残)	筋釉	叩き成形。内)同心円あて具。口)無釉		53-88
53032-32	掃鉢	越前	(23)	-	5.45(残)	-	口縁内傾		53-89
53032-33	大平鉢	越前	33.4	17.8	7.9	筋釉	内)刷毛塗り施釉。外)露胎		53-50
53032-34	掃鉢	越前	30.4	14.2	11.4	-	ロクロ成形。ナデ		53-49
53032-35	焼塩壺	土師質	-6.7	-	1.85	灰白	手捏ね		53-87
53032-36	土師質皿	○	10.4	-	2.35	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線。外)段回しナデ。	C系古	53-41
53032-37	土師質皿	○	10.4	-	2.4	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ。底)押し上げ	C系中	53-36
53032-38	土師質皿	○	11.3	-	2.8	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。外)回しナデ。	C系古	53-23
53032-39	土師質皿	○	11.8	-	3.1	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線。外)段回しナデ。	C系古	53-42
53032-40	土師質皿	○	12.7	6.1	2.7	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線。外)段回しナデ。	C系古	53-86
53032-41	土師質皿	○	11.9	-	2.65	浅黄	内)回しナデ。指抜き。口)つまむ。外)上半回しナデ	朝 D系	53-39
53032-42	土師質皿	○	12.85	-	3.0	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。外)回しナデ。	C系古	53-38
53032-43	土師質皿	○	12.4	-	3.1	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線。外)段回しナデ。	C系古	53-43
53032-44	土師質皿	×	14.0	6.2	3.45	にぶい黄橙	内)回しナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ		53-85
53032-45	掃鉢	備前	(34.4)	-	11.7(残)	-		内面磨蝕。	53-9
53032-46	壺	中国?	16.4	-	8.4(残)	灰釉	肩部)龍?陽刻貼付。胎土)灰白色緻密。白砂粒・鉄斑多量混じる		53-10
53032-47	ひだ皿	唐津	(11.9)	4.6	3.5	灰釉(青唐津)			53-48
53032-48	丸皿	瀬戸美濃	10.6	5.8	2.15	灰釉	見)釉剥ぎ。甚奇底。		53-3
53032-49	掃鉢	越前	-	-	7.1(残)	-	口縁下沈線。	X I	53-12
53032-50	土師質皿	×	8.4	4.4	2.3	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。底)押し上げ	C系(朝 D小)	53-25
53032-51	土師質皿	○	9.0	-	2.2	にぶい黄橙	内)回しナデ。指抜き。口)つまむ。	C系	53-35
53032-52	土師質皿	×	9.0	-	2.1	浅黄橙	内)回しナデ。指抜き。布目痕。口)回しナデ	C系	53-34
53032-53	土師質皿	○	9.95	-	2.5	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。外)段回しナデ	C系古	53-37
53032-54	土師質皿	○	12.55	-	3.0	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圏線、横ナデ。		53-40

第4章 中・近世の遺物

遺構53036(FKJ05-3)図111-112

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53036-1	天目茶碗	瀬戸美濃	(11)	(4)	6.55	鉄釉		連房	53-193
53036-2	天目形小坏	瀬戸美濃	6.6	3.4	3.0	鉄釉			53-117
53036-3	皿	唐津	12.05	5.15	3.2	灰釉	口)端反る。見)胎土目3ヶ		53-120
53036-4	掃鉢	越前	-	-	5.6(残)	-		X II	53-119
53036-5	掃鉢	越前	-	-	4.4(残)	-		X III	53-118
53036-6	土師質皿	○	10.85	-	2.3	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。外)段回しナデ	C系古	53-196
53036-7	土師質皿	○	11.3	-	2.7	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。外)段回しナデ	C系古	53-195
53036-8	土師質皿	○	10.6	-	2.8	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ	C系	53-194
53036-9	土師質皿	○	(11.0)	-	2.6(残)	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。外)回しナデ	C系	53-116
53036-10	土師質皿	×	11.45	-	2.3	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。外)回しナデ	C系 II	53-115
53036-11	大皿	伊万里	37.6	11.2	6.45	青磁	内)陰刻螺旋紋。高台無軸。胎土;暗灰色	大橋 II 陶器?	53-197

遺構53037(FKJ05-3)図112

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53037-1	土師質皿	×	9.5	-	2.2	淡橙	内)回しナデ指抜き。口)つまむ。	C系	53-56

遺構53041(FKJ05-3)図112

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53041-1	折縁皿	瀬戸美濃	10.4	5.6	2.2	灰釉	削出高台。内)釉剥ぎ。内)へら彫り		53-145
53041-2	掃鉢	越前	-	-	3.9(残)	-		X II	53-112
53041-3	兜鉢	美濃	26.0	7.1	7.3	黄瀬戸	見)鈎部)線刻大根紋、タンパン、高台蓋着痕。底)基筒底		53-149

遺構53042(FKJ05-3)図112-113

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53042-1	碗	伊万里	9.2	3.2	6.15	外)上絵。内)染付	外)花樹紋上絵付(緑、青、朱、紫?)。見)松竹梅		53-96
53042-2	蓋	伊万里	12.6	12.6	3.95	染付	上)松竹梅紋。つまみ貼付		53-97
53042-3	鉢	中国(遼寧系)	21.6	10.2	9.45	染付	碗形。外)寿字散らし紋。高台(疊付)砂着		53-150
53042-4	中皿	伊万里	19.2	11.4	2.8	染付	口)端部端反る。高台内)ハリ支え1点	大橋 V	53-129
53042-5	中皿	伊万里	22.6	14.4	3.0	染付	口)端部端反る。高台内)ハリ支え3点	大橋 IV	53-128
53042-6	短頸壺	伊万里	16.0	10.3	22.55	白磁	ロクロ成形。削出高台。高台内)まで施釉。口縁端部剥ぎ	大橋 IV~V	53-94
53042-7	半球碗	京・信楽	9.3	2.9	5.7	透明釉、上絵	外)菊紋上絵(緑・赤)		53-183
53042-8	筒型碗	京・信楽	8.5	4.9	6.1	透明釉、上絵	外)花紋らし上絵(青)		53-184
53042-9	火入	京都	10.4	6.5	8.05	白土下地。灰釉、上絵	ロクロ成形。木瓜形。底)基筒底、墨書「つ」。莖蒲紋上絵付(緑、青)		53-99
53042-10	土瓶蓋	信楽	8.0	つまみの後?	2.88	灰釉	ロクロ成形。つまみ貼付。	No.53-94の蓋	53-95
53042-11	土瓶	信楽	9.7	6.5	12.3	灰釉、鉄絵	外)松樹紋。注口等貼付		53-94
53042-12	水注	唐津	5.3	5.3	10.9	鉾釉	高台内施釉。内面無軸。	内部に灯明油付着	53-182
53042-13	土師質皿	○	12.3	-	1.98	淡橙	型成形。内)回しナデ。外)横ナデ。底)板状圧痕	U系	53-101
53042-14	壺	越前	5.2	7.7	12.9	鉄釉	ねじ立て成形	お南黒壺	53-98
53042-15	鉢	越前	22.5	17.1	6.7(脚含む)	鉾釉	ロクロ成形。脚部貼付		53-100
53042-16	焙烙	土師質	33.0	-	7.7	-	底)煤付着		53-200

遺構53046(FKJ05-3)図113

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53046-1	向付	美濃	14.6	11.0	4.95	辰志野	内面見込芒紋、口縁輪花、3足(半環足)、ピン痕あり		53-102

遺構53047(FKJ05-3)図113

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53047-1	碗	唐津	10.0	3.0	5.7	斑唐津	口)端反る。胎土)明褐色。	大橋 I。	53-124
53047-2	土師質皿	×	12.0	-	2.6	灰白	内)回しナデ。見)圈線。底)板状痕	朝 D系	53-123
53047-3	土師質皿	○	12.1	-	2.7	灰白	内)回しナデ。見)圈線。口)つまむ。外)上半回しナデ	朝 D系	53-122
53047-4	土師質皿	○	12.3	-	2.9	灰白	内)回しナデ。見)圈線。口)つまむ。外)上半回しナデ	朝 D系	53-121
53047-5	掃鉢	越前	(40)	-	10(残)	-	ロクロ成形。ナデ	X I	53-127

遺構53053(FKJ05-3)図113

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53053-1	小杯	伊万里	5.3	1.9	3.8	白磁	削出高台、端反り型		53-103

遺構53056(FKJ05-3)図113-114

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53056-1	碗	中国(景德鎮系)	12.2	5.2	5.65	染付	高台内飛カンナ痕。断面漆継ぎ痕		53-156
53056-2	碗	唐津	-	-	3.55(残)	灰釉(青唐津)		大橋 I	53-157
53056-3	盃	瀬戸美濃	6.4	3.6	2.85	鉄釉	基筒底		53-158
53056-4	小坏	瀬戸	10.6	3.85	2.55	-	燒締。内)圈線3条削り出す。糸切底		53-160
53056-5	端反皿	瀬戸	11.6	5.7	2.5	-	貼付高台。口)沈線2条、口縁部のみ灰釉	吉瀬戸~大壺前	53-161
53056-6	端反皿	瀬戸	12.0	-	1.7(残)	-	口)沈線2条、口縁部のみ灰釉	吉瀬戸~大壺前	53-159
53056-7	掃鉢	瀬戸美濃	-	11.6	4.5(残)	鉾釉			53-163
53056-8	大平鉢	備前(?)	(29.0)	-	4.1	-	胎土白色砂粒多く混じる。		53-162
53056-9	掃鉢	越前	30.0	-	6.85(残)	-		V	53-164
53056-10	掃鉢	越前	30.0	12.9	10.9	無軸		V	53-165
53056-11	土師質皿	×	7.65	-	2.0	浅黄橙	手捏ね	B系	53-178
53056-12	土師質皿	×	(9.0)	-	2.1	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ	C系	53-176
53056-13	土師質皿	×	(9.0)	-	1.95	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ	C系	53-177
53056-14	土師質皿	○	10.9	-	2.6	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。底)押し上げ。外)段回しナデ	C古	53-166
53056-15	土師質皿	×	10.45	-	2.4	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)段回しナデ	C古	53-175
53056-16	土師質皿	○	10.95	-	2.6	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。底)押し上げ。外)回しナデ	C古	53-172
53056-17	土師質皿	○	10.6	-	2.5	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。底)押し上げ。外)段回しナデ	C古	53-167
53056-18	土師質皿	○	11.1	-	2.3	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回しナデ	C古	53-169
53056-19	土師質皿	○	11.5	-	2.25	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回しナデ	C古	53-170
53056-20	土師質皿	○	10.8	-	2.8	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回しナデ	C古	53-171
53056-21	土師質皿	○	11.6	-	2.6	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回しナデ	C古	53-174
53056-22	土師質皿	○	10.7	-	2.6	淡橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。底)押し上げ。外)回しナデ	C古	53-168
53056-23	土師質皿	○	11.35	-	2.5	浅黄橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)段回しナデ	C古	53-173

遺構53064(FKJ05-3)図114

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53064-1	茶入蓋	美濃	4.2	1.3	0.8	無地志野	蓋裏は無軸。つまみ周開凸線。つまみ亡失		53-187
53064-2	鉢(向付)	美濃	-	-	2.9(残)	絵志野	ロクロ成形。内)連珠紋		53-186

遺構53069(FKJ05-3)図114

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53069-1	呉器手碗	伊万里	13.8	5.6	8.4	白磁	高台付近無軸。外)ロクロ目残す。	白磁呉器手碗写し	53-188

遺構53070(FKJ05-3)図114

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53070-1	火鉢	土師質	縦12.6(残)	横10.45(残)	高さ5.2(残)	浅黄橙	方形。脚亡失か。		53-83



第1節 土器・陶磁器

遺構53072(FKJ05-3)図114

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53072-1	碗	伊万里	10.5	4.7	6.1	染付	外)草花紋,高台内施釉		53-125
53072-2	大皿	伊万里	(23.4)	(9.2)	5.8	染付	内)流水紋染付		53-126
53072-3	土師質皿	×	10.0	-	2.4	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。		53-72
53072-4	土師質皿	○	12.35	-	2.6	橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)上半回しナデ	K-C系	53-71
53072-5	土師質皿	○	10.7	-	2.7	浅黄色	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線。	K系	53-69
53072-6	土師質皿	○	13.3	-	2.9	浅黄	内)2重回しナデ,口つまむ。見)圏線。外)上半回しナデ	E古系,器壁薄い。	53-73
53072-7	土師質皿	○	12.0	-	2.45	橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)上半回しナデ	K-C系	53-70

遺構53079(FKJ05-3)図114

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53079-1	碗	中国(景德鎮系)	9.6	4.4	5.95	染付	断面)漆接ぎ痕		53-80
53079-2	碗	唐津	11.2	4.5	6.3	灰釉(青唐津)			53-79
53079-3	焼塩壺	土師質	5.4	-	9.15	浅黄橙		刻印なし	53-82
53079-4	土鉢	土師質	長さ5.5	幅2.3	内径6.5	にぶい黄橙			53-81
53079-5	土師質皿	○	11.4	-	2.85	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線。	C系	53-76
53079-6	土師質皿	○	11.4	-	2.8	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。	C系	53-77
53079-7	土師質皿	○	12.0	-	2.8	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。	C系	53-75
53079-8	土師質皿	×	12.6	-	2.8	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線。	C系	53-74
53079-9	土師質皿	×	15.7	-	2.45	浅黄橙	内)2重回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)段回しナデ	C古系	53-78

遺構53097(FKJ05-3)図116

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53097-1	掃鉢	越前	28.4(残)	14.4	8.2	-	外)窯印刻線。内)掃目磨減		53-190
53097-2	土師質皿	○	10.8	-	2.4	黄橙	内)回しナデ,布目痕,口つまむ。見)圏線。外)回しナデ		53-189

遺構53101(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53101-1	角入角皿	美濃	-	-	5.15(残)	志野	ロク口成形,型打ち。内)型陽刻如意頭紋。	連房。	53-134
53101-2	碗	中国(景德鎮系)	-	(5)	2.3(残)	染付	見)縁絵。高台内)2重圏線,口)明成/化年製)銘		53-136
53101-3	天目碗	唐津	(10)	-	3.9(残)	鉄釉			53-131
53101-4	碗	唐津	-	-	4.8(残)	斑唐津	漆継ぎ痕	履し,底の跡	53-135
53101-5	土師質皿	○	9.1	-	2.05	白褐色	内)回しナデ,口つまむ。	C系	53-140
53101-6	土師質皿	○	9.6	-	2.65	灰白	内)回しナデ,口回しナデ	C系	53-141
53101-7	土師質皿	○	9.5	-	2.6	内)灰色 外)橙	内)回しナデ,口回しナデ	C系	53-139
53101-8	土師質皿	×	11.0	-	2.3	灰白,にぶい橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)上半回しナデ	C系	53-138
53101-9	土師質皿	○	11.2	-	2.4	灰白	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)上半回しナデ	C古系	53-137
53101-10	土師質皿	○	13.1	-	2.7	にぶい黄橙	内)回しナデ,口つまむ。見)圏線,横ナデ。外)上半回しナデ	C古系	53-142
53101-11	杓茶碗	唐津	-	-	3.7(残)	絵唐津	外)鉄絵線	大橋 I	53-130
53101-12	掃鉢	越前	(24)	-	3.2(残)	-	ねじ立てロク口成形,ナデ,粘土ヒモつなぎ目あり	X I	53-132
53101-13	掃鉢	越前	(29.4)	-	6.0(残)	-	口)内傾		53-133

遺構53103(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53103-1	蕎麦茶碗	朝鮮	-	5.55	2.15(残)	灰釉	高台内施釉,畳付無釉。見)目跡11個あり	2次焼成を受ける。	53-144

遺構53107(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53107-1	皿	伊万里	14.9	5.3	2.3	染付	口)鈷花。見)葡萄紋。		53-198
53107-2	鉢	越前	18.0	17.5	6.2	-	桶形。外)凹線3条。底)板状痕	サヤ鉢?	53-154
53107-3	土師質皿	○	9.1	-	2.05	灰白	内)回しナデ,口つまむ。底)板状痕	C系	53-155
53107-4	土師質皿	○	10.5	-	1.90	灰白	内)回しナデ,口つまむ。	C系	53-180
53107-5	土師質皿	○	10.1	-	2.1	灰白	内)回しナデ,口つまむ。	C系	53-179
53107-6	土師質皿	○	11.8	-	2.5	灰白	内)回しナデ,口つまむ。底)板状痕	C系	53-181

遺構53109(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53109-1	中皿	伊万里	20.2	10.6	36.5	染付	内)絵ノ目輪ハギ,コンニャク印判五弁花紋	大橋 IV	53-52
53109-2	土師質皿	○	10.45	-	1.85	淡橙	内)回しナデ,口回しナデ。	E系	53-55

遺構53139(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53139-1	碗	中国(景德鎮系)	11.5	4.8	6.0	染付	内)内陽刻。口)輪花		53-152
53139-2	輪花皿	中国	19.8	10.0	3.1	白磁	漆継ぎ。胴部ヘラ彫り	FKJ05-3-53計付6。	53-153
53139-3	小壺(茶入?)	備前(?)	(2.6)	-	1.85(残)	-			53-151

遺構53141(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53141-1	碗	美濃	11.9	4.6	7.9	絵志野	内・外)鉄絵圏線紋。高台内まで施釉。		53-46

遺構53142(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53142-1	折縁皿	瀬戸美濃	10.6	5.6	2.3	灰釉	見)袖測ぎ。内)ヘラ彫り		53-54
53142-2	段皿	唐津	11	4.3	3.5	灰釉	砂目積み		53-53

遺構53144(FKJ05-3)図115

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53144-1	瓶	中国(竜泉窯系)	10.6(残)	11.6(残)	7.4(残)	青磁	内・外)内施釉。外)陰刻唐草紋。	明代	53-59
53144-2	壺	越前	30	-	10.9(残)	-			53-47

遺構53191(FKJ05-3)図116

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
53191-1	額皿	美濃	22.0	12.5	4.5	鼠志野	板作り,型打ち成形。脚貼付。見込と底部にピン痕4ヶ。		53-148
53191-2	大鉢	唐津	(29)	-	10(残)	鉛釉	口縁外反		53-51
53191-3	土師質皿	○	11.0	-	2.7	灰白	内)回しナデ。見)圏線。口)回しナデ	C系	53-143

整地層(FKJ05-3)図116

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
せ-1	土師質皿	○	9.75	-	2.0	浅黄橙	内)回しナデ。見)圏線,横ナデ。外)回しナデ		53-113
せ-2	土師質皿	○	11.8	5.6	2.0	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ,圏線。口)つまむ。底)板状痕。		53-105
せ-3	土師質皿	○	11.1	-	2.4	淡黄橙	内)回しナデ。見)圏線,横ナデ。外)回しナデ		53-114
せ-4	土師質皿	×	16.8	-	3.65	浅黄橙	内)回しナデ。見)圏線。口)つまむ。外)回しナデ		53-146
せ-5	土師質皿	×	16.4	-	3.2	浅黄橙	内)回しナデ。見)圏線。口)つまむ。外)回しナデ		53-147

第4章 中・近世の遺物

遺構54001 (FKJ05-4) 図116

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54001-1	碗	伊万里	11.2	4.3	5.7	白磁	ロクロ成形、削出高台、胎土：微細な黒色粒子		54-42
54001-2	碗	伊万里	11.4	4.7	5.75	白磁			54-43
54001-3	盃	伊万里	6.0	2.35	2.6	白磁	罐反碗形。		54-41
54001-4	茶入	瀬戸	4.2	-	4.15(残)	白化粧・鉄釉		大海形	54-44
54001-5	皿	中国(景德鎮系)	(11.1)	7.6	1.15(残)	染付	高台砂着。高台内鉤目		54-40
54001-6	中皿	伊万里	22.1	9.2	4.15	灰白	内)山水紋。2次焼成		54-39
54001-7	土師質皿	○	10.2	-	2.4	灰白	内)回しナデ。口)回しナデ。見)横ナデ。底)板状痕	C系	54-47
54001-8	土師質皿	○	10.4	-	2.2	灰白	内)回しナデ。口)回しナデ。見)横ナデ。	C系	54-48
54001-9	土師質皿	×	9.8	-	1.9	浅黄橙	内)回しナデ指抜き。外)段回転ナデ	K系13Cに似る	54-50
54001-10	土師質皿	○	10.3	-	2.3	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。横ナデ。底)板状痕	C系	54-51
54001-11	土師質皿	○	11.3	-	2.15	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。回しナデ。見)圈線。横ナデ。底)板状痕	E系	54-49
54001-12	土師質皿	×	11.75	-	2.55	黄橙	内)回しナデ。見)圈線。横ナデ。外)段回しナデ	K系13Cに似る	54-45
54001-13	灯明受皿	×	10.0	-	註記不明	橙	内)回しナデ指抜き。外)段回転ナデ	K系13Cに似る	54-46

遺構54002 (FKJ05-4) 図117

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54002-1	壺?	中国(漳州窯系)	(6.0)	-	2.7(残)	染付			54-54
54002-2	兵器手碗	肥前	11.3	5.4	7.45	灰釉			54-52
54002-3	碗	唐津	9.55(残)	4.6	3.9(残)	灰釉	高台内まで施釉。畳付に窯道具烙着。		54-53

遺構54003 (FKJ05-4) 図117

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54003-1	碗	唐津	(11.5)	5.2	6.05	斑唐津		大橋 I	54-33
54003-2	片口鉢	唐津	18.6	13.5	13.0	灰釉	吹き成形(内面同心円あて具)。注口貼付。内外面施釉		54-37
54003-3	土師質皿	×	7.6	-	(1.9)	灰白(橙)	内)布痕。指押さえのみ。	A系	54-34
54003-4	土師質皿	×	11.4	-	2.7	灰白(橙)	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)段回しナデ	C古系	54-35
54003-5	土師質皿	○	(11.8)	-	2.4(残)	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)段回しナデ	C古系	54-36
54003-6	覆付大平鉢	唐津	27.6	-	8.0	灰釉	脚部貼付。内外面施釉。		54-38

遺構54007 (FKJ05-4) 図117

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54007-1	中皿	伊万里	21.1	8.0	4.5	染付	2次焼成。	大橋 II	54-83
54007-2	中皿	伊万里	21.4	8.2	4.5	染付	2次焼成。		54-82
54007-3	角皿	伊万里	13.2	8.3	2.7	染付	タタラ成形のち型打ち。高台内ハリ支え。		54-85
54007-4	小杯	伊万里	5.6	2.7	3.5	染付	碗形		54-86
54007-5	盃	伊万里	6.0	2.15	2.55	白磁	口)罐反		54-87
54007-6	皿	中国(景德鎮系)	-	6.8	2.3(残)	染付	見)山水紋。高台内飛カンナ。2次焼成。		54-84
54007-7	溝線皿	唐津	13.0	-	2.9	灰釉	底)回転糸切。見)砂目。胎土：微細な白色粒子。褐色		54-88
54007-8	瓶	唐津	5.1	7.6	21.95	鉄釉	粘土ヒモ積上げ。鶴首形		54-89
54007-9	土師質皿	○	10.4	-	2.1	にぶい橙	内)回転ナデ。口)回転ナデ	K系	54-90
54007-10	土師質皿	×	11.6	-	2.2	にぶい橙	内・外)回転ナデ。見)圈線	K系	54-91

遺構54012 (FKJ05-4) 図118

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54012-1	碗	唐津	(10.3)	(4.6)	(6.75)	総唐津	口サビ。外)草紋。口縁若干端反る。		54-71
54012-2	盃	美濃	6.1	2.8	2.85	無地志野	碗形。削出高台。高台内まで施釉		54-69
54012-3	水滴(鳥)	軟質施釉陶器	縦 7.15	横 3.1	厚さ 2.9	銅緑釉・褐釉・透明釉	体部赤土、羽根・白土。手握ね、首・足貼付。		54-75
54012-4	播鉢	越前	-	-	4.3(残)	-		X I	54-70
54012-5	土師質皿	○	9.7	-	2.4	浅黄橙	内)回転ナデ。口)つまむ。	C系	54-73
54012-6	土師質皿	○	9.7	-	2.6	浅黄橙	内)回転ナデ。口)つまむ。	C系	54-72
54012-7	土師質皿	×	(16.2)	-	2.7	浅黄橙	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。口)つまむ。外)段回転ナデ。	C系	54-74

遺構54021 (FKJ05-4) 図118

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54021-1	水滴	瀬戸美濃	(2.6)	2.7	3.2	鉄釉	底部を除き内面まで施釉。露胎部錆釉。注口・取手貼付。	大窓期	54-101
54021-2	碗	伊万里	8.2	(4.3)	6.5	染付	外)寿字散し紋。		54-92
54021-3	碗	中国(景德鎮系)	-	(6.4)	2.5(残)	染付		大橋 III	54-95
54021-4	天目茶碗	瀬戸・美濃	11.4	4.9	6.95	鉄釉			54-94
54021-5	碗	瀬戸・美濃	10.6	4.6	6.2	鉄釉、鉛釉散し	高台脇天目風の削り出し		54-96
54021-6	香茶碗	美濃	-	-	4.5(残)	黒織部	口縁帯		54-100
54021-7	皿	唐津	10.4	3.9	3.2	灰釉	胎土目。	大橋 I	54-102
54021-8	段皿	唐津	12.2	5.25	3.7	灰釉	胎土目。	大橋 I	54-103
54021-9	片口碗	唐津	(11.85)	5.2	7.1	灰釉	胎土目。注口貼付	大橋 I	54-104
54021-10	土師質皿	×	9.4	-	2.1	橙	内)回転ナデ。見)横ナデ。外)上半段回転ナデ。	S系	54-98
54021-11	土師質皿	○	11.3	-	2.45	にぶい橙	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。外)上半段回転ナデ。	E系	54-97
54021-12	土師質皿	○	11.8	-	2.85	橙	内)回転ナデ。見)横ナデ。外)上半段回転ナデ。	S系	54-99
54021-13	大皿	伊万里	23.6	13.3	4.5	瑠璃釉	高台内まで施釉。見)鏡ロクロ成形。削出高台。胎土：微細な黒色粒子。灰白色		54-93

遺構540212・54022 (FKJ05-4) 図118

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量 (cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
540212-1	碗	伊万里	10.1	4.05	7.05	染付	高台内施釉。畳付砂着		54-23
540212-2	土師質皿	○	9.1	-	2.25	淡黄色	内)回転ナデ。口)回転ナデ。	B系	54-20
540212-3	土師質皿	○	8.7	-	2.15	褐色	内)回転ナデ。口)回転ナデ。	B系	54-19
540212-4	土師質皿	○	(12)	-	1.85	明褐色	内)回転ナデ。外)回転ナデ。	K系	54-22
540212-5	土師質皿	○	9.5	-	2.2	褐色	内)回転ナデ。外)回転ナデ。底)板状痕	K系	54-21

第1節 土器・陶磁器

遺構54022(FKJ05-4)図118・119

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54022- 1	碗	伊万里	12.8	5.55	6.5	染付	高台内)一重圈線(大明成/化年製)銘		54-28
54022- 2	碗	伊万里	11.9	4.25	6.75	青磁	高台)無釉		54-29
54022- 3	碗	伊万里	9.4	4.2	6.8	染付	外)一重圈線		54-31
54022- 4	筒型碗	伊万里	9.6	5.0	7.45	染付			54-55
54022- 5	腰張碗	伊万里	9.0	5.25	5.9	土絵付け	外)扇紋(総て剥落)。高台内)施釉		54-30
54022- 6	小坏	伊万里	6.9	3.3	5.4	鉄釉	口)端反。高台内まで施釉。削出高台		54-25
54022- 7	端反中皿	中国	20.0	(11.7)	3.5(残)	白磁			54-106
54022- 8	小皿	伊万里	8.5	3.7	2.15	染付	見)葡萄紋。高台内まで施釉		54-24
54022- 9	小皿	伊万里	8.8	3.3	2.35	染付	見)葡萄紋。高台内)大明 銘	大橋 II	54-26
54022- 10	小皿	伊万里	8.9	3.45	2.15	染付	見)葡萄紋。高台内)大明 銘	大橋 II	54-27
54022- 11	大皿	伊万里	21.7	7.6	4.7	白磁	見)線刻菊紋。口)輪花状。胎土:ほとんど何も含まない		54-32
54022- 12	土師質皿	○	8.75	-	1.95	黄橙	内)回転ナデ。口)回転ナデ。	B系	54-114
54022- 13	土師質皿	○	9.5	-	2.05	淡黄	内)回転ナデ。見)横ナデ。口)回転ナデ。	C系	54-18
54022- 14	土師質皿	○	9.1	-	2.1	淡橙	内)回転ナデ。見)横ナデ。外)回転ナデ。底)板状痕	K系	54-16
54022- 15	土師質皿	○	10.4	-	2.45	淡橙	内)回転ナデ。見)横ナデ。口)回転ナデ。	D系	54-14
54022- 16	土師質皿	○	9.4	-	1.95	灰白	内)回転ナデ。見)横ナデ。	C系	54-115
54022- 17	土師質皿	○	9.2	-	1.95	淡橙	内)回転ナデ。口)回転ナデ。	B系	54-15
54022- 18	土師質皿	○	10.45	-	2.2	浅黄橙	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。外)回転ナデ。	C系	54-116
54022- 19	土師質皿	○	11.55	-	2.4	橙	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。	C系	54-117
54022- 20	土師質皿	○	11.0	-	2.2	淡橙	内)回転ナデ。口)回転ナデ。	C系	54-17
54022- 21	土師質皿	○	11.9	-	2.35	淡橙	内)回転ナデ。見)圈線。口)回転ナデ。	C系	54-13
54022- 22	土師質皿	○	12.2	-	2.5	淡黄褐	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。口)回転ナデ。	C系	54-11
54022- 23	土師質皿	○	12.1	-	2.6	淡黄褐	内)回転ナデ。見)圈線。横ナデ。口)回転ナデ。	C系	54-12

遺構54024(FKJ05-4)図119

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54024- 1	土師質皿	○	9.2	-	1.9	にふい橙	内)回転ナデ。見)横ナデ。口)回転ナデ。	D系	54-118

遺構54025(FKJ05-4)図119

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54025- 1	皿	伊万里	14.5	5.5	3.5	染付	高台内砂粒付着	大橋 II	54-109
54025- 2	茶碗	美濃	-	-	4.3	総志野	外)ヘラ削り		54-111
54025- 3	足付鉢(向付)	美濃	14.8	-	6.1	灰志野	外)圈線刻紋。見)目痕2ヶ。脚部貼付。		54-110
54025- 4	大平鉢	越前	30.4	16.2	6.05	見)カセ胡麻軸かかる。	備前の女仕上がり		54-105
54025- 5	大皿	伊万里	27.8	9.1	6.4	染付	見)山水紋。口)鈔形。高台内まで施釉	大橋 II	54-108
54025- 6	水指	唐津	(17.4)	17.8	内)口径 11.0 18.0	灰釉	叩き成形。内)同心円あて具痕。矢筈口。胴部耳貼付。内外施釉		54-119

遺構54026(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54026- 1	碗	瀬戸	10.8	4.6	7.15	鉄釉	口)端反	連房	54-57
54026- 2	碗	唐津	10.2	4.4	6.75	灰釉	高台内施釉。		54-79

遺構54032(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54032- 1	茶入	瀬戸	(3.6)	(4.1)	3.5	鉄釉	内)内外施釉。底)糸切		54-77

遺構54040(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54040- 1	高杯	土師	-	(14.0)	8.2(残)	にふい橙	手捏ね、ミガキ3点円孔あり。刷毛目。焼成良。胎土:微細な白色粒子多く含む		54-81
54040- 2	提鉢	越前	-	-	-	-	付高台(欠失)高台脇削り(幅3cm)。内面磨耗。	II	54-80

遺構54049(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54049- 1	黒楽碗	軟質施釉陶器	-	6.1	1.05(残)	黒釉	手捏ね成形。畳付まで施釉。		54-76

遺構54054(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54054- 1	碗	伊万里	10.5	4.75	6.8	染付	外)山水紋。畳付砂付着。		54-78
54054- 2	皿	瀬戸	13.0	6.2	2.6	灰釉			54-9
54054- 3	土師質皿	○	9.6	-	2.1	橙	内)回シナデ。	D系	54-6
54054- 4	土師質皿	○	10.8	-	1.9	橙	内)回シナデ。見)横ナデ。圈線。	E系	54-8
54054- 5	土師質皿	○	13.5	-	1.9	橙	内)回シナデ。見)横ナデ。外)段回シナデ	K系	54-7
54054- 6	土師質皿	×	9.0	-	1.95	灰白	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ	C系	54-5

遺構54091(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54091- 1	大平鉢	丹波?	36.0	24.4	5.45				54-107
54091- 2	土師質皿	○	9.0	-	2.3	浅黄橙	内)回シナデ。口)つまむ。見)圈線。	C系	54-112
54091- 3	土師質皿	○	11.6	-	2.4	浅黄橙	内)回シナデ。口)つまむ。見)圈線。	C古系	54-113
54091- 4	土師質皿	○	12.65	-	2.8	淡橙	内)回シナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回シナデ。	C古系	54-1

遺構54099(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54099- 1	土師質皿	○	9.9	-	2.05	橙	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ	C系	54-3
54099- 2	土師質皿	○	11.6	-	2.6	橙	内)回シナデ。見)圈線。横ナデ。外)回シナデ	E系	54-2
54099- 3	土師質皿	○	13.5	-	3.2	橙	内)回シナデ。見)圈線。外)回シナデ	C系	54-4

遺構54279(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54279- 1	皿	中国(漢洲窯系)	13.15	4.8	4.3	染付	見)無釉。釉かせる。		54-60
54279- 2	壺(口縁部)	信楽	-	-	5.1(残)				54-63
54279- 3	筒香炉	瀬戸美濃	-	4.4	3.0(残)	灰釉	ロク口成形。脚部貼付。胴部絞る。		54-62
54279- 4	碗	瀬戸美濃	-	5.2	2.3(残)	灰釉	貼付高台	大窯	54-61
54279- 5	丸皿	瀬戸美濃	10.3	5.9	2.25	灰釉	高台内)輪トチン痕		54-59
54279- 6	土師質皿	○	9.05	-	2.15	灰白	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ	C系	54-65
54279- 7	土師質皿	○	11.2	7	2.5	にふい橙	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ。	C古系	54-68
54279- 8	土師質皿	×	10.1	5.4	2.4	灰白	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ。	C古系	54-66
54279- 9	土師質皿	○	(10.0)	-	2.4	にふい橙	内)回シナデ。口)つまむ。外)段回シナデ	C古系	54-67
54279- 10	提鉢	越前	(31)	(13.8)	11.05	-	-	V	54-64

遺構54280(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54280- 1	皿	瀬戸美濃	-	8.3	1.6(残)	灰釉	貼付高台。高台内まで施釉。漆継ぎ痕	大窯	54-58

第4章 中・近世の遺物

包含層(FKJ05-4)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
54包-1	天目形碗	唐津	9.8	4.2	7.1	鉄釉			54-56

遺構61102(FKJ06-1)図120

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61102-1	皿	伊万里	(13.0)	4.9	3.5	染付	口)輪花。見)花紋。外)口縁下圈線。		61-43
61102-2	土師質皿	○	7.4	-	1.95	黄橙	内)回しナデ。	A系	61-41
61102-3	土師質皿	○	10.4	-	2.65	灰白	内)回しナデ。外)回しナデ	C系	61-42

遺構61105(FKJ06-1)図120-121

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61105-1	蓋物大鉢	伊万里	(16.5)	-	10.6(残)	染付	口)無釉。外)牡丹紋。高台脇)菊形		61-1
61105-2	碗	信楽	9.9	-	5.65(残)	灰釉	外)梅樹紋鉄・具須下絵付。		61-30
61105-3	碗	伊万里	12.0	-	5.0(残)	染付	外)鹿紅葉紋		61-29
61105-4	大皿	伊万里	33.4	17.8	5.8	染付	見)岩鹿紋。高台内)ハリ支え2ヶ。		61-31
61105-5	搦鉢	越前	28.2	12.0	11.15	-	上)梅樹紋	X II	61-32
61105-6	徳利	伊万里	6.2	7.5	23.1	染付	高台)筋筒底。砂付着。		61-28
61105-7	土師質皿	○	10.2	-	2.4	浅黄橙 黄緑 黄緑 黒 白 赤 緑 紫 灰 白	内)回しナデ。口)つまむ。外)回しナデ	C系	61-40

遺構61106(FKJ06-1)図122

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61106-1	碗	伊万里	10.4	4.2	6.8	染付	外)一重網紋。高台内)施釉		61-35
61106-2	鉢	軟質施釉陶器	-	7.7	6.1	透明釉、銅緑釉	ロクロ成形。形。胎土赤土		61-34
61106-3	蓋	伊万里	16.7	-	3.9(残)	染付	上)梅樹紋		61-44
61106-4	皿	肥前	23.0	6.8	3.9	透明釉	針彫り鉄絵。高台内)まで施釉。見)砂目5ツ。胎土白色		61-33
61106-6	大皿	唐津	29.0	7.7	7.9	灰釉、白土模様	砂目痕6ツ。見)白土波状紋。口)折縁。		61-36

遺構61204(FKJ06-1)図122

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61204-1	筒鉢	美濃	(7.0)	(6.0)	7.0	無地志野	削出高台。		61-38
61204-2	皿	唐津	11.7	4.4	3.0	灰釉(青唐津)	胎土目痕4ヶ。口縁鈔状		61-37
61204-3	向付	唐津	(17.0)	5.0	5.65	絵唐津	ロクロ成形。口縁方形?。見)草紋	大橋 I	61-39

遺構61セ(FKJ06-1)図122

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61セ-1	碗	伊万里	11.6	4.8	5.7	染付	外)風凰紋。見)草紋、圈線。高台内)「宣徳/年製」	大橋 III	
61セ-2	小碗	伊万里	4.6	2.1	1.7	染付	外)山水紋		
61セ-3	鉢	伊万里	14.7	5.9	7.1	染付	外)紅葉散し紋。碗形。	大橋 III、上手	61-46
61セ-4	碗	伊万里	13.4	-	5.4(残)	染付	外)飛龍紋		61-12

整地・包含層(FKJ06-1)図123-124

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
61ホ-1	皿	伊万里	(22.8)	8.6	4.2	染付	内)山水紋。高台内)まで施釉。畳付砂付着。	大橋 II	61-51
61ホ-2	大鉢	伊万里	28.6	12.8	7.65	染付	鬼鉢形。見)裏屋紋		61-47
61ホ-3	碗	中国(瀋陽窯系)	-	4.5	1.65(残)	染付	見)花紋高台内)砂付着。		61-27
61ホ-4	小壺	伊万里	4.4	2.2	3.8	白磁	ロクロ成形。削出高台。		61-18
61ホ-5	桔梗形小皿	伊万里	(7.0)	3.1	1.7	青磁	型打成形。高台砂付着。		61-17
61ホ-6	多角皿	伊万里	(13.2)	(9.5)	3.0(残)	染付	口)サビ。12角形?。見)輪違紋。		61-21
61ホ-7	多角皿	伊万里	(13.0)	(9.0)	3.2(残)	染付	口)サビ。12角形?。見)輪違紋。		61-20
61ホ-8	皿	美濃	-	10.8	1.45(残)	御深井・染付	ロクロ成形のち型打ち。見)荒磯紋?		61-50
61ホ-9	皿	美濃	-	12.2	1.9(残)	御深井釉	ロクロ成形のち型打ち。		61-49
61ホ-10	小壺	伊万里	(7.8)	(5.6)	5.55(残)	白磁	ロクロ成形。削出高台。口)無釉。内外)高台内)まで施釉		61-19
61ホ-11	香炉	伊万里	(8.9)	6.9	5.8	青磁	脚部貼付。内・外)施釉。底)無釉。口)煙返し		61-9
61ホ-12	筒香炉	伊万里	10.4	9.6	7.65	白磁	胴部押型雷紋帯。高台、内面無釉。3脚貼付。底)花押墨書。		61-10
61ホ-13	花形皿	美濃	21.0	-	2.95(残)	御深井・染付	花形。ロクロ成形のち型打ち。見)花?紋。2次焼成	61-49-50と同種	61-52
61ホ-14	水漬(西行像)	-	幅4.3	奥行4.3	10.7	鉄釉・透明釉	合わせ型成形。衣・笠・目鼻鉄塗り。		61-14
61ホ-15	菱形香炉	伊万里	長辺(7.8)	短辺(6.2)	4.8(残)	上絵付け	型成形。九谷様式。外)上絵付(赤・緑・紫)花・唐草紋。脚部貼付。底)窟割を釉薬で塞ぐ。		61-13
61ホ-16	菱形香炉蓋	伊万里	長辺(8.0)	短辺(6.0)	蓋 0.8	上絵付け	九谷様式。外)上絵付(赤・緑)花紋。	61ホ-15の蓋	61-13
61ホ-17	蓋	伊万里	8.55	3.5	1.95	染付	ロクロ成形。底)糸切痕。つまみ付。		61-7
61ホ-18	灯明具蓋	美濃	7.0	-	2.8	青磁部	半環つまみ貼付。鉄絵格子紋。		61-23
61ホ-19	色絵合子蓋	伊万里	6.35	-	2.4	透明釉。上絵付	内)線刻牡丹紋。花松葉上絵付(赤・黄・青・緑・鉄)紋		61-22
61ホ-20	水指蓋	信楽	11.4	-	2.3	-	つまみ貼付		61-24
61ホ-21	小壺?	伊万里	-	3.9	2.2(残)	瑠璃釉	内)無釉。高台内)錆釉。外)草浮紋錆釉塗り		61-5
61ホ-22	八角碗	伊万里	(9.0)	(6.0)	(8.55)	染付	ロクロ成形。八角面取。高台内)まで施釉。	大橋 II	61-11
61ホ-23	熊川形碗	伊万里?	(11.5)	4.9	8.0	透明釉	見)込・畳付)目痕。見)鏡。	李氏朝鮮?	61-3
61ホ-24	碗	中国(景德鎮系)	(11.5)	(4.9)	6.1	染付	見)大明成/化年製)染付銘。高台内)圈線染付。		61-6
61ホ-25	瓶	唐津	7.6	7.6	15.45	白土刷毛地銅緑釉・錆釉	ロクロ成形。削出高台。内・外)錆釉地。外)上半;白化粧地銅緑釉。下半;錆釉刷毛塗		61-48
61ホ-26	搦鉢	越前	(35.1)	-	3.9(残)	-	描目;横方向	X II	61-8
61ホ-27	土師質皿	○	9.05	-	2.25	浅黄橙	内)回しナデ。外)回しナデ	C系	61-15
61ホ-28	土師質皿	○	10.6	-	2.2	灰白	内)回しナデ。口)回しナデ	C系	61-2
61ホ-29	土師質皿	○	11.2	-	2.4	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。見)圈線。外)回しナデ	E系	61-16

遺構62013(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62013-1	蓋	伊万里	22.2	5.8	7.35	染付	外)蛸唐草。つまみ内)手描き五弁花紋。		62-43

遺構62031(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62031-1	土師質皿	○	10.2	-	2.4	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。		62-34
62031-2	土師質皿	○	(14.8)	-	2.9(残)	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。回しナデ。	C古系	62-33

遺構621109(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
621109-1	平鉢	唐津	(25)	(7.8)	7.6	絵唐津	口縁立てる。内)鉄釉掛ける。漆継ぎ痕		62-7

遺構621110(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
621110-1	丸皿	瀬戸美濃	10.3	5.8	2.45	灰釉	見)釉割き。高台内)輪トチン痕		62-5
621110-2	折縁皿	瀬戸美濃	(10)	-	1.6(残)	灰釉			62-3

第1節 土器・陶磁器

遺構622009(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
622009-1	皿	李氏朝鮮	(16.0)	-	1.2(残)	白磁			62-35
622009-2	縁軸皿	瀬戸	(11)	-	1.7(残)	灰釉			62-4
622009-3	羽釜	瓦質	(12)	-	4.7(残)	-	羽部貼付。		62-14
622009-4	壺	越前	-	-	7.4(残)	-	肩部「大」線刻。	II	62-12
622009-5	捏鉢	越前	-	-	5.9(残)	-	付高台。高台脇削る。		62-11
622009-6	土師質皿	×	(8.4)	(5.0)	1.2	灰黄	外)段回シナデ。	13世紀	62-37
622009-7	土師質皿	×	(11.4)	-	2.45(残)	にぶい橙	内)回シナデ。外)回シナデ。	13世紀	62-36

遺構62521(FKJ06-2)図125

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62521-1	小皿	瀬戸美濃	10.2	5.3	2.65	鉄釉・灰釉	基筒底。		62-41
62521-2	土師質皿	○	10.0	-	2.3	黄灰	内)回シナデ。見)横ナデ。口)つまむ。外)回シナデ。	C系	62-40
62521-3	土師質皿	×	(9.8)	-	1.9(残)	灰白	内)回シナデ。外)回シナデ。	13世紀	62-39

遺構62601(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62601-1	捏鉢	越前	-	14.0	5.8(残)	-	貼付高台	III	62-25

遺構62604(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62604-1	皿	中国	(11.2)	(7.0)	1.9	染付	見)菊紋		62-19
62604-2	土師質皿	×	(10.4)	-	2.05(残)	灰白	内)回シナデ。見)圈線。外)回シナデ。	C系	62-20
62604-3	土師質皿	×	10.3	-	2.05(残)	灰白	内)回シナデ。見)圈線。外)回シナデ。	C系	62-21

遺構62621(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62621-1	土師質皿	○	(8.4)	-	1.8(残)	黄橙	内)回シナデ。口)回シナデ。	C古系	62-32
62621-2	土師質皿	×	(13.0)	-	2.5(残)	浅黄橙	内)回シナデ。見)圈線。口)つまむ。外)回シナデ。	C古系	62-30
62621-3	土師質皿	○	(15.0)	-	2.8(残)	にぶい黄橙	内)回シナデ。見)圈線。横ナデ。口)つまむ。外)段回シナデ。	C古系	62-24
62621-4	土師質皿	×	(13.0)	-	2.6(残)	にぶい黄橙	内)回シナデ。見)圈線。口)つまむ。外)回シナデ。	C古系	62-31

遺構62635(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62635-1	碗	唐津	11.15	4.5	7.8	灰釉	高台内)無軸。墨書あり。		62-42
62635-2	土師質皿	○	9.0	-	2.05	浅黄橙	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ。	C系	62-23
62635-3	土師質皿	○	9.2	-	2.35	橙	内)回シナデ。口)つまむ。回シナデ。	C系	62-22

遺構62659(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62659-1	青磁鉢	中国(竜泉窯系)	-	6.8	2.8(残)	青磁	高台内)無軸		62-15
62659-2	椀皿	瀬戸美濃	(10.0)	(6.0)	2.5	鉄釉	ロクロ成形。白化粧。見)目線2点。底部輪トナシ。胎土:灰色。微細な黒色粒子含む		62-18
62659-3	搦鉢	越前	-	-	5.4(残)	-	口縁下)沈線	V	62-16
62659-4	土師質皿	×	9.6	-	2.15	橙	内)回シナデ。見)圈線。横ナデ。口)つまむ。外)回シナデ。	C古系	62-17

遺構62799(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62799-1	土鉢	土師質	長さ 5.4	幅 2.7	内径 0.9	黒褐	棒状の型に粘土巻きつける。	古代	62-29
62799-2	土鉢	土師質	長さ 5.1	幅 2.6	内径 0.7	黒褐	棒状の型に粘土巻きつける。	古代	62-26
62799-3	土鉢	土師質	長さ 4.2	幅 2.05	内径 0.7	黒褐	棒状の型に粘土巻きつける。	古代	62-28
62799-4	土鉢	土師質	長さ 4.1	幅 1.95	内径 0.55	黒褐	棒状の型に粘土巻きつける。	古代	62-27

包含層(FKJ06-2)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
62ホ-1	碗	中国	-	5.7	5.4(残)	青磁	内)片切彫紋。高台内)軸削る		62-6
62ホ-2	搦鉢	瀬戸	-	-	5.2(残)	箱釉			62-8
62ホ-3	土師質皿	○	(8.8)	-	2.0	7.5Y R8/2灰白	内)回シナデ。布痕。口)つまむ。回シナデ。	C系	62-2
62ホ-4	土師質皿	○	8.9	-	16.5	灰白	内)回シナデ。布痕。口)つまむ。回シナデ。	C系	62-1
62ホ-5	小壺	越前	(9)	-	4.0(残)	-			62-13
62ホ-6	搦鉢	越前	(35)	-	3.1(残)	-		IV	62-10
62ホ-7	搦鉢	越前	(34)	(14.4)	8.45	-	搦鉢形。口縁下)沈線	V	62-9
62ホ-8	壺	越前	(35.1)	-	9.5(残)	-			62-44

遺構63002(FKJ06-3)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63002-1	小杯	中国(景徳鎮系)	7.35	2.55	3.75	染付	外)花紋。高台)蛇の目。高台内)無軸。		63-74
63002-2	ひょう楊	土師質	5.0	2.8	1.7	-	型成形。灯芯貼付。	瀬戸陶器の写し	63-75
63002-3	拳骨碗	瀬戸	(8.5)	4.8	2.1(残)	外)鉄釉内)灰釉	外)長石散らし。蛇の目高台。豊付に刻印。		63-73

遺構63004(FKJ06-3)図126

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63004-1	碗	伊万里	11.3	-	7.35(残)	染付	外)竹林?紋。高台故意に打ち欠く	大橋IV	63-18
63004-2	碗	瀬戸	(12.5)	4.9	7.65	灰釉	高台内)施釉。		63-19

遺構63020(FKJ06-3)図126・127

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63020-1	碗	伊万里	11.8	4.7	6.55	染付	外)草花紋。見)「寿」字紋。ハマ脚痕3点。		63-46
63020-2	端反碗	瀬戸?	10.95	3.9	6.0	染付	見)ハマ脚痕。		63-45
63020-3	端反碗	瀬戸	9.2	4.2	5.45	染付	外)葵唐草紋		63-66
63020-4	蓋(碗用)	伊万里	(10.4)	5.65	2.8	染付		大橋V	63-68
63020-5	灯明皿	信楽	11.55	4.5	4.7	灰釉	内)ハマ脚痕3ヶ		63-71
63020-6	重ね鉢	伊万里	14.5	10.0	5.7	染付	削出高台。施釉部貫入。口)無軸。胎土:白色軟質		63-70
63020-7	端反碗	瀬戸	9.5	3.6	2.65	灰釉・内)白土塗り	内)白化粧。内外)透明釉。外)白土・鉄線梅紋		63-67
63020-8	筒形碗	伊万里	9.9	5.4	7.1	染付	外)樹木紋?		63-41
63020-9	壺	越前	18.0	-	10.0(残)	箱釉			63-69
63020-10	鉢B	越前	28.2	-	7.8(残)	鉄釉	内外面刷毛塗り施釉。		63-42
63020-11	鉢A	越前	31.0	-	12.2(残)	箱釉	内外面刷毛塗り施釉。		63-43
63020-12	土師質皿	×	(5.85)	-	1.3	橙	指押さえのみ	B系	63-72
63020-13	土師質皿	○	10.05	-	2.35	にぶい橙	内)回シナデ。口)つまむ。見)横ナデ。		63-65
63020-14	土師質皿	○	10.3	-	1.75	灰白	型作り。内)横ナデ。外)回シナデ。底)板状痕	U系	63-64
63020-15	土師質皿	○	10.4	-	1.6	にぶい黄橙	内型成型。口内外)回シナデ。つまむ。		63-44

第4章 中・近世の遺物

遺構63020(FKJ06-3)図126-127

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63020-1	碗	伊万里	11.8	4.7	6.55	染付	外)草花紋。見)「寿」字紋、ハマ脚痕3点。		63-46
63020-2	端反碗	瀬戸?	10.95	3.9	6.0	染付	見)ハマ脚痕。		63-45
63020-3	端反碗	瀬戸	9.2	4.2	5.45	染付	外)葵唐草紋		63-66
63020-4	蓋(碗用)	伊万里	(10.4)	5.65	2.8	染付		大橋V	63-68
63020-5	灯明皿	信楽	11.55	4.5	4.7	灰釉	内)ハマ脚痕3ヶ		63-71
63020-6	重ね鉢	伊万里	14.5	10.0	5.7	染付	削出高台、施釉部貫入。口)無釉。胎土;白色軟質		63-70
63020-7	端反碗	瀬戸	9.5	3.6	2.65	灰釉・内)白土塗り	内)白化粧。内外)透明釉。外)白土・鉄絵梅紋		63-67
63020-8	筒形碗	伊万里	9.9	5.4	7.1	染付	外)樹木紋?		63-41
63020-9	壺	越前	18.0	-	10.0(残)	鉄釉			63-69
63020-10	鉢B	越前	28.2	-	7.8(残)	鉄釉	内外面刷毛塗り施釉。		63-42
63020-11	鉢A	越前	31.0	-	12.2(残)	鉄釉	内外面刷毛塗り施釉。		63-43
63020-12	土師質皿	×	(5.85)	-	1.3	橙	指押さえのみ	B系	63-72
63020-13	土師質皿	○	10.05	-	2.35	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。		63-65
63020-14	土師質皿	○	10.3	-	1.75	灰白	型作り。内)横ナデ。外)回しナデ。底)板状痕	U系	63-64
63020-15	土師質皿	○	10.4	-	1.6	にぶい黄橙	内型成型。口内外)回しナデ、つまむ。		63-44

遺構63021(FKJ06-3)図127

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63021-1	植木鉢	-	-	-	7.7(残)	-	粘土板張り合せ。平面五角形?外)刻印「聴」		63-76

遺構63024(FKJ06-3)図127

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63024-1	半球碗	伊万里	(10)	(4)	4.7	染付・上絵付け	外)上絵付(緑・紅・黄・紫)。	大橋V	63-28
63024-2	筒碗	瀬戸系?	(7.5)	3.75	5.8	透明釉・鉄釉	高台)蛇の目。外)糸目筋(全体)。鉄釉胸締め帯1条。口サビ。		63-31
63024-3	碗	信楽系	9.0	3.5	6.45	灰釉	胎土;淡黄白色		63-47
63024-4	筒碗	瀬戸系?	(7.6)	3.4	6.15	染付	外)菊紋。胎土;灰色。陶器質に近い		63-32
63024-5	広東碗	伊万里	11.1	6.3	6.25	染付			63-30
63024-6	広東碗	伊万里	11.5	6.5	6.15	染付	外)双輪・雲束紋。		63-29
63024-7	水筒	伊万里	10	9.8	3.85	染付	长方形。上面)浮彫菊紋。		63-27
63024-8	壺	越前	(21)	(20)	28.2	鉄釉	外)ロクロ目		63-26

遺構63026(FKJ06-3)図127

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63026-1	徳利	唐津	4.6	9.8	27.85	鉄釉	糸切り底、白土横線紋		63-84

遺構63056(FKJ06-3)図127

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63056-1	天目碗	唐津	(11.7)	4.6	7.1	鉄釉	高台内)施釉。		63-22
63056-2	掃鉢	越前	-	-	7.8(残)	-		X II	63-21
63056-3	土師質皿	○	9.2	-	2.15	灰白	内)回しナデ。	C系	63-23

遺構63064(FKJ06-3)図127-128

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63064-1	平鉢	伊万里	(14.7)	(5.4)	6.5	鉄釉と瑠璃釉掛け	内外)掛分け。高台内)施釉(鉄釉)		63-20
63064-1	掃鉢	越前	32.0	11.8	14.0	-	口)片口。	X IV	63-107
63064-2	掃鉢	越前	(35.6)	-	8.0(残)	-		X II	63-106
63064-2	小碗(杯)	伊万里	5.85	2.65	5.2	染付	外)湖畔紋	大橋III, 薄手上物	63-113
63064-3	玩具碗	伊万里	3.2	1.7	1.9	染付	高台内施釉		63-78
63064-3	掃鉢	越前	-	-	7.2(残)	-	ロクロ成型(粘土ヒモ積み上げ)	X II	63-81
63064-4	小坏	伊万里	5.9	2.5	3.3	染付	碗形。外)草花紋		63-116
63064-4	土師質皿	×	7.4	-	1.5	橙	指押さえのみ	B系	63-112
63064-5	小坏	伊万里	5.4	2.65	4.15	染付	半筒碗形		63-115
63064-5	土師質皿	×	6.2	-	1.35	黄橙	指押さえのみ	B系	63-109
63064-6	碗	伊万里	(12.0)	-	4.5(残)	透明釉・上絵付	牡丹紋上絵付(赤・緑・紫)。		63-117
63064-6	土師質皿	×	6.55	-	1.6	橙	指押さえのみ	B系	63-110
63064-7	碗	中国(涼洲窯系)	-	5.05	4.3(残)	染付			63-79
63064-7	土師質皿	×	6.5	-	1.6	橙	指押さえのみ	B系	63-111
63064-8	小壺(茶入?)	瀬戸	-	3.1	3.55(残)	鉄釉	胎土;微粒子緻密。施釉外面のみ		63-77
63064-8	土師質皿	×	(10.0)	-	2.1	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。	C系	63-83
63064-9	小皿	伊万里	9.2	3.6	2.3	染付	見)團線。高台)蛇の目高台、畳付に砂塔着。	大橋II	63-114
63064-9	土師質皿	○	10.85	-	2.0	にぶい橙	内)回しナデ。見)團線、横ナデ。底)板状痕。	E系	63-108
63064-10	天目茶碗	伊万里	10.8	4.4	6.55	鉄釉	高台部露筋。	大橋III, 天目茶碗(写)	63-80
63064-11	兵器手碗	肥前	10.5	4.9	7.2	灰釉	高台)砂塔着		63-118
63064-12	掃鉢	越前	(30.0)	-	7.3(残)	-		X II	63-82

遺構63069(FKJ06-3)図128

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63069-1	掃鉢	越前	(35.8)	-	7.5	-		X II	63-48
63069-2	八角小皿	瀬戸系	9.6	6.0	2.5	染付	型成形。見)八卦紋		63-63
63069-3	土師質手付皿	○	(10.5)	手含む(12.9)	2.0	淡褐色	把手貼付。内)回しナデ。見)團線	E系	63-55
63069-4	土師質皿	○	10.9	-	2.2	淡褐色	内)回しナデ。見)團線	E系	63-53
63069-5	兵器手碗	肥前	11.1	5.4	7.7	透明釉			63-49

遺構63070(FKJ06-3)図128

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63070-1	小坏	伊万里	(7.2)	3.3	4.7	染付	口)端反。削出高台。		63-50
63070-2	小坏	伊万里	(5.1)	2.2	3.2	白磁	碗形		63-51
63070-3	瓶	伊万里	(3.7)	-	6.3(残)	染付			63-60
63070-4	土師質皿	○	9.2	-	1.95	にぶい橙	内)回しナデ。口)回しナデ。	D系	63-52

遺構63074(FKJ06-3-06-4)図128

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63074-1	土師質皿	○	(12)	-	1.8	灰白	型成形。内外)回しナデ。見)横ナデ。		63-54
63074-2	灯明皿	信楽	8.7	3.3	1.85	灰釉	ロクロ成型。見)ハマ脚痕3ヶ		63-56

遺構63084(FKJ06-3)図128

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63084-1	皿	軟質施釉陶器	(16.0)	-	2.8(残)	銅緑釉・透明釉	段皿。内)青織部写し。	63090-9と一連か	63-153

第1節 土器・陶磁器

遺構G3088(FKJ06-3)図128-129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63088-1	蓋(半球碗)	伊万里	(8)	-	2.3(残)	染付		大橋V	63-59
63088-2	半球碗(蓋物)	伊万里	(8)	(4.2)	4.25	染付	口縁部無釉。焼継ぎ痕。		63-58
63088-3	色絵小皿	瀬戸系	(10.9)	5.5	2.15	上絵付け	上絵付(赤・緑・紫)。焼継ぎ。胎土;ガラス質強		63-57
63088-4	小判形小皿	淡路(取平焼)	(9.6)	2.4	1.4	黄釉	型押し。底)窯道具痕3ヶ所。小判形、見)陰刻龍紋		63-62
63088-5	小判形小皿	淡路(取平焼)	9.6	4.0	1.45	黄釉	型押し。底)窯道具痕3ヶ所。小判形、見)陰刻龍紋		63-61

遺構G3090(FKJ06-3)図129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63090-1	端反碗	瀬戸系	10.0	4.1	5.5	染付	外)唐草紋。見)渦花紋		63-141
63090-2	皿	唐津	12.0	4.55	2.9	灰釉	胎土目ケ。	大橋I	63-148
63090-3	掃鉢	越前	27.8	(11.4)	10.1			XII	63-152
63090-4	鉢蓋	伊万里	12.6	-	2.5	染付		63090-5とセット	63-143
63090-5	蓋付鉢	伊万里	12.0	7.0	6.4	染付	削出高台。口)無釉	63090-4とセット	63-142
63090-6	皿	唐津	12.3	4.5	4.0	斑唐津	目痕ナシ。胎土;白灰色		63-147
63090-7	土師質皿	X	9.6	-	2.4	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。底)板状痕	C古系	63-150
63090-8	土師質皿	(13.0)	-	2.2	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。外)回しナデ。		C古系	63-149
63090-9	高脚皿	軟質施釉陶器	(15.0)	-	5.0(残)	透明・銅緑・黄釉(青織部)	薄緑皿形。ロクロ成形。高台)貼付[ハ]字形に開く。見)青織部、黄釉縁線	青織部+黄釉使用	63-151
63090-10	急須		7.65	6.9	5.95	内)灰釉	外)無釉指押さえ。釘彫り[文明/開花/陶師/逸三]		63-146
63090-11	徳利	備前	6.0	-	5.8(残)	-	体部箱軸塗り		63-145

遺構G3116(FKJ06-3)図129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63116-1	小杯	伊万里	4.9	2.3	2.8	白磁	碗形。高台砂塔着。	大橋III、紅皿か	63-131
63116-2	土師質皿	X	9.8	-	1.8	にぶい橙	内)回しナデ。見)横ナデ。外)回しナデ。底)板状痕	U系	63-140
63116-3	掃鉢	越前	(38)	-	11.7(残)	-		XII	63-130

遺構G3117(FKJ06-3)図129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63117-1	小坏	美濃	5.8	3.2	3.7	無地志野	削出高台。高台内まで施釉		63-129
63117-2	高碗	唐津	1.0	-	6.0(残)	鉛釉		内外に裏灰掛かる。	63-127
63117-3	土師質皿	X	(13.0)	-	1.7(残)	にぶい黄橙	内)回しナデ。外)段回しナデ。	C古系	63-128

遺構G3118(FKJ06-3)図129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63118-1	碗	伊万里	(12)	(4.6)	7.25	染付	外)牡丹紋。高台脇天目形段削り	大橋II	63-136
63118-2	土師質皿	○	10.2	-	2.15	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。外)回しナデ		63-134
63118-3	土師質皿	○	9.9	-	2.6	灰黄	内)回しナデ。見)横ナデ。外)回しナデ		63-133
63118-4	天目茶碗	瀬戸美濃	(10.5)	4.8	6.45	鉄釉・灰釉?			63-132
63118-5	徳利	備前	-	6.0	3.7(残)	鉄	底)刻印		63-137
63118-6	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.1)	-	6.05(残)	鉄釉			63-135
63118-7	小徳利	備前	-	(5.0)	6.3(残)	-			63-138

遺構G3119(FKJ06-3)図129

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63119-1	方形香炉蓋	伊万里?	最長幅 4.9	(4.0)	2.0(残)	上絵付	型成形?九曜紋透かし。上絵(赤・緑)彩で、九谷様式		63-1
63119-2	掃鉢	越前	(29)	(12.4)	10.55			XII	63-139

遺構G3123(FKJ06-3)図130

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63123-1	端反小杯	美濃	(6.6)	2.8	5.25	無地志野	高台無釉。胎土)灰白色緻密で磁器質	藍に?残る。白磁引	63-98
63123-2	徳利	備前	5.1	-	6.6(残)	-			63-2
63123-3	段皿	唐津	12.5	4.4	3.65	絵唐津	胎土目。口縁付近草紋(3箇所)。		63-99

遺構G3134(FKJ06-3)図130

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63134-1	桔梗形皿(向付?)	瀬戸	16.0	6.9	3.05	灰釉(御深井)	ロクロ成形後桔梗形に型打ち。貼付高台。見)ピン痕。		63-3

遺構G3135(FKJ06-3)図130

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63135-1	掃鉢	越前	30.0	14.1	11.75	-		XI	63-24
63135-2	段皿	唐津	13.7	5.65	3.3	絵唐津	胎土目(高台)。内)偏向草紋。見)山紋?(黒ベタ)	施しに?残る。白磁引	63-103
63135-3	皿	唐津	(11.5)	4.9	2.65	灰釉	胎土目。無地		63-102
63135-4	土師質皿	○	9.6	-	2.35	にぶい橙	内)回しナデ。口)つまむ。	C系	63-101
63135-5	土師質皿	○	10.3	-	2.6	灰白	内)回しナデ。口)つまむ。	C系	63-100

遺構G3136(FKJ06-3)図130

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63136-1	碗	伊万里	10	4.85	6.7	灰釉・鉄釉	高台内施釉。鉄釉3ヶ所垂らし掛け。	大橋II	63-6
63136-2	碗	中国(漳州窯系)	-	3.8	1.4(残)	染付	削出高台。漆継ぎ痕		63-4
63136-3	碗	唐津	10.5	4.5	8.3	長石釉	口)端反。高台内施釉。胎土;微細な黒色粒子含む、灰色(磁器に似た土)		63-5
63136-4	中段皿	唐津	-	-	-	灰釉	高台内施釉。砂目積み。		63-8
63136-5	盃	唐津	11.8	-	6.7(残)	鉄釉	胎土;灰+褐色、微細な白色粒子多く含む		63-7
63136-6	掃鉢	唐津	(27.8)	8.65	12.25	筋釉	ロクロ成形。碁筋底。口)筋釉、片口		63-25

遺構G3168(FKJ06-3)図130-131

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63168-1	小杯	中国(景德鎮系)	6.3	2.15	3.58	染付	外)花枝紋。蛇の目高台。口)鐔状になる。		63-11
63168-2	碗	伊万里	9.8	4.75	7.3	染付	高台内施釉。墨付に砂付着。	大橋II	63-9
63168-3	瓶	伊万里	胴径 9.7	5.4	7.7(残)	染付	胴部)草紋。底)碁筋底。高台内施釉。		63-104
63168-4	兵器手碗	肥前	10.3	5.2	7.7	灰釉	高台)砂塔着		63-105
63168-5	碗	瀬戸・美濃	10.7	4.9	6.75	灰釉?	ロクロ成形。削出高台。胎土;微細な黒色粒子含む、白色		63-90
63168-6	兵器手碗	肥前	11.2	5.0	7.25	灰釉	高台内まで施釉		63-10
63168-7	瓶	唐津	-	10.4	15.5(残)	鉄釉	ロクロ成形。削出高台。		63-89
63168-8	土師質皿	○	10.5	-	2.25	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。	K系	63-16
63168-9	土師質皿	○	10.7	-	1.8	にぶい橙	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。	K系	63-97
63168-10	土師質皿	○	11.5	-	2.5	灰白	内)回しナデ。口)回しナデ。見)横ナデ	D系	63-15
63168-11	土師質皿	○	9.3	-	1.95	にぶい橙	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ、横ナデ。	C系	63-87
63168-12	土師質皿	○	9.3	-	2.0	にぶい橙	内)回しナデ。口)不成形。	D系	63-12
63168-13	土師質皿	○	9.55	-	1.95	浅黄橙	内)回しナデ。見)横ナデ。	K系	63-14
63168-14	土師質皿	○	9.4	-	1.85	にぶい黄橙	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ、横ナデ。	C系	63-88
63168-15	土師質皿	○	9.8	-	1.9	灰白	内)回しナデ。見)横ナデ。口)回しナデ。	C系	63-13
63168-16	土師質皿	○	9.8	-	2.1	にぶい橙	内)回しナデ。見)横ナデ。	C系	63-17

第4章 中・近世の遺物

遺構63186(FKJ06-3)図131

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63186-1	土師質皿	×	8.4	-	1.8	にぶい黄	見)回しナデ。外)回しナデ、ナデ段	13世紀 A-小	63-120
63186-2	土師質皿	×	8.95	-	1.9	灰白	内)回しナデ。口)回しナデ。	13世紀 B-小	63-121
63186-3	土師質皿	×	13.6	-	2.56	にぶい黄橙	内)回しナデ。口)回しナデ。	波ナデ、漆継痕	63-122

遺構63195(FKJ06-3)図131

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63195-1	渡瓶	瀬戸	6.3	12.4	12.95	胎釉	底)墨書「女十三人/松□□/□□十三人		63-91

遺構63206(FKJ06-3)図131

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63206-1	天目茶碗	瀬戸美濃	11.0	-	4.8(残)	鉄軸		大窯	63-94
63206-2	丸皿	瀬戸美濃	11.0	5.8	2.6	灰軸	内外~高台内まで施軸。見)刻紋圏線		63-92
63206-3	土師質皿	○	9.3	-	1.95	灰軸	内)回しナデ。外)横ナデ。口)つまむ。	C系	63-95
63206-4	丸皿	瀬戸美濃	10.5	6.2	2.5	灰軸	内外)施軸。高台内)輪トチ痕	大窯	63-93

遺構63233(FKJ06-3)図131

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63233-1	鉢	唐津	21.8	15.0	12.2	箱軸	内)外施軸。内)同心凹叩き痕。底)貝目痕。折り込み口縁作る。		63-96

遺構63520(FKJ06-3)図131

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63520-1	皿	欧州	-	(7.8)	1.55(残)	銅版染付	胎土軟質(質)印刷銘「OAWSON...」		63-119

遺構63523(FKJ06-3)図132

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63523-1	徳利	唐津	7.05	-	15.2(残)	鉄軸	内)同心凹叩き痕		63-125
63523-2	皿(向付)	唐津	14.1	4.2	5.2	総唐津	ロクロ成形後四角形。見)千鳥紋		63-123
63523-3	皿(向付)	唐津	13.6	4.1	5.1	総唐津	ロクロ成形後六角形。見)樹紋		63-124

遺構63525(FKJ06-3)図132

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63525-1	碗	伊万里	(9.8)	4.3	7.4	染付	外)一重刺紋。高台内まで施軸		63-37
63525-2	碗	肥前	11.8	5.5	(8.0)復元	銅緑軸	内)外・高台内)銅緑軸	呉器手碗系	63-38
63525-3	土師質皿	○	11.4	-	2.2	灰白	見)横ナデ、回しナデ、圏線。外)回しナデ。	K系	63-36
63525-4	土師質皿	×	(11.0)	-	1.75(残)	橙	見)横ナデ、回しナデ、圏線。外)回しナデ。底)墨書	K系	63-40

遺構63527(FKJ06-3)図132

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63527-1	皿	伊万里	13.4	8.2	2.8	染付	見)菊散らし紋		63-33
63527-2	皿	伊万里	13.6	7.8	3.5	染付	見)コンニャク印判五弁花紋。波・矢羽根紋。		63-34
63527-3	大皿	欧州	25.1	11.6	4.2	銅版染付	内)椀間人物紋。高台内)染付印、刻印。胎土軟質。漆継痕		63-124

包含層(FKJ06-3)図132

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
63ホ-1	碗	伊万里	7.6	4.2	5.65	染付	見)手描五弁花紋。高台内)二重角渦福。漆継き痕。		63-164
63ホ-2	端反碗	瀬戸?	(9.8)	3.6	5.2	透明釉・貝須垂らし	全面白化粧。陶胎。		63-161
63ホ-2	鉢	伊万里	18.4	10.0	6.65	外)青磁・内)染付	兜鉢形。蛇の目門窓高台。		63-163
63ホ-2	仏飯器	伊万里	7.6	3.9	5.35	染付	見)コンニャク印判(五弁花)。外)コンニャク印判	大橋IV	63-39
63ホ-3	半球碗	瀬戸	(8.5)	(4.0)	5.7	染付	外)竹林紋。胎土:灰色		63-160
63ホ-4	筒碗	瀬戸系	7.25	3.45	5.9	染付	外)菊紋。見)六曜紋崩れ。胎土:灰色		63-159
63ホ-5	端反碗	信楽	8.9	2.75	4.65	灰軸	軸面貫入。		63-182
63ホ-6	銅鑼鉢	美濃	(15.4)	(9.0)	5.2(残)	黄瀬戸	見)ペン痕。底)碁筋底。輪トチン。		63-155
63ホ-7	鉢	萬古	(17.0)	10.75	2.4(残)	灰軸	高台内)江萬古印「秋不易」印刻。		63-158
63ホ-8	土師質皿	×	(9.0)	-	1.85(残)	浅黄橙	内)回しナデ。内外面に墨書。	B系	63-156
63ホ-9	土瓶		9.65	7.5	総長 17.4 10.55	鉄軸	注口等貼付。内底)ハマ脚痕3ヶ。		63-165
63ホ-10	土瓶		12.0	19.6	13.5	灰軸	注口等貼付。内外)施軸。外)白・黒土イッチン模様。		63-165

遺構64002(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64002-1	筒香炉	伊万里	10.3	7.0	8.0	染付	口縁裡返しあり。蛇ノ目凸型高台		64002-31
64002-2	碗	伊万里	11.7	4.8	6.3	染付	外)水玉紋。見)コンニャク印版五弁花紋	見)鉄鑪?付着	64002-30
64002-3	筒型碗	瀬戸系	6.6	3.25	5.2	染付	外)菊紋。見)七曜紋		64002-35
64002-4	小坏	伊万里	7.3	3.2	3.5	染付			64002-34
64002-5	大皿	中国(漳州窯)	24.6	-	4.0(残)	染付	ロクロ成形。染付。漆継痕		6402-M39
64002-6	皿	瀬戸系	9.8	5.1	2.4	染付	見)山水紋。胎土		64002-36
64002-7	燈塔	土師質	24.0	-	6.4	明橙色素母混じる			64002-33
64002-8	鉢A	越前	20.9	15.3	7.9	箱軸	ロクロ成形。底部板状痕。3脚部貼付		64002-32
64002-9	徳利		-	9.5	25.2(残)	灰軸	ロクロ成形。外)菊紋イッチン(白土)。鉄絵		64002-29
64002-10	土師質皿	○	10.3	4.2	1.9		内)回しナデ。見)圏線。横ナデ。		64002-139
64002-11	土師質皿	○	10.15	-	1.8	にぶい黄橙色	型成形。外)回転ナデ		64002-141

遺構64004(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64004-1	向付	美濃	-	9.0	3.9	青織部	ロクロ成形。削出高台。		64004-N24

遺構64006(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64006-1	角皿	伊万里	一辺12.0	5.0	3.3	白磁	ロクロ成形後型打。	大橋II	64006-M22
64006-2	土師質皿	○	10	-	2.25	淡褐色	内)外)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。	C系	64006-38
64006-3	土師質皿	○	9.8	5.1	2.4	白灰色	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。	C系	64006-M19
64006-4	土師質皿	○	9.0	-	2.0	にぶい淡褐色	内)回しナデ。見)横ナデ。口)つまむ。	C系	64006-140
64006-5	天目茶碗	瀬戸美濃	11.3	-	5.8(残)	鉄軸		大窯	64006-39
64006-6	棗	美濃	16.6	7.9	4.2	無地志野	高台内まで施軸	磁器写し	64006-40
64006-7	皿	唐津	-	3.8	1.5(残)	灰軸	砂目		64006-37
64006-8	播鉢	越前	28.5	12.8	12.0	灰軸	ねじ立てロクロ成形。つまみ	X II	64006-M17

遺構64008(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64008-1	半球碗	伊万里	10.0	3.1	4.3	染付	内)外)菊紋	大橋V	64008-41
64008-2	紅皿	伊万里	4.4	1.2	1.6	白磁	型成形		64008-45
64008-3	灯明皿	信楽	10.2	4.5	1.7	灰軸	胎土磁器質		64008-42
64008-4	灯明皿	信楽	11.6	4.3	2.15	灰軸			64008-44
64008-5	水注	瀬戸?	7.1	7.2	8.8	灰軸	内)無軸。取手・注口貼付。内面燈明油付着		64008-43



第1節 土器・陶磁器

遺構64012(FKJ06-4)図134

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64012-1	広束碗	伊万里	11.5	7.0	6.0	染付			64012-M4
64012-2	盃	瀬戸系	6.5	3.0	3.35	染付	端反碗形。		64012-M1
64012-3	盃	伊万里	6.3	3.15	4.8	染付	口縁端反。削出高台。外)紅葉紋コンニャク印判		64012-M7
64012-4	蓋	伊万里	8.0	0.65	7.6	染付	上面)桐紋コンニャク印判。断面)漆継痕		64012-M7
64012-5	蓋	瀬戸系	9.4	3.7	2.6	染付		碗用蓋	64012-M6
64012-6	仏飯器	伊万里	6.95	4.3	6.35	染付	外)一重網目紋		64012-M5
64012-7	仏飯器	瀬戸系?	6.7	3.7	6.3	染付			64012-M5
64012-8	御神酒德利	瀬戸系	2.4	3.9	9.6	染付	頸部)蜻唐草文。		64012-M16
64012-9	拳骨碗		10.5	5.7	6.9	銚釉・鉄軸散し	外)全面指唐土。漆継痕。胎土;赤褐色。緻密		64012-M2
64012-10	高麗写し茶碗	肥前?	14.3	6.8	9.1	灰釉	ロクロ成形。兜巾高台	大振りで見所のある碗	64012-M11
64012-11	小瓶	備前?	1.6	-	5.5(残)	-			64012-M11
64012-12	碗		11.6	4.0	5.25	灰釉・鉄絵	外)鉄絵襷紋。胎土;灰色。緻密	瀬戸か	64012-M3
64012-13	碗(京風)	肥前	-	4.8	2.7(残)	透明釉	高台内まで施釉		64012-M18
64012-14	鉢	肥前	20.7	7.6	7.8	刷毛目	外)横刷毛目。内)波状刷毛目。見)蛇ノ目軸割ぎ。高台端部白土塗		64012-M13
64012-15	水注	信楽	16.15	8.0	10.25	灰釉鉄絵	ロクロ成形。外)鉄絵竹枝。削出高台。漆継痕。		64012-M15
64012-16	鉢A	越前	13.5	10.1	5.65	銚釉	ロクロ成形		64012-M12
64012-17	壺	越前	8.5	10.5	10.7	灰釉	粘土ヒモ積上。耳貼付		64012-M21
64012-18	壺	越前	11.4	-	9.2(残)	自然釉			64012-M21
64012-19	播鉢	唐津	-	-	8.5(残)	鉄釉	ロクロ成形。口縁玉縁		64012-M8
64012-20	土師質皿	○	12.2	-	1.5		内)回転ナデ。見)園線。横ナデ。	E系	64012-M20
64012-21	播鉢	肥前	-	16.6	12.9(残)	鉄釉	貼付高台。内外-高台内まで施釉		64012-M20
64012-22	小碗	伊万里	8.0	-	3.9(残)	染付	外)コンニャク印判菊紋		64012(下層)-80
64012-23	天目茶碗	瀬戸美濃	11.0	-	6.3(残)	鉄釉			64012(下層)-79
64012-24	天目茶碗	瀬戸美濃	11.1	4.8	7.5	鉄釉			64012(下層)-5
64012-25	茶入	瀬戸	2.9	3.2	4.0	鉄釉	内面まで施釉。底)回転系切		64012(下層)-3
64012-26	小坏	唐津	8.6	3.8	5.2	灰釉	碗形。高台内施釉		64012(下層)-4
64012-27	皿	唐津	12.0	3.9	2.85	灰釉(青唐津)			64012(下層)-2
64012-28	溝鉢皿	唐津	12.65	5.0	3.4	灰釉	砂目痕		64012(下層)-1
64012-29	小播鉢	越前	21.45	12.2	6.3	灰釉	片口		64012(下層)-26
64012-30	短頸壺	伊万里	5.6	-	7.1(残)	染付	外)菊唐草紋。漆継痕	XIV	64012(下層)-8
64012-31	溝鉢皿	唐津	11.6	4.65	3.0	灰釉	砂目痕		64012(下層)-6
64012-32	皿	唐津	-	5.4	1.5(残)	灰釉	胎土目痕		64012(下層)-7

遺構64013(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64013-1	高脚皿	美濃	(16.8)	6.6	4.9	志野織部	見)草花?紋。目痕2ヶ。貼付高台		64013-124

遺構64019(FKJ06-4)図133

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64019-1	大皿	伊万里	22.3	13.7	3.2	染付	見)山水紋。高台内)ハリ支え痕	大橋V	64019-M14
64019-2	燈明受皿	X	10.5	取手含最大径0	2.4	乳白色	ロクロ成形	目縁。取手。支脚痕	64019-M9

遺構64027(FKJ06-4)図135

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64027-1	端反碗	瀬戸系	8.4	3.0	4.2	染付	外)林字紋。口)口紅		64027-21
64027-2	輪花小皿	伊万里	9.8	5.2	2.2	染付	ロクロ成形のち型打ち。口)サビ		64027-20
64027-3	碗	唐津	9.8	4.7	6.7	刷毛目	外)横波状刷毛。内)打ち刷毛。漆継痕		64027-24
64027-4	段皿	唐津	12.7	5.0	3.6	灰釉	胎土目痕		64027(裏)-18
64027-5	仏飯器	瀬戸?	6.2	4.3	5.25	赤絵	上絵付け。赤。緑。青		64027-22
64027-6	餌猪口	瀬戸美濃	5.3	5.6	2.9	灰釉	ロクロ成形。環形取手貼付け		64027-23
64027-7	香炉	唐津	-	6.5	3.0(残)		ロクロ成形。内・外面墨書多数		64027(裏)-12

遺構64030(FKJ06-4)図135

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64030-1	紅猪口	肥前(磁器)	5.7	1.7	2.95	染付	外)草花紋	大橋V	64030-98
64030-2	端反盃	中国(鉄徳鎮系)	5.4	-	3.0(残)	染付			64030-97
64030-3	碗	伊万里	10.85	4.3	5.0	染付	外)草紋。見)蛇ノ目軸ハギ		64030-103
64030-4	小碗	伊万里	8.8	3.35	4.0	色絵	上絵付(赤。緑)	紅猪口	64030-99
64030-5	小坏	伊万里	7.8	3.45	5.55	染付	外)草花紋。口)端反。ロクロ成形。削出高台。染付		64030-106
64030-6	鉢	伊万里	-	6.0	6.2(残)	染付	外)草管紋。内)露胎		64030-104
64030-7	京風碗	肥前陶器	10.0	5.05	6.0	灰釉	高台露胎。高台内)中村金)印銘		64030-105
64030-8	碗	唐津	9.4	4.8	6.0	刷毛目	外)波状白土横刷毛。内)打刷毛。		64030-107
64030-9	皿	伊万里	-	9.7	1.0(残)	白磁	砂目。高台内施釉	李朝白磁?	64030-96
64030-10	土師質皿	○	8.85	-	1.4	にぶい橙色	内・外)回しナデ。口)つまむ。見)横ナデ。底)板状圧痕。	K系	64030-100
64030-11	土師質皿	X	10.1	-	1.8	-(にぶい橙褐色)	型作り。内)回しナデ。見)横ナデ。底)板状圧痕。	U系	64030-102
64030-12	土師質皿	○	9.85	-	1.55	-(にぶい淡褐色)	型作り。内)回しナデ。見)横ナデ。底)板状圧痕。	U系	64030-101
64030-13	播鉢	越前	29.7	13.1	16.65	-(にぶい淡褐色)	ロクロ成形。粘土ヒモ積上げ	XIII	64030-108

遺構64033(FKJ06-4)図135

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64033-1	小坏	伊万里	11.7	3.4	4.8	白磁	口縁端反。削出高台。断面漆付着	E系	64033-14
64033-2	土師質皿	○	10.1	6.4	1.7	にぶい橙色	内)回転ナデ。見)園線。横ナデ。	E系	64033-15
64033-3	土師質皿	○	9.9	-	2.2	にぶい橙色	内)回転ナデ。	D系	64033-16

遺構64043(FKJ06-4)図135

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64043-1	蕎麦猪口	伊万里	7.1	3.7	5.4	白磁・鉄釉	口)口紅。基筒底。2次焼成		64043-89

遺構64046(FKJ06-4)図136

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64046-1	小丸碗	伊万里	8.3	2.7	4.35	染付	外)雨降紋		64046-18
64046-2	碗	伊万里	10.4	5.0	7.25	染付		大橋II	64046-M35
64046-3	碗	伊万里	9.8	3.6	6.0	染付			64046-M34
64046-4	筒型碗	伊万里	7.45	3.9	6.1	染付	見)手描き五弁花紋		64046-17
64046-5	煎じ碗	信楽	9.6	3.6	5.5	灰釉	見)ハマ跡		64046-M36
64046-6	饗皿	瀬戸美濃	13.15	13.5	4.2	灰釉・鉄絵			64046-19
64046-7	脚付大皿	伊万里	-	高台径4.8	3.3(残)	青磁	見)片切り青漆波紋。蛇ノ目高台。脚部貼付。高台内まで施釉		64046-M45

遺構64048(FKJ06-4)図136

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64048-1	小鉢	伊万里	8.4	3.4	5.0	透明釉	ロクロ成形。型打ち。削出高台		64048-90
64048-2	土師質皿	○	7.8	-	2.25	にぶい橙色	手捏ね	B系	64048-91

第4章 中・近世の遺物

遺構64050(FKJ06-4)図136

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64050-1	煎じ碗	信楽	8.0	3.6	5.2	透明釉・鉄絵	外)鉄絵白土彩梅枝紋		64050-N27
64050-2	小坏	伊万里	27.2	17.4	5.8	白磁	削出高々台。高台内まで施釉。		64050-N28
64050-3	大皿	伊万里	9.0	3.5	5.6	染付	見)牡丹紋。高台内)ハリ痕5ヶ。口)輪花形、口サビ。漆継ぎ	大橋IV	64050-N26

遺構64053(FKJ06-4)図136

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64053-1	腰張碗	伊万里	9.05	5.9	6.5	染付		大橋III	64053-131
64053-2	碗	伊万里	10.7	-	5.5(残)	色絵	外)草花紋。上絵;赤、緑、青、黒	大橋III	64053-132
64053-3	油壺	伊万里	-	3.6	3.6(残)	染付	削出高台。漆継ぎ		64053-134
64053-4	碗(京風)	肥前	10.1	5.2	6.25	鉄絵	外)山水紋。貫入あり。高台内無釉 清水 印		64053-133
64053-5	土師質皿	○	9.8	-	1.6	色	内)回転ナデ。口)つまむ。外)口縁下回転ナデ	D系	64053-130
64053-6	土師質皿	○	11.7	6.6	1.4	白褐色	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。	E系	64053-129
64053-7	搦鉢	越前	35.8	13.8	14.6	-	外)ロクロ目残す	XIV	64053-135

遺構64065(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64065-1	碗	唐津	-	3.6	3.6(残)	鉄釉			64065-119
64065-2	肩衝茶入	瀬戸	3.1	-	1.5(残)	鉄釉、胎釉散し	ロクロ成形。胴部沈線1条		64065-118
64065-3	皿	美濃	-	6.4	3.5(残)	赤磁部	ロクロ成形		64065-120
64065-4	搦鉢	越前	25.0	-	4.2(残)	-	ロクロ成形。粘土ヒモ積上げ	XII	64065-121
64065-5	土師質皿	×	9.8	-	2.2	- (にぶい褐)	内)回転ナデ。口)つまむ。	C系	64065-117
64065-6	土師質皿	×	9.8	-	2.0	- (にぶい褐)	内)回転ナデ。口)つまむ。	C系	64065-116

遺構64068(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64068-1	土師質皿	○	9.45	-	2.05	- (にぶい黄褐色)	内)回転ナデ。見)横ナデ。	D系	64068-82
64068-2	土師皿(取手付)	○	10.3(13.0)	-	1.9	- (にぶい黄褐色)	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。取手貼付け。	E系	64068-83
64068-3	土師皿(取手付)	○	11.3(14.4)	-	2.1	- (淡褐色)	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)板状圧痕。取手貼付け。	E系	64068-85
64068-4	土師質皿	×	10.95	-	1.9	- (にぶい黄褐色)	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)板状圧痕	E系	64068-81
64068-5	土師皿(取手付)	○	11.6(13.3残)	-	2.45	- (にぶい褐色)	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。底)板状圧痕。取手貼付け。	E系	64068-84

遺構64070(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64070-1	土師質皿	○	9.6	-	2.1	赤褐色	内)回転ナデ。見)横ナデ。口)つまむ。外)回転ナデ。	U系	64072-M38
64070-2	搦鉢	越前	36.9	14.8	15.8	-	外)ロクロ目	XII	64070-122

遺構64072(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64072-1	小坏	伊万里	7.4	3.3	3.7	白磁	ロクロ成形。砂付着		64072-M38
64072-2	碗	中国(漳州窯系)	12.2	-	4.1(残)	染付	見)圏線。(内外)無地		64072-49
64072-3	兵器手碗	肥前	10.2	5.1	7.0	灰釉			64072-50
64072-4	碗	肥前	-	6.1	5.8(残)	絵唐津		茶碗か	64072-48
64072-5	小坏	肥前	7.3	3.2	3.0	灰釉	糸切高台		64072-47
64072-6	小坏	美濃	-	4.2	1.5	無地志野	削出高台		64072-46
64072-7	片口鉢	伊万里	12.35	4.8	7.3	鉄釉	高台露胎	大橋II	64072-M37

遺構64082(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64082-1	皿	唐津	16.0	-	2.2(残)	灰釉			64082-113
64082-2	大皿	唐津	-	7.6	3.4(残)	斑唐津	胎土は白っぽい。		64082-114
64082-3	皿	瀬戸美濃	-	7.4	2.5(残)	無地志野			64082-110
64082-4	土師皿	×	15.0	-	2.9	- (にぶい褐色)	内)回転ナデ。見)圏線、横ナデ。口)つまむ。外)段回転ナデ。	C古系	64082-111
64082-5	碗(軟質施釉陶器)	京都	-	4.8	1.0(残)	(外)白土、透明釉、(内)黒釉	ロクロ成形、削出高台		64082-112
64082-6	段皿	唐津	12.2	4.0	3.4	灰釉	胎土目		64082-109
64082-7	搦鉢	越前	28.4	12.0	12.1	-	ロクロ成形	XI b	64082-115

遺構64087(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64087-1	天目茶碗	瀬戸	10.65	4.1	7.4	鉄釉		連房	64087-26
64087-2	皿	唐津	12.95	4.1	3.45	斑唐津	胎土;乳白色		64087-25
64087-3	中皿	唐津	24.0	8.4	5.15	絵唐津	胎土;白灰色		64087-27

遺構64090(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64091-1	皿	唐津	13.5	4.6	4.5(残)	無地唐津			64091-71

遺構64095(FKJ06-4)図137

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64095-1	蕎麦手茶碗	朝鮮	-	5.2	1.6(残)	灰釉	竹筒高台。(見)砂目7ヶ。胎土;黄灰色緻密		64095-74

遺構64098(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油 陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調 陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64098-1	碗	伊万里	11.6	4.8	6.45	染付	外・見)蕪紋。高台「ハ」字に開く		64098-M48
64098-2	香炉	伊万里	12.8	7.6	8.3	青磁釉	蛇の目高台。漆継ぎ		64098-M47
64098-3	中皿	伊万里	20.6	13.0	5.0	染付	見)鳥雲陽文。高台。	上品	64098-M46
64098-4	御神酒德利	伊万里	-	2.8	6.3(残)	染付	ロクロ成形		64098-68
64098-5	土師質皿	○	10.2	-	1.6	明褐色	型成形。板状圧痕	U系	64098-M50
64098-6	土師質皿	○	9.8	-	1.55	明褐色	型成形	U系	64098-M51
64098-7	片口碗	瀬戸	16.4	8.25	8.35	灰釉			64098-M49
64098-8	鉢②	越前	-	-	3.25(残)	錆釉	ロクロ成形		64098-M62
64098-9	鉢②	越前	-	-	5.2(残)	錆釉			64098-M65
64098-10	鉢②	越前	-	-	5.5(残)	錆釉			64098-M60
64098-11	鉢②	越前	23.6	-	6.0(残)	錆釉			64098-M58
64098-12	鉢②	越前	29.6	-	11.5(残)	錆釉	ロクロ成形。ナデ。削り、粘土玉貼付		64098-M67
64098-13	鉢②	越前	34.6	-	6.7(残)	錆釉	ロクロ成形。耳貼付		64098-M66
64098-14	鉢①	越前	21.8	-	8.5	鉄釉	ロクロ成形。脚部貼付		64098-M53
64098-15	鉢①	越前	34.8	-	11.5	錆釉	口縁玉縁。ロクロ成形		64098-M52
64098-16	鉢①	越前	28.2	-	7.5(残)	錆釉	ロクロ成形		64098-M61

第1節 土器・陶磁器

遺構64116(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64116-1	皿(向付)	唐津	11.8	4.0	4.6	総唐津	口縁部四隅曲げ		64116-60

遺構64125(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64125-1	碗	瀬戸美濃	11.1	4.6	7.5	鉄釉	回転糸切痕、削出高台		64125-137

遺構64153(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64153-1	天目形碗	瀬戸美濃	11.65	4.5	6.75	灰釉地、呉須、鉄釉	呉須・鉄釉垂らし掛け。外)ロクロ目。高台		64153-59

遺構64156(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64156-1	皿	唐津	10.2	4.0	3.05	灰釉(青唐津)	胎土目痕		64156-73

遺構64116(FKJ06-4)図138

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64161-1	水滴	伊万里	長辺10.5	短辺6.7	2.8	染付	外面方形。上面)菊紋。型打成形		64161-M43
64161-2	端反小碗	京・信楽	9.6	3.8	5.4	灰釉	貫入		64161-M41
64161-3	鉢	○	21.0	8.7	6.15	灰釉・鉄絵	削出高台。ハマ跡		64161-M42

遺構64256(FKJ06-4)図139

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64256-1	碗	唐津	10.0	5.2	4.4(残)	灰釉(青唐津)	ロクロ成形、削出高台		64256-70
64256-2	小坏	美濃	-	5.0	4.3	無地志野	筒形。碁箱底		64256-69

土居(FKJ06-4)図139

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64ドイ-1	碗	唐津	12.1	5.1	6.0	灰釉	削出高台	大橋 I	64ドイJ-77
64ドイ-2	皿	瀬戸・美濃	12.1	7.4	2.7	無地志野	底)ビン痕あり		64ドイJ-75
64ドイ-3	端反小皿	瀬戸美濃	12.6	6.6	2.5	無地志野			64ドイJ-22
64ドイ-4	土師質皿	○	7.8	2.2	2.1		内)回しナデ。口)つまむ。	C系	64ドイJ-23

外堀(FKJ06-4)図139

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64ホリ-1	端反碗	瀬戸系	9.35	4.3	4.3	染付			64ホリA4-34
64ホリ-2	碗	肥前	11.0	5.1	7.3	染付	陶胎染付		64ホリA4-35
64ホリ-3	広東碗	伊万里	11.1	6.7	6.4	染付	カラス継ぎ		64ホリA4-35
64ホリ-4	紅皿	伊万里	6.7	2.45	2.1	白磁	型成形。蛸唐草浮紋。漆継痕		64ホリA4-35
64ホリ-5	小坏	瀬戸系	6.5	2.6	3.3	染付			64ホリA4-35
64ホリ-6	仏飯器	伊万里	5.5	3.7	5.1	染付			64ホリA4-2
64ホリ-7	腰箱碗	瀬戸	9.4	4.5	5.85	灰釉・鉄釉			64ホリA4-35
64ホリ-8	碗	京・信楽系	9.35	4.0	6.75	灰釉	筒筒形。貫入		64ホリA4-35
64ホリ-9	花瓶	○	22.1	-	16.7(残)	胎釉地・薬灰釉	ロクロ成形。把手(捻り)貼付		64ホリA4-35

包含層(FKJ06-4)図139-140

図面No	器種	土師質・灯芯油陶磁器・産地	法量(cm)			土師質・胎土・色調陶磁器・釉薬・装飾	成形・調整・その他	備考	実測No
			口径	底径	高さ				
64ホ-1	碗	伊万里	11.4	16.5	7.15	染付	外)環塔紋		64G9-M33
64ホ-2	碗	伊万里	14.35	-	5.8(残)	染付	外)唐草紋。高台内まで施釉	大橋 II	64H1-61
64ホ-3	鉢	伊万里	14.35	-	5.8(残)	染付			64G9-N1
64ホ-4	碗	伊万里	10.0	4.0	5.3	染付	高台内銘「大明成化年製」		64F8-126
64ホ-5	端反盆	伊万里	6.45	3.1	4.7	染付	削出高台。		64E8-95
64ホ-6	油壺	伊万里	2.8	-	8.3(残)	染付	ロクロ成形。外)梅紋		64K-67
64ホ-7	仏飯器	伊万里	8.4	4.15	6.4	外青磁・内染付	見)型紙花紋		64F8-66
64ホ-8	仏飯器	伊万里	6.2	3.6	6.25	染付	底)墨書「小ヲ」		64T1-28
64ホ-9	仏飯器	伊万里	6.5	-	2.4(残)	赤絵			64G9-N2
64ホ-10	合子蓋	京都系	-	1.4	4.9	染付	上面竹紋。胎土白色軟質		64F9-N9
64ホ-11	仏飯器	瀬戸系?	5.85	3.6	5.5	染付	外)草紋。胎土灰色		64F9-N8
64ホ-12	御神酒徳利	瀬戸系	-	2.8	6.7(残)	染付	ロクロ成形。削出高台		64G9-N20
64ホ-13	皿	伊万里	14.2	9.1	3.3	染付	見)獅子紋。高台内)一重圈線	遺構64012と接合	64T1-M10
64ホ-14	碗	唐津	9.45	4.35	5.9	刷毛目	外)横波状刷毛。内)打ち刷毛		64F9-N12
64ホ-15	碗	唐津	-	5.2	5.1(残)	灰釉	高台)縁形。削出。高台内無釉		64T1-64
64ホ-16	碗	唐津	11.6	4.0	7.1	鉄釉			64T1-65
64ホ-17	皿	唐津	13.0	3.65	3.35	総唐津	砂目。		64G9-N15
64ホ-18	天目碗	瀬戸美濃	12.6	3.8	7.0	鉄釉	ロクロ成形。削出高台	大橋 II	64G10-N14
64ホ-19	碗	瀬戸	11.45	4.25	5.85	灰釉			64E8-94
64ホ-20	小皿	瀬戸	6.95	3.4	1.75	灰釉	口)輪花。高台内まで施釉		64F9-N11
64ホ-21	瓶?	瀬戸美濃	-	4.0	2.2	鉄釉	ロクロ成形。削出高台。高台・内面無釉		64G10-N13
64ホ-22	小坏	中国	-	2.6	4.6(残)	透明釉	高台)削出。無釉		64J3-72
64ホ-23	仏花瓶	瀬戸美濃	-	5.0	4.5(残)	鉄釉	ロクロ成形。回転糸切		64T1-92
64ホ-24	香茶碗	美濃	-	-	5.1(残)	黒織部	口縁帯。漆継ぎ		64T1-63
64ホ-25	角小皿	瀬戸	-	-	2.4	白磁	型成形		64K-M40
64ホ-26	壺	備前	14.8	-	6.6(残)	-	ロクロ成形。火ダスキ		64E8-138
64ホ-27	土人形(待坐像)	土師質	膝張5.5	膝奥3.2	4.1(残)	-	合わせ型作り。首欠。正座。袷姿。		64F9-N7
64ホ-28	端反碗	瀬戸?	9.0	3.3	4.8	透明釉。白土	外)白土横縞紋。内)白土彩。高台内)透明釉		64H1-N4
64ホ-29	小杉碗	信楽	10.2	4.35	6.6	灰釉鉄絵	外)小松紋。胎土磁器風		64F9-N6
64ホ-30	端反碗	信楽	10.4	6.3	4.0	灰釉	内・外)貫入。高台内錆釉		64F9-N10
64ホ-31	盆	信楽	6.2	2.15	3.1	灰釉	釉透明度高く、貫入。		64G9-N3
64ホ-32	盆	信楽	6.1	3.4	3.9	灰釉	ロクロ成形。削出高台	汽車土瓶用?	64K-76
64ホ-33	小播鉢	越前	(20.9)	-	4.55(残)	-	ロクロ成形	X III	64E8-93
64ホ-34	端反碗	信楽	10.0	3.35	5.65	灰釉	貫入あり		64F9-92
64ホ-35	灯明皿	信楽	8.7	3.8	2.0	灰釉	ロクロ成形		64G9-N19
64ホ-36	七輪(丸)	瓦質	14.8	12.5	14.9	-	型打成形。文様帯;菊・青海波・菊。脚3点貼付		64T-136
64ホ-37	火鉢	瓦質	-	20.5	20.8(残)	-	型成形。脚3箇所	底面釘彫銘	64T1-N16
64ホ-38	土師皿	×	10.0	-	1.5	乳白色	型成形。底)板状圧痕。「神」墨書	U系	64T1-125
64ホ-39	小播鉢	越前	17.7	5.3	8.8	-	ねじ立てロクロ成形。焼成やや不良		64F8-115
64ホ-40	双耳小壺(お歯黒)	越前	-	10.2	8.8(残)	錆釉	ねじ立てロクロ成形。		64G9-N21
64ホ-41	壺	越前	12.2	-	16.9(残)	錆釉	釉刷毛塗り		64G9-N17

第4章 中・近世の遺物

第6表 瓦観察表

軒丸瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)				文様	成形・調整・その他	実測No		
			外形	文様区径	珠文径	丸瓦部厚					
61105-10	種し	-	-	-	全長(10.8)	-	幅(10.7)	2.45	巴文	板作り、瓦当貼付。2次焼成	61-59
61ホ-37	施釉	瓦当面のみ	8.5(残)	7.0(残)	全長(2.2)	1.0	幅(9.4)	-	右巻き巴 珠文3個残	板作り、瓦当接合(接合一部外れる)。	61-71
61ホ-38	施釉	上面、瓦当面	16	-	全長(10.7)	1.0	幅(14.0)	1.9	右巻き三巴 珠文5個残	板作り、瓦当接合。	61-60
61ホ-39	全面施釉瓦	内・外面	9.1	7.0	全長(1.9)	-	幅(9)	-	三巴	棧瓦瓦当部。	61-62
61ホ-40	全面施釉瓦	内・外面	11.6	6.1	全長(8.0)	0.8	幅(10.2)	1.8	三巴 珠文16	鳥襖。	61-63
63090-1	全面施釉瓦	全面	4.35	5.7	最長(4.1)	-	幅(9.0)	-	酢漿草紋	棧瓦瓦当部。	63-144

軒平瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)							文様	成形・調整・その他	実測No
			上弦幅	下弦幅	弧深	瓦当高	文様区高	平瓦高	平瓦部			
61105-8	種し	-	(5.0)	(5.6)	-	4.7	2.9	2.7	全長(9.0)	五子葉文	板作り、瓦当貼付。2次焼成	61-57
61105-9	種し	-	-	-	-	4.4	2.8	-	23.0	もみじ(線刻進弁)	板作り、瓦当貼付。2次焼成	61-56
61105-11	施釉	瓦当裏表・上面	(9.4)	(7.9)	?	4.65	3.0	1.85	全長(7.4)	唐草文	板作り、瓦当貼付。	61-55
61105-12	種し	-	(17.2)	(13.0)	-	4.7	3.0	2.5	全長(6.6)	もみじ(線刻進弁)	板作り、瓦当貼付。	61-58
61ホ-30	施釉	外面	10.5(残)	10.0(残)	-	測定(4.5)	2.3	2.2~2.0	幅(10.0)	2軒唐草	板作りのち型形成、瓦当貼付	61-68
61ホ-31	種し	-	14.0(残)	14.0(残)	-	4.9	2.8	2.6	幅(14.0)	唐草	板作りのち型形成、瓦当貼付	61-70
61ホ-32	種し	-	10.0(残)	3.0(残)	-	4.1	2.9	-	幅(-)	五子葉文+2軒唐草	板作りのち型形成、瓦当貼付	61-66
61ホ-33	種し	-	-	14.0(残)	-	4.8	2.8	-	幅(3.4)	五子葉文+2軒唐草	板作りのち型形成、瓦当貼付	61-69
61ホ-34	施釉	瓦当面	6.5(残)	12.0(残)	-	4.5(残)	3.0(残)	(6.5)	幅(6.5)	もみじ(線刻進弁)	板作りのち型形成、瓦当貼付(一部布目あり)	61-65
61ホ-35	種し	-	11.0(残)	11.5(残)	-	4.3	2.7	2.6~2.8	幅(10.2)	2軒唐草	板作りのち型形成、瓦当貼付	61-67
63218-1	施釉	瓦当・上面	(17.0)	(11.5)	(5.0)	-	4.45	2.2	長(14.6)	もみじ(線刻進弁)	面取、ナデ、瓦当貼付	63-126

道具瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)			文様	成形・調整・その他	実測No	
			全長	幅	厚み				
61ホ-36	種し	-	(10.5)	(9.0)	1.6 最大4.5	-	桐	桐紋貼付。板部分は薄い(1.2~1.6cm)。	61-64

丸瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)						刻印	成形・調整・その他	実測No
			玉縁幅	玉縁長	丸瓦部高	丸瓦部厚	丸瓦部幅	丸瓦部長			
61105-13	種し	-	11.4	4.0	6.85	0.7~2.5	14.35	16.85(残)	無し	板作り寧な調整。凹面棒叩き痕。	61-53
61ホ-41	種し	-	12.7	4.0	7.2	2.5~2.8	14.7	19.8(残)	無し	板作りのち型打ち成形。	61-72
63064-22	種し	-	11.8(残)	4.7	7.0	2.2	12.4(残)	18.9(2) 21.5	無し	板つくり、約1cm幅の棒叩き痕、鉄線びき	63-85
63064-23	施釉	凸面	-	-	7.3	2.3	14.5	17.4(残)	無し	内)鉄線引き痕	63-86
64ホ-42	種し	-	-	4.9	5.4	2.3	-	17.4(残)	無し	コビキA	64-M23

平瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)				刻印	面取り	成形・調整・その他	実測No	
			狭端幅	広端幅	弧深	全長					
61105-14	種し	-	24.8(残)	25.5	2.6	19.4(残)	2.0	無し	-	板作り	61-54
61106-5	施釉	上面と右側面	26.1	27.6	2.1	(24.2)	2.15	無し	有	板作り	61-45
61ホ-42	種し	-	(16.3)(残)	(14.5)(残)	0.8	30.8	2.1~2.2	無し	有、狭端面と側面	板作りのち型形成、裏面に工具によるナデ痕あり(縦・斜め方向)。	61-61

棟瓦

図面No	種し瓦・施釉・全面施釉	施釉箇所	法量(cm)					刻印	成形・調整・その他	実測No
			狭端幅	広端幅	弧深	全長	厚み			
64ホ-43	施釉	上面	(15.0)	16.8	3.9	22.7	2.3	無し	ナデ幅16.8。両側面・瓦受け部(広端側)面取。	64-N18

## 第2節 木製品

約750点を資料化し、そのうち364点を掲載。箸が一番多く、全体の約3割を占める。桶・樽・曲物などの容器の蓋や底板が次に多く2割弱ほどあり、漆椀と下駄がそれに次いで多い。木簡などの文字資料も約30点出土している。他の器種としては、楊枝、匙、切匙、木槌、砧、楔、鋏、糸巻、篋、刷毛、箒、砥石台、栓、燭台、提灯、折敷、箱物、鴨居、上水道継手、櫛、人形、独楽、将棋の駒、舟形、鳥形、虫籠などがあるが、他に加工木とした不明なものも多い。遺物の時期は約4割が16世紀末～17世紀初頭であり、17世紀代と18世紀～19世紀がそれぞれ3割弱である。遺構の種類としては、ゴミ廃棄土坑がほとんどで、特に53032からは遺物の約4割を占める100点を越える多様な遺物が出土している。堀などからも出土している。以下出土量が多いものや特徴的なものについて若干ふれる。

**漆器椀**（第141図～144図） 約120点が出土し、そのうち100点を掲載した。椀の分類は、主に口径と器高の割合により行った。第141図1～第142図4は、器高に対して口径が概ね1：2以上になり、高台も高く飯椀に相当するものである。この内第141図19・22は、他のものより小型である。また、第141図22と第142図2は上塗りが内外とも赤色である。第142図4は高台近くに稜線が入る一文字腰椀である。第142図5～第143図11は、器高に対して口径が概ね1：2～1：3であり、高台は低い。汁椀に相当する。第143図12～第144図6は、器高に対して口径が概ね1：2.5以下であり、一部は蓋の可能性もあるが、高台部に文様がないものは椀とした。第144図7～13は、蓋である。第144図14・15は、高台の高さに対して、体部が低い腰高である。第144図16は器形としては豆子と称されるもので、いわゆる根来塗かと考えられる。体部ほぼ中央に、一条の削り出しによる凸帯（かつら）が巡る。上塗は、内外共赤だが、高台裏と口唇部そしてかつらの部分のみ黒に塗り残している。第144図18は高台部近くの体部に稜線が巡る、一文字腰椀Bである。第144図17と19～21は、体部がほぼ垂直に立ち上がる平椀である。20と21には、かつらがある。以下、第8表の漆器上塗り一覧について触れる。上塗りは全体からすると、外面黒内面赤が7割で、内外共黒が2割、内外共赤が若干ある。時期別に見ると、16世紀末～17世紀初頭では、外黒内赤が約6割強で総黒が4割弱、17世紀代では、外黒内赤が約8割で総黒が1割弱、18世紀～19世紀では、外黒内赤が約8割で総黒が2割と変化する。漆絵は全体の9割弱にあり、約8割が外面のみである。種類は、植物が4割弱、鶴亀などと松などの植物を組み合わせる蓬莱文が3割弱である。16世紀末～17世紀初頭の廃棄土坑530032の遺物は、松・鶴を主体とする蓬莱文でほぼ占められる。漆絵の使用色は、黄色は17世紀代が9割弱で、銀は18～19世紀が8割弱である。高台裏に漆文字・記号や刻文を記すものが30点ほどあり、漆文字には「上・一」などがあり、刻文には「十・二つ鱗・隅立井筒」などがある。これらは、すべて16世紀末～17世紀初頭のものである。

**箸**（第145図15～28） 約220点を資料化し、14点を掲載した。一端のみ細く削られる片口箸（16・26）、両箸とも削られる両口箸（15、17～20、22・23、25～27）、中央と端が同じ太さの寸胴箸（21）があり、両口箸が7割強、片口箸が2割ほど、寸胴箸が1割弱を占める。長さは、約18cm～33cmまであり、24.5cm～28.5cmで6割弱、22cm～24.5cmで3割弱、29cm以上で2割弱を占める。1点だが、漆塗箸があり、黒漆で上部のみが赤漆となり、赤漆で同心円文を描く。同様のものが、福井城跡の地下駐車場地点と5号線地点でも出土している。

**楊枝**（第145図5～14） 11は、頭部を斜めに切り、先端を尖らせる板状のもので、平楊枝。5・6は、先端が一端または両端から斜めに切られるもの。7～10・12～14は、先端が全周から削られ尖るもの。

**切匙**（第146図1～16） 播鉢の播目に詰まったものをとるための道具と言われるが、先端が長くナイフ様のもの（1～4・10～15）から、短く三角形に近いもの（5～9・16）まで多種のものがあり、用途も多様であったと考えられる。

**鍬**（第147図2・3） 着柄角度は、2が75°であり、3が70°である。

**鴨居**（第147図9・10） 鴨居を再利用したもの。溝の幅は約2cmで、深さは約1.5cmである。

**容器類**（第147図11～20・第148図1～第149図3） 約130点が出土している。ここで扱う容器とは、曲物・桶・樽・杓などであり、直径は約6～53cmまである。10cm以下は約3割、15cm以下で6割弱、21cm以下で7割を占める。22～34cmは2割ほど、40cm前後と50cm前後は5分ほどを占める。柄杓と分かるものは、6.5～11.5cmまであり、曲物と分かるものは7.5cmと22cmにある。第148図6・7には取手が付き、落とし蓋などになる。23は底部に3足が付きお茶などに使用する水差である。

**折敷**（第147図23～28） 長さにより3種類に分けられ、1尺（23・24）、約7寸（25）、約3.5寸（28）となる。26は外黒内赤に漆塗りされる蝶足膳で、最も格式の高い膳と言われる。27は、黒漆塗り。

**取手・脚**（第149図4～6・10） 4は、鍋などの蓋の取手。5は、足打折敷の脚。

**継手**（第149図13～16） 竹製の上水道管である竹樋の継手である。継手の役割として、単に延長する、方向を変える、太さを変えるなどがあるが、13・15・16は単なる延長のため、14には板材が付属しており、本来は太さと方向を変えるためだったが、板材により穴の大きさを調整し単に延長するためのものとしている。断面形は、16が方形で、14・15が三角形、13は方形の角を面取し六角形となる。用材としては、16が芯持材で、その他は角材もしくは分割材である。穴は13のみが方形で角を取るが、他は円形である。径は、12.5cm・7.5cm前後・4.5cm前後がある。13・14には焼印がある。

**将棋駒**（第150図4・5） 4は赤漆描きである。5は墨書で「歩兵」である。

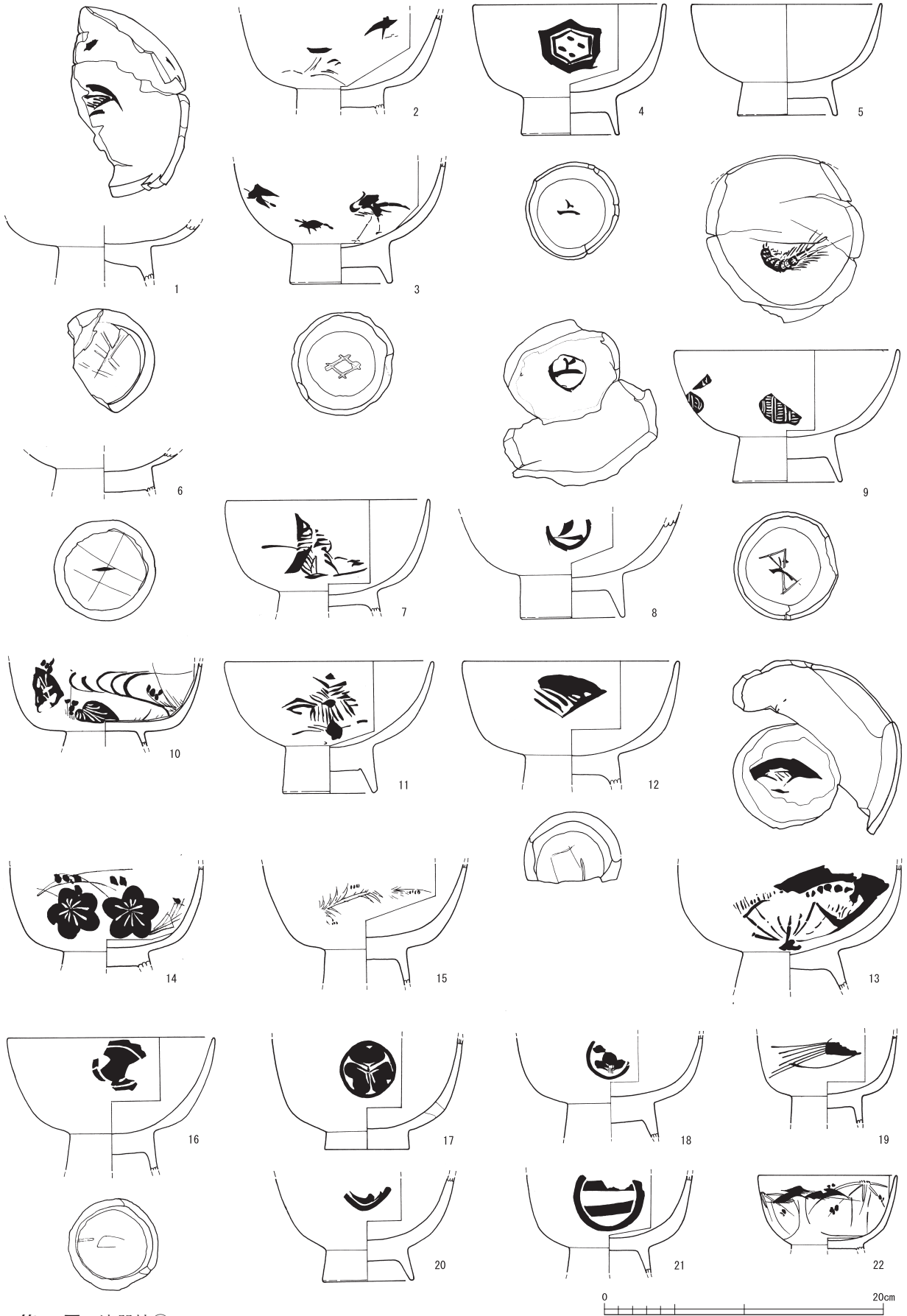
**独楽**（第150図6～8） 6は、上面が平坦で、中央部が播鉢状に窪んでおり、軸を刺したと考えられる穴があり、丸みを帯びた砲弾形をしている。7・8は鉄芯を持ち、上面中央部が盛り上がっている。

**加工木**（第150図11・14） 11は、板状のものに、格子目状に掘り込みを入れるものである。14は、長さ12cmほどの材の側面に、径0.2cmほどの穴を30個、0.4cmほどの間隔で開けているもので、この穴に竹ひごなどを立て刺した、虫籠の枠木ではないかと考えられる。

**櫛**（第150図18～29） 歯の間隔が粗い解櫛（18～23）と毛筋立（26）、間隔が密である梳櫛（24・25・27～29）がある。時期的に見ると20・21・25の16世紀末～17世紀初頭より、18・28の18～19世紀の方が、大型化していると考えられる。27は、棟に金で鳥などの高蒔絵を施す。

**下駄**（第151図～155図） 約100点が出土し、83点を掲載。時期別では、16世紀代が1点、16世紀末～17世紀初頭が31点、17世紀代が20点、18～19世紀が31点となる。器種は一木、差歯、無歯、付歯に大きく分かれ、さらに一木は連歯下駄と刳り下駄に、差歯は露卯下駄と陰卯下駄に分かれる（第11表参照）。器種毎の時期別傾向をみると、連歯下駄は、16世紀代が1点、16世紀末～17世紀が3割、17世紀代が5割、18～19世紀が3割と各時代一定量を占めている。陰卯下駄は、すべて18～19世紀。無歯下駄は、16世紀末～17世紀初頭に8割弱であとの時期は若干。露卯下駄は、17世紀以前で8割、18世紀以降は2割を占める。刳り下駄は16世紀末～17世紀初頭に若干あるが、18世紀～19世紀で8割弱を占める。連歯下駄の第152図1・4・7では、歯の先端から台にかけての側面観が直角をなさず、曲線的となる。これらの時期はすべて、18世紀後半～19世紀である。また、第152図5では、台の裏中央部が突出し、断面三角形となっている。無歯下駄は、草履下駄や雪下駄などとも呼ばれるものであり、横緒穴と歯がない

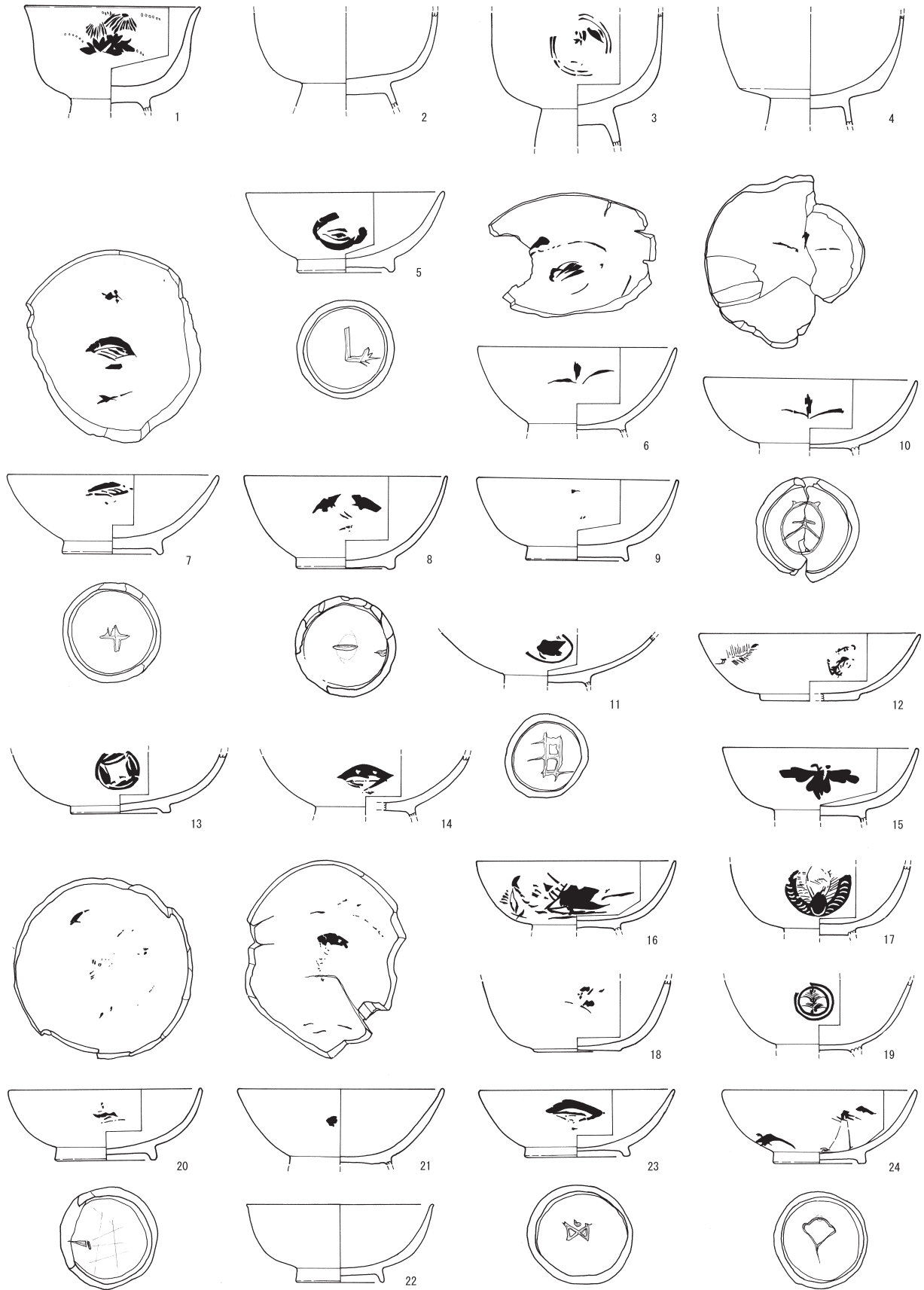




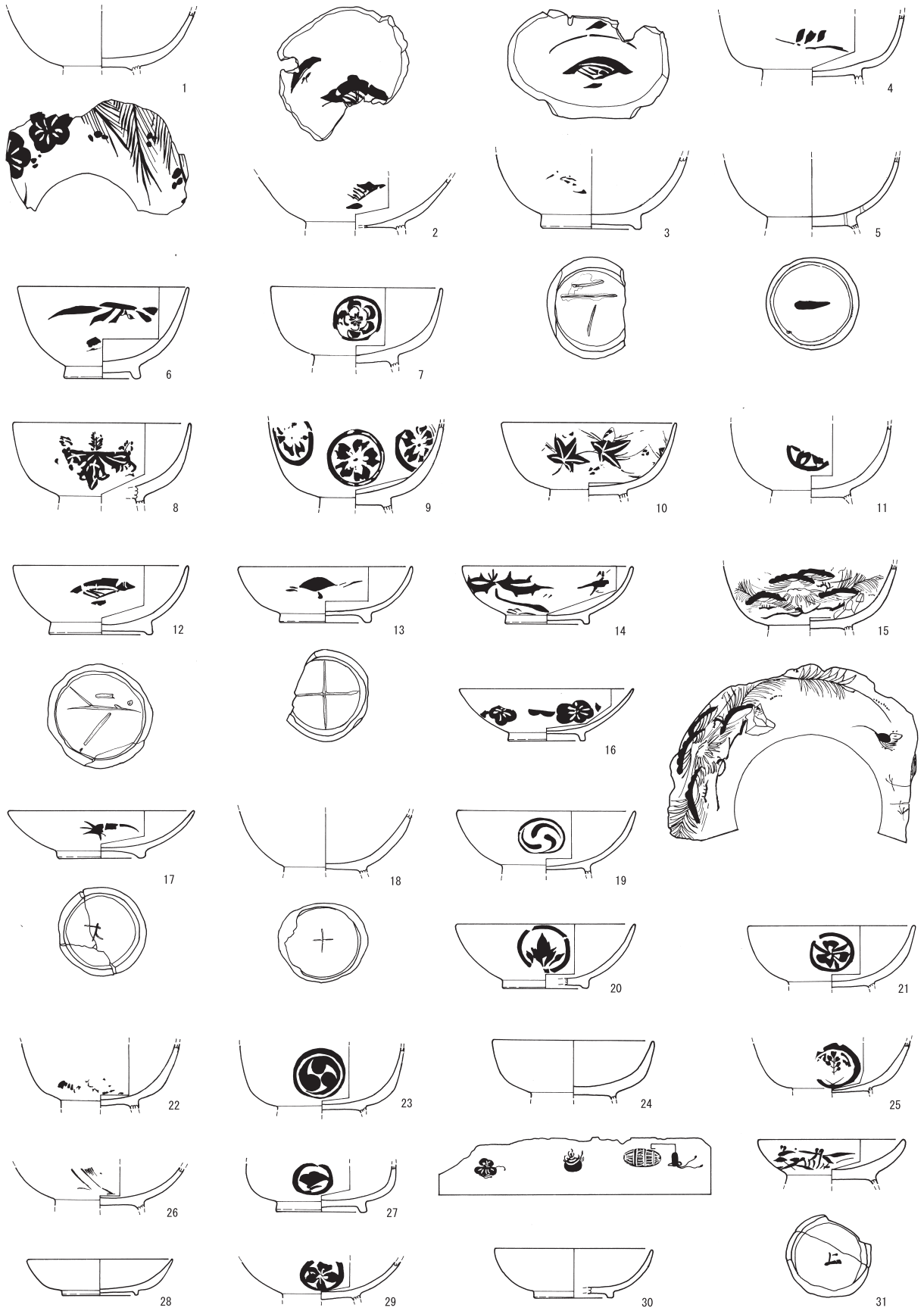
第141図 漆器碗①



第2節 木製品



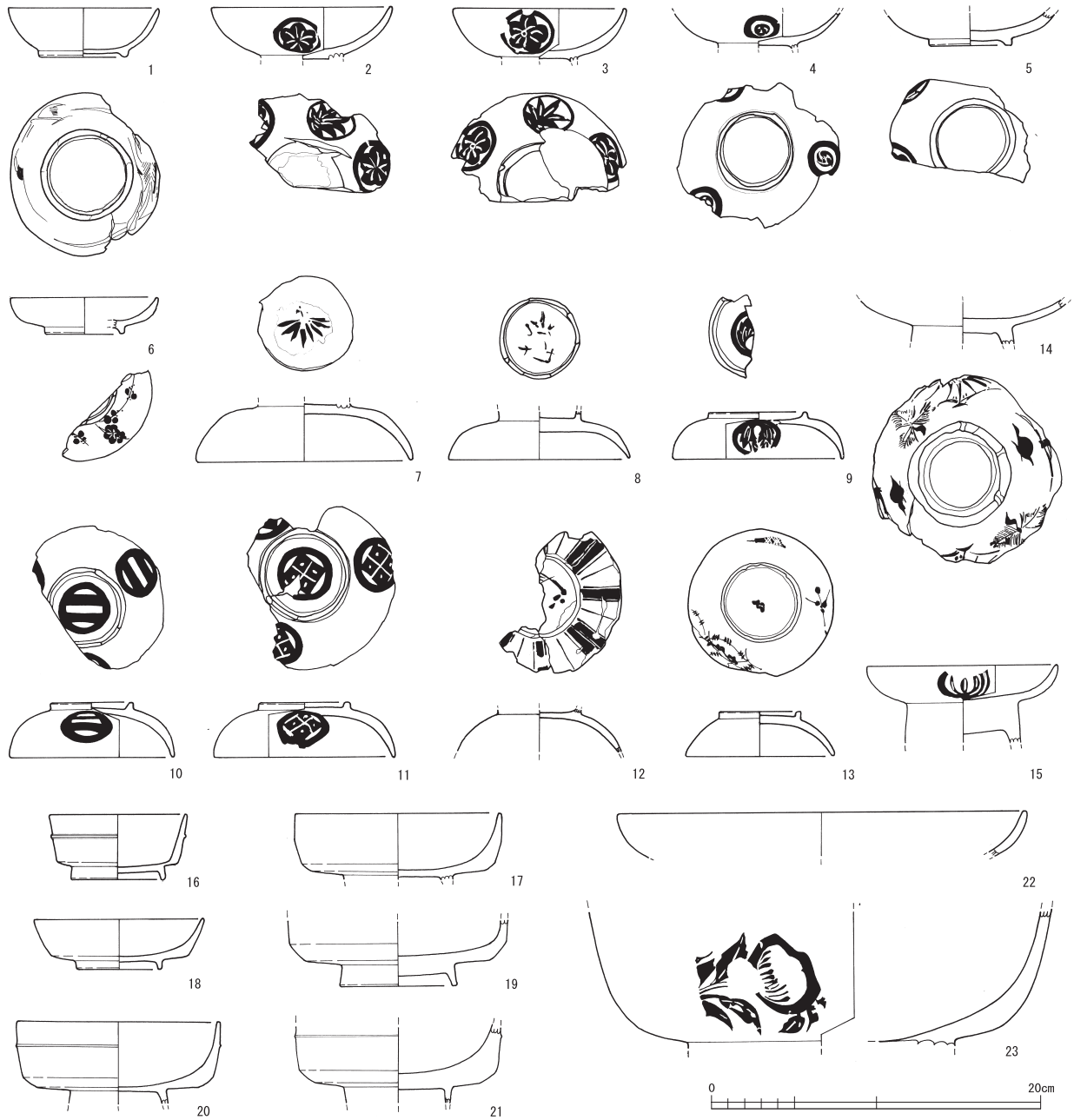
第142図 漆器碗②



第143図 漆器碗③

0 20cm

第2節 木製品



第144図 漆器碗④

第8表 漆器碗上塗り一覧表

種類	上塗り					漆絵			漆絵						
	漆器	赤、黒	黒、黒	赤、赤	赤、茶	あり	なし	不明	外面のみ	内外とも	内面のみ	丸紋(○)	丸紋(◎)	全面	
点数	100	70	24	5	1	84	13	3	69	13	0	22	4	25	
割合(%)	-	70	24	5	1	84	13	3	漆絵有りのみ	82	16	0	26	5	30

漆絵使用色	黄		銀	
	時期	16世紀末~17世紀初	7	11
	17世紀	11	3	
	18世紀~19世紀	3	3	
	19世紀	-	6	
計		21	12	

漆絵種類	蓬菜文	植物	器物	文様・図象	動物	文字	?
点数	23	31	11	8	5	1	5
割合(%)	27	37	13	10	6	1	6

漆絵 植物	31点					
種類	不明	梅	梅・楓	片喰	桜	桐
点数	14	4	3	2	1	1
種類	橘	楓	沢瀉	桔梗	瓜	茗荷
点数	1	1	1	1	1	1

漆絵 蓬菜文	23点						
漆絵種類	植物	植物・鶴・亀	植物・鶴	扇・鶴	鶴・亀	海老・俵	袋・宝珠・俵・籠
点数	8	4	4	3	2	1	1

高台裏	12点						
漆描種類	上	一	二つ引き	隔立て四つ目	茗荷?	植物	植物?
点数	3	2	1	1	1	1	2

高台裏	19点			
刻文種類	十	千	二つ鱗	隔立て井筒
点数	3	2	2	1
刻文種類	大	一	L	不明
点数	1	1	1	8

漆絵 文様・図象	8点			
種類	巴	引両	亀甲	目結
点数	4	2	1	1

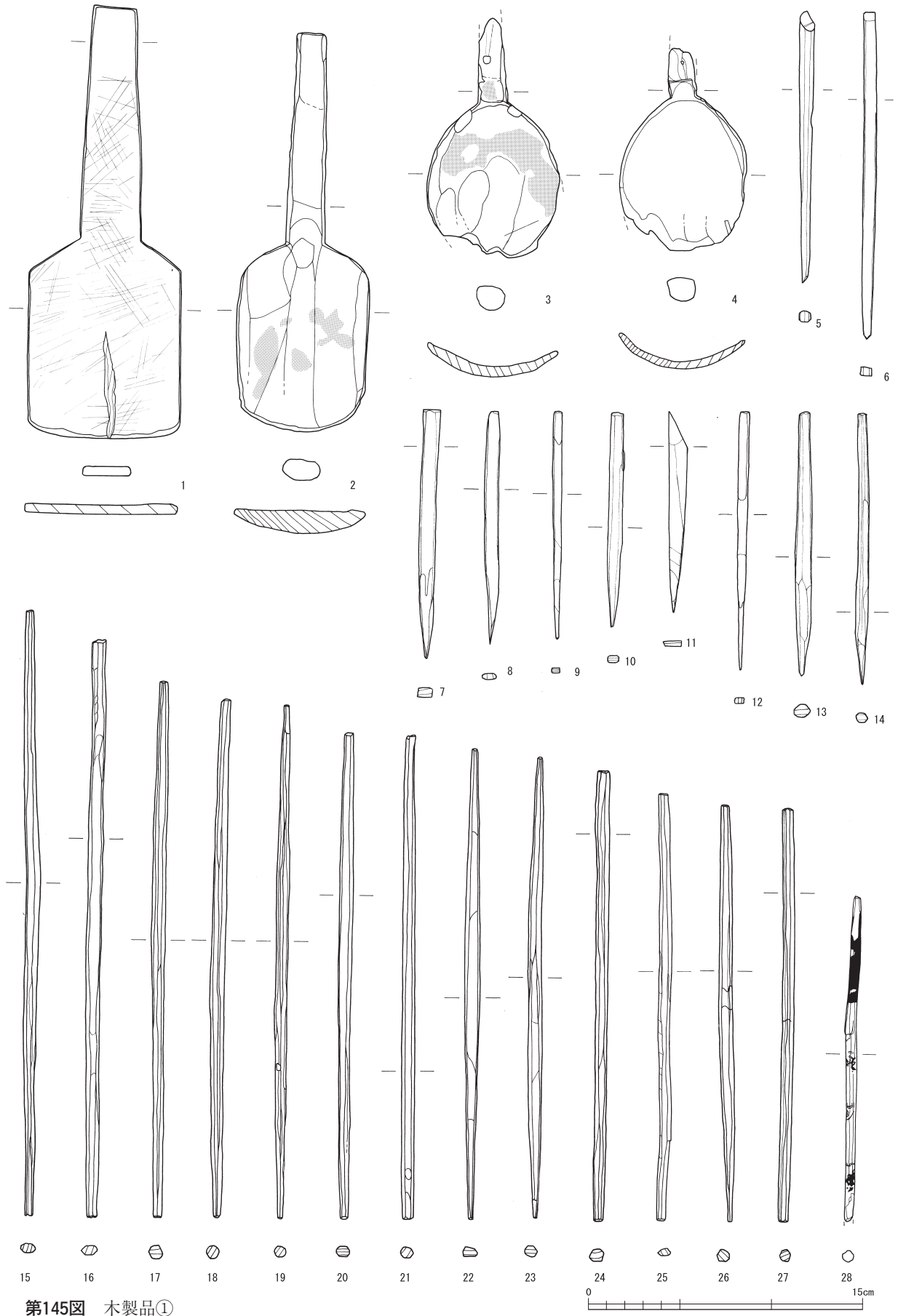
漆絵 文字	1点	漆絵 動物	5点		漆絵 器物	11点	
種類	上	種類	鶴	?	種類	扇	分銅
点数	1	点数	4	1	点数	10	1

第4章 中・近世の遺物

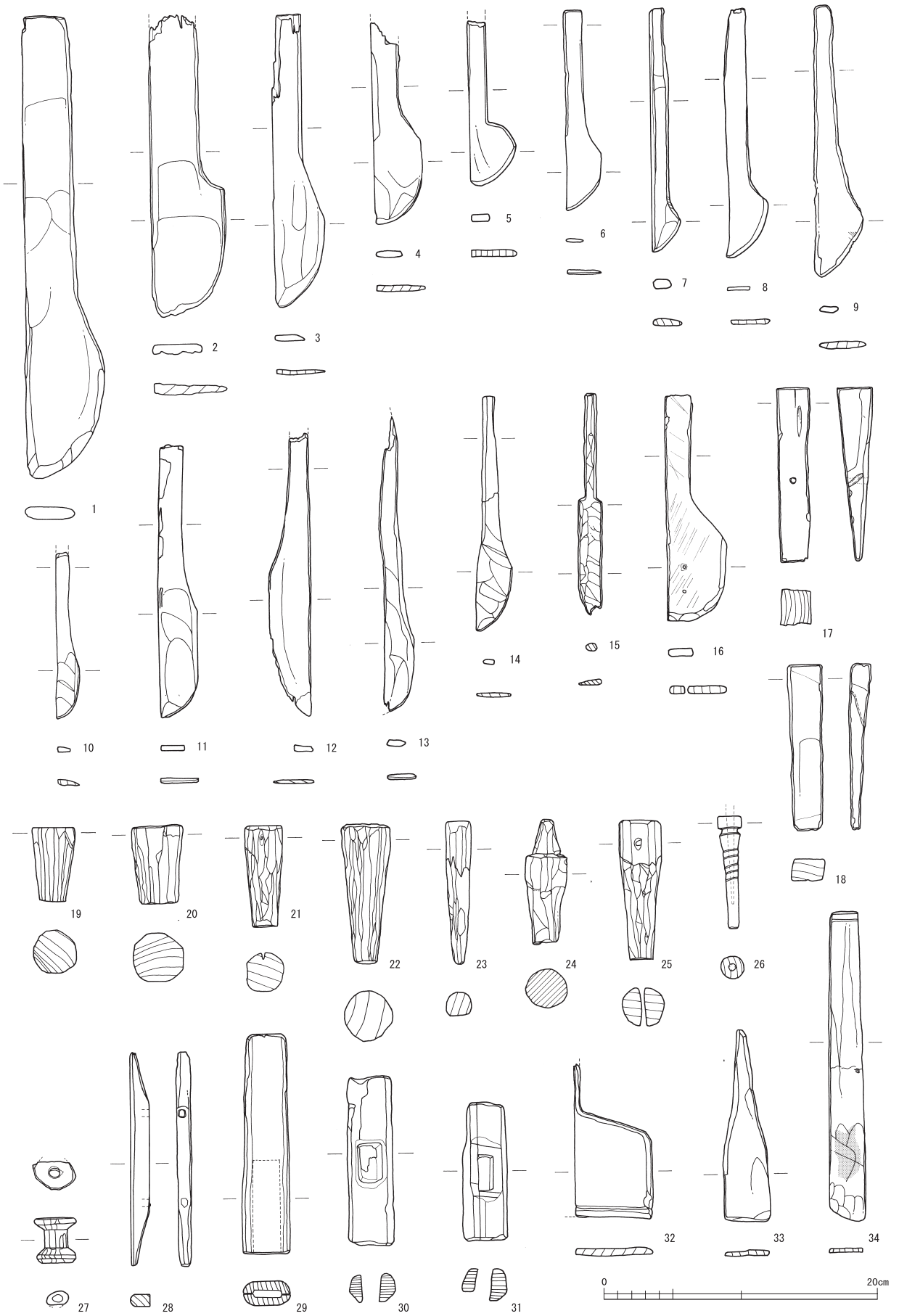
第9表 漆器碗観察表

挿図 番号	図版 番号	遺構番号	時期	器種	上		絵				高台裏		法量(cm)				備考		
					内面	外面	位置	色	種類	圏線	刻文	色	文字・記号	口径	器高	高台径		高台高	
																			内・中1? 外?
141-1	—	53032	16c末~17c初	飯碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・編扇扇 外?	有			(13.6)	(4.0)	(7.0)	(2.5)		
141-2	—	53032	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物・鶴)				(14.4)	(6.9)	(6.3)	(1.5)		
141-3	18	53032	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	鶴・亀				(15.2)	(8.7)	7.4	2.9		
141-4	18	53101	17c初~前	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	亀甲			赤	[上]	13.9	9.4	7.0	2.7	
141-5	18	53036	17c後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	?				13.7	8.1	7.2	2.5		
141-6	18	53032	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	?	有		赤	[一]	(10.6)	(2.8)	(7.2)	(1.9)	
141-7	—	53032	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物)				14.6	(8.1)	(7.4)	(1.5)		
141-8	—	53032-53101	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物・鶴)	○			(15.6)	(7.5)	7.5	3.2		
141-9	18	05-3包	16c末~17c初	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	内・海老 外・俵	二つ鱗	赤	[上]	16.2	9.5	7.8	3.3		
141-10	18	53101	17c初~前	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	植物				(13.9)	(6.0)	(6.0)	(1.1)		
141-11	18	63521	17c初~後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物)				15.0	9.5	6.8	3.4		
141-12	18	54040	16c末~17c初	飯碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	?	編扇扇	有			15.6	(8.9)	(7.0)	(2.1)		
141-13	—	54040	16c末~17c初	飯碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	編扇扇				(16.0)	(9.0)	(8.0)	(2.7)		
141-14	18	63120	17c中~後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	梅				(13.9)	(7.2)	(6.3)	(1.1)	体部穴2、高台削平	
141-15	18	63521	17c初~後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	蓬菜文(鶴・亀)				(14.6)	(8.5)	(6.2)	(2.5)		
141-16	—	06-1包	17c	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	分銅?	○	?		15.0	(9.6)	(6.6)	(2.7)		
141-17	18	63521	17c初~後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	黄	片喰	○			(13.6)	(8.0)	(6.1)	(0.8)	体部穴2、高台削平	
141-18	18	63073	17c中~後	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	橘	○			(13.4)	(7.3)	(6.8)	(2.5)		
141-19	18	64堀ゴミ層	18c後~19c中	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	植物?				(10.0)	(6.4)	(5.1)	(1.9)		
141-20	—	06-1包	17c	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀	右三つ巴	○			(12.8)	(7.4)	6.5	2.3		
141-21	18	62008	19c	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀	二つ引き	○			(11.8)	(7.0)	(6.0)	(1.8)		
141-22	19	63521	17c初~後	飯碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	黒	蓬菜文(松・笹・鶴・亀)				10.0	(5.3)	(5.2)	(0.4)		
142-1	18	06-1包	17c	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀、黄	植物				12.4	(7.5)	(5.6)	(0.9)	端反	
142-2	18	53032	16c末~17c初	飯碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?						(12.8)	(6.5)	(7.2)	(1.9)		
142-3	—	06-1包	17c	飯碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物	◎			(12.0)	(9.4)	(6.0)	(2.7)		
142-4	18	06-4堀	18c中~19c	飯碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?						(13.0)	(7.8)	(6.0)	(1.8)	一文字碗	
142-5	18	53077	17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	木瓜・鶴	有			14.0	5.7	6.9	1.0		
142-6	—	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内? 外・鶴?				14.0	6.0	(7.0)	(0.6)		
142-7	18	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・編扇扇? 外・編扇扇	[十]			12.8	5.6	7.1	0.9		
142-8	18	54040	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	編扇扇	[一]			14.3	6.5	7.0	7.5		
142-9	18	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	?				14.2	5.7	7.2	1.0		
142-10	18	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	鶴?	有			15.0	(5.0)	(7.0)	(0.5)		
142-11	—	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	?	○	有		(15.0)	(3.7)	(6.1)	(0.7)		
142-12	—	54040	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文?				15.6	4.7	(7.0)	(0.5)	高台部削平	
142-13	18	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	?				(15.0)	(4.3)	7.0	0.6		
142-14	—	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内? 外・編扇扇				(14.5)	(4.2)	(7.1)	(0.6)		
142-15	—	53101	17c初~前	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物				13.8	(5.2)	(6.4)	(0.8)		
142-16	—	63110	17c中~後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物・鶴)				14.0	(4.9)	(6.3)	(0.5)		
142-17	—	54024	17c後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	動物?				(12.6)	(4.9)	(5.0)	(0.3)		
142-18	—	63110	17c中~後	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	?	蓬菜文?				(13.2)	(5.0)	(6.2)	(0.2)	高台部削平	
142-19	—	54008	17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	植物?	◎			(13.0)	(5.0)	(6.0)	(0.5)		
142-20	—	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文?	有			13.6	5.0	7.2	1.0		
142-21	—	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・扇? 外?				14.0	(4.7)	(7.2)	(0.6)		
142-22	18	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・扇? 外?				13.1	5.5	6.2	1.0	玉縁	
142-23	18	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内? 外・編扇扇	二つ鱗	有		13.8	4.7	7.4	0.6		
142-24	18	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	鶴・亀				13.8	5.2	6.5	0.8		
143-1	—	54025	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	梅・植物				(13.0)	(4.0)	(5.4)	(0.2)		
143-2	—	53107	18c後~19c	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・外・編扇扇				(13.4)	(3.6)	(6.9)	(0.5)		
143-3	—	05-3包	16c末~17c初?	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	内・外・編扇扇	有			(13.2)	(5.0)	7.0	1.0		
143-4	—	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物)				(12.9)	(4.5)	(7.0)	(0.8)		
143-5	—	63120	17c中~後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	?				赤	[一]	(12.2)	(4.9)	(6.4)	(0.9)	
143-6	19	63110	17c中~後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	黄	蓬菜文(植物)				12.0	6.4	5.4	0.9		
143-7	—	63523	17c初~前	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	赤	五瓜に唐花	○			12.0	(5.6)	(6.0)	(0.8)		
143-8	—	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	桐				12.4	(5.7)	(5.9)	(0.5)		
143-9	19	63195	19c	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	桜	○			(12.2)	(6.0)	(5.1)	(0.8)		
143-10	19	63090	19c中	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	楓				12.2	(5.1)	(5.4)	(0.5)		
143-11	—	06-1包	17c	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物	○			(11.2)	(5.2)	(5.5)	(0.5)		
143-12	19	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	編扇扇・鶴	有			12.2	4.8	7.2	0.9		
143-13	19	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	檜扇	[十]			12.2	3.9	6.4	0.7		
143-14	19	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物?・鶴)				12.0	4.1	5.9	0.6		
143-15	19	63218	17c後	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	赤、黄	蓬菜文(松・笹・鶴・亀)				(12.0)	(4.5)	(5.8)	(0.4)		
143-16	—	53032-53101	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	梅				12.2	3.6	5.4	0.6		
143-17	—	53032	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物?	大?			13.0	3.4	6.2	0.6		
143-18	—	53032	16c末~17c初	碗	黒	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物?	[十]			(12.0)	(4.0)	(5.8)	(0.3)		
143-19	19	53101	17c初~前	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	右三つ巴	○			12.5	4.4	(6.2)	(0.6)		
143-20	—	54005	17c後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	植物	○			12.6	4.5	6.0	0.6		
143-21	19	63521	17c初~後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	若狭(酒井)剣片喰	○			11.7	(4.3)	(6.0)	(0.4)		
143-22	—	63020	19c中	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	赤	?				(11.0)	(4.5)	(5.3)	(0.5)		
143-23	19	64023	19c	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀?	右三つ巴	○			(11.4)	(4.7)	(6.2)	(0.4)		
143-24	19	64002	19c中~近代	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	銀?	鍵・俵・宝珠・袋				11.3	(4.1)	(5.9)	(0.4)		
143-25	—	64030	18c後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀	抱き沢瀉	○			(11.0)	(3.5)	(5.5)	(0.4)		
143-26	—	53072	17c後	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?	赤	鶴?				(11.8)	(2.9)	(6.2)	(0.4)		
143-27	—	53072	17c後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	扇?	○			(10.4)	(3.3)	6.4	0.8		
143-28	—	64堀ゴミ層	18c中~19c中	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?						10.2	2.5	5.3	0.3		
143-29	—	63521	17c初~後	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	結梗?	○			(11.0)	(2.6)	(5.4)	(0.4)		
143-30	—	63218	17c後	碗	赤	赤	内外	内・中1? 外?						11.0	3.5	5.5	0.5		
143-31	—	53044	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤	蓬菜文(植物)		赤	[上]	10.2	(3.2)	(6.4)	(0.7)		
144-1	19	63109	17c中	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	銀	鶴				9.2	3.0	5.4	0.4		
144-2	—	54025	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	梅・楓	○			10.4	(3.3)	(4.6)	(0.2)		
144-3	—	54025	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外	内・中1? 外?	赤、黄	梅・楓	○			(10.8)	(3.2)	(5.0)	-		
144-4	—	64006	17c中	碗	赤	茶?	内外	内・中1? 外?	赤、黄	右三つ巴	◎			(10.0)	(2.1)	(4.8)	(0.4)		
144-5	—	54025	16c末~17c初	碗	赤	黒	内外												

第2節 木製品

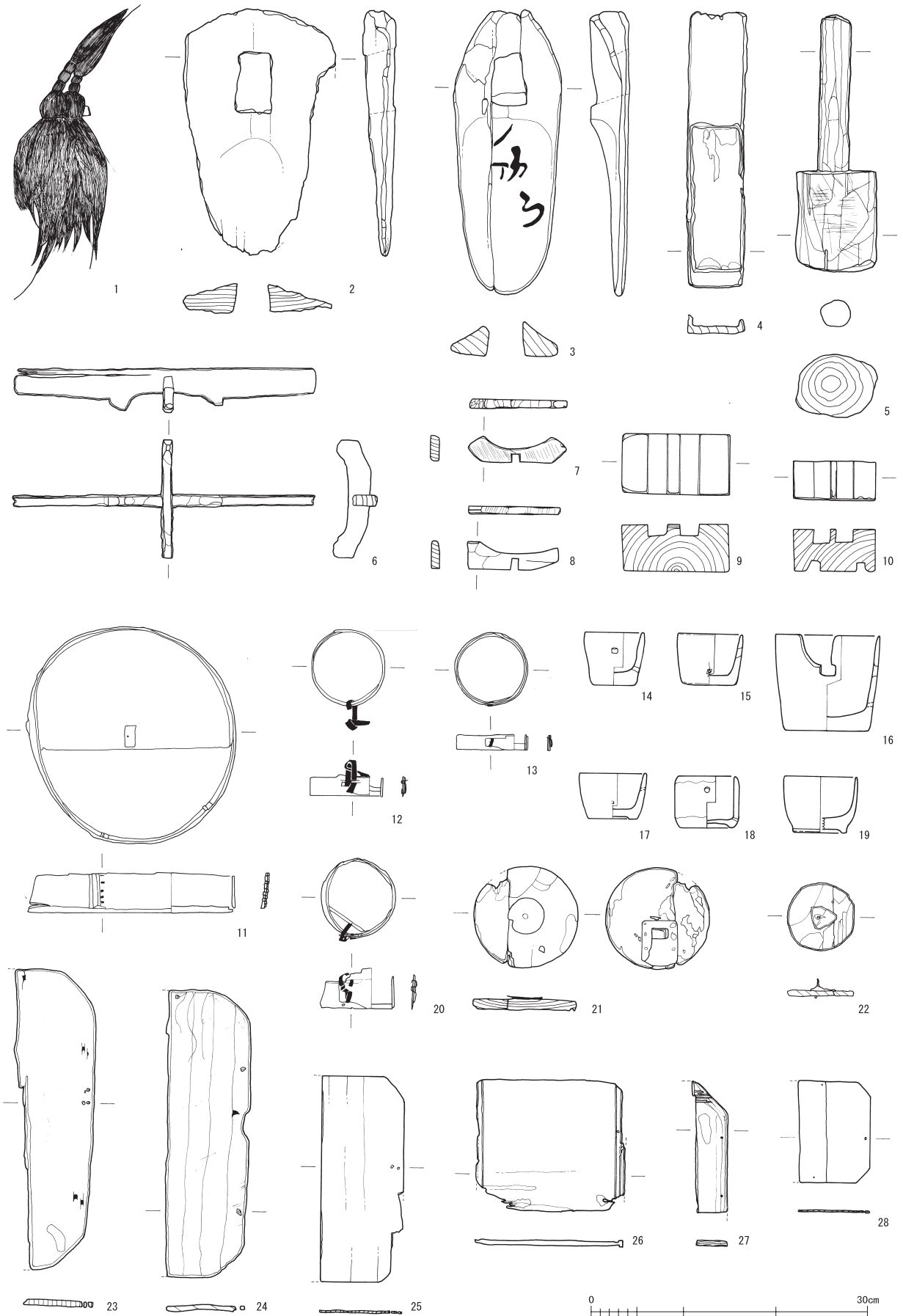


第145図 木製品①

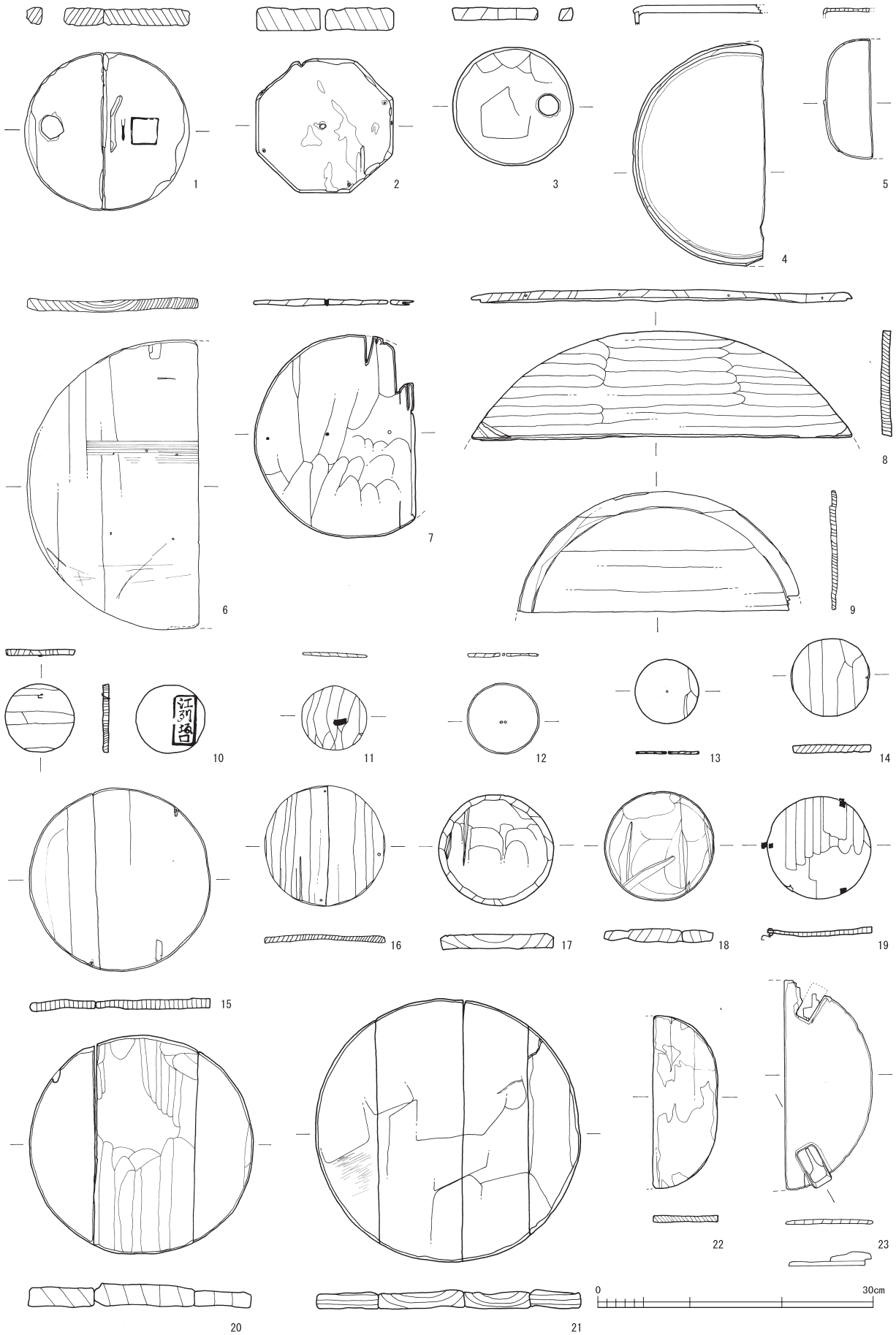


第146図 木製品②

第2節 木製品



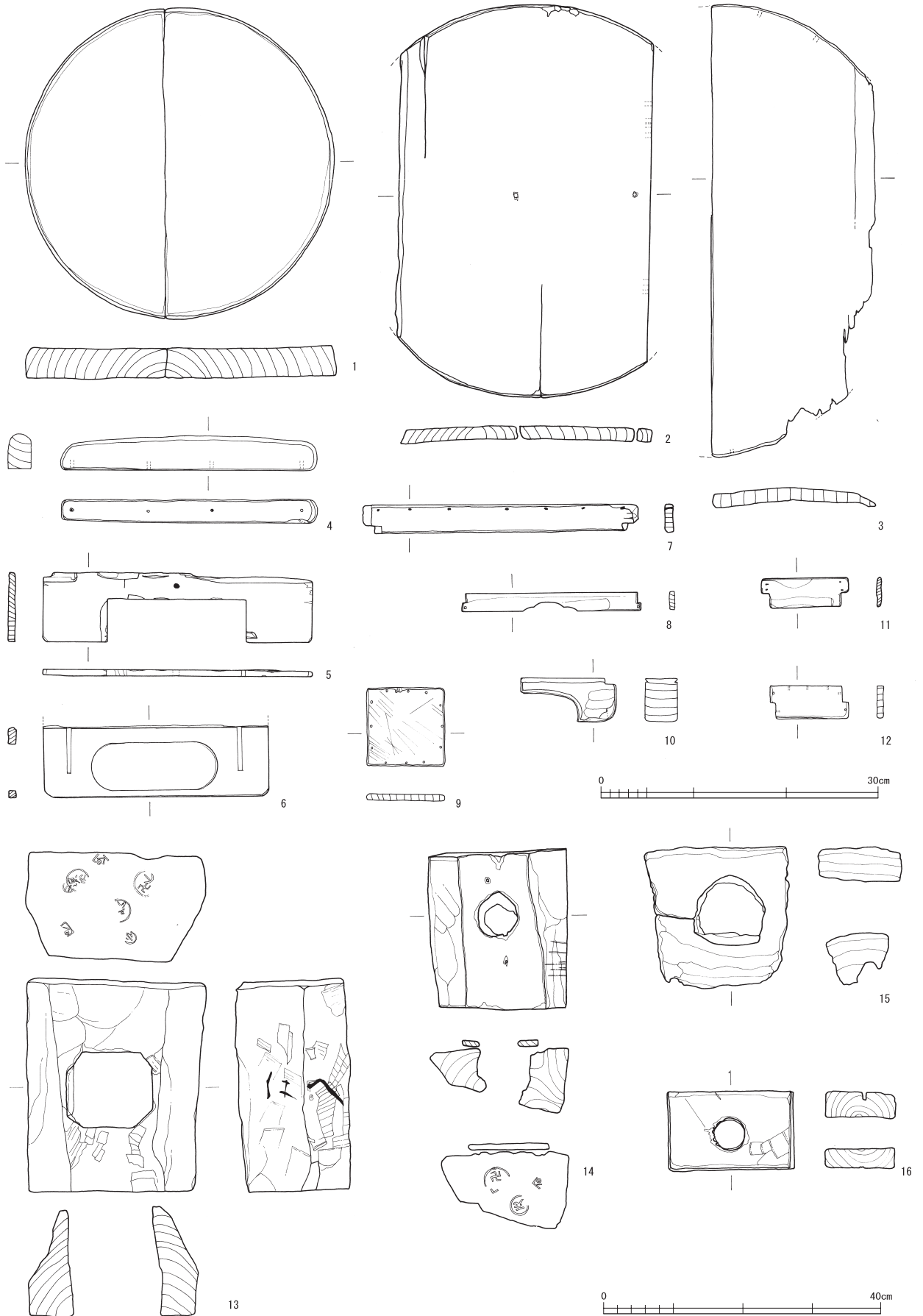
第147図 木製品③



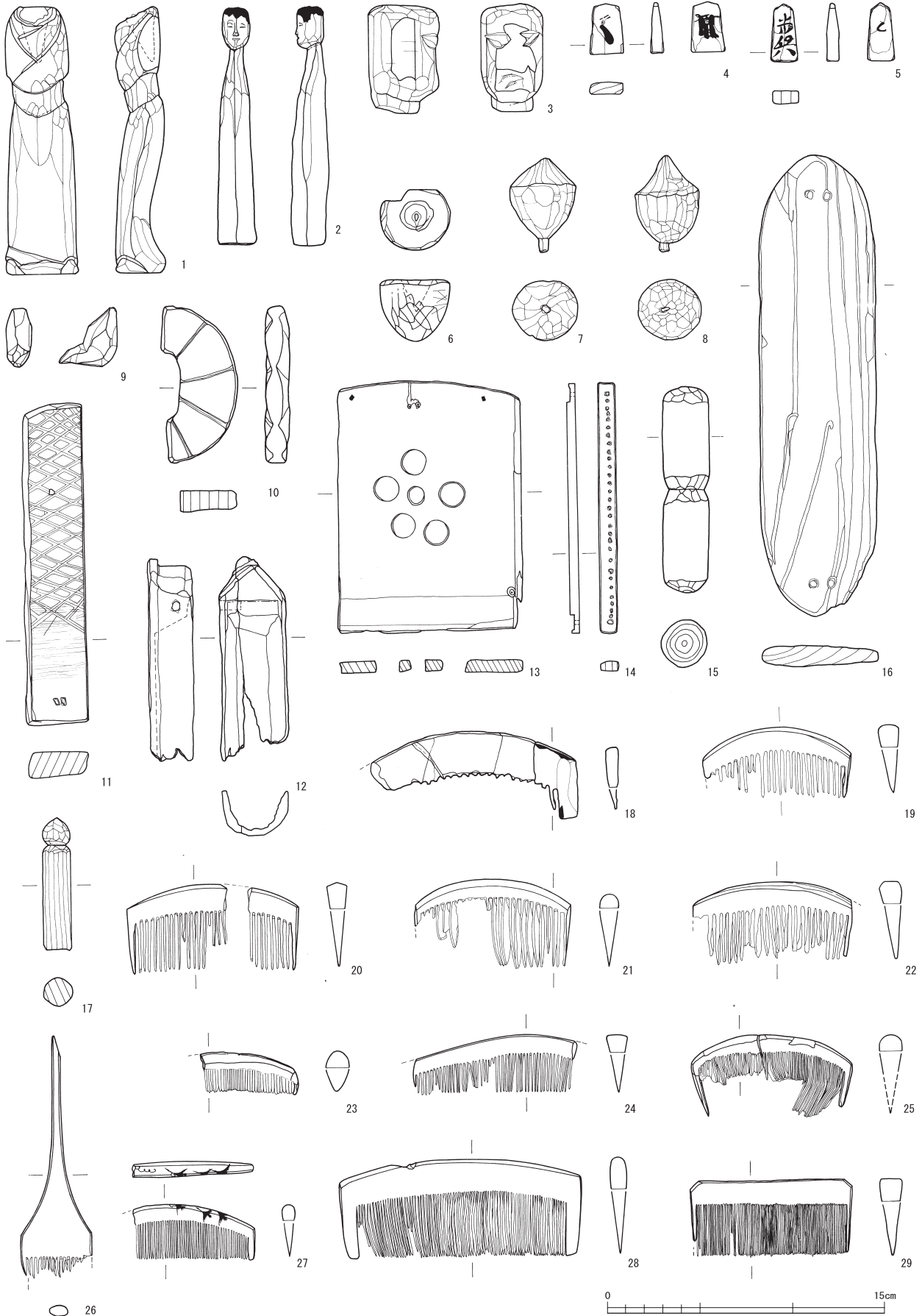
第148図 木製品④



第2節 木製品



第149図 木製品⑤

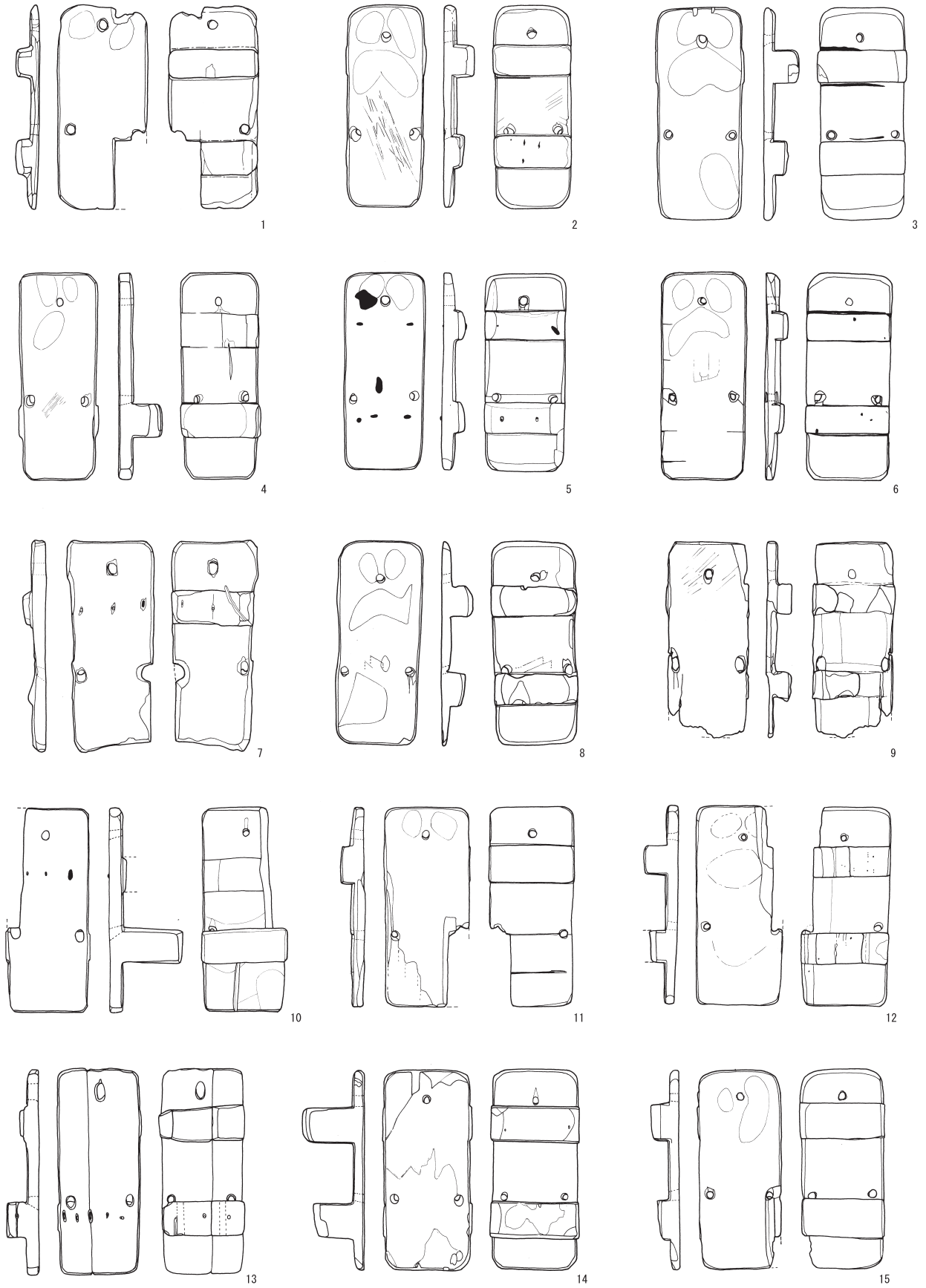


第150図 木製品⑥

第2節 木製品

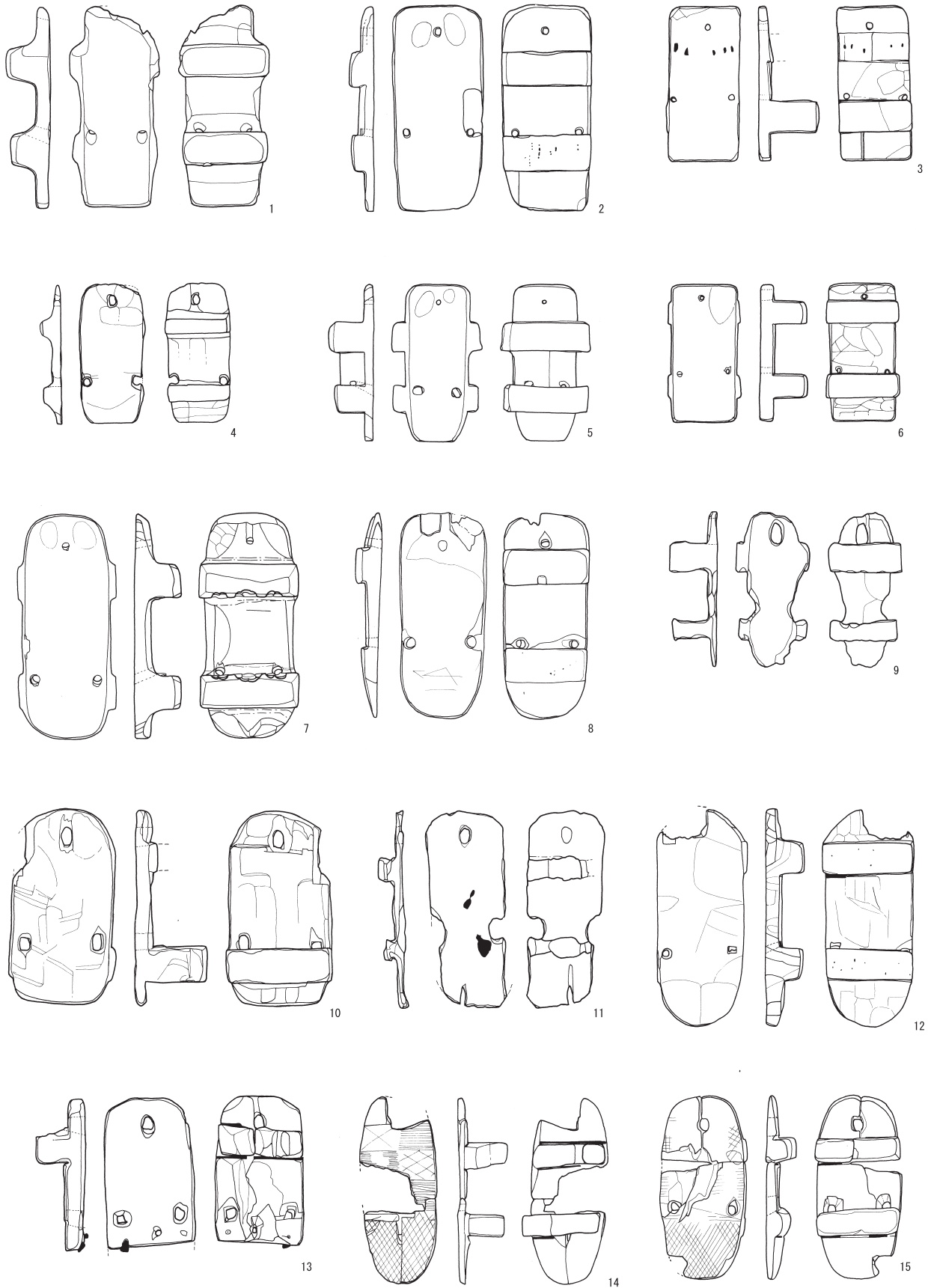
第10表 木製品観察表

挿入番号	図版番号	遺構番号	時期	種類	法量(cm)			備考	挿入番号	図版番号	遺構番号	時期	種類	法量(cm)			備考
					長(径)	巾(高)	厚							長(径)	巾(高)	厚	
145-1	—	53032	16c末～17c初	篋	23.5	8.3	0.6		147-18	—	63108	18c前～後	柄杓	6.2	5.7	1.0	
145-2	20	63110	17c中～後	匙	21.6	7.1	1.3	表面に炭化痕	147-19	—	06-3包	近世	柄杓	8.0	6.2	2.0	
145-3	20	53036	17c後	匙	(12.7)	(7.2)	1.3	柄部に穴、黒漆一部残	147-13	—	64006	17c中	曲物	8.7	(4.4)	0.5	
145-4	—	63084	17c初～前	匙	(11.0)	(6.8)	(1.2)	全体に黒漆塗布	147-16	—	06-2堀内	18c後～19c	提灯	11.3	1.6	1.3	黒漆塗、中央部に金属
145-5	20	63073	17c中～後	楊枝	14.7	0.8	0.6		147-15	—	63004	19c	提灯	7.3	2.1	0.6	中央に金属の灯芯否
145-6	20	53036	17c後	楊枝	17.7	0.7	0.5		147-24	—	06-1包	19c	折敷	32.7	(8.6)	0.7	刃跡
145-7	—	53032	16c末～17c初	楊枝	13.5	0.9	0.6		147-25	—	53032	16c末～17c初	折敷	31.3	(9.0)	0.6	刃跡、釘穴3
145-8	—	53032	16c末～17c初	楊枝	12.7	0.8	0.4		147-26	—	53032	16c末～17c初	折敷	22.5	(9.0)	0.3	釘穴2
145-9	—	63168	19c中	楊枝	12.4	0.5	0.3		147-27	—	63022	17c後～18c後	折敷	(16.2)	(14.3)	0.8	外黒内赤の漆塗
145-10	—	63069	17c後	楊枝	11.7	0.7	0.5		147-28	21	53032	16c末～17c初	折敷	(14.2)	(3.5)	0.6	黒漆塗
145-11	20	53032	16c末～17c初	楊枝	(11.0)	1.0	0.3		147-29	21	63518	17c～19c	折敷	11.2	(7.9)	0.2	釘穴2
145-12	—	53032	16c末～17c初	楊枝	14.1	0.5	0.3		148-1	—	64002	19c中～近代	蓋板	17.9	—	1.9	穴1、焼印
145-13	—	63521	17c初～後	楊枝	14.3	0.8	0.7		148-2	21	06-2包	19c	蓋板	15.0	—	2.5	八角形、中央に穴
145-14	—	63076	17c中	楊枝	14.7	0.7	0.6		148-3	21	63020	19c中	蓋板	13.2	—	1.4	穴1
145-15	—	53032	16c末～17c初	箸	32.8	0.8	0.6	両口箸	148-4	21	63022	17c後～18c後	蓋板	24.3	—	(2.2)	
145-16	—	53101	17c初～前	箸	31.3	0.9	0.5	片口箸	148-5	21	621129	19c中～近代	蓋板	13.1	(5.1)	0.4	
145-17	—	53032	16c末～17c初	箸	29.1	0.8	0.8	両口箸	148-6	—	53016	19c前	蓋板	31.7	—	1.2	釘穴5
145-18	—	53032	16c末～17c初	箸	28.1	0.8	0.7	両口箸	148-7	21	54010	17c後	蓋板	22.1	—	0.7	釘穴3
145-19	—	53032	16c末～17c初	箸	27.8	0.7	0.6	両口箸	148-8	—	53032	16c末～17c初	蓋板	(41.7)	—	1.0	復元径48.0cm
145-20	—	53032	16c末～17c初	箸	26.3	0.8	0.6	両口箸	148-9	21	53032	16c末～17c初	蓋板	(30.6)	—	0.8	復元径32.6cm
145-21	20	53016	19c前	箸	26.2	0.7	0.6	寸削箸	148-10	21	06-4包	19c	蓋板	7.5	—	0.7	焼印
145-22	20	53032	16c末～17c初	箸	25.5	0.8	0.5	両口箸	148-11	—	53032	16c末～17c初	蓋板	7.1	—	0.4	櫛紋残存
145-23	—	53032	16c末～17c初	箸	24.9	0.8	0.7	両口箸	148-12	—	63526	17c初	蓋板	7.7	—	0.4	中央に穴2
145-24	20	63525	17c前～後	箸	24.4	0.8	0.7	片口箸	148-13	—	64019	19c中	底板	6.9	—	0.3	
145-25	—	53032	16c末～17c初	箸	23.1	0.7	0.4	両口箸	148-14	—	63525	17c前～後	底板	8.5	—	0.9	
145-27	—	63525	17c前～後	箸	22.6	0.7	0.7	両口箸	148-15	21	53064	17c初～18c後	底板	20.0	—	1.0	
145-26	—	63525	17c前～後	箸	22.4	0.7	0.6	片口箸	148-16	—	53032	16c末～17c初	底板	13.2	—	0.7	釘穴3
145-28	20	63057	17c後～18c後	箸	(17.6)	0.6	0.6	黒漆に赤・黄漆で文様	148-17	—	54098	16c末～17c初	底板	12.5	—	1.6	
146-1	20	53101	17c初～前	切匙	33.7	5.7	0.9		148-18	—	63022	17c後～18c後	底板	11.9	—	1.5	
146-2	—	53032	16c末～17c初	切匙	(22.0)	5.3	0.8		148-19	—	53032	16c末～17c初	底板	11.3	—	0.6	櫛紐3残
146-3	—	53032	16c末～17c初	切匙	21.3	4.6	0.5		148-20	—	63092	19c	底板	24.3	—	2.4	
146-4	—	53032	16c末～17c初	切匙	(14.6)	3.5	0.5		148-21	—	64030	18c後	底板	28.8	—	1.8	
146-5	—	06-2包	19c	切匙	12.0	4.3	0.6		148-22	—	64004	18c後	底板	(18.9)	(7.0)	0.7	楕円形、側面に釘穴7
146-6	—	63020	19c中	切匙	14.6	2.5	0.3		148-23	21	53032	16c末～17c初	底板	(23.0)	—	4.5	三足付
146-7	20	63004	19c	切匙	17.7	2.2	0.7		149-1	—	63528	19c	底板	33.8	—	3.3	
146-8	—	63110	17c中～後	切匙	18.1	2.8	0.4		149-2	—	63090	19c中	底板	42.8	—	1.5	釘穴6
146-9	—	63024	19c中	切匙	19.8	3.4	0.5	釘一部残存	149-3	—	622006-3	16c	底板	(49.2)	—	1.5	復元径50.5cm
146-10	—	63120	17c中～後	切匙	(12.1)	1.6	0.4		149-4	20	53032	16c末～17c初	取手	27.8	3.7	2.5	黒漆塗
146-11	20	53032	16c末～17c初	切匙	19.8	2.8	0.5		149-5	—	53036	17c後	脚	29.4	7.5	0.7	
146-12	—	53032	16c末～17c初	切匙	(20.6)	3.0	0.4		149-6	20	64024	18c後～19c中	脚	24.5	7.7	8.5	漆塗
146-13	—	53032	16c末～17c初	切匙	(21.5)	2.1	0.5		149-7	—	53032	16c末～17c初	箱物	30.0	3.0	0.9	
146-14	—	06-4包	近世	切匙	17.1	2.5	0.4		149-8	—	53032	16c末～17c初	箱物	19.5	2.0	0.6	折敷部材
146-15	—	53032	16c末～17c初	切匙	(21.5)	2.1	0.5		149-9	—	06-4堀	18c後～19c	箱物	8.5	8.5	0.7	
146-16	20	63168	19c中	切匙	16.4	4.3	0.6		149-10	20	53032	16c末～17c初	脚	10.3	4.8	3.6	
146-17	—	53032	16c末～17c初	椀	12.7	2.4	2.5		149-11	20	53032	16c末～17c初	箱物	9.4	3.2	0.5	
146-18	—	54024	17c後	椀	12.0	2.5	1.6		149-12	—	06-4堀	18c後～19c	箱物	8.5	3.5	0.7	
146-19	—	54088	19c中	椀	5.4	3.2	3.2		149-13	21	63532	19c	雜手	30.6	25.6	16.1	
146-20	—	64040	19c中	椀	5.6	3.7	3.5		149-14	—	63092	19c	雜手	22.8	19.8	12.2	直径約5.5cm
146-21	—	53032	16c末～17c初	椀	7.4	2.7	2.8		149-15	—	62511	19c	雜手	20.5	20.2	11.9	直径約9.5cm
146-22	20	63218	17c後	椀	10.2	3.6	3.6		149-16	—	62011	19c	雜手	18.0	11.4	10.1	
146-23	—	53101	17c初～前	椀	10.4	1.8	1.7		150-1	21	63520	17c後～18c後	人形	(14.4)	3.9	2.7	胴部のみ
146-24	—	63138	17c後	椀	9.0	3.1	2.8		150-2	21	06-1包	17c初	人形	12.7	2.1	1.9	
146-25	20	53032	16c末～17c初	椀	10.2	3.0	2.7		150-3	21	63110	17c中～後	人形	5.8	3.3	3.8	頭部のみ
146-26	—	06-2包	19c中～近代	椀	8.2	1.7	1.7	中心部に約6.4cmの穴	150-4	21	54283	19c中	将棋の駒	2.7	1.8	0.7	赤漆文字
146-27	20	64025	18c～19c中	糸巻	3.3	3.1	2.1		150-5	21	53032	16c末～17c初	将棋の駒	3.1	1.4	0.7	墨書文字
146-28	20	64002	19c中～近代	糸巻	15.6	1.4	1.0		150-6	—	53032	16c末～17c初	独楽	3.4	3.8	3.3	
146-29	—	63073	17c中～後	柄	16.0	3.4	17.5		150-7	21	63218	17c後	独楽	3.4	5.2	—	軸部が金属
146-30	—	63024	19c中	木槌	12.3	3.3	2.0		150-8	—	63218	17c後	独楽	3.4	5.1	—	軸の部分が金属
146-31	20	62648	16c前～中	木槌	10.0	3.3	2.3		150-9	21	63521	17c初～後	鳥形	3.2	1.3	—	
146-32	20	53005	17c初～前	刷毛	(11.1)	(5.6)	0.6		150-10	—	63116	17c後	加工木	8.4	3.6	1.3	
146-33	—	62008	19c	刷毛?	14.0	3.3	0.4		150-11	—	53101	17c初～前	加工木	17.2	1.5	3.3	
146-34	20	53032	16c末～17c初	筥	22.5	2.6	0.3		150-12	—	53108	19c中	舟形	(10.9)	3.6	2.4	
147-1	—	64040	19c中	簞	29.0	10.0	3.0		150-13	—	63526	17c初	加工木	13.5	9.8	6.5	
147-2	—	62655	16c中	簞	26.8	(16.2)	3.6		150-14	21	53032	16c末～17c初	加工木	13.4	0.9	0.5	虫籠か
147-3	20	62008	19c	簞	(30.7)	11.7	4.2		150-15	—	53032	16c末～17c初	加工木	11.1	2.5	2.6	
147-4	20	63070	17c後	砥石台	30.0	6.4	1.6		150-16	—	53036	17c後	加工木	24.6	6.2	1.1	
147-5	20	53036	17c後	碁	28.0	8.8	6.8		150-17	—	53142	16c末～17c初	加工木	7.1	1.5	1.5	一部黒漆塗、下部に穴
147-6	20	06-4堀	18c中～19c中	灯明台	32.9	12.9	4.6		150-18	—	63002	19c中	櫛	(11.1)	(3.5)	0.7	残存歯1枚
147-7	—	53032	16c末～17c初	灯明台	10.6	1.0	1.0		150-19	21	63525	17c前～後	櫛	(8.0)	3.6	1.1	残存歯17枚
147-8	—	53032	16c末～17c初	灯明台	9.9	3.0	0.9		150-20	—	53032	16c末～17c初	櫛	(9.3)	4.5	1.1	残存歯26枚
147-9	20	54024	17c後	鴨居	6.6	11.8	5.2		150-21	—	53032	16c末～17c初	櫛	8.4	4.7	1.0	残存歯17枚
147-10	—	54024	17c後	鴨居	4.3	9.0	4.6		150-22	—	06-1包	17c後	櫛	8.5	4.1	1.2	残存歯24枚
147-11	—	53042	18c後～19c	曲物	24.2	(4.4)	0.8		150-23	—	63525	17c前～後	櫛	(5.0)	2.2	1.2	残存歯38枚
147-12	21	64025	18c～19c中	曲物	8.4	(2.3)	0.4		150-24	—	06-2包	19c	櫛	(8.5)	3.1	1.1	残存歯48枚
147-13	—	64053	17c後～18c前	曲物	7.9	(1.7)	0.7		150-25	—	53032	16c末～17c初	櫛	8.6	4.2	1.2	51枚
147-14	—	63523	17c初～前	柄杓	6.6	5.8	1.9		150-26	21	63024	19c中	櫛	(12.9)	3.8	0.6	残存歯13枚
147-15	21	63135	17c初	柄杓	7.1	4.6	1.1		150-27								



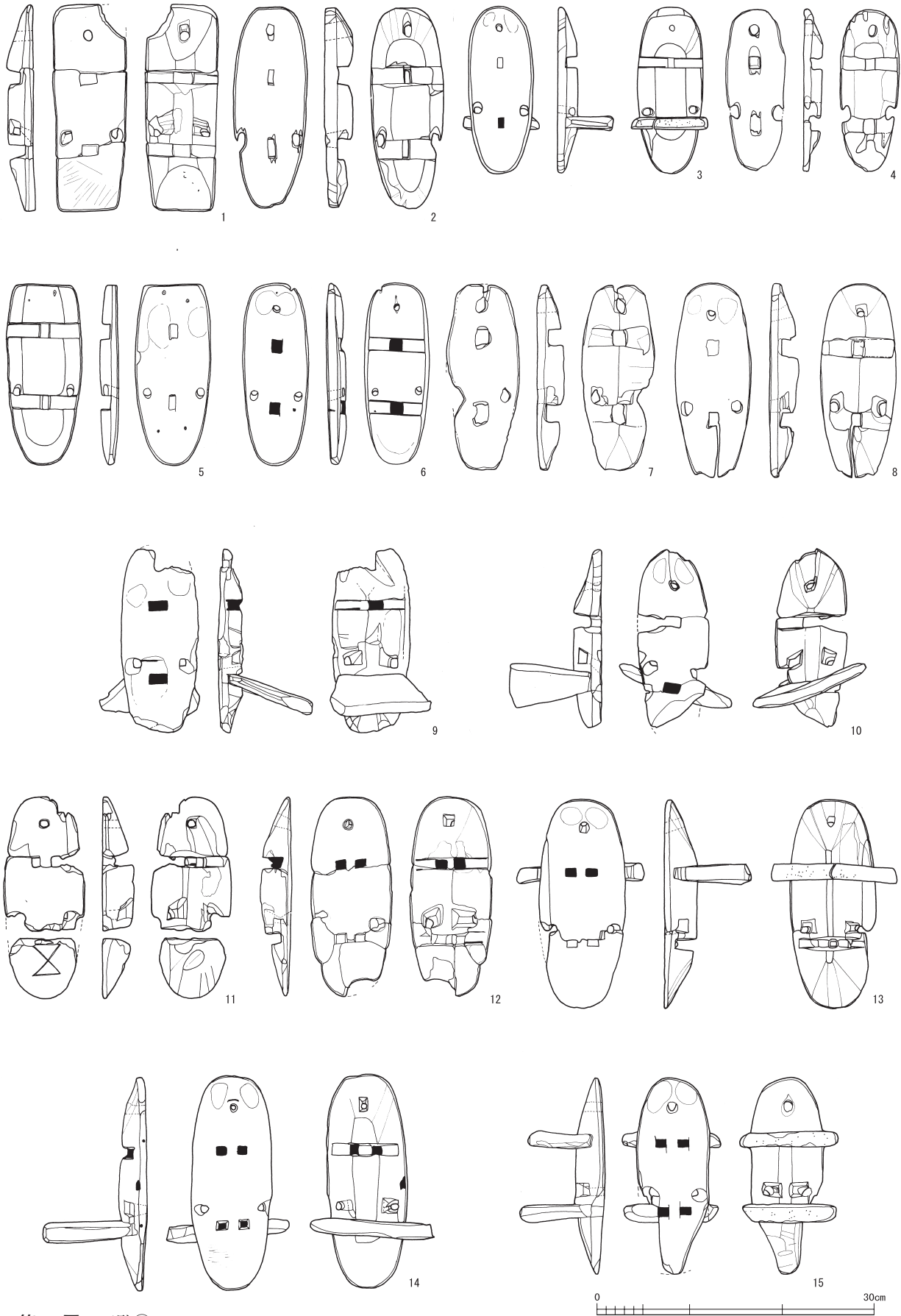
第151図 下駄①

第2節 木製品



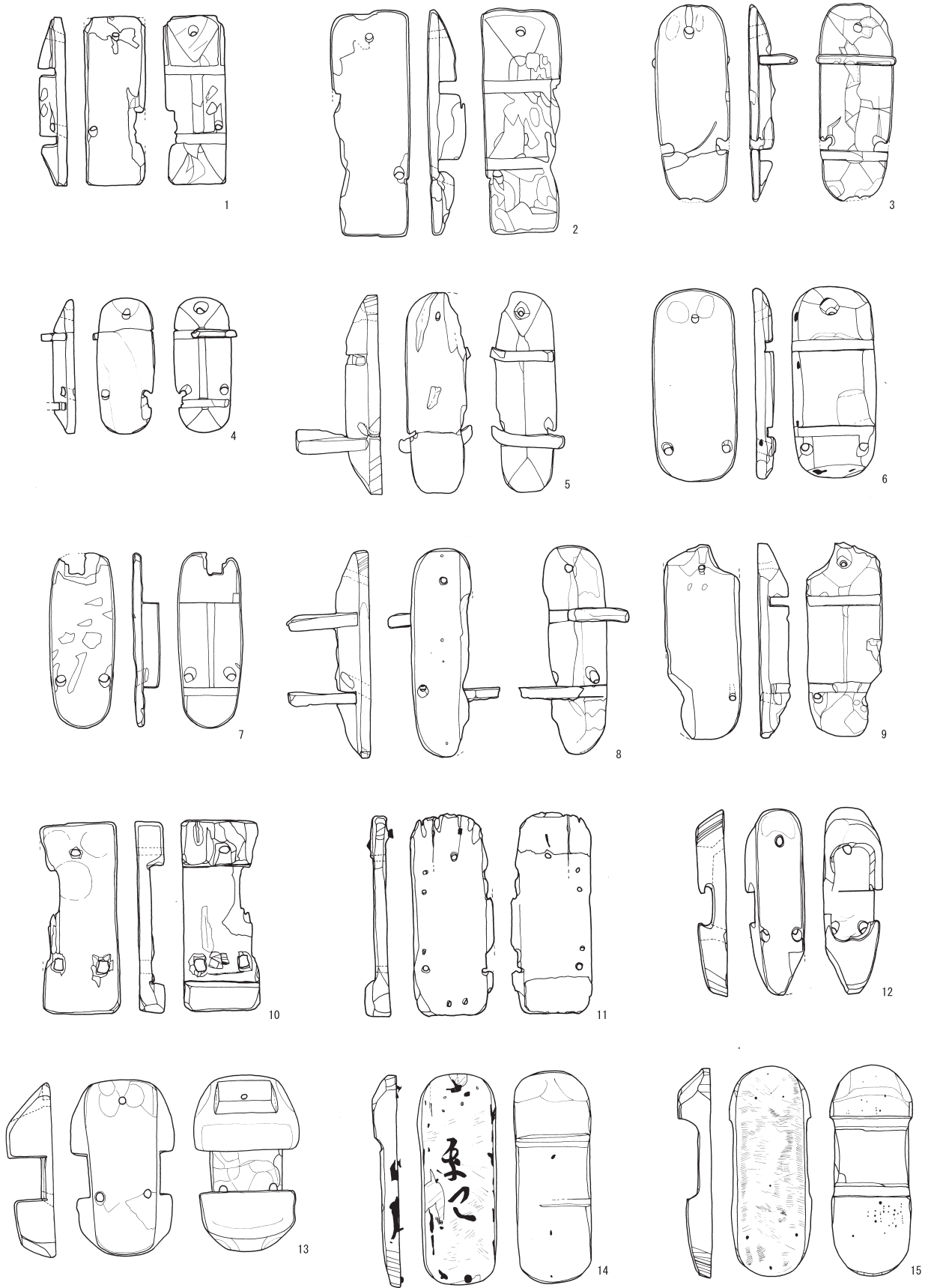
第152図 下駄②

0 30cm

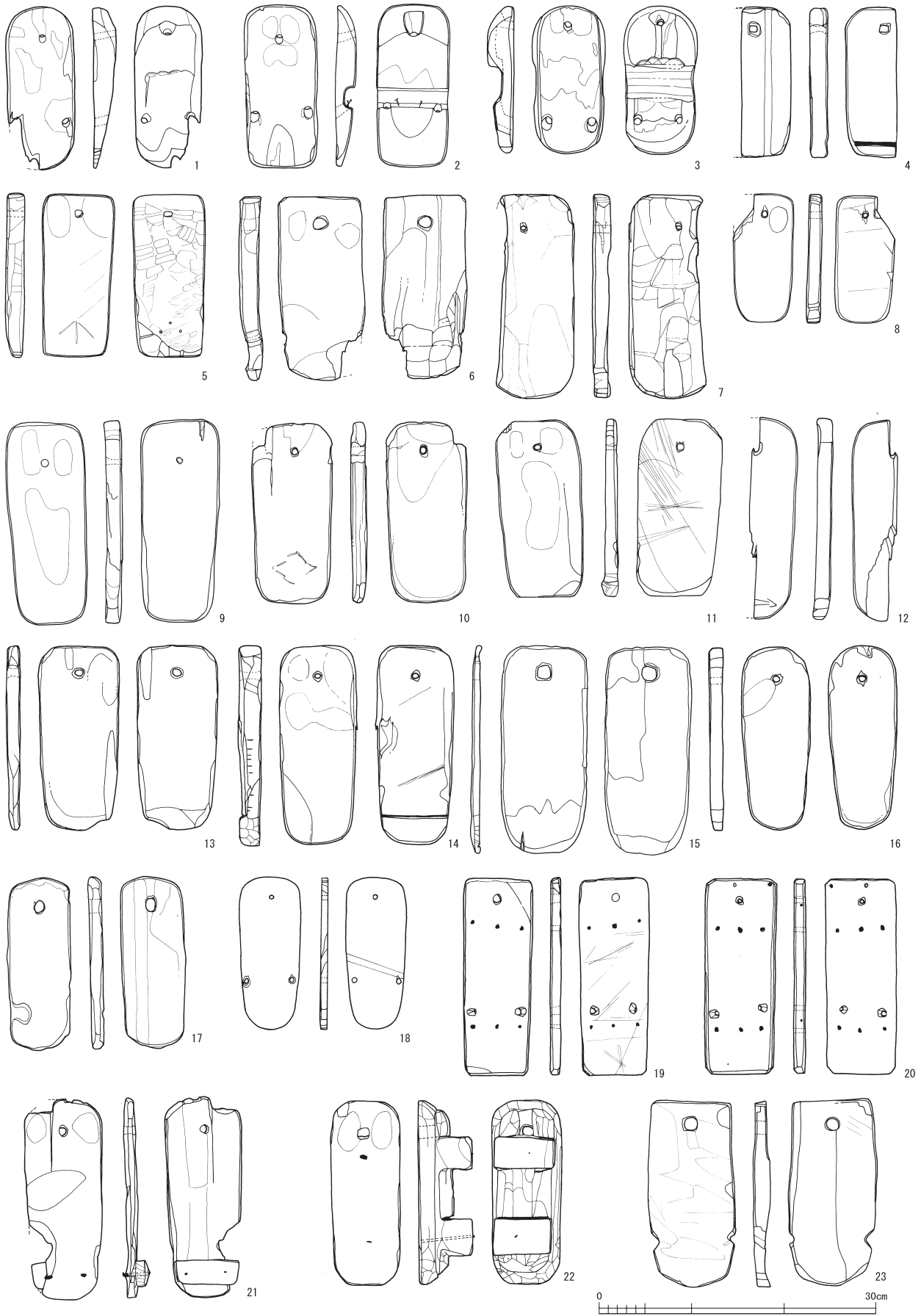


第153図 下駄③

第2節 木製品

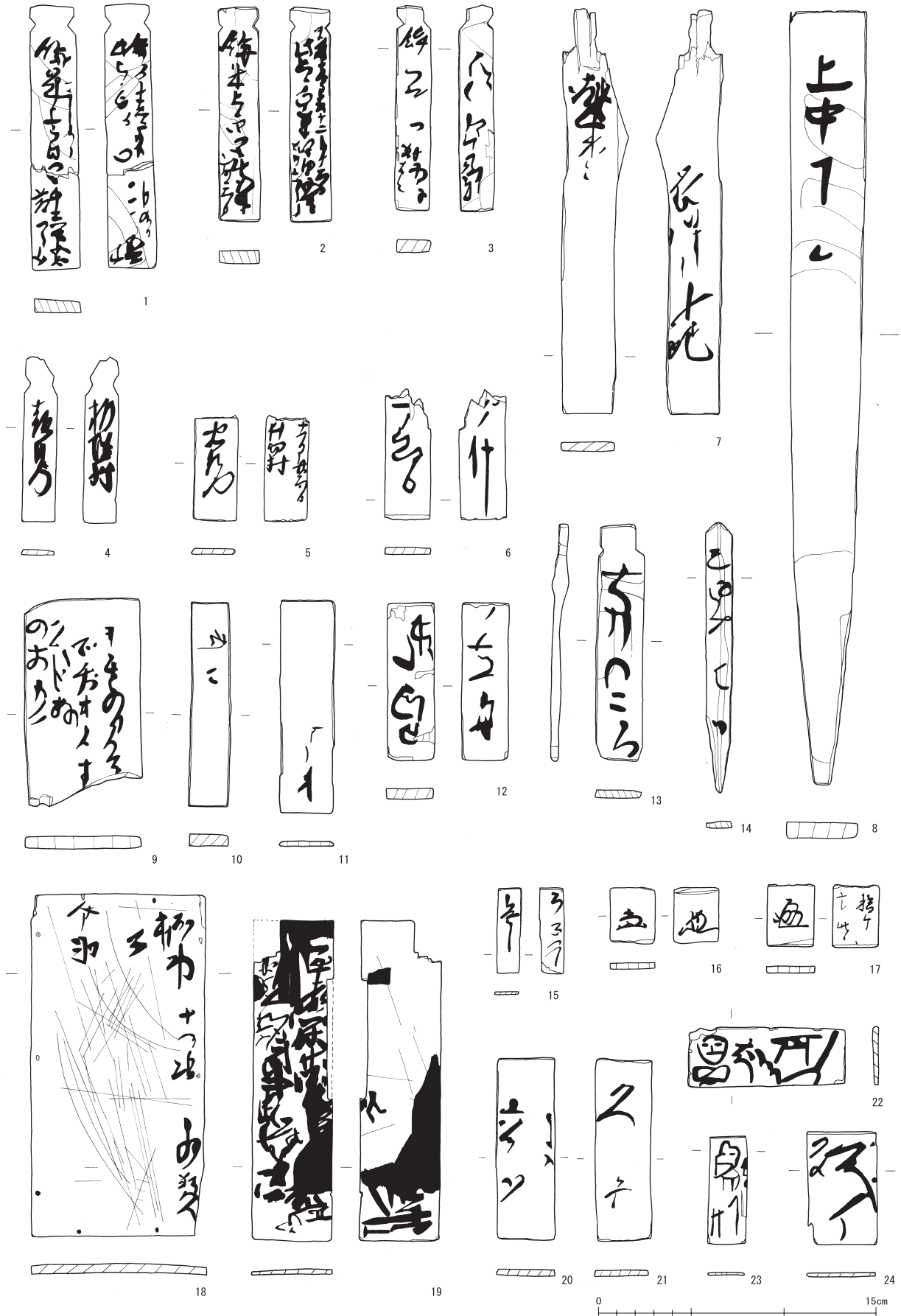


第154図 下駄④



第155図 下駄⑤





第156図 木簡・墨書

第12表 下駄観察表

押印 番号	図版 番号	遺構番号	時期	種類	法 量 (cm)			備考		
					長さ	巾	台厚			
151-1	-	54025	16c末~17c初	連櫓	21.9	9.6	9.5	1.0	2.5	台一部欠損
151-2	22	53036	17c初	連櫓	21.7	8.5	9.3	1.3	3.2	台表僅有り、砂置有蓋
151-3	-	53043	17c後	連櫓	22.9	9.5	9.5	1.2	3.7	前後欠損
151-4	-	53086	17c後	連櫓	22.2	8.6	8.6	1.7	4.7	前後欠損
151-5	-	06-15b	17c	連櫓	21.2	8.7	8.6	1.3	2.5	前後2本、後部3本釘残
151-6	-	63523	17c初~前	連櫓	22.3	9.1	9.1	1.8	2.3	前後2本、後部3本釘残
151-7	-	63527	17c後~18c後	連櫓	22.6	9.3	8.6	1.5	2.3	後部欠損、前部本釘欠
151-8	-	63690	19c中	連櫓	21.9	9.1	8.7	1.1	2.5	前後欠損
151-9	-	53032	16c末~17c初	連櫓	21.0	8.7	8.3	1.1	2.7	前後、台一部欠損
151-10	-	63087	17c中~後	連櫓	22.0	9.2	8.7	1.5	(7.9)	前後、台一部欠損
151-11	-	06-12a	17c	連櫓	21.5	9.2	9.0	1.5	2.5	前後欠損
151-12	-	63218	17c後	連櫓	21.4	9.3	9.1	1.3	3.7	台、後部一部欠損
151-13	-	63090	19c中	連櫓	22.0	9.0	8.8	1.4	3.5	前後欠損、後部釘欠
151-14	-	62947	16c中~後	連櫓	21.4	9.5	9.2	6.6	1.2	前後欠損
151-15	-	06-4トレンチ	19c中	連櫓	21.5	9.6	7.0	3.2	3.2	台一部欠損
152-1	-	63024	19c中	連櫓	(21.4)	9.1	(8.0)	1.6	4.8	前後の櫓にのみ、台前部欠損
152-2	-	06-4堀	18c後~19c	連櫓	21.9	10.2	9.6	1.8	2.6	後部に砂石積存
152-3	-	63087	17c中~後	連櫓	16.4	7.6	7.4	1.3	6.3	前後欠損、前部砂置、子供用
152-4	-	64011	18c後~19c	連櫓	14.8	7.0	6.7	1.0	2.2	前後の櫓にのみ
152-5	-	06-4堀	18c後~19c	連櫓	16.7	9.6	7.0	3.5	4.7	子供用
152-6	-	63110	17c中~後	連櫓	14.7	7.8	7.2	1.6	5.2	前後の櫓にのみ
152-7	-	53016	19c前	連櫓	23.0	10.5	9.4	13.3	5.0	前後の櫓にのみ
152-8	-	06-22b	19c	連櫓	21.9	9.2	9.2	1.5	2.7	後部砂置有蓋
152-9	-	06-12b	17c後	連櫓	(16.5)	7.8	1.0	5.0	6.3	子供用
152-10	-	53032	16c末~17c初	連櫓	20.8	11.3	11.0	1.8	7.6	前後欠損
152-11	-	53032	16c末~17c初	連櫓	20.6	8.1	8.1	1.2	2.4	一部破化
152-12	-	53032	16c末~17c初	連櫓	(23.0)	9.6	9.2	1.8	4.1	台先欠損
152-13	-	53032	16c末~17c初	連櫓	(15.6)	9.4	9.4	2.3	5.2	後部から右隅の跡
152-14	-	53032	16c末~17c初	連櫓	(19.5)	(8.8)	(1.2)	(5.3)	(8.0)	台欠損、台表に格子状の刻文
152-15	22	53005	16c末~17c初	連櫓	19.5	9.2	9.1	1.3	3.1	台表に格子状の刻文
153-1	22	53005	17c初~前	無櫓	22.4	-	7.9	2.8	-	穴2、前後欠損
153-2	-	64053	17c後~18c前	無櫓	21.6	-	7.9	1.3	-	穴2、前後欠損
153-3	-	63087	17c中~後	無櫓	18.0	8.2	7.0	2.2	6.0	穴2、前後欠損
153-4	-	63087	17c中~後	無櫓	17.3	-	6.5	1.5	-	穴2、前後欠損
153-5	-	06-4堀	18c後~19c	無櫓	(17.0)	-	6.3	1.5	-	穴2、台先、前後欠損
153-6	-	53072	17c後	無櫓	20.0	-	7.9	3.0	-	穴2、前後欠損
153-7	-	53072	17c後	無櫓	(21.1)	-	8.2	3.2	-	穴2、前後欠損、台先欠損
153-8	-	63233	17世紀初~前	無櫓	(19.5)	(10.9)	8.3	2.6	9.9	穴2、台先、前後欠損
153-9	-	06-32a	17c?	無櫓	(18.1)	9.3	7.8	3.0	10.0	穴2、右尻、前後欠損
153-10	-	53032	16c末~17c初	無櫓	(21.8)	-	8.6	3.4	-	穴2、右尻、前後欠損
153-11	-	53032	16c末~17c初	無櫓	(21.5)	-	8.8	3.3	-	穴2、右尻、前後欠損

第13表 木簡一覽表

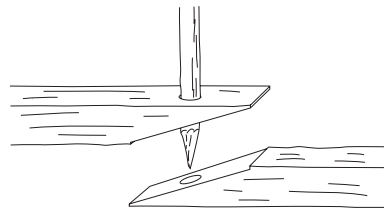
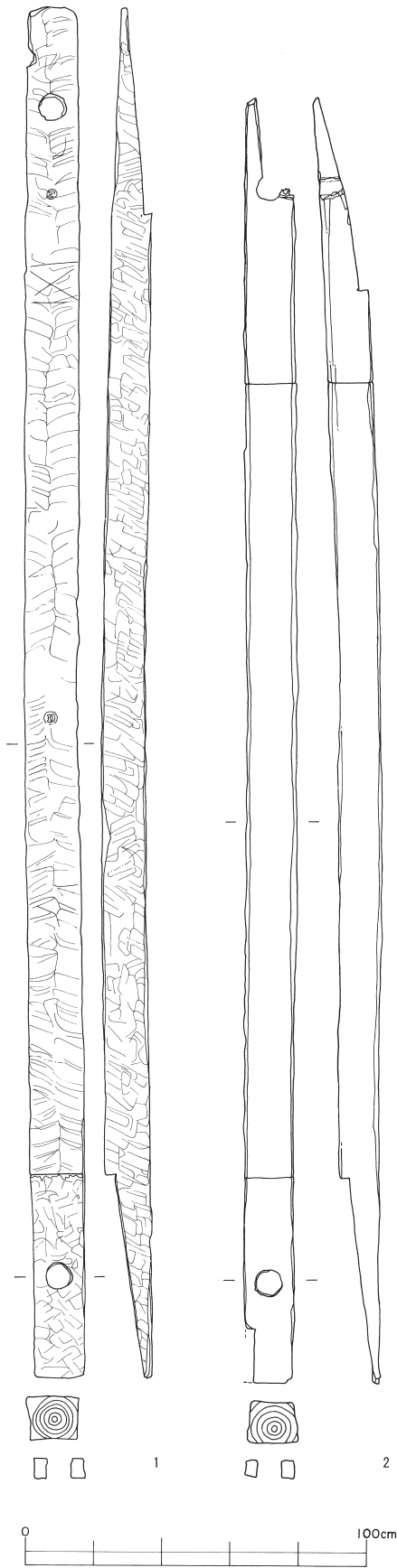
押印 番号	図版 番号	遺構番号	時期	種類	法 量 (cm)		形式	積文	
					縦	横			
156-1	22	63825	17c前~後	連櫓	14.2	2.6	7.5	032	跡本(立書?)、( )月晦日 此上(タタ)白米四斗( )五合、( )
156-2	22	63825	17c前~後	連櫓	10.5	2.2	0.7	032	跡本(立書?)十二月二十二日、 此上(タタ)白米四斗五升、 跡本( )
156-3	-	63523	17c初~前	連櫓	11.0	1.9	0.7	032	跡本( )
156-4	22	63523	17c初~前	連櫓	(8.8)	1.3	0.3	032	跡本( )
156-5	22	63517	18c~19c	連櫓	(5.5)	2.3	0.3	021	跡本(立書?)十一月二十二日、 此上(タタ)白米四斗五升、跡本三部
156-6	-	63521	17c初~後	連櫓	(7.0)	2.4	0.3	021	跡本( )
156-7	22	63525	17c前~後	連櫓	(21.6)	(3.3)	0.5	-	跡本( )
156-8	22	63525	17c前~後	連櫓	41.3	4.1	0.9	051	跡本( )
156-11	-	63020	19c中	連櫓	11.4	(2.9)	0.3	021	跡本( )
156-12	-	63022	17c後~18c後	連櫓	8.4	2.5	0.6	021	跡本( )
156-13	-	53032	16c末~17c初	連櫓	12.7	2.5	0.9	032	跡本( )
156-14	22	53032	16c末~17c初	連櫓	14.5	1.4	0.4	-	跡本( )

第14表 墨書一覽表

押印 番号	図版 番号	遺構番号	時期	種類	法 量 (cm)			備考		
					長さ	巾	台厚			
153-13	-	63134	17c初	無櫓	22.7	13.7	9.2	3.6	9.5	穴4、後部欠損
153-14	22	53101	17c初~前	無櫓	23.2	13.2	8.7	3.0	11.1	穴4、前部欠損
153-15	-	53036	17c後	無櫓	21.3	10.2	7.3	3.1	9.0	穴4、台一部欠損
154-1	22	64002	19c中~近代	無櫓	12.9	-	6.5	2.8	-	黒漆塗、前後欠損
154-2	22	64008	19c中	無櫓	24.0	-	8.3	1.2	-	前後欠損
154-3	-	06-32b	18c中~19c中	無櫓	21.0	8.4	7.8	2.7	5.2	後部欠損
154-4	-	64008	18c中~19c中	無櫓	14.4	(6.6)	6.2	2.3	3.6	台、後部一部欠損、子供用
154-5	-	64037	18c~19c中	無櫓	21.4	7.2	(6.5)	3.6	9.0	前後、台一部欠損
154-6	-	621129	19c中~近代	無櫓	20.4	-	8.9	2.0	-	前後、台一部欠損
154-7	-	64040	19c中	無櫓	(18.6)	-	7.6	2.7	-	黒漆塗、台先、前後欠損
154-8	-	64040	19c中	無櫓	22.2	(9.3)	3.8	(8.9)	-	台、後部一部欠損
154-9	-	06-32c	19c	無櫓	(21.6)	-	8.0	3.0	-	台、後部一部欠損
154-10	22	53032	16c末~17c初	無櫓	20.3	-	(8.2)	1.6	-	台一部欠損
154-11	-	53032	16c末~17c初	無櫓	(21.3)	-	8.5	2.6	-	前後欠損、釘残、穴7
154-12	22	06-4ゴミ層	18c中~19c中	無櫓	19.9	(6.3)	5.3	3.2	-	黒漆塗
154-13	-	06-4ゴミ層	18c中~19c中	無櫓	18.7	11.2	7.7	4.8	-	台表に黒書(平次?)、釘残
154-14	-	64008	18c中~19c中	無櫓	22.6	8.2	7.9	2.6	-	台表に黒書(平次?)、釘残
154-15	-	64008	18c中~19c中	無櫓	22.4	8.7	8.0	3.6	-	台表に黒書(平次?)、釘残、釘一部残
155-1	-	06-22d	19c	無櫓	17.6	-	7.9	2.4	-	台一部欠損、子供用
155-2	-	06-22d	19c	無櫓	17.0	-	7.9	2.5	-	子供用
155-3	-	06-22d(別注)	19c	無櫓	16.0	-	7.9	2.5	-	跡残、子供用
155-4	-	53032	16c末~17c初	無櫓	16.3	-	(5.5)	1.9	-	子供用、台表に線刻、一部欠損
155-5	22	53032	16c末~17c初	無櫓	17.7	-	7.8	2.0	-	台表に線刻、台裏に穴3つ有り
155-6	-	53032	16c末~17c初	無櫓	19.8	-	9.2	2.0	-	一部欠損
155-7	-	53032	16c末~17c初	無櫓	23.0	-	(8.0)	1.8	-	陰化痕、一部欠損
155-8	-	64082	17c初	無櫓	13.9	-	(6.4)	1.4	-	子供用、台一部欠損
155-9	-	53032	16c末~17c初	無櫓	22.0	-	8.6	1.8	-	一部欠損、台表に刻文
155-10	-	53032	16c末~17c初	無櫓	19.6	-	(8.7)	1.6	-	台裏に刃跡
155-11	-	53032	16c末~17c初	無櫓	20.3	-	9.4	1.8	-	台裏に刃跡
155-12	-	53005	17c初~前	無櫓	21.9	-	(5.0)	1.6	-	台表に刻文、半分欠損
155-13	-	53032	16c末~17c初	無櫓	21.5	-	8.7	1.4	-	台裏に線刻
155-14	-	53032	16c末~17c初	無櫓	21.6	-	8.4	2.5	-	台裏に線刻
155-15	-	64012	19c中	無櫓	19.2	-	7.4	1.5	-	台裏に線刻
155-16	-	64087	17c後	無櫓	19.7	-	7.4	1.5	-	台裏に線刻
155-17	-	53032	16c末~17c初	無櫓	18.6	-	6.9	1.3	-	子供用
155-18	-	06-4堀	18c中~19c中	無櫓	16.0	-	6.6	0.8	-	釘一部残存、穴6、台裏に刃跡
155-19	-	53044	16c末~17c初	無櫓	21.4	-	7.6	1.1	-	釘一部残存、穴6
155-20	22	53044	16c末~17c初	無櫓	21.2	-	7.6	1.2	-	釘一部残存、穴6
155-21	-	53022-53101	16c末~17c初	無櫓	21.7	-	8.3	1.3	2.7	一部欠損
155-22	22	53032	16c末~17c初	有櫓	24.9	-	7.5	3.8	5.9	釘2残
155-23	-	53032	16c末~17c初	無櫓	22.0	-	9.6	1.8	-	釘2残

**胴木**（第157図1・2） この2点の胴木は、第67図に示す北人分門の北西側、東三ノ丸を巡る堀の南岸の石垣のものである。近代以降に削平され、本来存在したはずの石垣は無く、並列する胴木のみが検出され、そのうちの堀からみて、奥側の胴木にあたる（写真の右側）。この2本は、両先端約60cmが断面形斜めに切断されており、その中央部に直径約7.5cmの円形の孔が穿たれる。この部分が上下に接続し1本の胴木となっていた（模式図）。

1は長さ401.5cm、幅15.4cm、高さ12.9cm。2は長さ378.0cm、幅15.0cm、高さ13.0cmである。表面には、1に見られるような明瞭な鉋痕が残る。この加工痕の幅は、全幅のほぼ半分で、長さは約5cmである。材は芯持ちの角材で若干幅の方が大きい。



枕胴木組継手部分



第157図 北人分門付近石垣胴木

### 第3節 金属製品

金属製品は、確認したもののうち671点を採取した。このうち図化し得たのは326点であり、293点を図示し得た。以下、武器・武具、農工具、銭貨、煙管、日用品・その他の5項目に分ける。その他、鍛冶関連の遺物（取瓶・鞆羽口・鉞滓など）についても、ここで扱う。

**武器・武具**（第158図） 武器・武具は、刀（1）・切羽3点（2～4）・責金（5）・鞘（6）・小柄小刀13点（7～18）・小札（19）・鍔2点（20・21）を提示し得た。刀（1）は、切先側の大半と茎の先端を欠く。切羽3点のうち2・4は、周縁に「こきざみ」が施される。責金（5）は、鞘の割を防ぐ金具である。土圧を受けて変形している。鞘（6）は、紡錘様の形状に2孔を穿つ笠鞘である。甲冑や刀装具などに使用されたものと見られる。小柄小刀は、小柄を欠失し刀身のみもの（7～11）・刀身を欠き小柄のみもの（12～18）がある。9には判読不能ながら刃部に銘が見える。15～18は小柄に紋様がある。小札（19）は甲冑の部品である。鍔には、定角型の鍔（21）と盾割の鍔（20）がある。

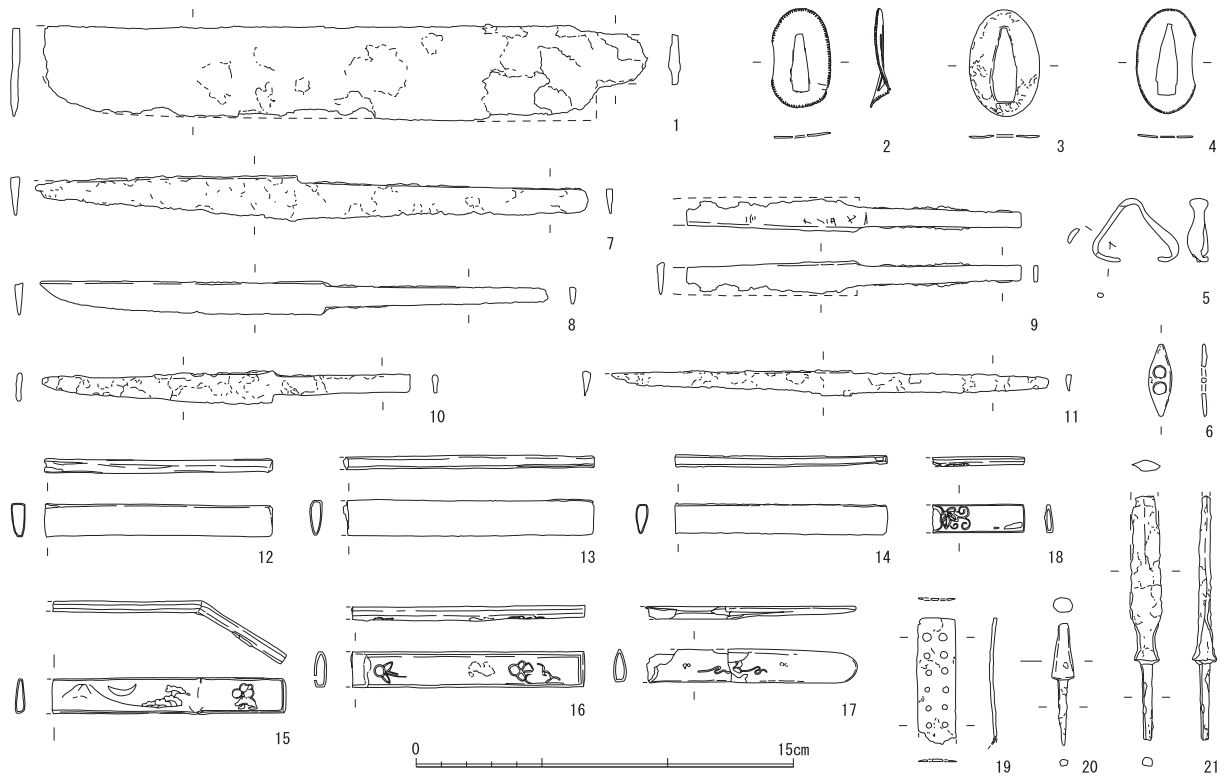
**弾丸**（第161図） 図示した弾丸のうち今回検出したものは11点（1～10・14）である。いずれも金属（鉛）製で、直径により4種程度の規格に分けられる（1.1～1.4cm：1～9，1.7～2.2cm：10～13，2.6～2.9cm：14・15，5cm：16）。なお、笏谷石製の弾丸（11～13・15）もある\*。

※笏谷石製弾丸（11～13・15）と大型弾丸（16）は、『福井城跡 福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008）から遺漏した遺物である。当報告書に参考として提示し報告の責を果たす。なお、笏谷石製弾丸（11～13・15）は中世の遺構から、大型弾丸（16）は近世の遺構から出土した。また、15は被熱により赤変している。

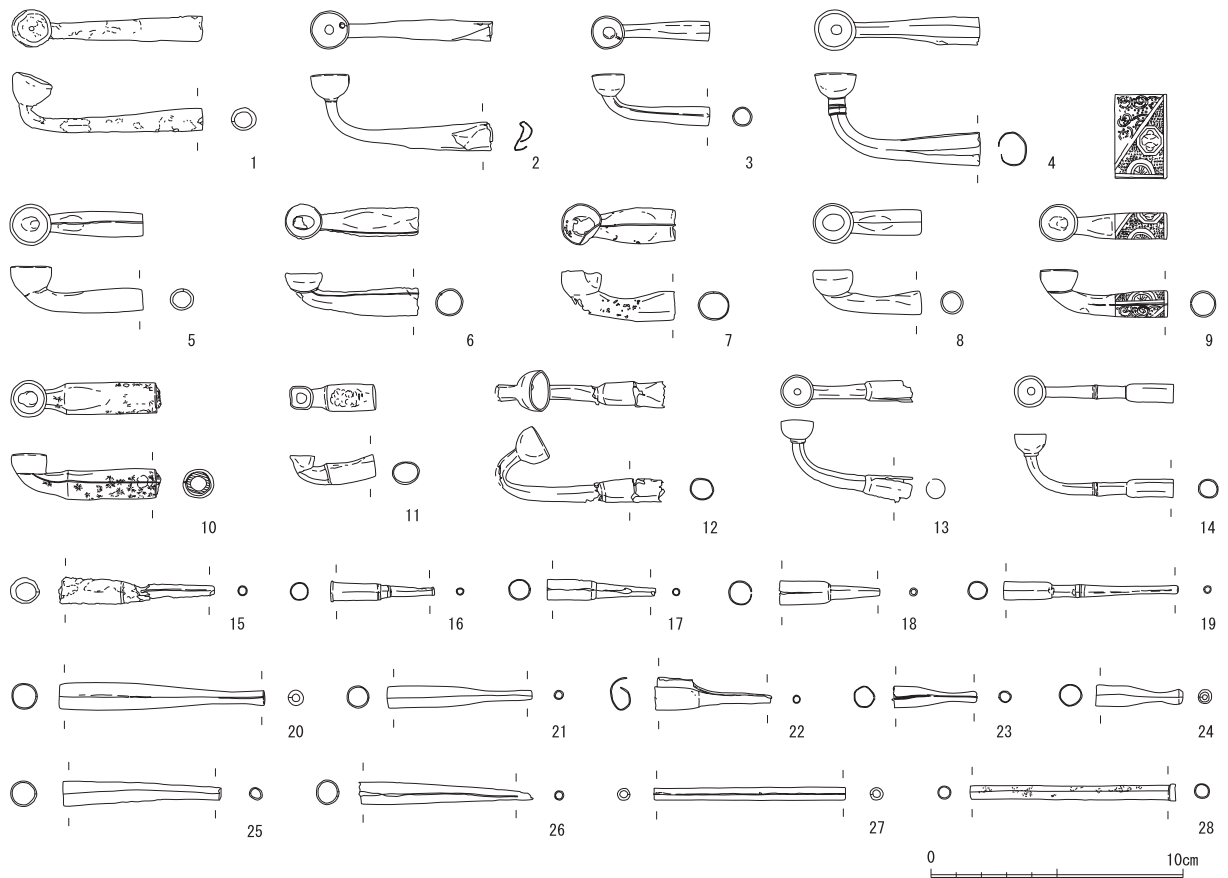
**農工具**（第160図） 農工具は、釘46点（1～46）・釣鉤3点（50～52）・鍬2点（53・54）・釘隠（47）・座金（48）・鋌（49）・鎌3点（66～68）・小刀3点（63～65）・鳶口2点（72・73）・楔2点（69・70）・鑿（71）・錘4点（59～62）を図示した。釘は、46が長さ9.5cmの合釘である以外は、いずれも巻頭釘（大巻）・頭巻釘（小巻）である。長さは3～15cmのものがあり、7種程度の規格に分けられる（3.2～3.5cm：40～45，4.3～5.2cm：30～39，6.2～6.8cm：20～23，7.5～8.5cm：15～19・24～29，9～10cm：8～14，11cm前後：4～7，15cm前後：1ほか）。釣鉤は、いずれも頭巻釘からの転用である。釘隠（47）には、表面に鶴や松などの線刻模様がある。小刀のうち63・64は木製の柄が残っており、紐などで結わえ固定した痕跡が残る。刃部の残存状況は良くない。65は、良好に残存し、顕著な研ぎ直しが窺えるが、木装は残存しない。鑿（71）は短く小形である。錘は、円盤型のもの（59～61）と、長い円錐形のもの（62）がある。59には、細い針金や別の金具が付けられており、重さを調整した痕跡と見られる。62は、上端に紐孔があり、底面には3つの削り痕がある。

**煙管**（第159図） 雁首は14点あり（1～14）、火皿接合のための補強体のあるもの（2・4）・羅宇装着のための肩部があるもの（10・11）・両者を備えるもの（12～14）・両者を欠くもの（1・3・5～9）がある。また、脂返し部分に着目すると、大きく湾曲するもの（2・4・12～14）・火皿付近で屈曲するもの（1・3）・太く直線的に伸び火皿につながるもの（5～11）に分かれる。なお、9には線刻や打刻による模様、10には打刻による模様がある。吸口は14点あり（15～28）、羅宇装着のための胴部があるもの（15～19・22）・ないもの（20・21・23～28）がある。また、狭義の吸口部分の形状から、先端が膨らむもの（20～24・28）・膨らみのないもの（15～19・25～27）に分けられる。これらの雁首・吸口のうち一個体を成したと見られるのは14・19のみである。ともに竹節を模した意匠であり、同様な肩・胴部が付く。27と28については、ともに細身の円筒形であり、あるいは性格の異なる製品であることが考えられる。

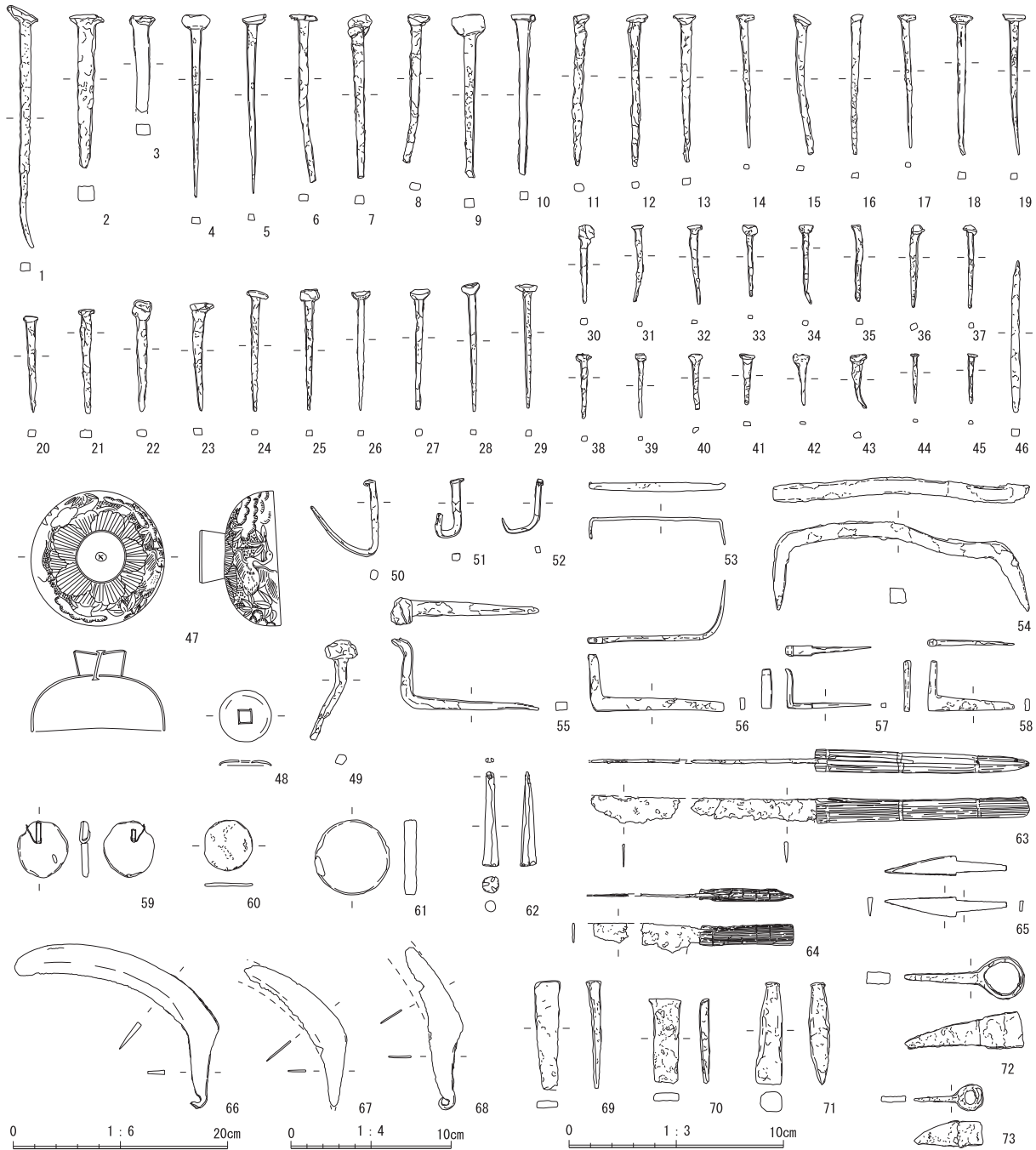
第3節 金属製品



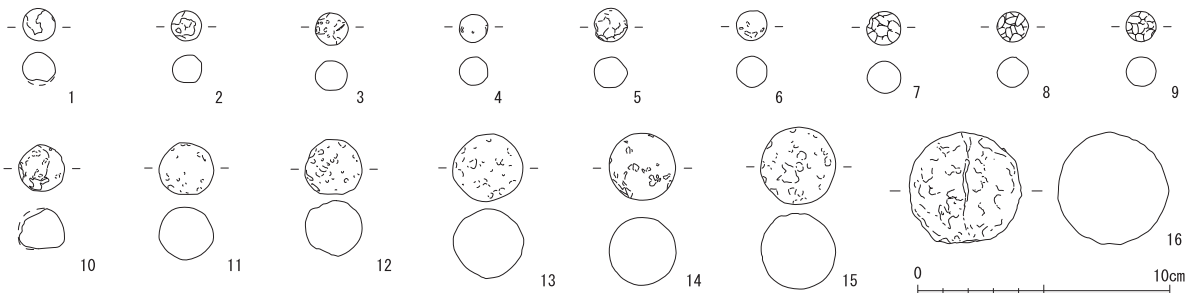
第158図 武器・武具類 (S=1/3)



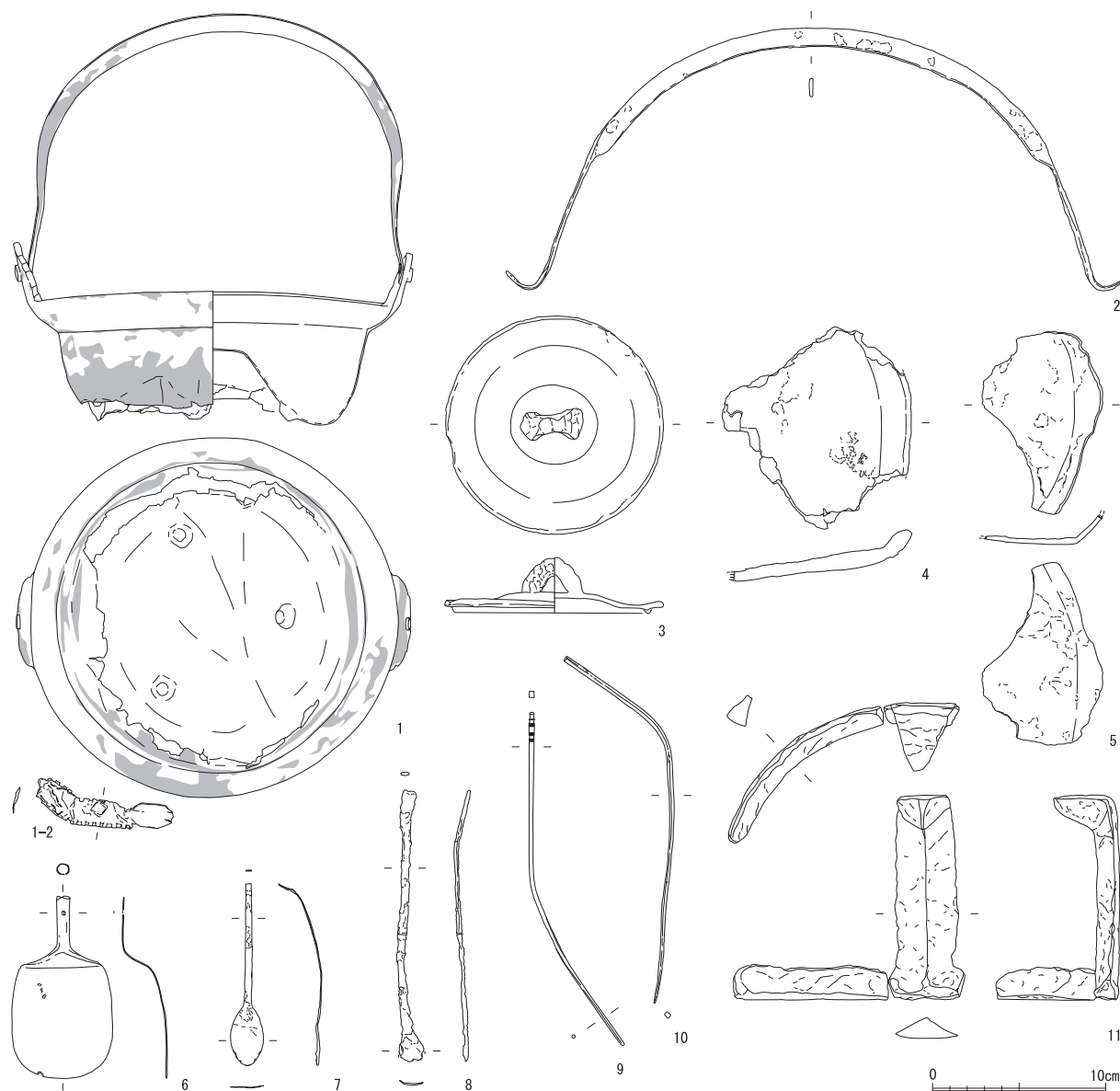
第159図 煙管 (S=1/3)



第160図 農工具類 (S=1/4 : 1~46・49~62・69~71 S=1/3 : 47・48 S=1/6 : 63~68・72・73)



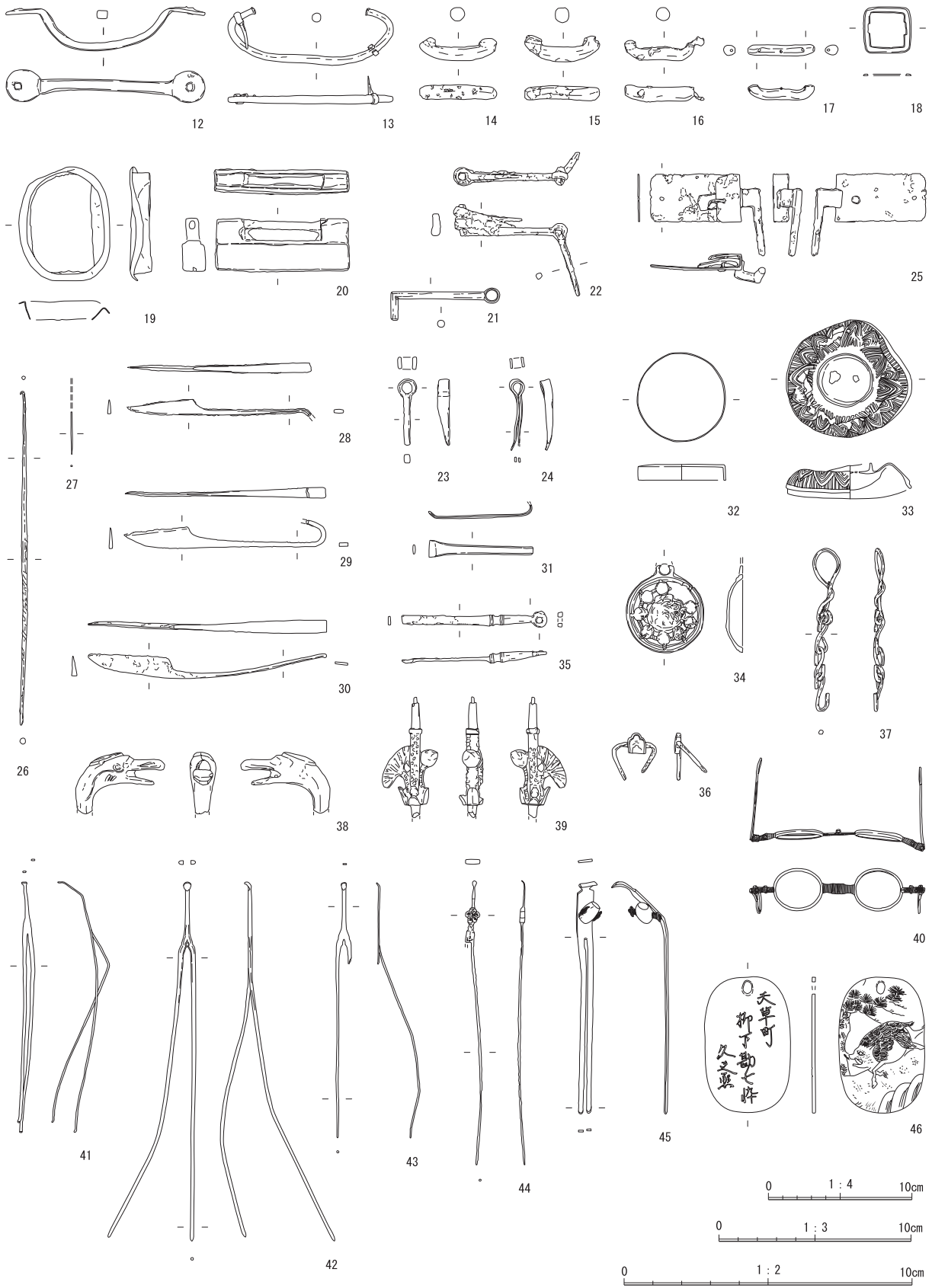
第161図 弾丸 (S=1/3)



第162図 金属製品 日用品① (S=1/4)

日用品・その他 (第162・163図) 鍋 (1・4・5)・鍋蓋 (3)・鍋吊金具 (2)・火箸 2点 (9・10)・五徳 (11)・灰匙 (6)・匙 2点 (7・8)・引手金具 6点 (12~17)・襖引手金具 2点 (18・19)・鍵 (21~23)・錠前 (20)・肘壺金具 (25)・割釘 (24)・鋏 3点 (28~30)・針 (27)・紡錘車 (26)・毛抜 (31)・容器 (蓋) (32・33)・燭台 (39)・人形 (38)・鎖 (37)・飾金具 (34~36)・眼鏡 (40)・簪 6点 (41~45)・迷子札 (46) を図示した。鍋 (1) は、完形であるが、底部が裂けて内側へ窪んでいる。脱落したが、裂け目を接いだ補修材 (1-2) があることから、破損後も使用したようである。底面には3つの脚が付く。4は口縁、5は底部の破片である。五徳 (11) は1つの脚と台部片のみ残存する。引手金具は、固定するもの (12)・本体が針金状で可倒式のもの (13)・可倒式の鋳造品 (14~17) がある。襖引手金具は、楕円形のもの (19) と小形方形のもの (18) がある。25は、その形状から肘壺金具とした。鋏 (28~30) は、いずれも片側の刃部を欠失する。針 (27) は頭部を欠く。紡錘車 (26) は糸巻棒のみである。片側の先端は小さく屈曲しており、中位付近の表面は振り状に

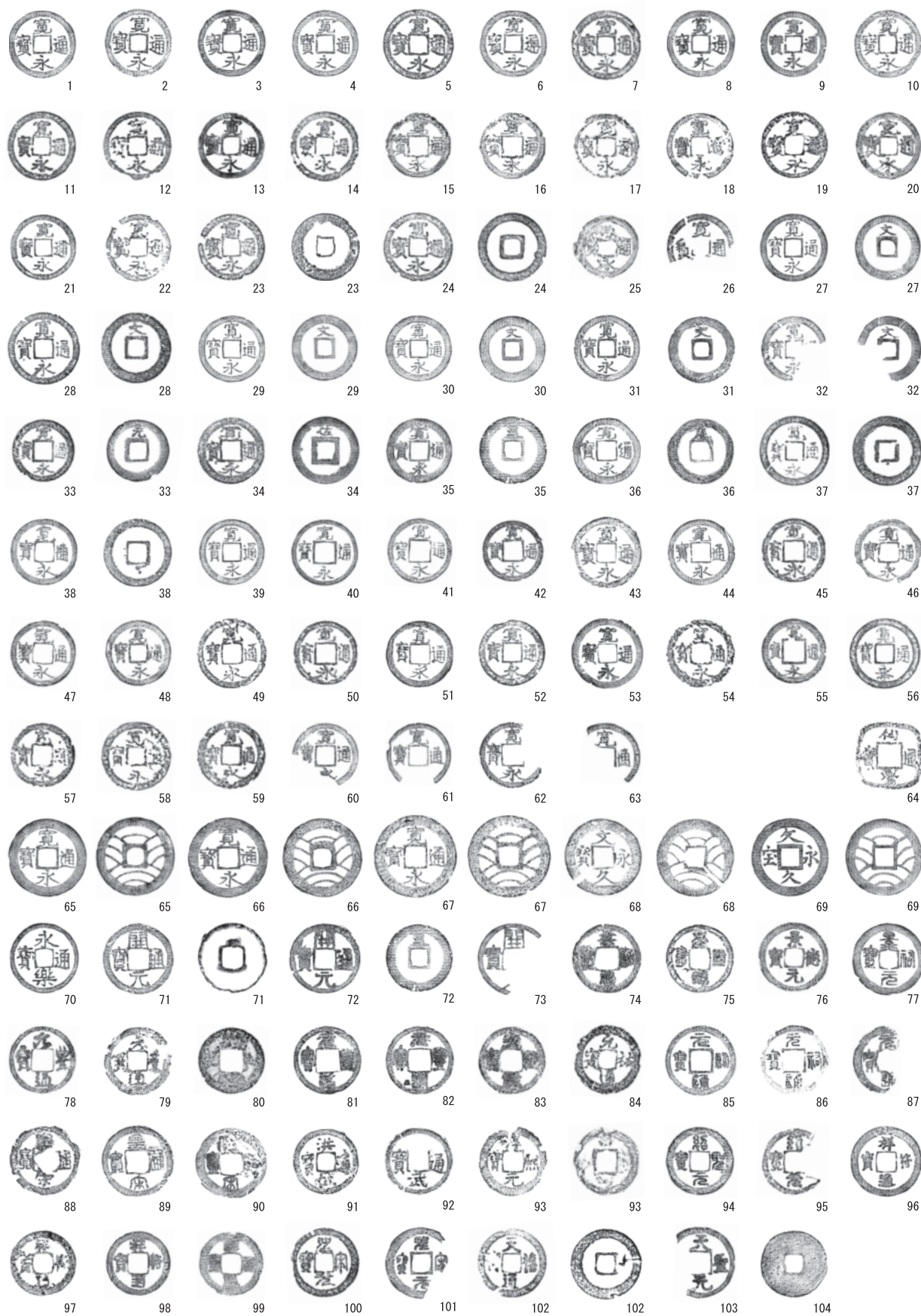
第4章 中・近世の遺物



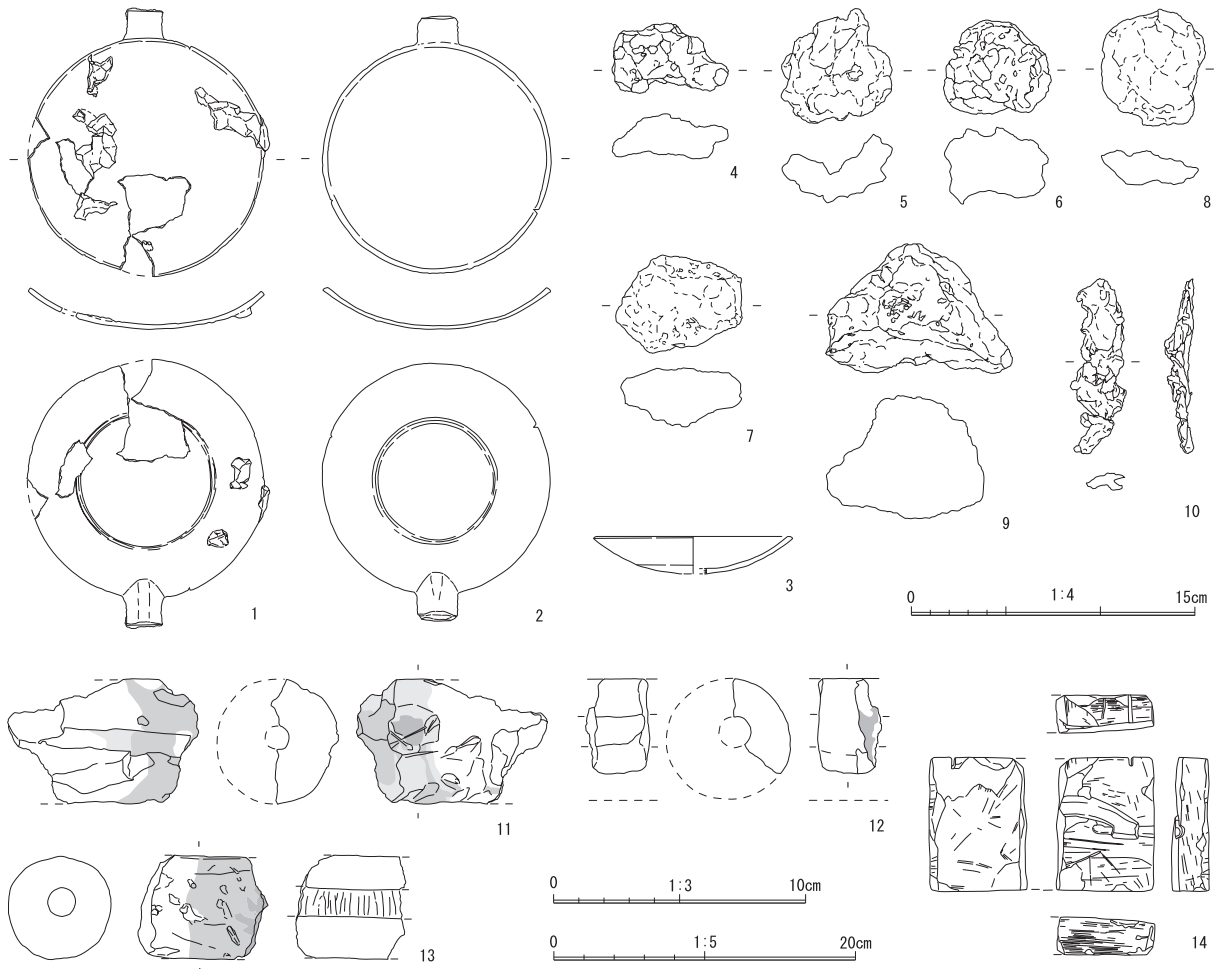
第163図 金属製品 日用品②・その他  
 (S=1/4 : 12・20~26 S=1/3 : 13~19・32・34~39・41~45 S=1/2 : 27・33・46)



第3節 金属製品



第164図 錢貨 (拓影 S=1/2)



第165図 鍛冶関連遺物 (S=1/4: 1~10 S=1/5: 11~13 S=1/3: 14)

成形される。毛抜 (31) も片側を欠失する。先端が大きく開いており、用途の異なることが考えられる。32・33については、不明ながら小形容器の蓋になるものと捉えた。32が扁平で装飾のないものであるのに対し、33は端部に返しを持ち、表面に細かい打刻による模様がある。燭台 (39) は、蠟燭を立てる先端部分のみの破片である。蓮の蕾と葉と見られる意匠が施される。飾金具 (34~36) は、いずれも不明品であるが、34・35は仏具に関連するものか。眼鏡 (40) は、折畳式の携帯品である。簪のうち44には梅の意匠が施されており、45には小槌を模した飾りが付けられている。迷子札 (46) は、小判形で上部に小孔があり、片面に猪の疾走する絵が、その裏面に「天草町 柳下勘七 久之丞」と住所・出自・名前が線刻されている。出土位置は、柳下邸北西の屋敷区画溝64002内である (第82・83図)。

**銭貨** (第164図) 銭貨は104点提示した。その内訳は、寛永通寶67点 (1~67) ・文久永寶2点 (68・69) ・仙台通寶 (64) ・永樂通寶 (70) ・開元通寶3点 (71~73) ・嘉祐通寶2点 (74・75) ・景德元寶 (76) ・景祐元寶 (77) ・元豊通寶6点 (78~83) ・元祐通寶3点 (84~86) ・元□ (豊・祐・符) 通寶 (87) ・皇宋通寶3点 (88~90) ・洪武通寶2点 (91・92) ・淳熙元寶 (93) ・紹聖元寶2点 (94・95) ・祥符通寶4点 (96~99) ・聖宋元寶2点 (100・101) ・天禧通寶 (102) ・天聖元寶 (103) ・無文銭 (104) である。寛永通寶の内訳は、古寛永26点 (1~26) ・文銭6点 (27~32) ・新寛永31点 (33~63) ・四文銭3点 (65~67) である。新寛永のうち32には「元」、33には「佐」、34・35には「足」の

背文がある。寛永通寶の四文銭（65～67）と文久永寶（68・69）の背面には、11波の波紋がある。仙台通寶（64）は、幕府の許可を得た仙台藩が、1784～87（天明4～7）年に铸た大・中・小三種のうちの小形品である。

**鍛冶関連遺物**（図165） 鍛冶に関連する遺物は、取瓶（1～3）・鞆羽口（11～13）・铸型（14）・鉾滓（4～10）がある。1～3は同様な製品と見られ、1に鉾滓の付着が顕著であることから、これらを取瓶とした。ただし、吊灯明皿を転用したものである。3は破片で、鉾滓の付着が不明瞭であるため、取瓶として転用されなかった可能性もある。鞆羽口はいずれも笏谷石製であり、先端部付近が被熱により赤変している。図示した鞆羽口のうち今回検出したものは12・13である\*。これらは06-1-2地区土橋の攪乱された部分から出土しており、破損後、石垣の裏込として詰められたことが窺える。铸型（14）は、笏谷石製であり、引手金具を铸造したものである。半分を欠失しており、湯口が僅かに残存する。湯口の脇に、型を合わせて固定するための直線状の刻みがある。鉾滓（4～10）は、不定形のものや碗形を呈するものがある。提示した7点のうち10のみ鉛である。

※鞆羽口のうち11は、『福井城跡 福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008）から遺漏した遺物である。当報告書に参考として提示し報告の責を果たす。なお、11は中世の遺構から出土した。

第15表 武器・武具類観察表

図版番号	種別	出土地点		計測値(cm・g)							備考	出土遺構の主な遺物からの時期	遺物番号	R番号	
				a	b	c	d	e	f	重さ					
158-17	小柄小刀	05-3	E・F・10-1	53032	(8.4)	1.3	0.5	—	—	—	13.9	小柄 文様あり	16C末～17C初	M53032-2	R 53032-53
158-12	小柄小刀	05-3	E・F・10-1	53032	9.0	1.4	0.6	—	—	—	13.0	小柄	16C末～17C初	M53032-3	R 53032-1
158-18	小柄小刀	05-3	E・F・10-1	53032	(3.7)	1.1	0.4	—	—	—	4.3	小柄片 文様あり	16C末～17C初	M53032-4	R 53032-114
158-11	小柄小刀	05-3	E・F・10-1	53032	17.3	1.0	0.3	9.5	7.6	—	10.3	刀身	16C末～17C初	M53032-5	R 53032-63
	小柄小刀	05-3	E・F・10-1	53032	(11.9)	1.0	0.3	9.5	6.3	—	11.1	刀身	16C末～17C初	M53032-6	R 53032-64
158-16	小柄小刀	05-4	C-5	54007	9.3	1.4	0.5	—	—	—	17.4	小柄 刀身片	17C後	M54007-1	R 54007-3
158-15	小柄小刀	06-3	I-9	63020	(9.3)	1.5	0.4	—	—	—	28.1	小柄		M63020-2	R 63020-3
158-13	小柄小刀	06-3	B-4	63056	9.9	1.5	0.5	—	—	—	19.4	小柄	17C後	M63056-1	R 63056-3
158-8	小柄小刀	06-4	F-9	64072	20.1	1.3	0.4	11.1	8.8	—	25.0		17C後～18C前	M64072-1	R 64072-6
158-9	小柄小刀	06-4	G-9	64072	13.3	1.3	0.3	—	6.4	—	14.0	不鮮明な銘 刃部欠損	17C後～18C前	M64072-3	R 64072-9
	小柄小刀	06-4	H-10	64082	7.1	1.1	0.3	4.9	2.2	—	7.0	刃部・茎欠損	17初(18C)	M64082	R 64082-4
158-10	小柄小刀	05-3	D-1	包含層	14.5	1.3	0.2	9.1	5.3	—	11.6	刀身		M53D1-1	R 53D1-5
158-14	小柄小刀	06-1-1	A-10	包含層	8.4	1.2	0.5	—	—	—	10.5	小柄		M611A10-3	R 611A10-28
158-1	刀	05-3	F・10-1	53037	23.9	3.8	0.5	(21.5)	(1.8)	—	107.2	刃部片	17C初	M53037-2	R 53037-2
158-7	刀	06-3	J-2	63120	(21.9)	(1.8)	0.4	13.0	11.4	—	29.5	刀身	17C後	M63120-1	R 63120-1
158-3	切羽	05-3	E・F・10-1	53032	4.2	2.8	0.15	—	—	—	2.8		16C末～17C初	M53032-1	R 53032-50
158-2	切羽	05-4	E-6	54025	3.9	2.4	0.3	—	—	—	4.0	「こきざみ」あり	16C末～17C後	M54025-2	R 54025-11
158-4	切羽	06-4	E-8	64011	4.1	2.2	0.07	—	—	—	1.0	「こきざみ」あり	18C後～19C	M64011-1	R 64011-3
158-5	貫金	06-3	F-6	63084	2.8	3.0	0.6	—	—	—	4.7	鞆 貫金具	17C後	M63084-2	R 63084-2
158-21	鐵	06-1-1	A-10	61105	9.7	1.3	0.4	—	—	—	11.1	定角型	17C後～19C	M61105-1	R 61105-5
158-20	鐵	06-3	G-8	63090	4.8	0.9	0.2	—	—	—	5.3	盾割の鐵		M63090-3	R 63090-8
158-19	小札	05-3	—	包含層	(5.0)	1.5	0.1	—	—	—	2.2			M53	R 53-2
158-6	鞆	05-4	D-5	54040	2.9	0.9	0.2	—	—	—	1.4	笠鞆	16C末～17C初	M54040-2	R 54040-5

第16表 煙管観察表

図版番号	種別	出土地点		計測値(cm・g)							備考・出土遺構の主な遺物からの時期	遺物番号	R番号		
				a	b	c	d	e	f	重さ					
159-11	雁首	05-4	G・6-7	54006	7.5	2.4	0.9	—	—	—	13.1		16C末～17C初(攪乱)	M54006	R 54006-11
159-12	雁首	06-3	I-10	63064	(6.7)	3.0	0.9	1.4	1.1	(2.7)	6.4	肩付 補強帯付		M63064-22	R 63064-35
159-2	雁首	06-3	I・1・10	63064	7.2	3.0	1.2	—	—	—	6.3	補強帯付 火皿に小孔		M63064-23	R 63064-36
159-14	雁首	06-3	B-4	63136	6.3	2.5	0.7	1.2	0.9	1.9	6.6	肩付 補強帯付 竹の節を模す 火皿に小孔	17C後	M63136-1	R 63136-1
159-4	雁首	06-3	I・J-1	63218	6.6	3.7	1.3	—	—	—	8.4	補強帯付	17C前	M63218-4	R 63218-8
159-9	雁首	06-3	F-7	63527	5.1	1.9	1.0	1.5	0.9	2.1	8.7	線刻・打刻模様	17C～18C後	M63527-1	R 63527-1
159-13	雁首	06-4	F-8	64004	5.2	3.3	0.9	1.3	0.8	1.9	5.0	肩付 補強帯付	18C後～19C	M64004	R 64004-2
159-8	雁首	06-4	E-8	64011	4.3	1.7	0.9	1.6	0.9	—	7.0			M64011-2	R 64011-3
159-3	雁首	06-12	堀	R-4	4.7	2.1	8.0	—	—	—	5.9			M4	R 4
159-11	雁首	06-4	H-1	攪乱	3.4	1.2	0.9	1.0	0.7	2.1	6.0	肩付		M64K32	R 64K-32
159-10	雁首	06-14N	E-7	立会溝	5.9	1.9	1.2	—	—	—	17.6	肩付 打刻模様 ラウの一部残存		M64906	R 64906
159-5	雁首	06-14N	E-8	立会2	5.3	1.9	0.9	—	—	—	12.8			M64902	R 64902
159-7	雁首	06-1-1	B-10	包含層	4.5	2.0	1.1	—	—	—	5.6			M611B10-1	R 611B10-2
159-6	雁首	06-4	I-2	包含層	5.3	1.8	1.2	1.5	0.8	—	8.0			M64I2-2	R 64I2-5
159-15	吸口	05-4	G-8	54010	6.2	1.1	0.4	2.3	—	—	5.4	肩付	17C後	M54010-2	R 54010-4
159-21	吸口	05-4	F・G-8	54010-11	5.8	0.9	0.4	—	—	—	4.5		17C	M54010-11	R 54010-11-4
159-25	吸口	06-3	B-4	63056	6.3	1.0	0.5	—	—	—	4.3		17C後	M63056-2	R 63056-4
159-24	吸口	06-3	I-10	63057	3.5	0.9	0.6	—	—	—	2.3			M63057	R 63057-2
159-22	吸口	06-3	I-10	63064	4.6	1.3	0.3	1.8	—	—	2.2			M63064-9	R 63064-20
159-18	吸口	06-3	J-2	63120	4.0	1.0	0.3	2.0	—	—	3.4			M63120-4	R 63120-4
159-16	吸口	06-3	I-1	63135	4.1	0.8	0.3	2.0	—	—	1.7			M63135	R 63135-2
159-19	吸口	06-3	B-4	63136	6.9	0.7	0.3	1.9	—	—	4.0			M63136-2	R 63136-1
159-27	吸口?	06-3	J-1	63099	7.6	0.5	0.5	—	—	—	8.0			M63099	R 63099
159-26	吸口	06-4	—	—	7.0	1.0	0.3	—	—	—	4.0			M64-11	R 64-11
159-23	吸口	06-1-2	I-6	攪乱	3.4	0.9	0.5	—	—	—	2.0			M612K99-2	R 612K-99
159-28	吸口	06-1-1	A-10	包含層	8.2	0.5	0.7	—	—	—	5.9			M611A10-6	R 611A10-29
159-20	吸口	06-2	D-3・4	包含層	8.1	1.1	0.6	—	—	—	12.0			M62D3-1	R 62D3-3
159-17	吸口	06-4	G-10	包含層	4.3	0.9	0.3	2.0	—	—	1.0			M64G10-5	R 64G10-13
	吸口?	06-3	H-9	63075	1.6	1.3	1.3	—	—	—	1.6			M63075	R 63075





## 第4節 石製品

石製品は、確認したもののうち750点を採取した。このうち、表を含めて提示し得たのは137点であり、101点を図示した。石製品は、おもに笏谷石製である。その種別は、石瓦・石臼・行火・井戸枠・竈・石塔類など、多岐にわたる。ここでは、種別ごとの数量から便宜的に、石瓦・石臼・バンドコ（行火）・容器状石製品・基石・その他と6項目に分ける。

**石瓦**（第166～168図） 石瓦は、軒丸瓦2点（166-1・2）・丸瓦11点（166-3～12）・軒平瓦5点（167-4～8）・平瓦5点（167-1～3・9・10）・棟瓦6点（168-1～6）がある。いずれも笏谷石製である。軒丸瓦（166-1）は、瓦当下部と背後の基部を欠く。166-2は瓦当下半のみである。どちらも瓦当は無紋である。丸瓦は、背後の基部のみ残るもの6点（166-3～10）と先端部のみ残るもの2点（166-11・12）がある。166-9は基部の接継面に「+」の刻印があり、166-10は接継突起に中心線の線刻がある。軒平瓦の瓦当はいずれも無紋である。167-7には瓦当に4条の線刻があるが、粗雑であり、紋様として彫られたものとは思えない。瓦当の形状は、基本的に通常の瓦と同様であるが、167-5については下部の両角が直角に広がる特殊な形状である。平瓦は、先端を欠き背後の面の残るもの（167-1～3）と、逆に先端の面のみ残るもの（167-9・10）がある。背後の両角付近に釘穴を持つもの（167-1・3）と無いもの（167-2）がある。167-9の先端付近上面には、「#」の刻印がある。平瓦の上面は平滑に仕上げられるが、下面は鑿による粗い成形のみである。しかし屋根に葺く際、下の瓦に重なる先端部分については、上面同様平滑に整形される。棟瓦は、角形（168-1～4）と丸形（168-5・6）があり、角形には頂部に稜を持つ有稜型（168-1・4）と無稜型（168-2・3）がある。168-5は大型品であるが、片側の端面のみの残欠である。168-6は、先端に傾斜する面を持ち、石鬼瓦の鳥衾である可能性がある。

**石臼**（第169図） 粉挽臼（1～7）と茶臼（8）がある。粉挽臼は、上臼3点（1～3）・下臼4点（4～8）である。4は下臼受皿の注口である。注口のみのため詳細を欠くが、茶臼の下臼である可能性もある。8は茶臼の上臼である。いずれも播り目の磨耗・消滅が激しい。1は本体が薄く変形するが、さらに播り目が目立てされている。5のみ笏谷石でなく、花崗岩系の石材である。

**バンドコ（行火）**（第170図） 9点を図示した。バンドコはその形状から、手焙り型・楕円型・D型に分けられる。手焙り型は、立方体に近い形状で、やや上向きに傾く正面部が大きく方形に開口する。楕円型は、平面形が楕円形であり、体部が直立する。D型は、平面形がD形で、正面のみが平面となるものである。楕円・D型ともに上部が開放しており、返しのある蓋が付属する。そして、正面には縦長の長方形を基本とする孔が、窓のように複数並ぶ。1～3は楕円型の蓋である。2・3は小形品で、ともに破片であるが線刻模様と煙出しの孔が確認できる。煙出し孔は、2には中央に1つの円孔があり、3については4つの菱形孔が菱形に配されるようである。4～6はD型の蓋である。7～9は楕円型の本体であるが、いずれも残存率が低い。

**容器状製品**（第171図） 容器状の製品は、平面形が円形で緩やかに湾曲して立ち上がる体部のものを鉢（18・19）、体部立ち上がり直線的なもののうち、平面形が方形・円形など多様で体部長が底部短辺や（短）径の半分程度までのものを盤（1～3・6・16）、平面形が方形で体部長が底部辺の1/2程度を超えるものを槽（4・5・7・8）とした。ただし、盤と槽の区別は困難な例も少なくない。これらが表面を平滑に仕上げているのに対し、粗い成形のものや歪なもの・他の製品を再加工したと見られるものなどは単に容器（9～15・17）とした。これら容器状製品の多くは、煤の付着や被熱痕が認められることから、最終的には形態差を超えて火容器として使用され、廃棄されたものと見られる。盤

第4節 石製品



第166图 石瓦① (S=1/10)



第167図 石瓦② (S=1/10)



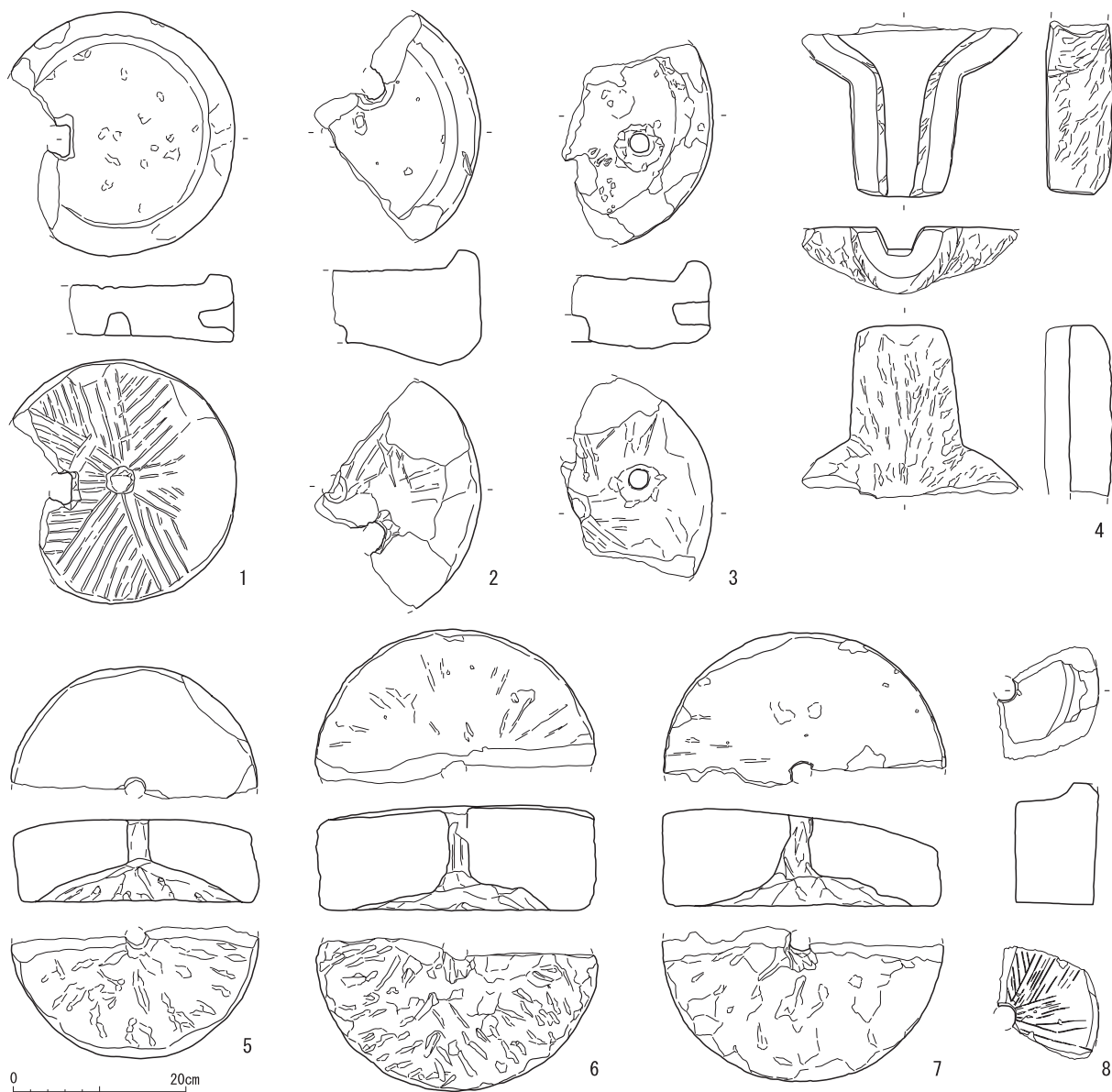
第4節 石製品



第168図 石瓦③ (S=1/10)

第22表 石瓦観察表

図版番号	種別	出土地点	計測値(cm)					備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号	R番号			
			a	b	c	d	e							
166-1	軒丸瓦	06-4	A-5	外堀埋土	瓦当	(45.0)	(14.6)	(11.8)	—	—	瓦当 瓦当欠損	外堀埋土S1	R外堀埋土	
166-2	軒丸瓦	06-1-1	B-10	611005	瓦当	(8.5)	(14.7)	—	—	—	瓦当のみ 無紋	17後~近代	611058 S3	R61105-8
166-5	丸瓦	06-4	I-2	64027	瓦当	(8.7)	14.7	2.9	—	—	基部のみ	18後~, 19~近代	64027 S1	R64027-11
166-7	丸瓦	06-4	G-9	64028	瓦当	(33.8)	13.8	12.2	3.0	6.2	基部	(17~)19中~近代	64028 S27	R64028-2
166-4	丸瓦	06-4	G-9	64028	瓦当	(37.7)	14.5	11.8	2.9	6.0	基部	(17~)19中~近代	64028 S26	R64028-2
166-10	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(17.4)	15.6	12.6	3.6	4.4	基部 線刻あり		612K134 S1	R612K-134
166-11	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(25.3)	13.4	8.0	—	—	先端		612K134 S6	R612K-134
166-6	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(36.3)	13.3	10.2	3.5	4.0	基部		612K134 S7	R612K-134
166-8	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(24.1)	14.0	9.7	2.8	4.8	基部	19	612K13 S1	R612K-13
166-12	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(23.2)	14.7	6.4	—	—	先端	19	612K13 S2	R612K-13
166-9	丸瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(16.3)	(14.9)	(11.0)	2.8	4.8	基部 線刻あり	19	612K43 S2	R612K-43
166-3	丸瓦	06-3	I-1	包含層	瓦当	45.3	13.7	8.8	3.6	2.8	ほぼ完形	17~19	63 I1 S4	R63 I1-14
167-5	軒平瓦	06-3		63520	瓦当	5.3	(28.4)	4.0	3.3	—	瓦当 瓦当部分角張る	19	63520 S10	R63520-19
167-4	軒平瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(28.9)	31.9	—	—	—				
167-6	軒平瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(17.0)	31.4	4.1	—	—	瓦当 2点接合	612K134 S4-11	R612K-134	
167-8	(軒)平瓦	06-3	J-1	63820	瓦当	6.6	30.9	3.7	2.5	—				
167-1	(軒)平瓦	06-1-2		攪乱	瓦当	(18.9)	31.0	—	—	—	瓦当 2点接合	612K134 S5-12	R612K-134	
167-3	平瓦	06-2	C-3	62526	瓦当	6.5	27.6	4.5	3.4	—				
167-10	平瓦	06-2	C-3	62526	瓦当	(27.9)	(22.9)	—	—	—	瓦当 瓦当部分小さい	63820 S11	R63820	
167-9	平瓦	06-2	C-3	62526	瓦当	3.8	(22.1)	3.0	1.2	—				
167-2	平瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(18.2)	(30.9)	4.5	—	—	背後のみ 孔あり	19	612K13 S1	R612K-13
168-5	棟先瓦(烏衾)	06-3	F-5	包含層	瓦当	(15.6)	(18.2)	4.4	—	—	瓦当に縦摺痕	64K22 S3	R64K-22	
168-4	棟瓦	06-4	G-9	64028	瓦当	6.1	(15.3)	3.1	2.0	—				
168-3	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(45.5)	27.3	4.7	—	—	基部	17?	62526 S64-68	R62526-44
168-2	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(32.9)	(27.5)	4.5	—	—	先端 上面に線刻(井)	17?	62526 S66	R62526-44
168-1	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(47.0)	27.7	3.3	—	—				
168-5	棟瓦	06-1-3		包含層	瓦当	(43.8)	31.8	3.9	—	—	基部 2点接合	17初~後, 19	64067 S1-2	R64067-3
					瓦当	(33.6)	15.6	9.5	—	—	先端	19前~中	63090 S3	R63090-5
168-4	棟瓦	06-4	G-9	64028	瓦当	(33.8)	13.8	12.2	3.0	—	基部 上面に稜あり	(17~)19中~近代	64028 S19	R64028-2
168-3	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(60.4)	13.0	8.3	3.3	1.9	ほぼ完形 上面に稜なし	17初~後, 19	64067 S1	R64067-3
168-2	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(59.2)	14.0	9.7	2.7	2.9	ほぼ完形 上面に稜あり	17初~後, 19	64067 S2	R64067-3
168-1	棟瓦	06-4	G-10	64067	瓦当	(57.0)	13.8	9.0	3.2	2.6	ほぼ完形 上面に稜なし	17初~後, 19	64067 S3	R64067-3
168-5	棟瓦	06-1-3		包含層	瓦当	(13.6)	21.7	15.1	—	—				



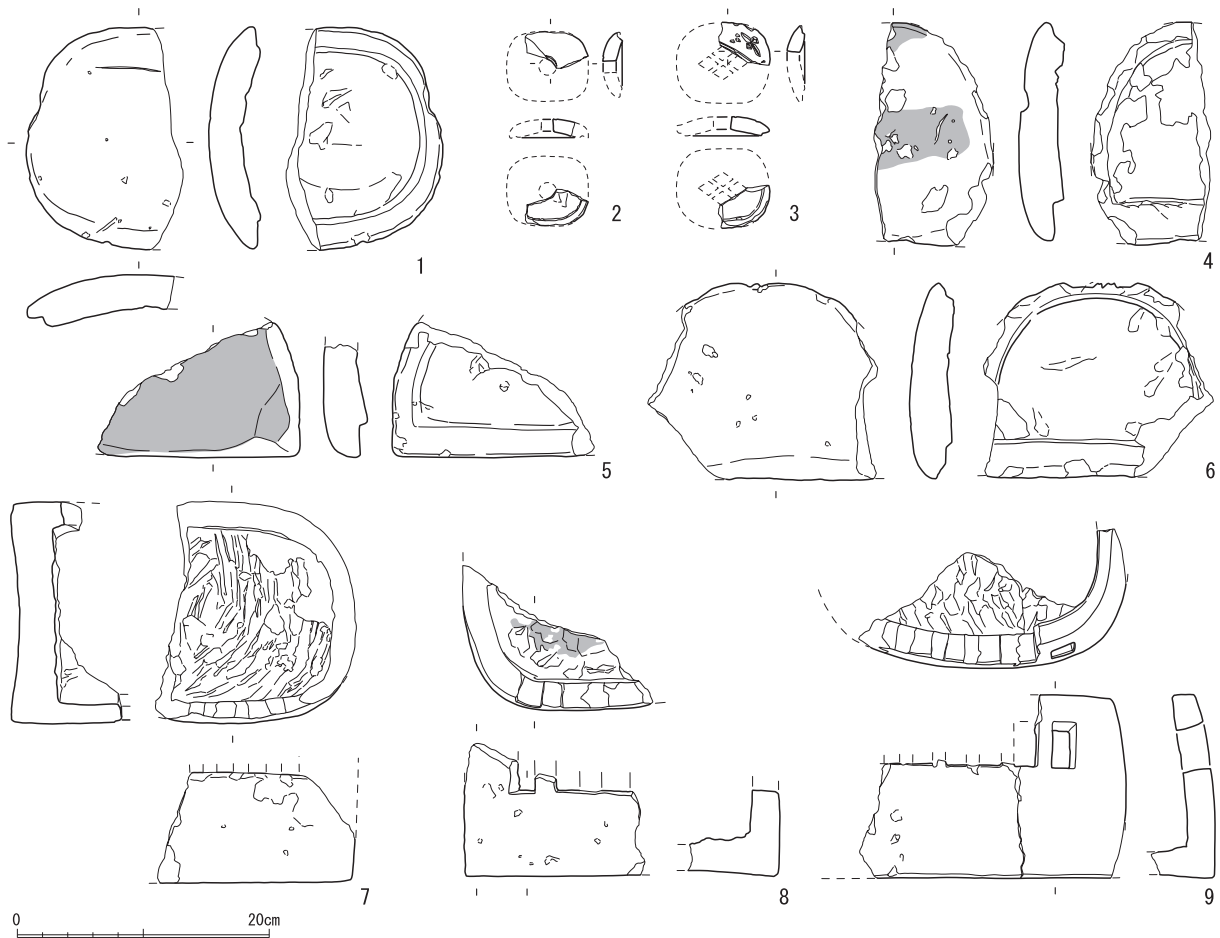
第169図 石臼 (S=1/8)

第23表 石臼観察表

図版番号	種別	出土地点				計測値(cm)				備考	出土遺構の主な遺物の時期	遺物番号	R番号
						径	全高	縁高	底割込				
169-8	茶臼	06-2	J-9	包谷層	(11.7)	14.0	2.3	0.3	1/6程度 上臼	16中～後	62 S39	R62 19-12	
169-2	粉挽臼	06-2	I-8	621106	(18.2)	(13.2)	2.0	-	1/4 上臼 掃り目摩滅	17初～前	62 S82	R621106-8	
169-3	粉挽臼	06-3		63160	(17.4)	10.4	2.4	3	1/4程度 上臼 掃り目摩滅		63 S40	R63160	
169-1	粉挽臼	06-4	F-G-9	64072	(25.7)	28.2	1.1	2.7	完形に近い 上臼 掃り目残るが物配りほぼ消失	17後～18後	64 S1	R64072-10	
169-5	粉挽臼	06-1-1	B-10	611005	(24.8)	9.6	-	(4.9)	下臼 掃り目消滅 花崗岩	17後～近代	611058 S1	R611058-8	
169-6	粉挽臼	06-2	I-8	621106	(27.1)	12.1	-	(2.3)	1/2 下臼 掃り目摩滅	17初～前	62 S70	R621106-8	
169-7	粉挽臼	06-2	I-8	621106	(27.6)	11.2	-	(3.6)	1/2 下臼 掃り目消滅	17初～前	62 S71	R621106-8	
169-4	粉挽臼	05-3	A-3	53016	幅(24.9)	長さ(19.9)	高さ(7.7)	縁高 -	下臼 受部注口部分のみ	17初～19前	53016 S4	R53016-2	

は、円形（1～3）と方形（6・16）があり、いずれも脚が確認される。6は、一隅の内面が弧状に肥厚する。体部外面・端部は面を揃え、内側にのみ弧を描くように膨らむ。いずれの面も平滑に仕上げられており、単なる削り残しではなく何らかの機能を持つと見られるが、用途は不明である。このように体部内面に弧状隆起を持つ例や一隅に突起などを持つ例は、これまでの福井城跡の調査でも確認されている。一辺10～20cm程度の盤あるいは槽に多く認められ、内部に仕切りを持つものもある。この規格のもの使用法の一例として、仏壇の香炉などが想定される。槽（4・5・7・8）は、いずれもよく似

第4節 石製品



第170図 バンドコ (行火) (S=1/6)

第24表 バンドコ (行火) 観察表

図版番号	種別	出土地点	計測値 (cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号	R番号	
			全高	横幅	奥行					
	バンドコ	05-3 A-3	53056	(6.7)	(13.1)	(17.6)	手磨り形	16末~17初(後)	53056 S1	R53056
170-1	バンドコ(蓋)	05-3 F-10	53101	4.1	(12.4)	17.6	楕円形	16末~17初・前	53101 S5	R53101-11
170-2	バンドコ(蓋)	05-3 J-4	包含層	1.5	(2.9)	(5.0)	楕円形 小型 円孔・沈澱あり	17後	53 J4 S1	R53 J4-2
170-9	バンドコ(身)	05-4 B-4	54056	14.5	(21.1)	(10.2)	楕円形 正面下部分のみ	16末	54 S18	R54056-6
170-3	バンドコ(蓋)	05-4 I-8	包含層	(1.5)	(4.0)	(3.4)	楕円形 小型 方形孔跡2 模様	16末	54 S17	R54 I8-13
170-8	バンドコ(身)	06-1-1 A-10	包含層	(10.5)	(15.1)	(11.5)	楕円形	17後	611 A10 S18	R611 A10-19
170-5	バンドコ(蓋)	06-2 A-10	包含層	3.5	(8.9)	(14.6)	D形	~16中	62 S44	R62 A10-4
171-13	(バンドコ)	06-2 J-9	621135	7.7	(13.4)	(9.4)	小型 D形? 刃傷あり	17初	62 S13	R621135-7
170-7	バンドコ(身)	06-3 A-3	63112	(8.8)	(16.0)	17.6	楕円形 窓の柱痕跡	16末~17	63 S17	R63112-2
170-4	バンドコ(蓋)	06-3 A-3	63106	3.6	17.6	(9.5)	完形に近い D形	17初~前	63 S21	R63106-9
170-6	バンドコ(蓋)	06-3 B-4	63168	3.5	15.6	18.1	1/3程度 D形	17後	63 S20	R63168-8

た形状であるが、大きさや脚の形状などによって、いくつかの規格に分けられるようである。粗製品や再加工品などを容器 (9~15・17) として括る。11・12は粗く歪な成形で、職人による製品ではないことが考えられる。9・10は、調整が粗く器壁が厚いが、表面は比較的平滑に整形される。13はD型バンドコから、14は別製品からの再加工品と見られる。15は小形品であり、見込みが浅いことから他の用途も考えられる。17は、口縁部片のみである。内面が平滑であるのに対し、外面の調整は粗い。器壁が厚いことから大型品と見られ、置火鉢や炉壇石のような製品と捉えられる。鉢は、口縁部 (18) と体部片 (19) がある。18の内面は平滑に仕上げられるが、外面は鑿切り (簾加工) で仕上げられる。19は内外面とも平滑に仕上げられ、体部に箍状の突起が巡るもので深身である。口縁部は欠失する。

その他 (第172・173図) その他として、硯 (172-1~10)、砥石 (172-11~21)、石塔類 (173-1~3)、井戸枠 (173-4)、竈 (173-5・6)、石製臼 (173-7)、槌 (173-8)、重石 (173-9・10)、支脚 (173-11~



第171図 容器状石製品 (S=1/6)

第4節 石製品



第172図 硯・砥石 (S=1/4 拓影S=1/2)



第173図 その他の石製品 (S=1/10: 1~7 S=1/15: 8 S=1/8: 9~13 S=1/4: 14・15)

13)、人形(173-14・15)、碁石(写真図版27)がある。検出した碁は、使い込んで中央の窪むものが比較的多く、その多くが碎片となっていた。残存状況が良好で掲載し得たのは細身のものが多い。碁(172-1~10)は、いずれも長方形であるが、背面が平坦なもの(172-3・6・8)と、背面を抉るもの(172-1・2・5・7・9・10)がある。172-5は、碁尻に向かい削り込んで擬脚を形成するものと見られるが、陸側の大半を欠くため不明である。172-2は背面、172-9は側面に銘がある。172-2の銘は崩し字で不鮮明な文字であるが、「□下打(村カ) □(町カ)」と見える。172-9の銘は「吉田吉五□之□」と見え、人名のようである。172-4は海周縁の縁破片であり、表面に兎の模様が線刻されている。碁石は、直方体に近い形態(172-11~15)、扁平な円形(16~20)、不定形なもの(21)がある。172-11は剥片であるが、表面に線刻が残る。12~15は全面をよく使用し、変形している。16~20は、使用痕と見られる痕跡が確認できるものもあるが、使用痕が不明瞭で碁石でない可能性のあるものも含まれる。21は筋碁石である。裏面や側面にも使用痕が残る。石塔類は、組合式五輪塔の火輪(173-1)・水輪(173-2)と、灯籠の火袋と見られるもの(173-3)がある。173-3は中空で大きな円窓を持つ。内外面とも鑿により粗く仕上げられるが、上下端付近は平滑に仕上げられている。井戸枠(173-4)は、井桁に組んだ木製の井戸枠を模したものであり、組み合わせる4枚の加工した石材のうち、長方形の柄穴のある石材の下端部片である。竈は、薄手で底・脚のあるもの(173-5)と分厚くて底の無いもの(173-6)がある。両者とも焚口部分の破片である。石製臼(173-7)は、精米などに使用する臼である。作業時の米の流出を防ぐため、口縁部内面が内傾している。外面の調整が粗く、口縁部に固定するためと見られる挟りがあるため、唐臼の臼として使用されたことも推測される。樋(173-8)は、体部内面・上端面が平滑に仕上げられる以外は、粗い調整である。内側に仕切り板などを差し込む溝がある。この樋は、06-2北側地区B街区にある苑池62526の排水口部分に使用されたものであり、水量調節用の堰板をはめ込んだと見られるものである(第71図下)。重石(173-9・10)は、やや扁平な円形で中央孔がある。173-11~13は支脚と考える製品である。173-13の鈎部分が欠損し、煤の付着が認められない以外は、鈎先端・上面を除き全体に煤が付着する。複数を灰に突き立て、五徳のように使用したものと考える。人形(173-14・15)のうち173-14は、長方形の台座上に正座をした姿であり、頭部と両手を欠く。この人形の類例は、これまでの福井城跡の調査で確認されており、いずれも様相が共通する。そのうちに、臀部に短い尻尾状の隆起が認められるものや、鼓を持つもの、何かを両手で持って尖った口で銜えるような所作のものが確認される。そのためこれらは様々な楽器を演奏する猿の人形と捉えられ、広く普及した人形と見られる。今回の人形(173-14)は、曲げた右肘と右肩上に認められる隆起から、鼓を打つ姿のようである。173-5は未成品と見られるが、あるいは職人による製品ではない可能性がある。碁石と見られるものは、36点を掲示した。そのうち今回検出したのは26点ある\*。これらの大半は黒石で、白石と捉えられるものは8点ある(写真図版27 碁石-3・10・11・14・27・29・32・34)が、明瞭な色調の白石は1点のみ(3)である。いずれも自然のままのような歪な形状であり、正円には整えられていない。

\* 掲示した碁石のうち10点は、『福井城跡 福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査』(福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008)から遺漏した遺物である。当報告書に参考として掲載し報告の責を果たす。

第4章 中・近世の遺物

第25表 容器状石製品観察表

図版番号	種別	出土地点	計測値(cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号	R番号	
			全高	楕圓	奥行					
171-1	盤	06-3 J-A-2	63006	8.9 (18.0)	16.9	円形 脚付 整形 内面被熱	～19中	63 S14	R63006-19	
171-3	盤	06-3	63520	(7.4)	(8.6)	(7.8)	円形? 一脚のみ	19	63 S33	R63520-19
171-2	盤	06-1-1 A-10	包含層	8.0	(16.0)	(10.8)		17後	611A10 S5	R611A10-44
171-16	盤	06-1-1 A-10	包含層	18.2	(19.1)	—	大型 方形	17後	611A10 S20	R611A10-18
171-5	槽	06-4 F-9	包含層	13.5	(11.8)	(13.6)	一隅のみ 内面被熱	18中～近代	64 S1	R64 F9-3
171-7	槽	05-4	54054	8.5	(10.9)	(9.0)	方形 内面被熱	17後	54 S15	R54054-2
171-6	槽	06-3 A-2	63192	6.4	16.2	11.9	内面被熱	16末～17初	63 S30	R63192-2
171-4	槽	05-3 A-4	包含層	7.9	(8.9)	(5.1)	方形 脚付 一隅のみ	17～18前	53A4 S1	R53A4-6
171-8	槽	06-3 D-4	包含層	7.9	(12.1)	(8.1)	内面被熱	17中～後	63 S31	R63D4-2
171-19	鉢	06-3 B-5	包含層	(11.9)	(5.2)	—	外面に蓋状突起風裝飾 深鉢?	～19中～近代	63 S48	R63B5-2
171-17	容器	06-4 G-9	64028	(15.3)	(25.1)	(4.8)	口縁部のみ 被熱痕	(17～)19中～近代	64 S15	R64028-2
171-9	容器	06-1-1 A-1	包含層	6.7	22.0	(11.3)	調整 方形 被熱痕	17後	611A1 S3	R611A1-8
171-18	鉢	05-4 F-6	包含層	(9.0)	(13.1)	—		17初～後(19)	54 S21	R54 F6-2
171-15	容器?	05-4 B-4	54056	3.0	6.2	6.0		16末	54 S110	R54056-3
171-11	容器	05-3 A-3	53016	8.0	17.6	11.8	未整形 歪な長方形	17初～19前	53016 S3	R53016-6
171-12	容器	05-3	53021	10.7	25.3	19.2	未整形 歪な方形 o 扇形	19～近代	53021 S2	R53021-2
171-13	容器	06-2 J-9	621135	7.7	(13.4)	(9.4)	D形ハンドル付転用? 刃傷あり	17初	62 S13	R621135-7
171-14	容器	06-3	63334	(5.3)	(12.9)	—	円形 粗成形 坩堝?	16中～後	63 S47	R63334-1
171-10	容器	06-1-1 A-10	包含層	8.5	15.4	(20.2)	粗成形 長方形	17後	611A10 S6	R611A10-18

第26表 その他石製品観察表

図版番号	種別	出土地点	計測値(cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号	R番号	
			楕圓(楕圓)	全高(楕圓)	奥行(楕圓)					
172-8	硯	05-3 F-10	53101	4.9	12.8	1.3	完形	16末～17初・前	53101 S4	R53101-13
172-3	硯	05-4 F-6	54016	7.6	16.5	2.1	ほぼ完形	～19	54 S9	R54016-3
172-9	硯	06-3 C-5	63002	(8.0)	(3.4)	2.4	1/4未満 側面に「吉田吉」之口	19中	63 S22	R63002-4
172-1	硯	06-3	63090	7.5	18.3	2.2	ほぼ完形 破損後も使用	19中	63 S26	R63090-2
172-6	硯	06-2	621109	(4.2)	(12.2)	1.6	約1/4 隅丸	17初～前	62 S2	R621109-4
172-10	硯	06-2 J-9	621129	7.8	13.5	1.7	海部分の縁破損	19中	62 S1	R621129-3
172-5	硯	06-2	622009	(5.7)	(6.5)	(1.7)	海部分のみ 脚付	16中～後	62 S3	R622009-12
172-2	硯	06-1-1 C-2	包含層	7.4	18.2	2.8	裏面に文字「口打(村)口(町)」	17後, 19中	611 C2 S1	R611 C2
172-4	硯	06-1-1	攪乱	(4.2)	(2.3)	(1.1)	縁部にウサギの装飾彫刻	17後～近代	611 K2 S1	R611 K2-3
172-7	硯	06-3	攪乱	3.4	2.3	1.4	ほぼ完形 細長い	17前～19	63 S28	R63 F K7-5
172-21	砥石	05-3 J-A-3	53036	11.6	11.1	5.0	ほぼ全面に使用痕	17初～後	53036 S1	R53036-3
172-15	砥石	05-4 B-4	54056	3.7	12.1	4.1	完形	16末	54 S7	R54056-5
172-14	砥石	06-1-1 B-10	611005	5.4	13.3	3.8	完形に近い	17後～近代	611005 S1	R611005-6
172-16	砥石	06-2	621109	5.2	5.1	1.4	円盤形 扁平	17	62 S5	R621109-8
172-12	砥石	06-1-2	攪乱	3.4	11.4	2.5	捻ったような形状	612 K99 S1	612 K99	R612 K99
172-13	砥石	06-2 J-10	622008	4.8	10.6	4.6	ほぼ完形	62 S9	62 S9	R622008
172-11	砥石?	06-3	63064	(5.0)	(7.7)	(0.6)	線刻模様(落書き?)	17後	63 S34	R63064-23
172-17	砥石	06-2	攪乱	4.5	4.3	1.8	円盤形 扁平	(19)	62 S41	R62 K5-10
172-19	砥石?	06-4 I-2-3	64256	3.6	3.7	1.1	不明円盤	18～19	64 S2	R64256-9
172-20	砥石?	06-2 J-9	621135	2.8	2.8	0.5	不明円盤	17初	62 S15	R621135-3
172-18	砥石?	02-10 C-2	10-1340	3.9	3.9	1.1	不明円盤	16	210 S265	R10-420
173-10	重石	06-3	63064	12.4	12.2	5.9	円形 孔あり	17	63 S41	R63064-2
173-9	重石	06-3	63064	12.1	12.2	5.5	円形 孔あり	17	63 S42	R63064-2
173-13	支脚	05-4 E-6-7	54025	5.8	12.6	5.5	鈎状部分欠損	17後	54 S20	R54025-8
173-11	支脚	06-2 D-4	62608	12.9	4.6	6.4	煤付着	16中～後	62 S16	R62608
173-12	支脚	06-3 A-3	63112	5.1	13.9	7.2	煤付着	16末～17前	63 S44	R63112-1
173-15	人形	06-3 F-7	63523	5.7	6.7	5.6	手作り風 彫刻	17初～前	63 S37	R63523-8
173-14	人形	06-3 F-7	包含層	7.8	(9.2)	4.2	地下駐に類似品	18後～19	63 S36	R63 F7-3
173-8	罎	06-2 C-3	62526	98.9	16.0	28.0	完形 壤のための挟りあり	62 S63	62 S63	R62526-39
173-4	井戸枠	06-3	63520	(31.2)	(31.7)	(8.0)	組み合わせ式	17～19	63 S45	R63520-19
173-5	籠	05-3 J-3	53015	(26.5)	(15.6)	(26.5)	焚口部分のみ 移動式	17後～19前	53015 S1	R53015-1
173-6	籠	06-4 G-9	64028	(19.3)	27.8	(20.0)	焚口付近の一隅のみ	(17～)19中～近代	64 S25	R64028-2
173-3	灯籠・火袋?	06-4 H-1	64088	(27.6)	18.6	—	火袋 円窓の一部	18中～19中～近代	64 S9	R64088-10
173-1	水輪	06-4 G-10	64067	38.2	23.4	36.0	組合せ五輪格	17初～後(19)	64 S6	R64067-3
173-2	水輪	06-4 F-9	64006	21.0	21.0	13.9	組合せ五輪格 梵字「パン」	17中～(19)	64 S1	R64006-18
173-7	右髷白(唐白の白?)	06-4 G-9	64028	38.5	48.7	49.5	外面・底面・粗成形 内面:滑らかに整形	(17～)19中～近代	64 S2, S3, S5, S8, S10, S22	R64028-2

第27表 基石観察表

図版番号	出土地点	計測値(cm)			備考	出土遺物の主な遺物の時期	遺物番号	R番号	
		長さ	幅	厚さ					
27-17	05-3 H-1-2	53010	18.5	16.0	5.0	黒	17初	53010 S1	53010-1
27-18	05-3 A-3	53016	23.0	20.5	6.0	黒	(17初～)19前	53016 S7	53016-2
27-21	05-3 A-3	53016	24.0	21.5	5.5	黒	16末～17初(19)	53016 S12	53032-6
27-24	05-3 F-1	53032	25.0	18.5	6.0	黒	16初～17初	53032 S20	53032-52
27-22	05-3 F-1	53032	27.0	21.5	6.0	黒	16末～17中	53032 S13	53032-13
27-23	05-3 F-1	53032	21.0	16.0	4.5	黒	16末～17初	53032 S16	53032-65
27-19	05-3 F-1	53032	25.0	24.0	4.5	黒	17初	53032 S10	53032-111
27-20	05-3 F-1	53032	24.5	16.0	6.0	黒	17初	53032 S11	53032-111
27-25	05-3 G-10	53108	22.0	21.5	5.0	黒	17初～18, ～19中	53108 S1	53108-4
27-26	05-3 I-3	53159	19.0	17.0	4.5	黒	16末～17	53159 S1	53159-1
27-1	05-3 E-10	包含層	25.0	20.0	(5.0)	黒	17初～近代	53 E10 S2	53 E10-4
27-2	05-4 G-6-7	54006	22.0	17.5	6.0	黒	16末～17初(後)	54 S11	54006-4
27-3	05-4 E-6	54022	26.5	21.5	5.0	白	17後	54 S12	54022-1
27-4	05-4 F-4	包含層	21.0	18.0	5.0	黒		54 S13	54 F4
27-5	05-4 I-8	包含層	26.0	20.0	4.5	黒	17中～後	54 S14	54 I 8-8
27-6	05-4 F-4	包含層	20.0	20.0	4.0	黒		54 S16	54 F4
27-7	05-4 I-8	包含層	20.5	19.0	6.5	灰(黒?)	17中～後	54 S117	54 I 8-8
27-15	06-1-1 A-10	包含層	20.0	20.0	3.5	黒	17後, 19～近代	611A10 S10	R611A10-48
27-16	06-1-1	トレンチ	21.5	21.0	4.0	黒	17後	611 T2 S1	R611 T2
27-8	06-2	62303	26.5	26.5	4.5	黒	19～近代	62 S14	R62303-3
27-9	06-2 I-9	攪乱	21.0	19.0	6.0	灰(白?)	16～19	62 S54	R62 K 9-5
27-10	06-2 H-7	攪乱	27.0	26.5	5.5	灰(白?)	17～18	62 S35	R62 K 117-10
27-11	06-3	63003	21.0	20.0	3.0	黒	～19	63 S38	R63003-2
27-12	06-3 I-10	63065	21.0	21.0	5.0	黒	～19	63 S39	R63065
27-13	06-4 G-10	64133	26.0	21.0	4.5	黒	17初	64 S1	R64133
27-14	06-4 G-10	包含層	17.0	16.0	5.0	灰(白)	～19中	64 S3	R64 G10-4
27-31	02-2 A-B-8	2-201	23.5	19.0	5.0	黒	16後(～17初)	202 S256	R2-51
27-32	02-2 A-B-8	2-201	24.0	21.0	6.5	白?(灰)	16後(～17初)	202 S257	R2-64
27-29	02-2 B-8	2-217	23.5	22.0	6.0	白?(灰)	16中～後	202 S254	R2-112
27-30	02-2 B-8	2-241上層	16.5	15.0	3.5	黒	16中～後	202 S255	R2-203
27-33	02-4 B-9	4-535	19.0	17.5	4.0	黒	16中～後	204 S258	R4-217
27-35	02-4 B-10	焼土層	21.0	11.0	(7.0)	黒	中世(16)	204 S260	R4-218-1
27-36	02-4 B-10	焼土層	19.0	16.0	10.0	黒	中世(16)	204 S261	R4-218-2
27-34	02-4 B-9	4-535下層	22.0	21.5	6.0	白?(灰)	16中	204 S259	R4-1061
27-27	02-10 C-3	10-1005	19.0	16.0	5.0	白?(灰)	17前～中	210 S252	R10-125
27-28	02-10 C-3	10-1005	20.0	18.5	3.0	黒?(灰)	17前～中	210 S253	R10-125



## 第5章 古代の遺構と遺物

### 第1節 FKJ06-2・3の様相

**FKJ06-2・3の概要** 調査区の断面観察によると、標高7.3m・7.2m・7.1mで遺構面が存在する。遺構の検出は標高7.3mの段階と7mの地山面で行った。上層の律令面に溝を伴う建物跡・柱穴列とそれに関連する溝・その他の柱穴・大溝・焼土坑があり、下層の古墳面に区画的な溝・大溝がある。出土遺物の大半は、標高7.3m～7.5mの黒褐色土層中から出土し、グリッド単位での包含層出土として扱った<sup>(1)</sup>。遺物の多くは建物があるD4区から出土している。

#### 1 上層面の遺構

##### 1) 建物 (第174・176図) (N6°W) (62622・62703・62707)

FKJ06-2区北部に位置する。後世の遺構の影響が強いため確実ではないが、4号線地点で検出した柱穴と溝を一連の建物遺構と解釈し、平面形を復元した。残存する柱穴の柱間寸法がおよそ6尺であることからすべての柱間寸法を6尺等間と仮定した場合には、桁行5間・梁行3間・面積約40m<sup>2</sup>の東西棟の掘立柱建物と考えられる。柱掘りかたは一辺約1mの方形を呈する。

建物を囲む溝(62706)は、柱穴からおよそ1m外側に巡る。断面方形の幅0.4±0.1mで、深さは柱穴とほぼ同じである<sup>(2)</sup>。

**2) 柱穴列** (第176図) (N11.5°W) (63541・63560・63568・63569・63582) 柱掘りかたは約0.5m±0.1mの円形である。重複する溝(63556・63557)を区画的な溝もしくは雨落ち溝と考えた場合には、建物と同様の柱穴規模であることから、一本柱塀が存在した可能性がある。

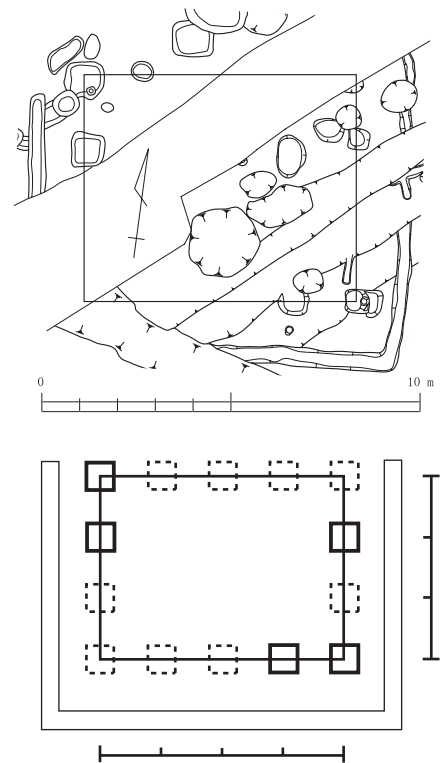
**3) 柱穴** (第176図) 方形掘りかたの柱穴(63552・63554・63555・63570)がある。これらをひとつの建物として推定した場合には、約20m<sup>2</sup>の建物(N16°W)が存在することになる。

**4) 大溝** (第175図) FKJ06-2区の北東から南西に続く溝62798(N72°E)からは、9世紀の遺物が出土している。溝62710(N70°W)・溝63550(N84°W)・溝63538(N37°E)は9世紀の建物跡・柱穴群を切っている。これらの溝からは、時期の分かる遺物が出土していない。

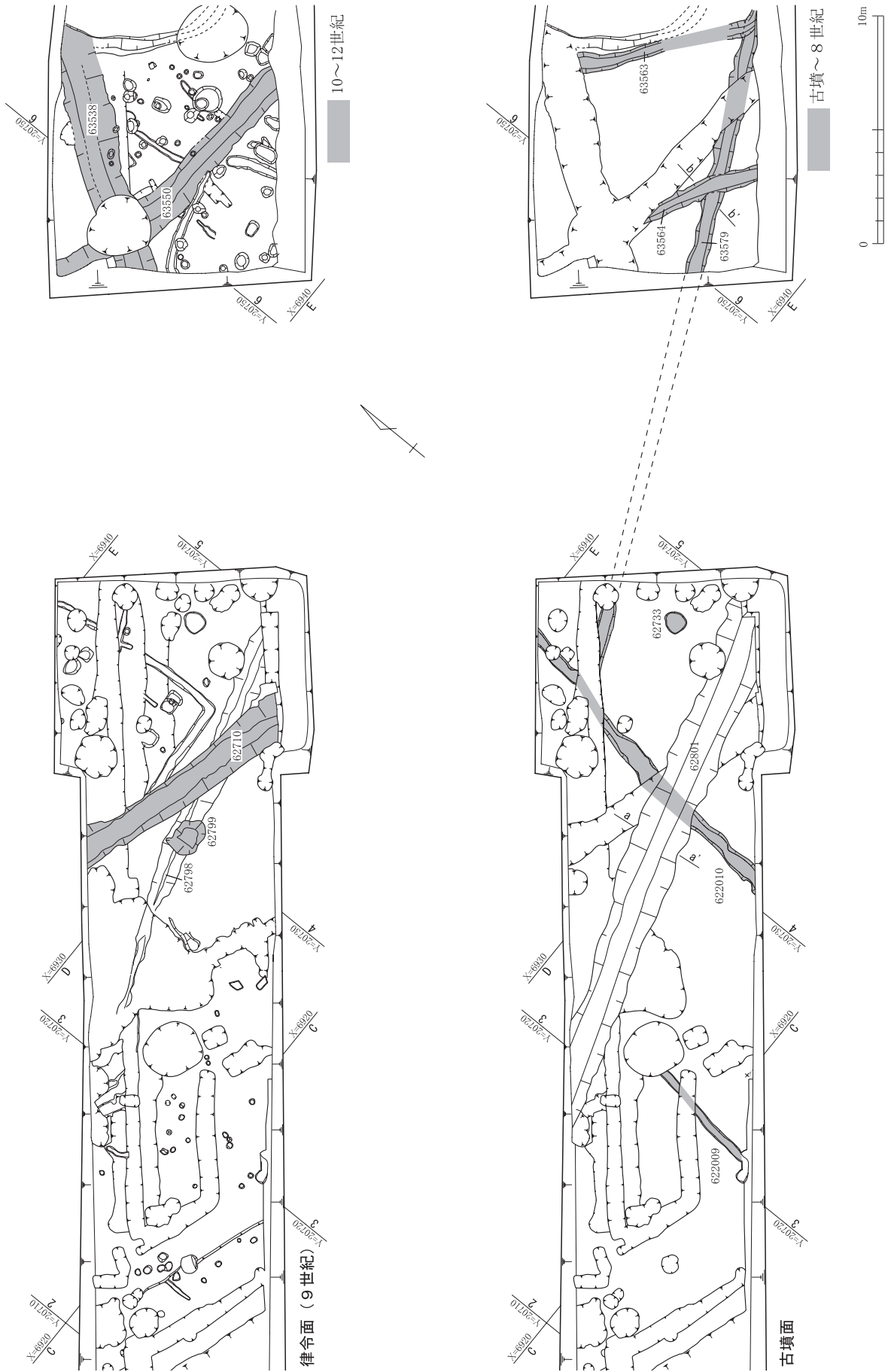
**5) 焼土土坑** (第175図) この土坑(62799)からは大量の炭・焼土に伴い土錘が出土している。溝62798を切っているが、時期の分かる遺物は出土していない。

#### 2 下層面の遺構

下層面の遺構は溝である。平行関係にある溝の間隔から、溝1類と溝2類に分けた。

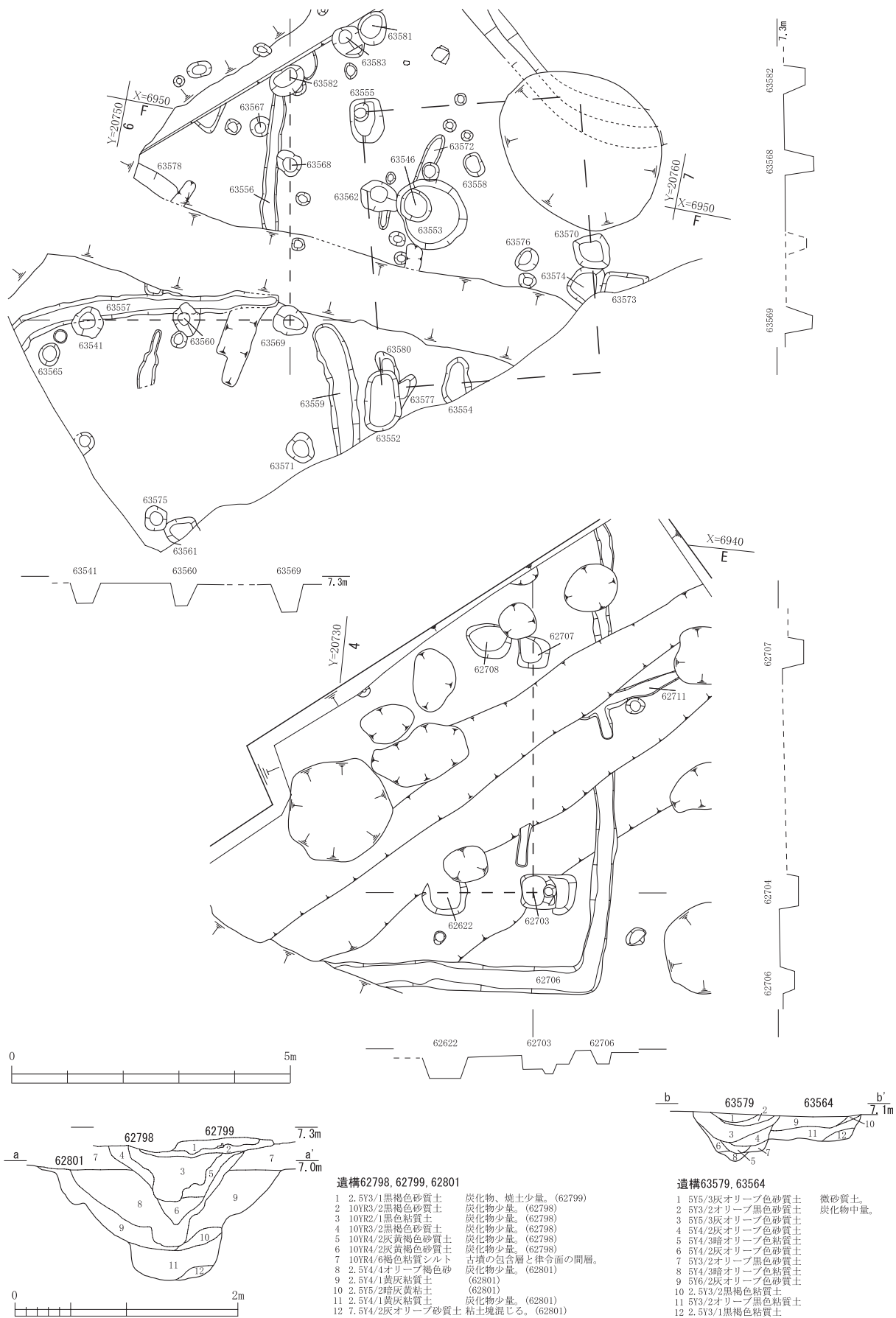


第174図 建物の合成と復元



第175図 古代の遺構 (FKJ06-2・3) (S=1/250)

第1節 FKJ06-2・3の様相



第176図 柱穴列・建物・溝 (FKJ06-2・3) (S=1/100・S=1/50)

遺構62798, 62799, 62801

- |    |                 |                  |
|----|-----------------|------------------|
| 1  | 2.5V3/1黒褐色砂質土   | 炭化物、焼土少量。(62799) |
| 2  | 10VR3/2黒褐色砂質土   | 炭化物少量。(62798)    |
| 3  | 10VR2/1黒色粘質土    | 炭化物少量。(62798)    |
| 4  | 10VR3/2黒褐色砂質土   | 炭化物少量。(62798)    |
| 5  | 10VR4/2灰黄褐色砂質土  | 炭化物少量。(62798)    |
| 6  | 10VR4/2灰黄褐色砂質土  | 炭化物少量。(62798)    |
| 7  | 10VR4/6褐色粘質シルト  | 古墳の包含層と律令面の間層。   |
| 8  | 2.5Y4/4オリーブ褐色砂  | 炭化物少量。(62801)    |
| 9  | 2.5Y4/1黄灰粘質土    | (62801)          |
| 10 | 2.5Y5/2暗黄粘質土    | (62801)          |
| 11 | 2.5Y4/1黄灰粘質土    | 炭化物少量。(62801)    |
| 12 | 7.5Y4/2灰オリーブ砂質土 | 粘土塊混じる。(62801)   |

遺構63579, 63564

- |    |                |        |
|----|----------------|--------|
| 1  | 5Y5/3灰オリーブ色砂質土 | 微砂質土。  |
| 2  | 5V3/2オリーブ黒色砂質土 | 炭化物中量。 |
| 3  | 5Y5/3灰オリーブ色砂質土 |        |
| 4  | 5Y4/2灰オリーブ色粘質土 |        |
| 5  | 5Y4/3暗オリーブ色粘質土 |        |
| 6  | 5Y4/2灰オリーブ色砂質土 |        |
| 7  | 5Y3/2オリーブ黒色砂質土 |        |
| 8  | 5Y4/3暗オリーブ色粘質土 |        |
| 9  | 5Y6/2灰オリーブ色砂質土 |        |
| 10 | 2.5Y3/2黒褐色粘質土  |        |
| 11 | 5Y3/2オリーブ黒色粘質土 |        |
| 12 | 2.5Y3/1黒褐色粘質土  |        |

1) 溝1群 (第175図) 溝の間隔は、約9m (約30尺)である。溝622010 (N 8° E) と溝622009 (N 6° E) があり、上層の遺構の方位とも同様であるため、地割りの溝の可能性もある。

2) 溝2群 (第175図) 溝の間隔は、約6m (約20尺)である。溝63563 (N57° W) と溝63564 (N 57° W)、溝63579 (N64° E) と溝62801 (N72° E) がそれぞれ平行関係にある。ただし、溝62801からは弥生後期～古墳時代前期と思われる土師器片が出土しているため、溝63579と関連するのは、溝62801の上層の溝62798なのかもしれない。溝63579が溝63564を切る。

各時期において一定の間隔で配置される溝は、断続的に区画的な開発が行われたことを示唆する。

### 3 遺物の器種の分類と構成

出土遺物は細片を除いた器形の判明するものが318点あり、そのなかから残存率の高い201点を報告する。ただし、希少性の高いものは特殊品として低残存であっても取り上げる。食膳具は出土土器のなかで最も多く、64.2%を占める (第28表)。本地域が畿内周辺諸国にみられるように須恵器が土器の構成主体になっていることから、須恵器食膳具を分類の中心にする。

食膳具・貯蔵具・煮炊具・特殊品に大別する。食膳具は須恵器の蓋・坏・碗・皿、特殊品は上記以外の希少性の高い食膳具・鉄鉢・円面硯、漁労具は土錘、貯蔵具は須恵器の甕・瓶・壺・鉢、煮炊具は土師器の甕・鍋・壺とする。

### 4 各器種の概要

1) 食膳具 (第177図1～52・第178図1～70) 食膳具の主体は無台の坏・碗・皿である。セット関係にある有台の坏・碗よりも蓋が2倍近く多い<sup>(3)</sup>。7世紀末から10世紀初頭まで存在し、各器種にバラつきはあるものの<sup>(4)</sup>、8世紀後葉以降に増加傾向が認められ、9世紀の遺物が数量的に多い。この数量の傾向は生産量と対応していると考えられ<sup>(5)</sup>、安定的に供給されたことを示すのであろう。文字資料関連として、蓋には転用硯と考えられるものがあり、有台坏には墨書されたものがある。

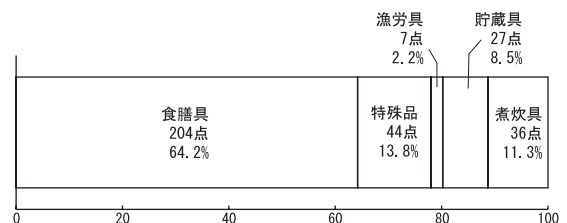
2) 特殊品 (第179図1～39) 脚部が広い高坏や有台盤<sup>(6)</sup>は、周辺遺跡においてみられない特殊な器形である。有台盤は4号線地点でも出土している。円面硯の脚部片がある。山城産の須恵器皿は、山城産の緑釉陶器と器形・胎土・調整が同じであるため、緑釉陶器の素地と考える。

緑釉陶器は削り出しの蛇の目高台で内面にミガキを施す山城産、灰釉陶器は断面方形の高台を付す前面施釉の黒笹14号窯式であり、共に9世紀中葉頃と考える。緑釉陶器の短頸壺や灰釉陶器の鉄鉢は特に希少である。

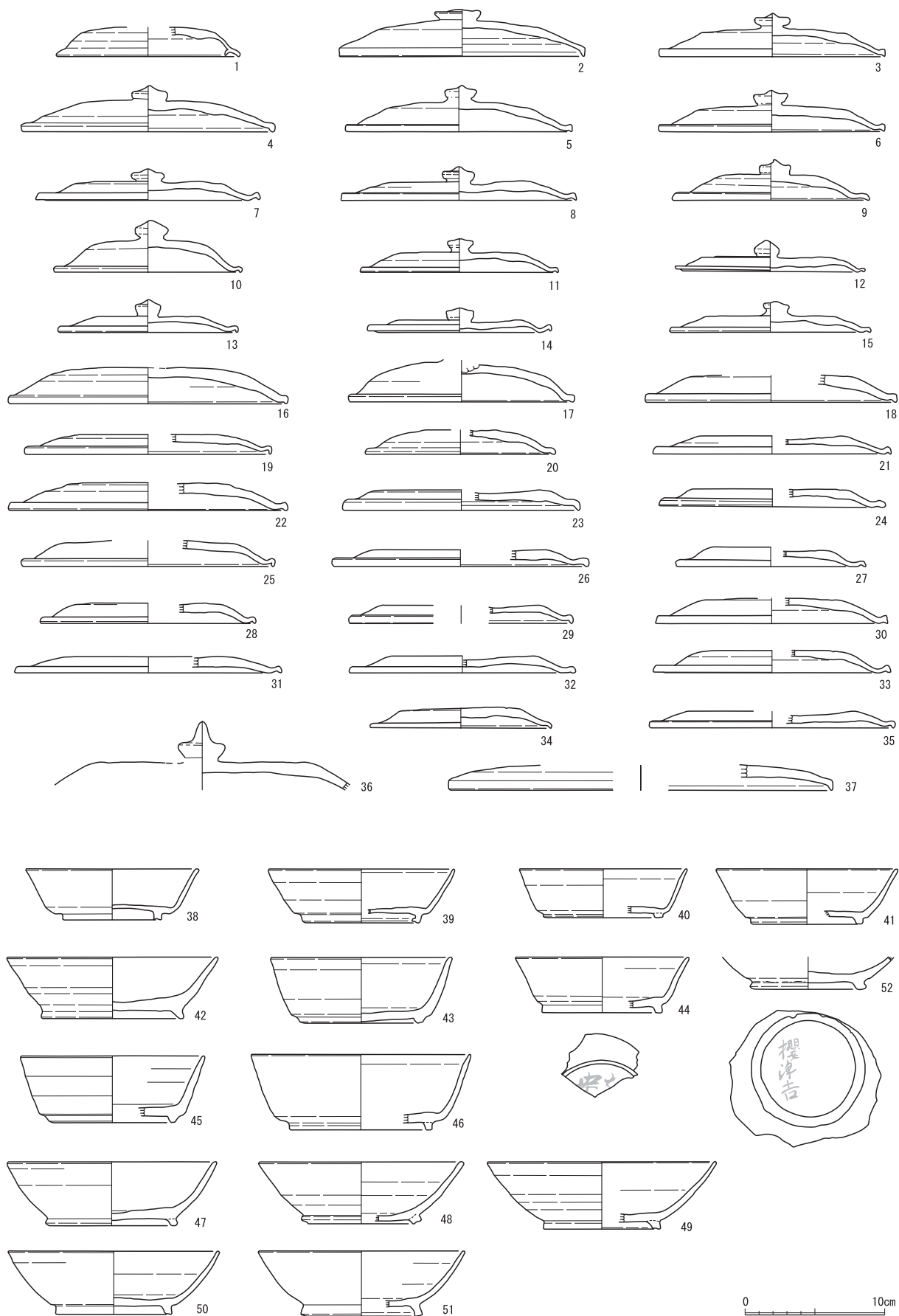
土師器食膳具は8世紀前半の碗形器形が一定量存在し、10世紀の碗形器形や11世紀の柱状高台土器も

第28表 器種の分類と構成

	実測/数量	比率		実測/数量	比率
食膳具	122/204	64.2	蓋	37/51	16.0
			有台坏	15/27	8.5
			無台坏	40/61	19.2
			皿	30/65	20.4
特殊品	39/44	13.8	須恵器	8/9	2.8
			緑釉陶器	8/9	2.8
			灰釉陶器	12/12	3.8
			土師器	11/14	4.4
漁労具	6/7	2.2	土錘	6/7	2.2
貯蔵具	19/27	8.5	甕	10/13	4.1
			壺	2/2	0.6
			瓶	4/4	1.3
			鉢	3/8	2.5
煮炊具	15/36	11.3	甕	12/33	10.4
			鍋	2/2	0.6
			壺	1/1	0.3
201/318		100.0			

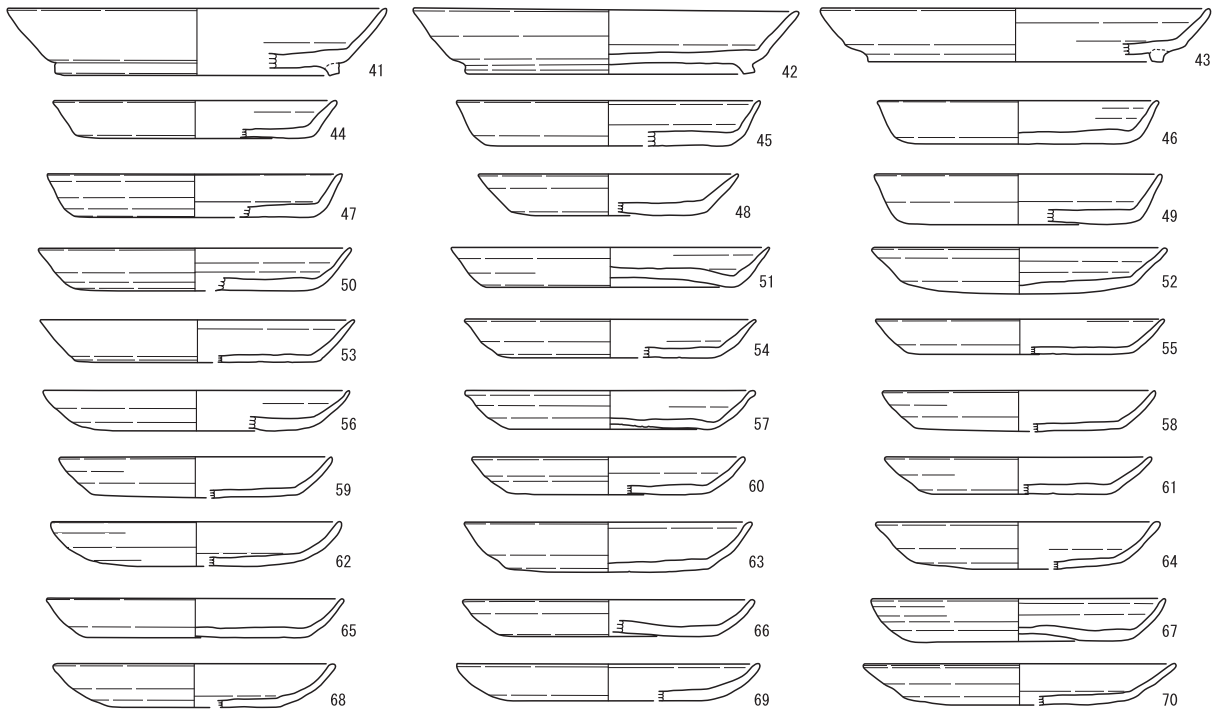
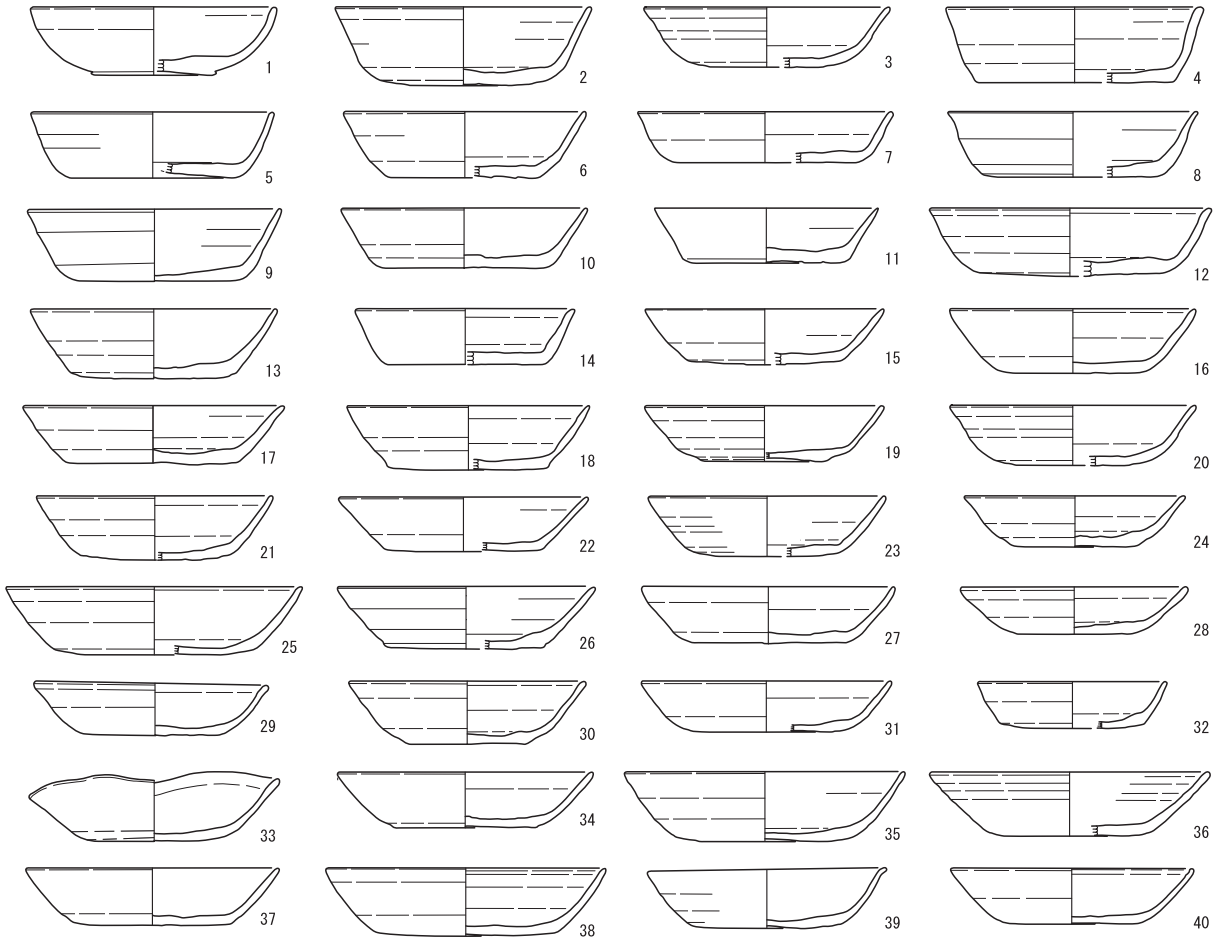


第1節 FKJ06-2・3の様相



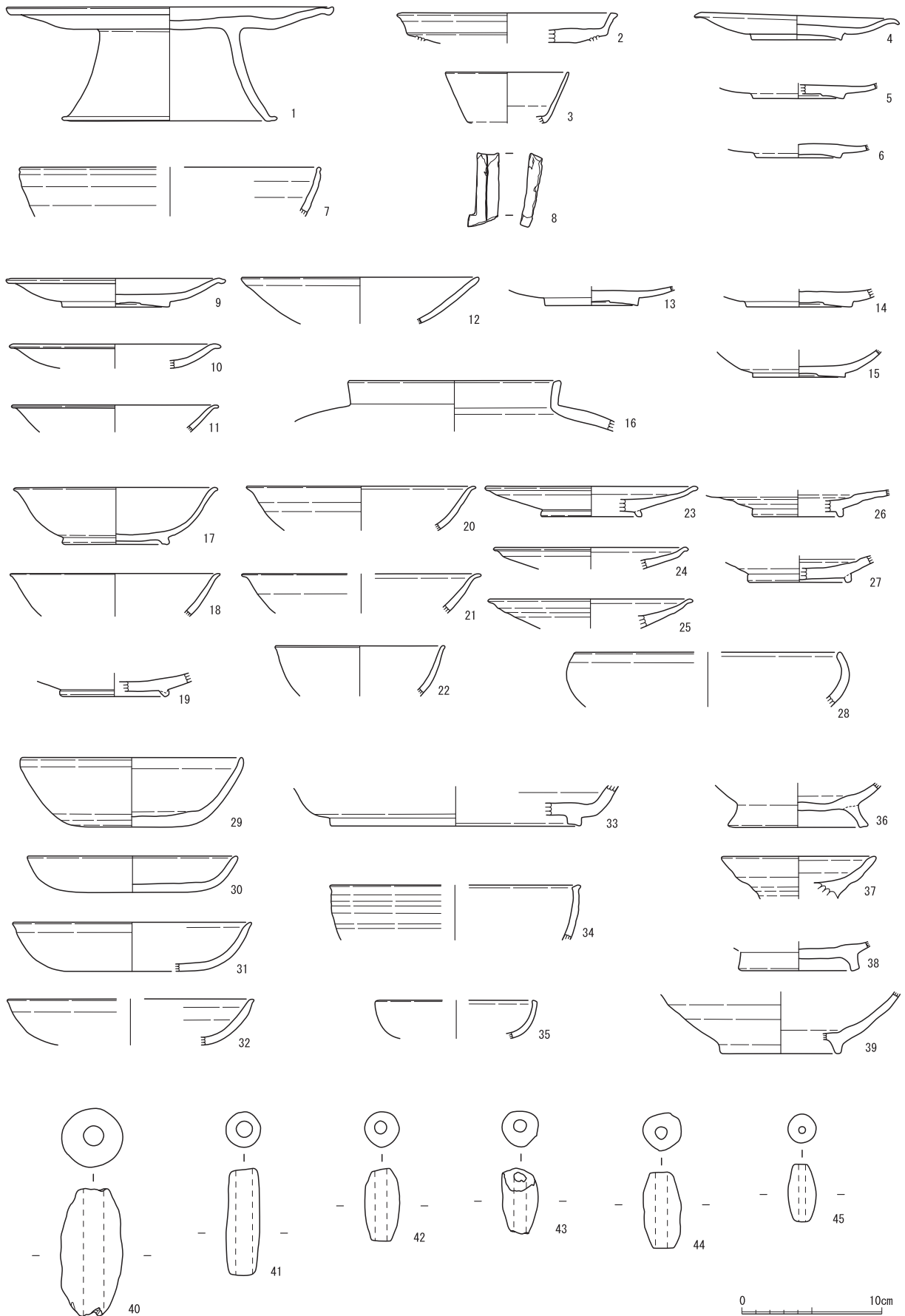
第177図 古代の遺物① (FKJ06-2・3) (S=1/4)

第5章 古代の遺構と遺物

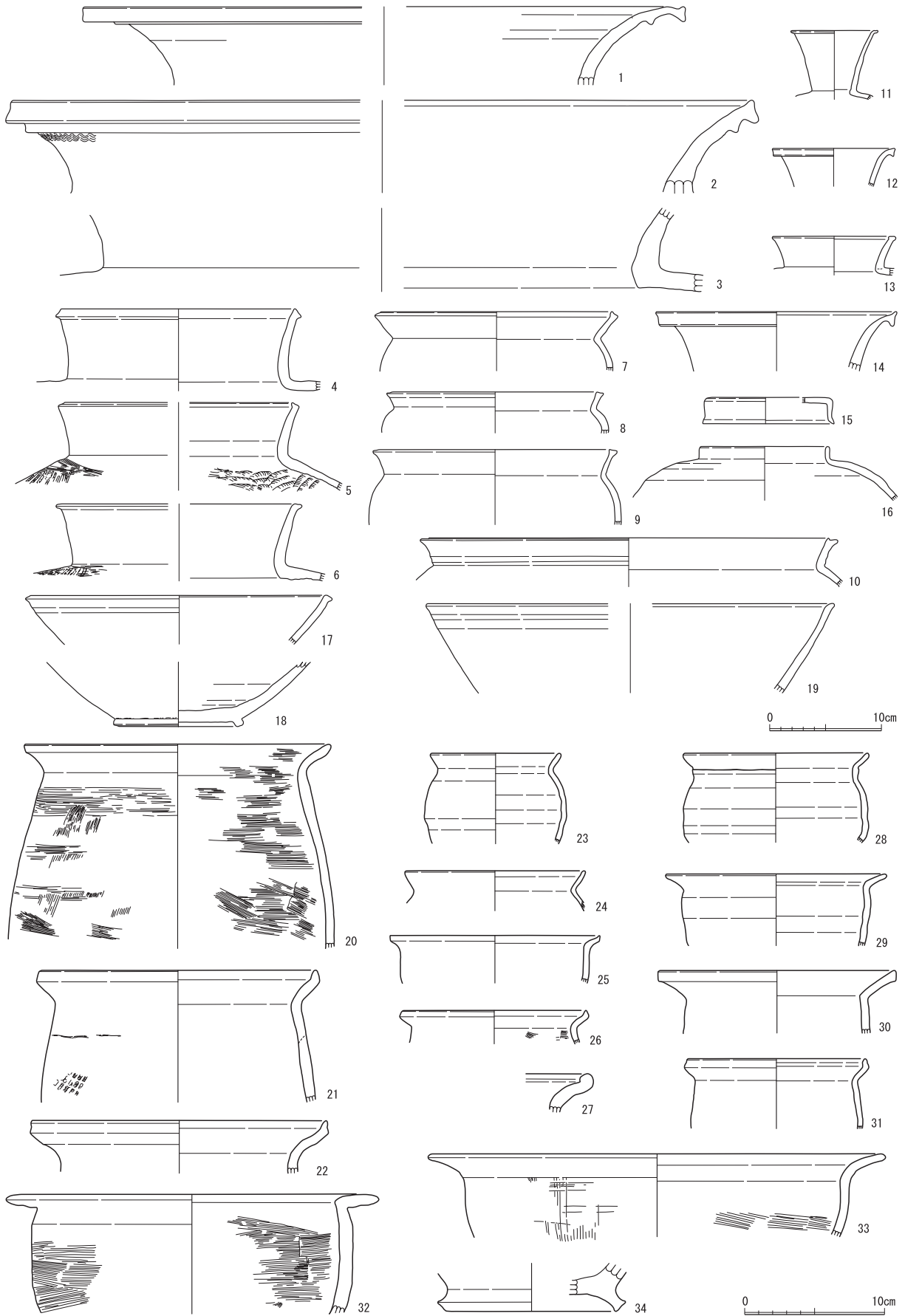


第178図 古代の遺物② (FKJ06-2・3) (S=1/4)

第1節 FKJ06-2・3の様相



第179図 古代の遺物③ (FKJ06-2・3) (S=1/4)



第180図 古代の遺物④ (FKJ06-2・3) (S=1/5: 1~19, S=1/4: 20~34)



第1節 FKJ06-2・3の様相

第29表 古代の遺物観察表①

凡例

- a. 出土地点はグリッド番号を記した。  
 b. 器種名は、須器器→須、土師器→土、緑釉陶器→緑、灰釉陶器→灰、黒色土器→黒と記した。  
 c. 調整は、以下の調整を番号で表記した。  
 1 外) 回転ナデ・ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ  
 2 外) 回転ナデ・ヘラ切り後ケズリ 内) 回転ナデ  
 3 外) 回転ナデ・ヘラ切り後不明 内) 回転ナデ  
 4 外) 回転ナデ・ヘラ切り後未調整 内) 回転ナデ  
 5 外) 回転ナデ・ヘラ切り後ケズリ出し 内) 回転ナデ・ミガキ  
 6 外) 回転ナデ 内) 回転ナデ  
 7 外) 回転ナデ・タタキ 内) 回転ナデ・タタキ  
 8 外) 回転ナデ・ハケ 内) 回転ナデ・ハケ  
 9 外) 回転ナデ・カキメ 内) 回転ナデ・カキメ  
 なお、179-32の土師器環は、底部が残存していなかったためヘラ切り痕を確認できなかったが、ここではロクロ成形によるものとしてあつた。  
 d. 焼成は、「良」が焼き締まりが強く硬質のもの、「不」は焼成不良で軟質のものを示す。  
 e. 胎土は、「密」が細粒少と砂少のもの、「粗」が細粒多と砂多のものを示す。

図版番号	出土地点	器種	口径	器高	調整	焼成	胎土	色調	備考
177-1	D4	須 環蓋	13.2	-	2	良	粗	青灰	
177-2	D4	須 環蓋	17.0	3.5	2	良	密	灰	内面研磨
177-3	D4	須 環蓋	16.2	3.1	1	良	密	灰	
177-4	I8, J9	須 環蓋	18.2	3.3	2	良	粗	青灰	
177-5	D4	須 環蓋	16.2	3.5	1	良	密	灰	
177-6	D4	須 環蓋	16.2	3.0	1	良	密	灰	
177-7	D4	須 環蓋	16.0	2.3	1	良	粗	灰	
177-8	D4	須 環蓋	16.8	2.4	1	良	密	灰	
177-9	F6	須 環蓋	14.2	2.4	2	良	粗	灰	
177-10	D4	須 環蓋	13.4	3.7	2	良	密	灰	内面研磨 墨痕?
177-11	C3, D4	須 環蓋	14.2	2.4	2	不	密	灰白	
177-12	C3	須 環蓋	13.6	2.3	1	良	粗	青灰	
177-13	D4	須 環蓋	12.8	2.4	1	良	粗	黒灰	
177-14	D4	須 環蓋	13.2	1.8	1	良	密	灰	
177-15	D4	須 環蓋	14.4	2.2	1	良	粗	青灰	
177-16	D4	須 環蓋	20.0	-	2	良	密	灰	内面研磨 墨痕
177-17	C, D4	須 環蓋	16.2	-	1	良	粗	青灰	
177-18	I8	須 環蓋	18.0	-	1	不	密	淡橙	
177-19	D4	須 環蓋	17.6	-	1	良	密	灰	
177-20	E, F6	須 環蓋	13.6	-	1	良	密	黒	
177-21	G4, D4	須 環蓋	17.0	1.4	1	良	密	淡灰	
177-22	C3, D4	須 環蓋	20.0	-	2	良	密	淡灰	
177-23	J9	須 環蓋	17.0	-	2	良	密	灰	
177-24	D4	須 環蓋	16.2	-	1	良	密	灰	内面研磨
177-25	C5	須 環蓋	18.2	-	1	良	粗	灰	
177-26	C, D4	須 環蓋	18.4	-	1	良	粗	淡灰	
177-27	D4	須 環蓋	13.6	-	1	良	密	灰	内面研磨 墨痕?
177-28	D4	須 環蓋	15.4	-	1	良	密	青灰	
177-29	C3	須 環蓋	16.6	-	1	良	粗	黄灰	
177-30	D4	須 環蓋	16.6	-	1	不	密	橙	
177-31	D4	須 環蓋	19.2	-	1	良	粗	黄灰	
177-32	C, D4	須 環蓋	16.2	-	1	良	粗	黄灰	
177-33	D4	須 環蓋	17.0	-	1	良	粗	青灰	
177-34	C, D4	須 環蓋	13.0	1.4	1	良	粗	黄灰	
177-35	D4	須 環蓋	17.6	1.2	1	良	粗	青灰	
177-36	C34	須 皿蓋	-	-	1	不	密	灰白	
177-37	D4	須 皿蓋	(27)	-	1	良	粗	黒灰	
177-38	C, D4	須 有台環	12.4	3.7	1	良	粗	灰	
177-39	D4	須 有台環	13.4	3.9	1	良	粗	青灰	
177-40	J9	須 有台環	12.0	3.5	3	良	密	灰	
177-41	D4	須 有台環	13.0	4.0	3	良	粗	青灰	
177-42	D4	須 有台環	15.0	4.4	4	良	粗	灰	
177-43	D4	須 有台環	13.0	4.7	1	良	密	灰	
177-44	E5	須 有台環	12.4	4.0	3	良	密	灰	
177-45	D4	須 有台環	13.2	4.7	3	良	密	灰	
177-46	D4	須 有台環	15.6	5.4	3	良	粗	灰	
177-47	B4	須 有台環	15.0	4.6	4	良	粗	淡灰	
177-48	D4	須 有台環	14.6	4.5	1	良	粗	淡灰	
177-49	D4	須 有台環	16.4	4.9	4	良	粗	淡灰	
177-50	C3, D4	須 有台環	15.0	4.5	1	良	粗	灰	
177-51	F6	須 有台環	14.8	4.7	3	良	粗	黒灰	
177-52	C4	須 有台環	-	-	4	良	粗	灰	櫻浄吉
178-1	J9	須 無台環	13.0	3.6	4	良	粗	灰	
178-2	C3	須 無台環	13.6	4.2	4	良	粗	褐灰	
178-3	D4	須 無台環	14.2	3.6	4	良	密	灰	
178-4	F5	須 無台環	13.6	4.0	3	良	粗	青灰	
178-5	D4	須 無台環	12.8	3.5	4	良	密	褐灰	
178-6	D4	須 無台環	12.8	3.5	4	良	密	灰	
178-7	F6	須 無台環	13.4	2.7	1	良	密	青灰	
178-8	J9	須 無台環	13.2	3.5	1	良	密	黄灰	
178-9	J9	須 無台環	13.4	3.9	1	良	密	灰	
178-10	J9	須 無台環	13.0	3.2	1	良	粗	灰	
178-11	I9	須 無台環	11.8	2.9	4	良	粗	青灰	
178-12	J8	須 無台環	14.8	3.6	4	良	粗	黄灰	
178-13	D4	須 無台環	13.0	3.7	4	良	粗	青灰	
178-14	D4	須 無台環	11.6	3.0	1	良	粗	淡灰	
178-15	D4	須 無台環	12.6	3.0	4	良	粗	灰	
178-16	C3	須 無台環	13.0	3.4	1	良	粗	灰	
178-17	J9	須 無台環	13.8	3.1	1	良	密	灰	
178-18	F6	須 無台環	12.8	3.4	1	良	粗	灰	
178-19	D4	須 無台環	12.6	3.0	1	良	粗	青灰	
178-20	C4	須 無台環	13.0	3.2	4	良	粗	灰	
178-21	D4	須 無台環	12.4	3.4	4	良	粗	青灰	
178-22	F6	須 無台環	13.2	2.9	1	良	粗	灰	
178-23	D4	須 無台環	12.6	3.2	1	不	粗	淡灰	
178-24	D4	須 無台環	11.8	2.7	1	良	粗	青灰	
178-25	F6	須 無台環	15.6	3.6	1	良	粗	灰	
178-26	D4	須 無台環	13.6	3.3	1	良	粗	青灰	
178-27	D4	須 無台環	13.2	3.0	1	良	密	青灰	
178-28	D4	須 無台環	12.8	2.5	1	不	密	灰橙	
178-29	D4	須 無台環	12.4	2.9	1	不	密	淡橙	
178-30	D4	須 無台環	12.6	3.4	1	不	密	淡橙	
178-31	E6	須 無台環	13.2	2.7	1	良	粗	橙	
178-32	T4	須 無台環	10.0	2.5	1	良	粗	青灰	
178-33	D4	須 無台環	13.2	3.5	1	良	密	青灰	
178-34	D4	須 無台環	13.4	3.0	4	良	密	灰	
178-35	C4	須 無台環	14.8	3.7	1	不	密	灰白	
178-36	B4	須 無台環	14.8	3.4	4	不	密	灰白	
178-37	D4	須 無台環	13.4	3.0	1	不	密	灰白	

図版番号	出土地点	器種	口径	器高	調整	焼成	胎土	色調	備考
178-38	F6	須 無台環	14.8	3.6	1	良	粗	青灰	
178-39	D4	須 無台環	12.6	3.1	1	良	粗	灰	
178-40	D4	須 無台環	12.8	3.0	1	良	粗	灰	
178-41	D4	須 有台皿	20.0	3.6	1	良	粗	灰	
178-42	F6	須 有台皿	20.4	3.5	1	不	粗	褐灰	
178-43	C4	須 有台皿	20.6	2.8	3	良	粗	淡灰	
178-44	I8	須 無台皿	17.0	2.0	1	良	密	淡灰	
178-45	J9	須 無台皿	16.0	2.4	1	良	密	淡灰	
178-46	J89	須 無台皿	14.8	2.3	4	良	密	灰	
178-47	J9	須 無台皿	15.6	2.3	1	良	密	淡灰	
178-48	J89	須 無台皿	13.8	2.2	1	良	密	青灰	
178-49	A10	須 無台皿	15.2	2.6	1	良	密	灰	
178-50	E6	須 無台皿	16.6	2.3	1	良	粗	青灰	
178-51	D4	須 無台皿	16.8	2.1	1	良	密	灰	
178-52	E6	須 無台皿	15.6	2.5	1	良	密	灰	
178-53	J9	須 無台皿	16.6	2.3	1	良	粗	青灰	
178-54	D4	須 無台皿	15.4	2.0	4	良	密	灰	
178-55	C4	須 無台皿	15.2	1.9	4	良	粗	青灰	
178-56	F6	須 無台皿	16.2	2.2	1	良	密	灰	
178-57	D4	須 無台皿	15.4	2.0	1	良	粗	灰橙	
178-58	D4	須 無台皿	14.4	2.5	4	良	密	青灰	
178-59	D4	須 無台皿	15.4	1.8	1	良	密	灰	
178-60	D4	須 無台皿	14.4	2.0	1	良	密	灰橙	
178-61	D4	須 無台皿	14.2	2.0	1	不	粗	灰白	
178-62	E6	須 無台皿	15.2	2.4	1	良	粗	灰	
178-63	D4	須 無台皿	15.2	2.7	1	良	粗	灰	
178-64	D4	須 無台皿	15.0	2.5	1	良	粗	淡灰	
178-65	D4	須 無台皿	15.8	2.1	1	良	密	灰	
178-66	E6	須 無台皿	15.4	2.0	1	良	密	灰	
178-67	E6	須 無台皿	15.6	2.3	1	良	密	灰	
178-68	I9	須 無台皿	14.8	2.3	1	良	密	淡灰	
178-69	D4	須 無台皿	16.0	2.0	1	良	粗	暗灰	
178-70	D4	須 無台皿	16.6	1.8	1	不	粗	青灰	
179-1	C, D4	須 高台	22.4	8.2	-	2	良	粗	青灰
179-2	J9	須 有台盤	15.8	-	-	2	良	粗	青灰
179-3	F6	須 無台環	8.8	3.6	3	良	粗	青灰	
179-4	C3, D4	須 有台皿	14.6	2.0	5	良	密	灰	山城産
179-5	D4	須 有台皿	-	-	5	良	密	灰	山城産
179-6	E5	須 有台皿	-	-	5	良	密	灰	山城産
179-7	E5	須 鉄鉢	(13)	-	-	6	良	粗	暗灰
179-8	C3	須 皿面硯	-	-	-	-	良	粗	青灰
179-9	C3, D4	須 緑	15.6	2.1	5	良	密	淡灰	山城産 淡緑色釉
179-10	D4	須 緑	15.2	-	6	不	密	黄褐	山城産? 淡黄緑色釉
179-11	D4	須 緑	14.8	-	6	不	密	灰白	山城産? 淡黄緑色釉
179-12	D4	須 緑	17.0	-	6	不	密	黄褐	山城産? 淡黄緑色釉
179-13	C, D4	須 高台	-	-	5	良	密	淡灰	山城産 淡緑色釉
179-14	B, C4	須 高台	-	-	5	不	密	灰白	山城産 淡黄緑色釉
179-15	D4	須 高台	-	-	5	良	密	淡灰	山城産 淡緑色釉
179-16	D34	須 短頸壺	15.2	-	6	不	密	灰白	山城産? 緑色釉
179-17	D34	須 碗	14.6	4.1	2	良	密	灰	里管14 全面施釉
179-18	D4	須 高台	15.6	-	6	良	密	灰	内面施釉
179-19	C, D4	須 高台	-	-	2	良	密	淡灰	内面施釉
179-20	C, D34	須 碗	16.4	-	6	良	密	灰	内面施釉
179-21	E6	須 碗	(17)	-	6	良	密	淡灰	内外面施釉
179-22	D4	須 碗	12.0	-	6	良	密	灰白	内外面施釉
179-23	D4	須 皿	15.2	2.2	2	良	密	灰	内外面施釉
179-24	D4	須 皿	13.8	-	6	良	密	灰	内面施釉
179-25	D4	須 皿	14.6	-	6	良	密	灰	内面施釉
179-26	D4	須 皿	-	-	2	良	密	淡灰	内面施釉
179-27	D4	須 皿	-	-	2	良			

ある。黒色土器の底部片もある。

3) 漁労具 (第179図40~45) 土錘が焼土土坑62799からまとまって出土した。

4) 貯蔵具 (第180図1~19) 甕は大中小の規格で同量ずつある。瓶類は少ない。時期的な傾向は読み取れない。瓶類と大平鉢はD4区から出土しているが、甕類はD4区に限定されない。

5) 煮炊具 (第180図20~34) 小型の甕が比較的多い。8世紀後半から9世紀前半までが多い。甕と鍋はD4区からの出土が多い。

註

- 1 古代の遺構の深さから旧生活面を推定 (山中敏史編2003『古代の官衙遺跡』を参照)すると、古代の遺構検出面 (標高7.3m) から旧生活面まで0.3~0.5mの土層が存在したとも考えられ、16世紀面とされている標高とほぼ同じになる。事実、16世紀面とした遺構検出面 (標高7.5m) でも律令包含層の上面が遺存している部分も存在した。ただし、中世以降の城郭形成による土地改良は行われており、古代の建物跡のあるD4区の土層にもその影響が認められる。律令包含層が遺存している部分があることや、建物跡の部分に遺物が集中していることから、それほど土の移動を伴わない地固めのような土地改良であったと考える。
- 2 4号線の調査も考慮すると地山面は北から南へ僅かに傾斜しているにもかかわらず、北側で溝が検出されなかったため、雨落ち溝とは考えにくい。柱穴と同じ深さであることから、建物範囲の傾斜をなくすための基壇状の土盛跡とも考えられるが根拠を欠く。建物の南側に遺構が検出されていないことから、他よりは区画溝の可能性が高いといえようか。
- 3 兵部省では有台坏の7倍弱の坏蓋が出土しており、その要因のひとつとして転用硯の存在が指摘されている。
- 4 各器種をみると、蓋は7紀末の口縁部に返しが付く器形から、9世紀末の口縁部が丸みをもつ無鈕器形までが存在し、8世紀末以降の口縁部を強く折り返す器形が約8割を占める。有台坏は8世紀前葉頃の口縁が開く扁平器形から、10世紀初頭の壺器系碗形器形までが存在し、9世紀後半の碗形器形がやや多い。無台坏は7世紀末の碗形器形から、10世紀初頭の碗形器形までが存在し、9世紀代の器形が多い。皿は8世紀後葉の直立器形から10世紀初頭の碗形器形までが存在し、9世紀代の器形が多い。
- 5 8世紀後葉以降に生産量が増加すると指摘されている (久保1994)。
- 6 底部が厚く斜めに立ち上がり、口縁部が直上し端部で外反する器形。4号線地点では2点出土している。平城京や長岡京で出土しているものは口径の半分ほどの底径で深みの器形であるが、同系統ではないかと考え、ここでは皿とは区別した。

## 第2節 FKJ06-4の様相

**FKJ06-4の概要** 遺構の検出は、標高7.3m前後ではほぼ水平に堆積する黄褐色シルト層で行った。検出面の上層には暗褐色粘土層が水平堆積し、遺物の散漫な出土があったため包含層としてとらえた。遺構は調査区のほぼ中央部に限られ、それ以外の場所では確認できなかった。遺構は、溝3条・井戸1基である (第181図)。調査区の遺物は、包含層および井戸から出土している。

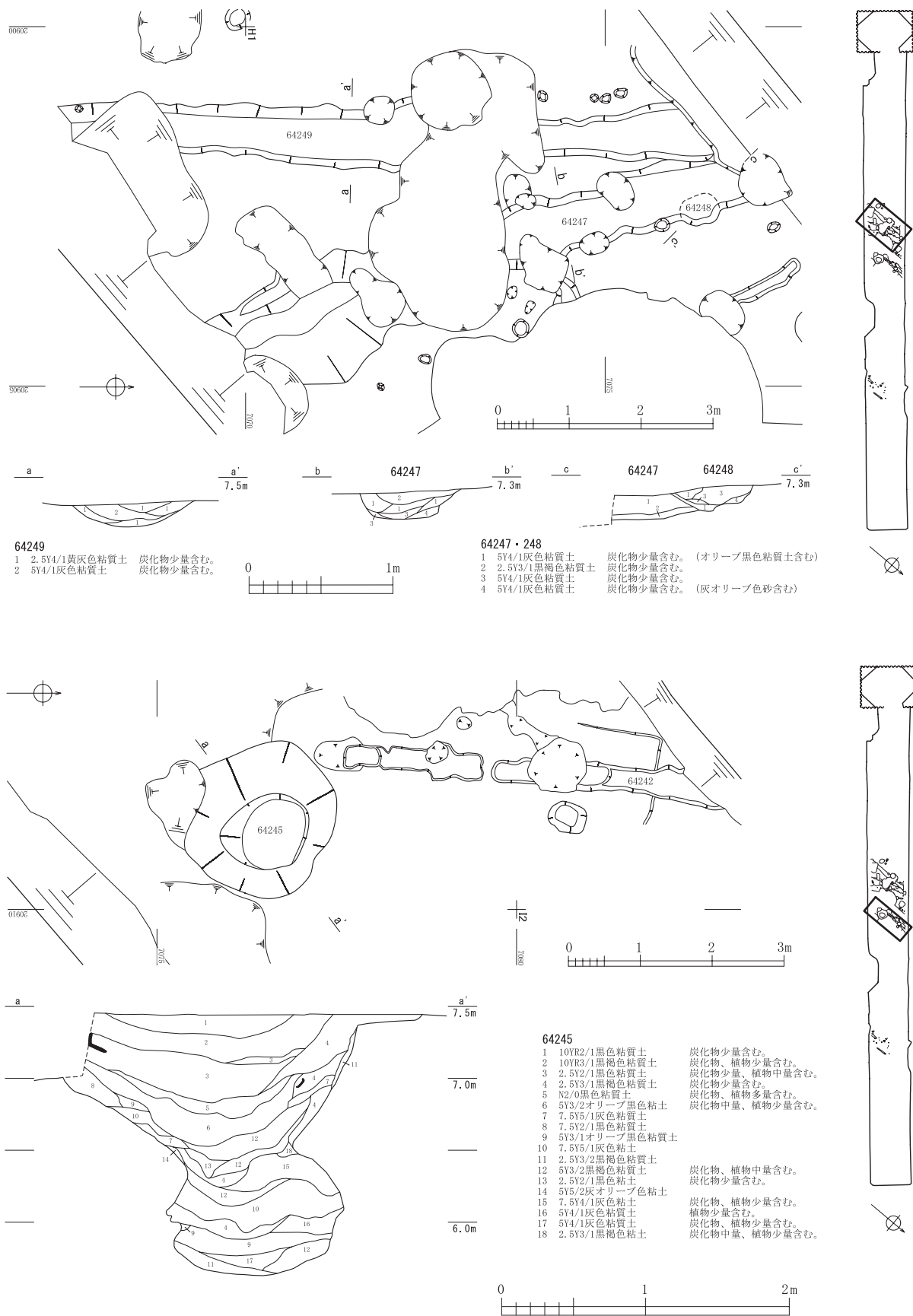
### 1 遺構

溝64249 (N0°) と溝64242 (N5°E) は南北へのびる方位がほぼ同じで、6m (20尺) の間隔がある。底面の標高は同じ7.16mである。これらの溝は、区画溝の可能性はある。

溝64247 (N16°E) 底面の標高は7.0m。溝64249に切られている。

井戸64245は、素掘りである。掘りかたが中央付近でくびれており、その上部からのみ須恵器の破片が出土する。井戸を埋める際に廃棄用の土坑として使用されたのであろう。

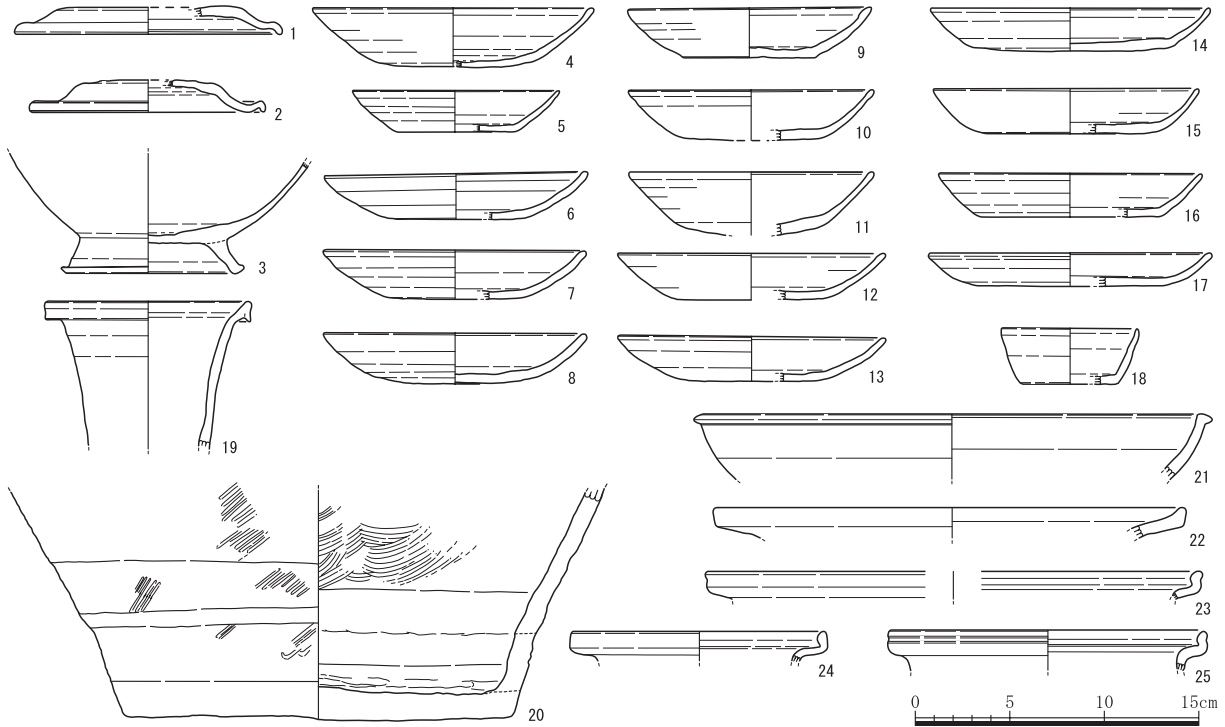
第2節 FKJ06-4の様相



第181図 溝・井戸 (FKJ06-4) (S=1/80・1/40)

2 遺物

出土遺物は細片を除いた器形の判明するもの25点を報告する。食膳具が最も多く18点、貯蔵具が3点、煮炊具が4点である。食膳具は無鈕蓋・有台碗・無台碗・無台皿・小型無台坏、貯蔵具は双耳瓶・大平鉢、煮炊具は甕である。これらの土器は、9世紀の前半に属する3点（5・16・22）を除いて、9世紀後葉～末頃にまとまる<sup>(1)</sup>。



第182図 古代の遺物⑤ (FKJ06-4) (S=1/4)

第30表 古代の遺物観察表②

図版番号	出土地点	器種	口径	器高	調整	焼成	胎土	色調	備考
182-1	R64-7	須 坏蓋	14.1	—	1	良	粗	灰	
182-2	H1	須 坏蓋	12.4	—	4	良	密	暗灰	
182-3	G10	須 有台碗	—	—	1	良	密	暗灰	
182-4	H1	須 無台坏	14.8	3.1	4	不	粗	灰白	
182-5	G10	須 無台坏	14.6	2.9	4	不	密	白色	
182-6	G10	須 無台坏	13.9	2.5	1	良	粗	暗灰	
182-7	G10	須 無台坏	14.0	2.5	1	不	粗	黄灰	
182-8	H10	須 無台坏	14.0	2.7	1	良	密	灰	
182-9	245	須 無台坏	13.0	2.7	1	良	密	灰	転用碗?
182-10	G10	須 無台坏	13.0	2.6	1	良	粗	青灰	
182-11	G10	須 無台坏	13.0	—	1	良	粗	青灰	
182-12	229	須 無台坏	14.0	2.5	1	良	密	淡灰	
182-13	075	須 無台坏	14.2	2.3	1	良	密	淡灰	
182-14	229-231	須 無台皿	14.7	2.3	4	良	密	灰白	煤付着
182-15	246	須 無台皿	14.0	2.4	4	良	密	淡灰	煤付着
182-16	G1	須 無台皿	13.9	2.3	4	良	密	淡灰	
182-17	G10	須 無台皿 (15)	1.8	1.8	4	良	粗	青灰	
182-18	G10	須 無台坏	7.1	2.9	4	良	粗	青灰	
182-19	229-230	須 瓶口縁	10.9	—	6	良	粗	青灰	
182-20	245	須 瓶底部	—	—	7	良	粗	灰色	
182-21	160	須 大平鉢	27.4	—	6	良	粗	青灰	
182-22	H10	土 甕口縁	25.0	—	6	不	密	黄橙	
182-23	145	土 甕口縁 (26)	—	—	6	不	粗	黄褐	
182-24	H1	土 甕口縁	13.4	—	7	不	粗	淡褐	
182-25	H10	土 甕口縁	16.8	—	6	良	粗	暗褐	

註

- 1 9世紀前半の土器を除くと、口縁部が丸みをもつ無鈕蓋・高台端部を外側に折り返す有台碗・口縁端部が丸く膨らむ無台碗と皿・小型無台坏・双耳瓶・口縁部を折り返す土器器甕という特徴の土器群になる。これらは鉢伏窯併行段階と考える。

### 第3節 FKJ06-2・3地点と4号線地点に展開する遺跡の性格

今回の調査区（FKJ06-2・3）と4号線地点の調査区は同じ遺跡であり、合成したものが第183図である。この遺跡の性格を検討する。

#### 1 遺構の様相

古代の遺構の変遷を出土遺物と層序から考えると、以下のように分けられる。

1) **古墳時代前期前葉頃** 東西軸の大溝1が掘削される。西端の溝底の直上から一括的に古墳時代前期前葉の遺物が出土している。古墳時代前期前葉以降に時期の分かる遺物は無い。この大溝の規模からは短期的なものとも思えないが、いつまで存続していたものであるかは分からない。その他の遺構の存在についても同様に分からない。

2) **7世紀中葉～8世紀中葉頃** 包含層中からは7世紀中葉～後葉頃の須恵器が出土しており、8世紀中葉頃までの量は少ない。この7世紀中葉～8世紀中葉の時期が、律令期の遺跡の開発初期段階と考えたい。溝3・溝4からは、律令期の土器片が出土している。古墳面で検出された南北軸の溝1と溝2は、古墳面ではほとんど遺構の深さが無い状態で検出されており、遺物も出土しなかったため、本来は上面で検出されるべき溝であった可能性が高い。方位は異なるが溝3と幅・底面の標高が同様であるため、この溝と同時期に掘削された可能性を考えたい。溝3は遺物量や覆土の状況から水路として機能していたとは考えにくく、一定の間隔を空けていることから開発段階の地割りの役割を果たした溝と考えたい。この時期には、古墳時代の大溝1と同一地点に、大溝2が再掘削される。古墳時代前期前葉の溝は大型の水路と考えられるため、少なからず遺存していた水路を再利用したのではないかと考える。この溝は9世紀頃まで存続したと考えられる。

3) **8世紀後葉～9世紀中葉頃** 前段階の溝と若干方位は異なるが、南北を軸とした建物群が形成される。建物は同一地点に重複して建てられており、空白地を利用していない。建物の配置や堀の存在から、建物の建設場所は区画的に規定されていたと考える。また、建物が重複する場所において建物の方位が統一されていることは、建て替えに際しても前段階の建物と同一の方位にする必要性があったためと考える。建物の建設場所と方位の同一性は、建物に関する計画が一定期間存続していたことを示す。この状況により建物を1棟ずつ抽出することは困難であるが、柱穴の規模（一辺約1mの方形）や間隔から建物規模を推定すると、50㎡を超える大型のものと考えられる。

建物1は周辺から9世紀中葉の遺物が出土しているため、この時期の建物と考える。井戸は8世紀後葉頃に掘削され、10世紀初頭まで存在したと考えられる<sup>(1)</sup>。井戸と方位が同じ北側の建物群も、8世紀後葉頃に建てられ始めたと考えられる。

4) **10世紀中葉以降** この時期の遺構である大溝3は井戸を切っているため、10世紀中葉以降～12世紀頃までに掘削されたと考えられる。溝6と溝7と共に時期を特定できる遺物が出土しているわけではないため、同時期の溝群である確証はないが、これらは区画的に配置されたようにみえる。

#### 2 遺物の様相

各器種のおおよその比率は、須恵器食膳具が7割、その他の貯蔵具・煮炊具・特殊品（特殊器形須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土師器食具）が1割ずつとなる。須恵器食膳具のなかでは、無台の坏・皿が6割強を占め、次いで坏蓋、有台の坏・皿は1割ほどである。貯蔵具と煮炊具は、甕類が極めて多い。

土器の時期的な傾向は、7世紀のものが僅かに存在し、8世紀中葉頃から増加し始め、9世紀代から10世紀初頭の須恵器消滅までが器種・数量とも最も多く、それ以降も僅かに存在する。

土師器食膳具は8世紀前半のものが数点存在するが、8世紀前半の須恵器も少ないため食膳具の数量を相互補完する状況であったと考える。8世紀中葉頃以降は須恵器生産の増加に伴って、須恵器のみで賄えるようになっていった状況が分かる。

9世紀の土器をみると、須恵器の個体数が多いことと共に、緑釉陶器と灰釉陶器が存在する。緑釉陶器（素地を含む）は9世紀中葉頃の山城産、灰釉陶器は9世紀中葉頃の猿投産（黒笹14-2号窯式～黒笹90-1号窯式）である。器種・個体数ともに豊富な9世紀中葉頃が本遺跡の全盛期と推定する。それ以降の須恵器の消滅する10世紀初頭まで、須恵器は豊富な数量を維持する。

緑釉陶器の素地は、都周辺限定で流通するものであるため<sup>(2)</sup>、当該地域での出土は特殊といえる。有台盤・脚部径が大きい高坏は、胎土から周辺の在地窯生産とは思いが、周辺遺跡では確認できなかった。文字関連遺物として、円面硯と転用硯がある。

### 3 遺跡の性格

本遺跡は、7世紀中葉～後葉頃の蓋が最も古く、7世紀中葉頃に開発されたと考えられる。これ以前の古墳時代の遺構との連続性は認めにくく、この空白期間に、集落が存在していたとも思えない。蓋・有台坏・無台坏といった食膳具が揃うのは、8世紀初頭～前葉にかけての頃である。8世紀中葉まではそれ以降と比べて緩やかな発展といえる。本格的に開発が進むのは、井戸や建物が造られた8世紀後葉頃である。建物は10世紀初頭まで存在する。出土土器をみると、8世紀中葉以降は増加し、9世紀中葉をピークに9世紀代は一定量を確保している。ただし、土器の生産量は8世紀の後半から増加し、9世紀の後半にもさらに増加する傾向がある。ここでは9世紀中葉の建物1やそれに関連する緑釉陶器・灰釉陶器などの複数の建物と高級品が存在した状況を、遺跡の最盛期と考えたい。その盛行は10世紀初頭までで、それ以後は須恵器の消滅と連動するように衰退する。10世紀前葉～11世紀代の土器は極めて少ない。おそらく当該期に大溝が掘削されるが、生活の痕跡は認めにくい。

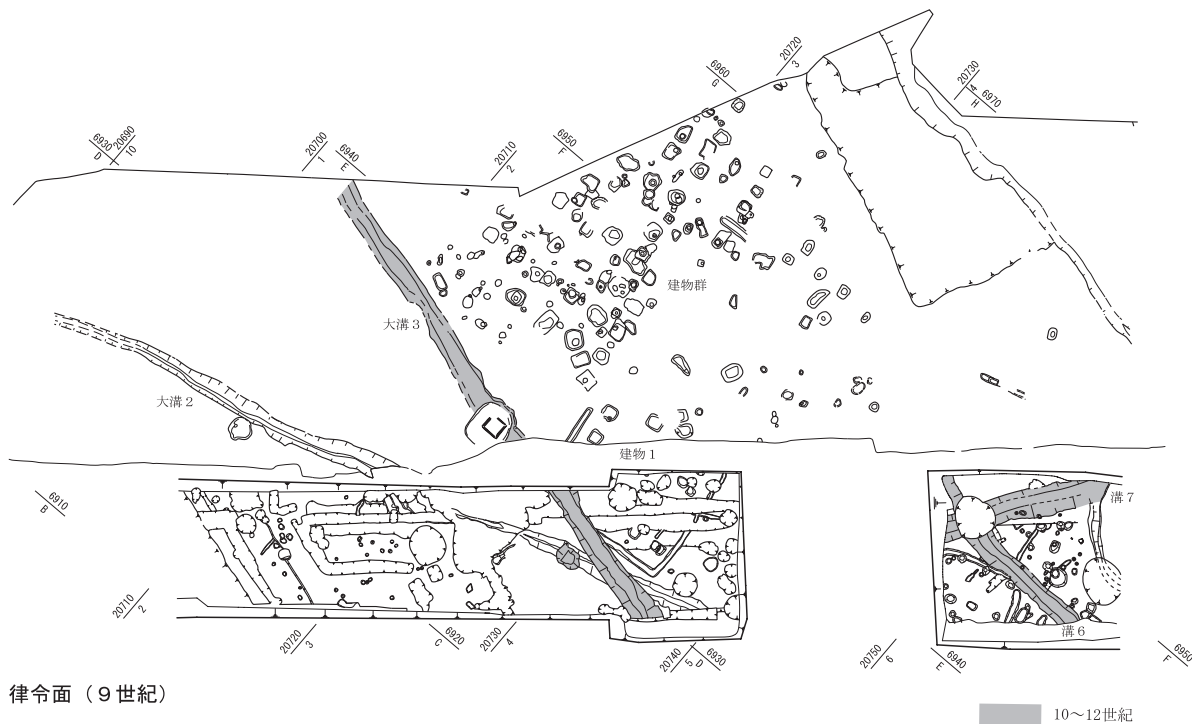
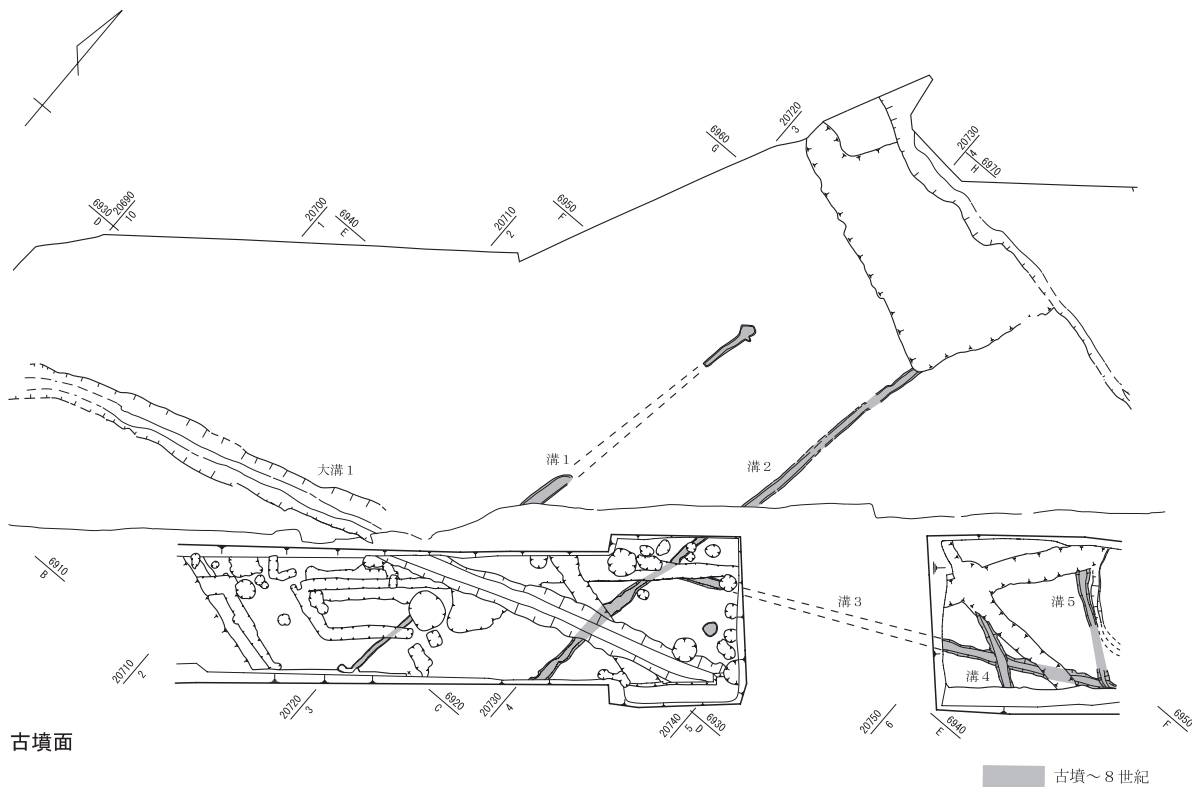
律令期における本遺跡の開発は、区画を重視している。それが少なくとも10世紀初頭まで継続され、その後も区画的な大溝が掘削されている。そのため、この区域は律令期において区画的な開発が行われたといえる。このような開発に有力者が関わっていると想定できるが、継続的な区画規定から私的な開発というよりは公的な性格を有する開発と考えたい。

9世紀中葉の緑釉陶器と灰釉陶器は、緑釉陶器の素地があることから都との往来により入手したものであろう。8世紀前半の赤彩土師器の生産場所は分からないが、畿内産のものなら緑釉陶器の入手法と同様であろう。在地産なら都と同様に土器の必要量を満たすためか、都の土器様式を模倣する必要があったためと考えられる。

円面硯や転用硯の存在や墨書土器の丁寧な文字からは、識字層が存在したことが分かる。硯の量からそれが常駐的であったかは分からないが、本遺跡の様相を考えると、識字層が常駐する施設は存在したはずである。

本遺跡は、交通の要衝と考えられる福井市街地域に位置する<sup>(3)</sup>。この立地環境を踏まえて、区画的な配置・建物の規格、豊富な器種・都周辺にのみ流通する土器といった特徴は、現状における足羽郡内で調査された遺跡のなかでも最も官衙の様相を備えていると評価できるのである。

第3節 FKJ06-2・3地点と4号線地点に展開する遺跡の性格



第183図 古代の遺構（4号線地点との合成）（S=1/500）

註

- 1 井戸の内部からは8世紀初頭～10世紀初頭までの土器が出土している。井戸の掘りかたは8世紀中葉～後葉の土器が中心である。井戸内部は9世紀後半が中心である。9世紀中葉と10世紀初頭の土器片が1点ずつ掘りかたから出土し、9世紀中葉のものは井戸内のものと接合する。この井戸の井戸枠は、井戸枠は横板の井形組の内外に立板を組み、さらに内側の四隅に柱を立てて横棧で固定している。この内側の柱等は井戸枠の補強とも考えられ、およそ1世紀半の存続の間にたびたび修復していた可能性がある。その場合には、掘りかたに存在する9世紀中葉以降の土器は、わずか2点ということからも修復の際に掘りかたに混入した可能性がある。
- 2 巽淳一郎 2004「Ⅱ-2 古代後期の土器」『古代の官衙遺跡』Ⅱ 遺物・遺跡編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 3 釘谷紀 2008「古代足羽郡における本遺跡の位置づけ」第Ⅶ章総括『福井城跡』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター参照

引用・参考文献

- 河村健史編 2004『福井城跡』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 久保智康 1994「金津窯跡群および武生南部窯跡群における8世紀中葉の画期」  
『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」  
『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）』北陸古代土器研究会
- 奈良文化財研究所編 2005『兵部省地区の調査』平城宮発掘調査報告XVI 奈良文化財研究所学報第70冊  
独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 堀大介 2004「古代須恵器編年と暦年代―越前・加賀を中心に―」  
『あさひシンポジウム2003記録集 山の信仰を考える―越知山と泰澄を深めるために―』朝日町教育委員会
- 水村伸行 1989「鉢伏1号窯址とその年代」『福井県考古学会会報』第28号 福井県考古学会
- 水村伸行 1990「編年の位置づけ」第Ⅳ章総括3  
『鉢伏2・3号窯址灰原発掘調査概法』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 水村伸行 2003「越前国丹生窯跡群出土の新資料」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
- 望月精司 1994「南加賀古窯跡群における8世紀中葉の画期について」  
『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 望月精司 1995「加賀地域における7世紀後半の須恵器・土師器生産」  
『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 山中敏史編 2003『古代の官衙遺跡』Ⅰ 遺構編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 山中敏史編 2004『古代の官衙遺跡』Ⅱ 遺物・遺跡編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所



## 第6章 自然科学分析

この章は、自然科学分析の成果報告である「福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査」、「福井城跡出土木製品の樹種調査結果」、「福井城跡（FKJ05・06次調査）から出土した動物遺存体」を掲載する。

木製品の樹種同定・漆器の塗膜分析は、保存処理と共に、平成20年度に（株）吉田生物研究所に委託し、その成果について報告文を得た。漆器は、塗膜構造および使用顔料の分析と、樹種同定を行った。特に漆器の研究において、塗膜分析は、形態からだけでは分からない製作技法などを明らかにする上で、欠かす事の出来ないものであり、蛍光X線分析装置および光学顕微鏡を使用し実施している。

今回塗膜分析を行った漆器は、椀類が12点、箸と櫛が1点ずつである。17世紀初頭から19世紀中葉にかけての時期のもので、17世紀初頭が5点、19世紀代が4点、17～19世紀が5点である。

漆器の上塗色は、椀類では、外黒色内赤色が7点、内外黒色が4点、内外赤色が1点である。漆絵は、赤・黄・銀などを使用し扇などを描く。器種は、椀類では椀が8点、蓋が1点、豆子1点、腰高1点、平椀1点である。

使用顔料の分析は、漆絵の使用色を目視で赤、黒、黄、金、銀とした資料の実態を明かにする目的で実施した。

漆器以外の木製品は、樹種同定のみを実施した。特に木簡などの文字資料と、将棋の駒などの特殊品を中心に実施した。これらはすべて江戸時代のもので、17世紀代を中心とする。ゴミ廃棄土坑からの出土である。

動物遺存体の分析は、木村茉莉（当センター嘱託職員）の伝により、丸山真史氏（京都大学大学院人間・環境学研究科）にお願いした。分析・執筆は氏の御好意による。

資料は、今回の北陸新幹線福井駅建設事業に伴う福井城跡の調査により検出したものである。主に福井城期の廃棄土坑（ゴミ穴）から出土した獣骨・魚骨などであり、被熱痕や切断された痕跡の認められるものがあることから、加工後や食後の生活ゴミとして廃棄されたことが考えられる。これらの内容を確認することは、当時の食生活の一端を窺うための一助となる。

また、6点の焼けた人骨が確認されており、そのうちの2点は17世紀前葉～中葉の遺物を含む整地土層中から検出されたものである。寛文九（1669）年、福井城下は本丸天守をはじめとする城下3,579戸を焼失する未曾有の大火災（寛文の大火）の被害を受けている。2点の焼骨は、大火の際の犠牲者の遺骨である可能性が考えられる。

## 第1節 福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査

(株)吉田生物研究所

## 1 はじめに

福井城跡から出土した漆製品14点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

## 2 調査資料

調査した資料は、表1に示す近世の漆製品14点である。

表1 調査資料

No.	挿図 番号	図版 番号	種類	時期	樹種*	概要
1	145-28	20	箸	17c 後～18c 後	ヒノキ属	全体の約1/3が赤で、残りの2/3が黒地に黄で文様。
2	144-16	19	豆子	17c 前	ケヤキ	内外両面とも赤で、高台内のみ黒。体部外面には一条の突帯(かつら)がめぐる。
3	144-13	-	蓋	19c 中	トチノキ	内面赤、外面は黒地に銀?の漆絵で植物文。
4	144-15	19	腰高	17c～19c	ブナ属	内面赤、外面黒地に黄の漆絵で二重丸に植物文。
5	144-21	-	平椀	19c 中	トチノキ	内面赤、外面黒。
6	143-24	19	椀	19c 中～近代	トチノキ	内面赤、外面黒地に銀?の漆絵で宝珠や依などの吉祥文。
7	142-22	18	椀	16c 末～17c 初	ケヤキ	内外両面とも黒。
8	141-4	18	椀	16c 末～17c 初	トチノキ	内面赤、外面黒地に赤の漆絵で三箇所に亀甲文。
9	141-9	18	椀	19c 前	トチノキ	内面は赤地に黒の漆絵で海老を、外面は黒地に赤などの漆絵で俵。
10	143-13	19	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内面赤、外面は黒地に赤の漆絵で扇。
11	142-23	18	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内面黒、外面は黒地に赤の漆絵で扇。
12	142-7	-	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内外両面とも黒地に赤の漆絵で扇。
13	144-18	19	椀	18c 後～19c	トチノキ	内外面とも黒。
24	150-27	21	櫛	18c 中～19c 中	イスノキ	黒地に金の蒔絵で文様。

※：樹種については別稿の樹種同定報告書を参照のこと

## 3 調査方法

漆器表面の加飾部に使用された顔料や箔の材質を蛍光X線分析により調査した。

分析装置は、セイコーインスツルメンツ 蛍光X線膜厚計 SFT8000を用いた。調査に際しては、数mm四方の小破片を使用した。その結果はスペクトル表で表現されている。

次に表1の資料本体の内外面から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片を作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

4 調査結果

4-1) 機器分析結果 以下に蛍光X線分析結果を付し、検出した元素を表2に示す。

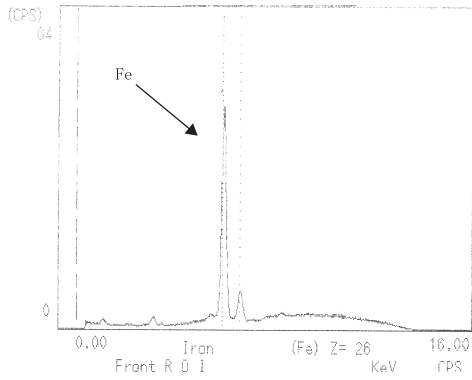


図1 No.1 赤色部

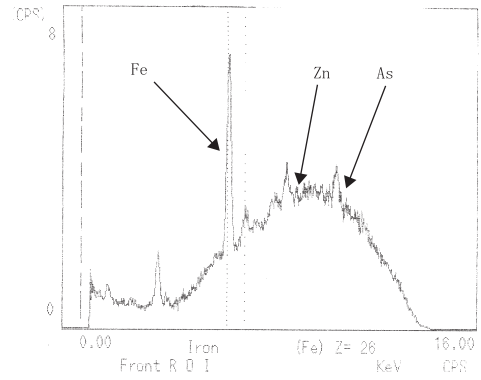


図2 No.1 黄色部

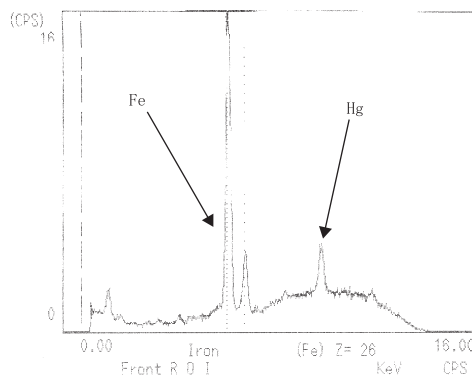


図3 No.2 内面赤色部

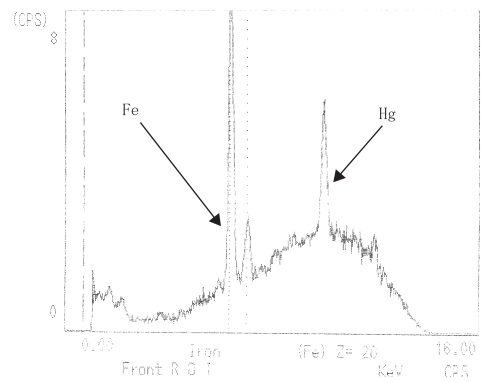


図4 No.2 外面赤色部

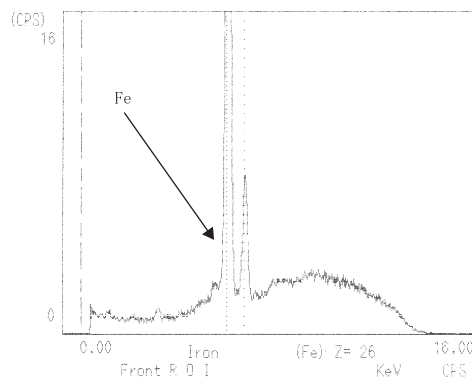


図5 No.3 内面赤色部

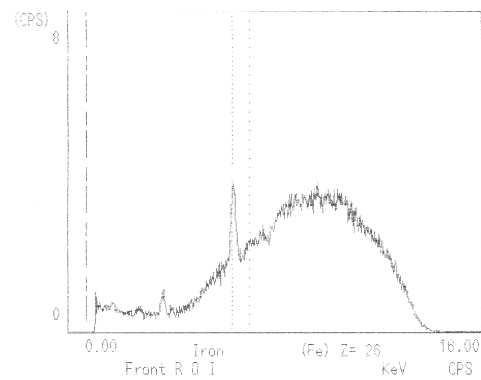


図6 No.3 外面銀色?部

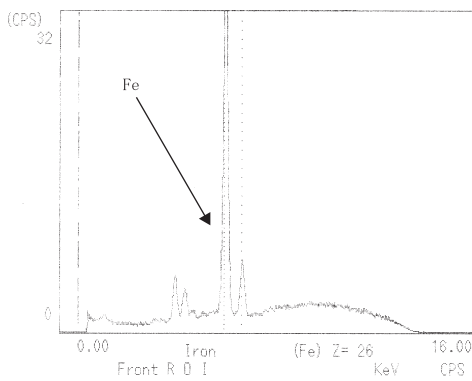


図7 No.4 内面赤色部

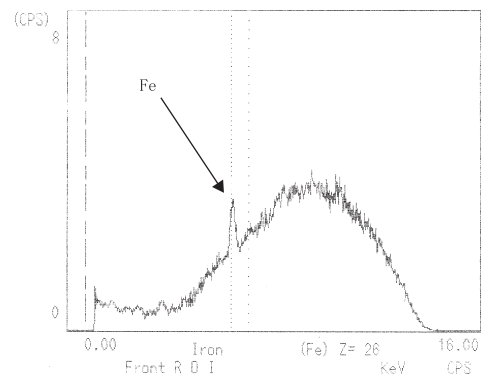


図8 No.4 外面黄色部

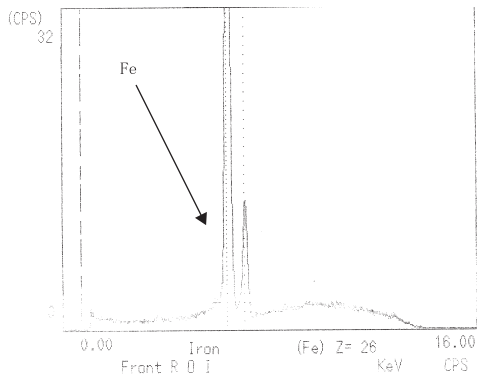


图9 No.5 内面赤色部

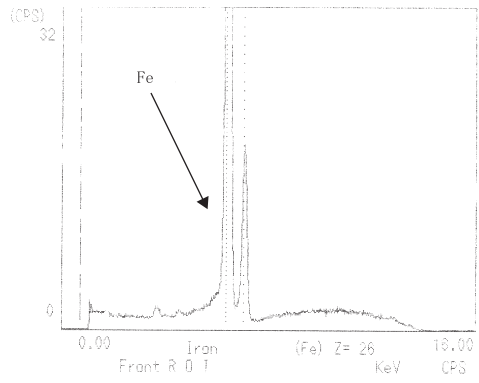


图10 No.6 内面赤色部

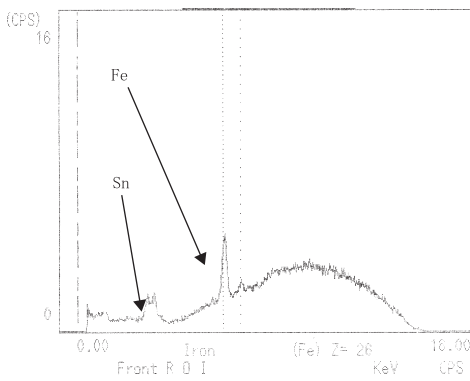


图11 No.6 外面黄色部

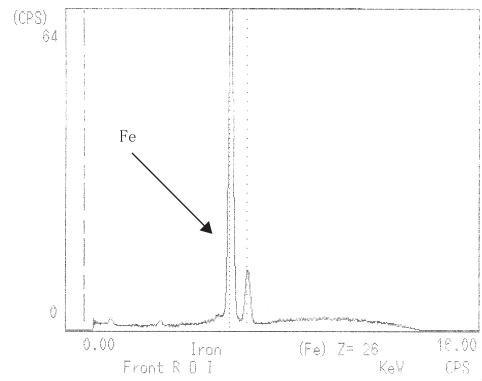


图12 No.8 内面赤色部

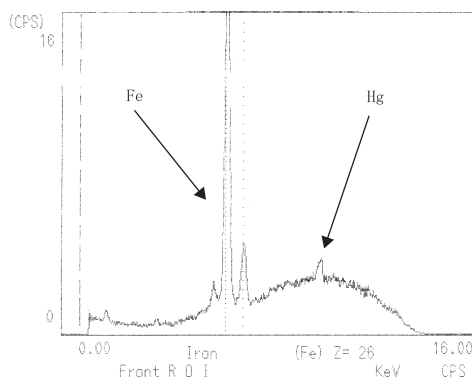


图13 No.8 外面赤色部

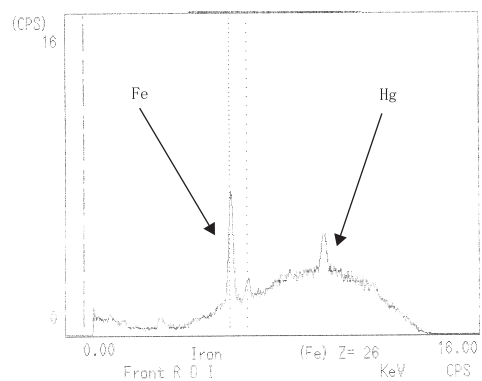


图14 No.9 内面赤色部

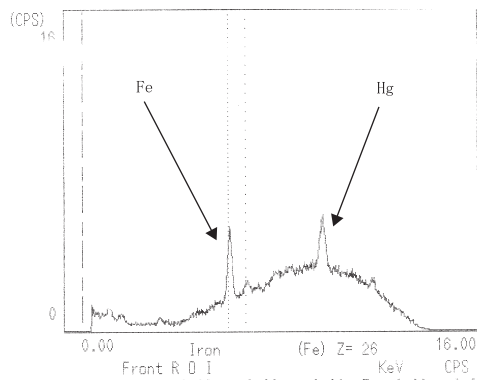


图15 No.9 外面赤色部

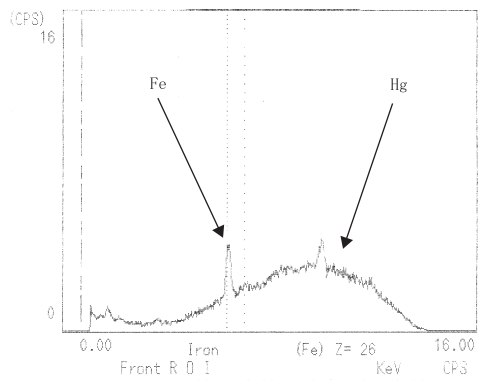


图16 No.9 外面银色部

第1節 福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査

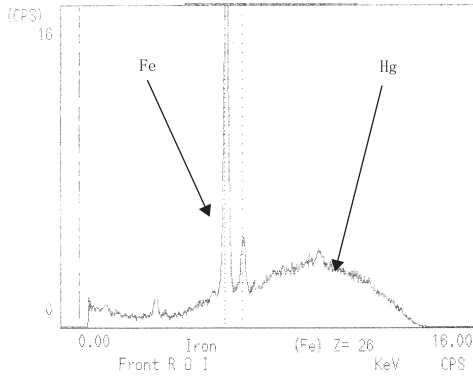


図17 No.10内面赤色部

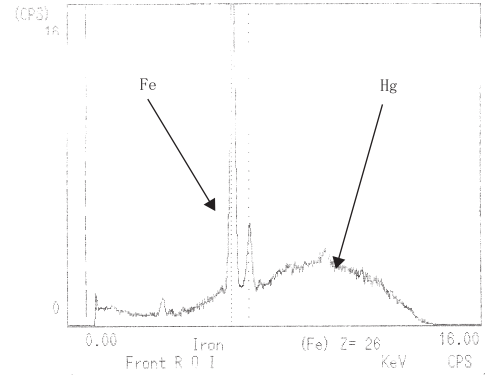


図18 No.10外面赤色部

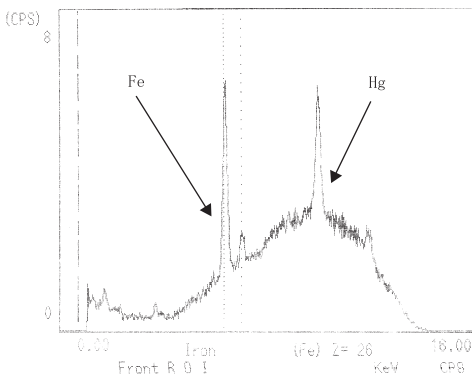


図19 No.11外面赤色部

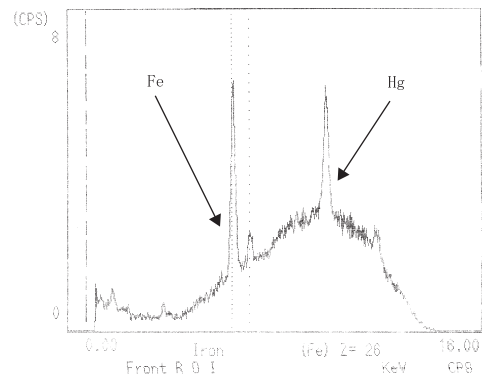


図20 No.12内面赤色部

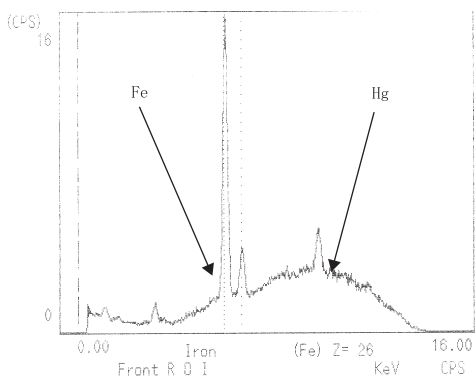


図21 No.12外面赤色部

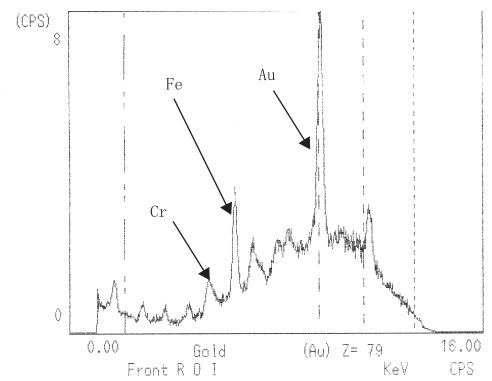


図22 No.24金色部

表2 蛍光X線分析の結果一覧表

資料 No.	種類	部位		検出元素
1	箸	赤色部		Fe
		黄色部		Fe, Zn, As
2	豆子	内面	赤色部	Fe, Hg
		外面	赤色部	Fe, Hg
3	蓋	内面	赤色部	Fe
		外面(文様部)	銀色?部	Fe
4	腰高	内面	赤色部	Fe
		外面(文様部)	黄色部	Fe
5	平椀	内面	赤色部	Fe
6	椀	内面	赤色部	Fe
		外面(文様部)	黄色部	Fe, Sn
8	椀	内面	赤色部	Fe
		外面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
9	椀	内面	赤色部	Fe, Hg
		外面(文様部)	銀色?部	Fe, Hg
		外面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
10	椀	内面	赤色部	Fe, Hg
		外面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
11	椀	外面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
12	椀	内面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
		外面(文様部)	赤色部	Fe, Hg
24	櫛	外面(文様部)	金色部	Fe, Au

赤色部からは (Hg) あるいは (Fe) が、黄色部からは (As) あるいは (Sn) が、金色部からは (Au) が検出された。Hg からは硫化水銀 (朱)、Fe からは酸化第2鉄 (ベンガラ)、As (砒素) からは石黄が Sn からは錫が、Au からは金が、それぞれ含まれていたと判断できる。

No.3 外面、No.4 外面、No.9 外面の銀色?部や黄色部からは特記する金属元素は検出されなかった。